

科目名	経営戦略<1>						
教員名	福澤 光啓						
科目No.	122321000	単位数	2	配当年次	2年生	開講時期	2025 前期
<p>〔テーマ・概要〕</p> <p>企業は、めまぐるしく変化する社会に適応し、存続と成長を実現するために日々の努力を積み重ねている。しかし、成功できる企業数は限られており、たとえ優れた製品を提供して顧客を獲得できたとしても、それが長続きすることは多くはない。ビジネスの世界では、こうすれば必ず成功するという「正解」は事前には与えられていないといえよう。そのような不確かな状況でも、企業が成長を続けていくためには、ビジネスを成功に導くための論理的な思考と行動が不可欠であり、これが戦略と呼ばれる。この戦略の巧拙が、持続的に成長できる企業とそうでないものを分ける重要な決め手となる。</p> <p>戦略には、競争戦略と全社戦略という二つの大きなカテゴリがあり、競争戦略では一つのビジネスで成功するための方法を考え、全社戦略では企業全体のビジネスをうまく展開して成長していくための方法を考える。本講義では、主として後者の「全社戦略」の理論について説明する。</p> <p>有効な戦略は、それぞれの企業が置かれた状況によって異なる。したがって、単に用語や概念を暗記するだけでは有効な戦略を立てるには不十分であり、それらを使いこなす能力を身につける必要がある。そのために、講義では理論と実際のケースをあわせて解説しつつ授業内での質疑応答を積極的に行い、さらにWeb上で実施する課題レポートの作成も行うことにより、自分の頭で論理的に考え説明するトレーニングをする。</p>							
<p>〔到達目標〕</p> <p>DP1（専門分野の知識・技能）、DP3（課題の発見と解決）を実現するため、次の2点を到達目標とする。</p> <p>①戦略に関する基本からやや発展的な考え方を学修する。</p> <p>②上記を活かして、経営を行ううえで実際に生じうる問題を自分なりの視点から分析して、「自分が社長だったらこうする」という解決策を示せるようになる。</p>							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修の目安（分）	
第1回	経営戦略とは何か：日本企業における戦略の現状と課題 ・授業の全体像、進め方、予習復習の仕方等を説明する。 ・「経営戦略とは何か」について身近な事例から考察する。			【予習】事前配布資料を熟読し、質問を考える。 【復習】授業で言及された概念や理論、用語、事例について確認する。		90	
第2回	戦略計画と創発戦略 ・戦略論の発展の歴史について学修する ・戦略計画と創発戦略の違いや両者の関係性について学修する。			【予習】事前配布資料を熟読し、質問を考える。 【復習】授業で言及された概念や理論、用語、事例について確認する。		90	
第3回	業界構造と競争優位：ポジショニング・アプローチ ・競争優位の獲得・維持の論理として、ポジショニング・アプローチについて学修する。			【予習】事前配布資料を熟読し、質問を考える。 【復習】授業で言及された概念や理論、用語、事例について確認する。		90	
第4回	経営資源と競争優位：資源ベース・アプローチ ・競争優位の獲得・維持の論理として、資源ベース・アプローチについて学修する。			【予習】事前配布資料を熟読し、質問を考える。 【復習】授業で言及された概念や理論、用語、事例について確認する。		90	
第5回	企業ドメイン ・事業そのもの、および事業範囲の定義をする上で有効な方法を学修する。			【予習】事前配布資料を熟読し、質問を考える。 【復習】授業で言及された概念や理論、用語、事例について確認する。		90	
第6回	多角化戦略① ・市場ライフサイクル、経験曲線、プロダクト・ポートフォリオ・マネジメントの議論について学修する。			【予習】事前配布資料を熟読し、質問を考える。 【復習】授業で言及された概念や理論、用語、事例について確認する。		90	
第7回	多角化戦略② ・多角化のタイプおよびそれぞれの有効性について学修する。 ・多角化をうまく行うための概念として主として「シナジー」について学修する。			【予習】事前配布資料を熟読し、質問を考える。 【復習】授業で言及された概念や理論、用語、事例について確認する。		90	
第8回	多角化戦略③ ・多角化企業における有効な新規事業開発の方法について学修する。			【予習】事前配布資料を熟読し、質問を考える。 【復習】授業で言及された概念や理論、用語、事例について確認する。		90	
第9回	経営戦略と組織① ・経営戦略と組織デザインの相互関係について学修する。			【予習】事前配布資料を熟読し、質問を考える。 【復習】授業で言及された概念や理論、用語、事例について確認する。		90	
第10回	経営戦略と組織② ・戦略と組織文化の関係性について学修する。 ・戦略構築・実行における経営者の役割について学修する。			【予習】事前配布資料を熟読し、質問を考える。 【復習】授業で言及された概念や理論、用語、事例について確認する。		90	
第11回	経営戦略と技術 ・中核技術にもとづく企業成長について学修する。 ・プラットフォーム戦略について学修する。			【予習】事前配布資料を熟読し、質問を考える。 【復習】授業で言及された概念や理論、用語、事例について確認する。		90	
第12回	企業間分業体制の設計・構築 ・企業間の分業体制の設計と構築について学修する。			【予習】事前配布資料を熟読し、質問を考える。 【復習】授業で言及された概念や理論、用語、事例について確認する。		90	
第13回	グローバル化と経営戦略 ・グローバルな事業展開とそのマネジメントについて学修する。			【予習】事前配布資料を熟読し、質問を考える。 【復習】授業で言及された概念や理論、用語、事例について確認する。		90	
第14回	まとめ			【予習】各回の配布資料を確認する。質問を考える。 【復習】各回の授業で言及された概念や理論、用語、事例について確認する。		90	
〔授業の方法〕							

<ul style="list-style-type: none"> ・事前に配布してある授業資料（事前資料）を受講生が既に読んでいることを前提として講義を行う。 ・基本的には、①事前資料のポイントを解説しつつ、事前資料には書かれていない事柄（理論、概念、企業の実例など）についても説明し、②事前資料に書かれている内容について受講生が事前に考えてきた質問の取集とそれにもとづいて議論を行い受講生の理解を深める、という流れで授業を進める。したがって、受講生は、事前資料を熟読して、その内容に対する質問を考えたいうえで、授業に臨むことが必要である。質問内容は「質問メモ」に記入して、授業で定められた方法にて提出すること。 ・また、授業で学んだことにもとづいて、自分で調査をしたり考えたりする「Web 課題レポート」を実施する（1回から2回を予定）。受講生は、当該課題についてレポートを作成し、提出することを求められる。この課題は CoursePower を用いて行い、成績採点の対象とする。 ・加えて、適宜、授業内で簡単な課題を出して授業で学んだことを活用して回答してもらうことにより、受講生の理解を深めるための「授業内ワーク」を複数回実施する。これは CoursePower を利用して実施するため、授業にパソコンやタブレットなどの情報端末を持参すること。 ・授業時間内に実施する「質問メモ」や「授業内ワーク」、および授業期間内に実施する「Web 課題レポート」の提出は、必ず、授業で指定された方法にもとづいて定められた期限内に、受講生本人が作成して授業担当者に対して行うこととする。いかなる場合・理由であっても、事前・事後の提出や代理提出等を認めない。 ・なお、授業の方法や成績評価の方法等については、第1回目の授業において詳細に説明するので、必ず確認のうえ、授業内で説明された内容にしたがって、Web 課題レポート等への回答や提出を行うこと。 ・上で示された準備学習の時間はあくまで目安であり、各自の理解度に応じて取り組むこと。
<p>〔成績評価の方法〕</p> <p>「学期末試験」（80％）への解答内容、および、「Web 課題レポート」（20％）の提出状況と解答内容により総合的に評価する。</p>
<p>〔成績評価の基準〕</p> <p>成蹊大学の成績評価基準（学則第38条、39条）に準拠する。</p> <p>次の点に着目し、その達成度により評価する。</p> <p>①戦略に関する基本からやや発展的な考え方を習得できている。</p> <p>②上記を活かして、経営を行ううえで実際に生じうる問題を自分なりの視点から分析して、「自分が社長だったらこうする」という解決策を示すことができる。</p>
<p>〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「競争戦略」、「イノベーションと製品開発」、「生産管理」、「マーケティング」などに関する知識を習得することが望ましい。 ・この科目は「経営学部の2年生以上の配当科目」であり、「他学部の履修者」は『企業と社会』を修得済または履修中であることが望ましい。
<p>〔テキスト〕</p> <p>各回の授業資料は事前に、CoursePower を通じて配布するので、テキストは特になし。それらの資料を各自必要に応じて印刷したり、PC やタブレット端末等を利用して授業に臨むこと。各回の授業資料を事前に熟読して、質問内容を考えたうえで授業に臨むこと。</p>
<p>〔参考書〕</p> <p>経営戦略についてより深く学びたい人のために、適宜紹介する。参考までに以下のものを挙げておく（「購入の必要なし」）。</p> <p>網倉久永・新宅純二郎（2011）『経営戦略入門』日本経済新聞社 高橋伸夫編著（2011）『よくわかる経営管理』ミネルヴァ書房 伊丹敬之（2012）『経営戦略の論理（第4版）』日本経済新聞社 沼上幹（2009）『経営戦略の思考法』日本経済新聞社 三品和宏（2004）『戦略不全の論理』東洋経済新報社 三品和宏（2007）『戦略不全の因果』東洋経済新報社 小川絢一（2015）『オープン&クローズ戦略 増補改訂版』翔泳社 新宅純二郎・天野倫文編（2009）『ものづくりの国際経営戦略』有斐閣 立本博文（2017）『プラットフォーム企業のグローバル戦略』有斐閣 Burgelman, R., A. (2002) Strategy is Destiny, New York: Free Press.</p>
<p>〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕</p> <p>ポータルサイトで周知する。</p>
<p>〔特記事項〕</p>

科目名	経営戦略<2>						
教員名	浜松 翔平						
科目No.	122321100	単位数	2	配当年次	2年生	開講時期	2025 後期
<p>[テーマ・概要]</p> <p>この授業では企業の活動について知り、「戦略とは何か」を理解することを目的とします。 戦略には、競争戦略と経営戦略という二つの大きな流れがあります。競争戦略では一つのビジネス(事業)で成功するための方法を学びます。経営戦略では複数のビジネス(事業)を束ね、企業全体として成長していくための方法を学びます。本授業は、後者の「経営戦略」です。 本授業「経営戦略」は、経営戦略の基礎的な理論や実際の企業の事例を説明します。現実の課題に対して理論がどのように適用できるかを理解する機会として、実際の企業の事例を複数回にわたって紹介します。</p>							
<p>[到達目標]</p> <p>DP1(専門分野の知識・理解)、DP3(課題の発見と解決)を実現するために、以下の3点を達成目標とする。 (1)経営戦略論の基礎的な理論を理解することができる (2)実際の企業の事例を書籍、新聞、インターネット等から情報収集することができる (3)経営戦略論の基礎的な理論を用いて、企業の事例を分析することができる</p>							
[授業の計画と準備学修]							
回数	授業の計画・内容	準備学修(予習・復習等)				準備学修の目安(分)	
第1回	オリエンテーション	【復習】講義で扱った事例や理論に当てはまる企業の事例を探してみる				60	
第2回	経営戦略論とは ~経営戦略論の全体像~	【復習】講義で扱った理論の内容を復習する				60	
第3回	競争優位の実現と維持	【復習】講義で扱った理論の内容を復習する				60	
第4回	事業の定義と企業ドメイン①	【復習】講義で扱った理論の内容を復習する				60	
第5回	事業の定義と企業ドメイン②	【復習】講義で扱った理論の内容を復習する				60	
第6回	多角化①	【復習】講義で扱った理論の内容を復習する				60	
第7回	多角化②	【復習】講義で扱った理論の内容を復習する				60	
第8回	多角化企業の資源配分①	【復習】講義で扱った理論の内容を復習する				60	
第9回	多角化企業の資源配分②	【復習】講義で扱った理論の内容を復習する				60	
第10回	垂直統合①	【復習】講義で扱った理論の内容を復習する				60	
第11回	垂直統合②	【復習】講義で扱った理論の内容を復習する				60	
第12回	企業活動領域の設定と再構築	【復習】講義で扱った理論の内容を復習する				60	
第13回	経営戦略の策定・実行プロセス	【復習】講義で扱った理論の内容を復習する				60	
第14回	まとめ ~経営戦略論の総括~	【復習】講義で扱った理論の内容を復習する				60	
<p>[授業の方法]</p> <p>授業は基本的には講義形式で行いますが、質疑応答やコメントシートの記載を通じて双方向の授業形式を取り入れます。講義の内容としては、2つに分かれます。まず、戦略の理論に関する講義です。これが本講義の中心的な内容となります。そして、紹介した理論を用いて、実際の企業事例の分析を解説します。講義では、適宜グループワークを実施します。グループワークへの積極的な取り組みを求めます。授業の進捗によって内容は一部変更する可能性があります。</p>							
[成績評価の方法]							

中間評価（レポート）40%、最終評価（テスト）40%、平常点（コメントシートへの記載など）20%として、その他、授業への積極的な参加をプラスに評価します。

〔成績評価の基準〕

成蹊大学の成績評価基準（学則第38条、39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39. 到達目標の達成度に基づいて評価する。

- (1) 経営戦略論の基礎的な理論を理解することができる
- (2) 実際の企業の事例を書籍、新聞、インターネット等から情報収集することができる
- (3) 経営戦略論の基礎的な理論を用いて、企業の事例を分析することができる

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕

「競争戦略」の知識を前提に講義を進める。事前に「競争戦略」を受講していることが望ましい。

〔テキスト〕

テキストは必要ありません。

〔参考書〕

網倉久永・新宅純二郎（2011）『マネジメント・テキスト 経営戦略入門』日本経済新聞出版社。
 伊丹敬之（2003）『経営戦略の論理（第3版）』日本経済新聞出版社。
 伊丹敬之（2012）『経営戦略の論理（第4版）ダイナミック適合と不均衡ダイナミズム』日本経済新聞出版社。
 伊丹敬之・加護野忠男（2003）『ゼミナール経営学入門 第3版』日本経済新聞社。
 購入の必要なし

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕

ポータルサイトで周知する。

〔特記事項〕

アクティブ・ラーニング

科目名		マーケティング<1>					
教員名		河塚 悠					
科目No.	122322000	単位数	2	配当年次	2年生	開講時期	2025 前期
<p>〔テーマ・概要〕</p> <p>本科目は、売れる仕組みをつくる企業のマーケティング活動を総合的に理解することをテーマとします。企業は、自社の提供する製品やサービスが消費者の支持を得て購買され続けなければ、存続と成長を実現することができません。つまり、消費者にとっての価値を理解し、「売れる製品やサービスを作る」ことが企業にとっての最重要課題なのです。</p> <p>本講義では、身近な現象や事例を用いながらマーケティングの基礎的概念やフレームワークを解説します。</p>							
<p>〔到達目標〕</p> <p>DP1（専門分野の知識・技能）を実現するため、以下を到達目標とする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・企業におけるマーケティングの活動と役割を理解する。 ・マーケティングの基本である STP と 4P の概念および主要フレームワークを実例とともに説明できる。 ・学んだ知識を活かして実際のマーケティング戦略や戦術を考察できる。 							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修の目安（分）	
第1回	オリエンテーション ・講義の内容、進め方等について説明する。			【予習】シラバスに再度目を通し、講義の目的と全体的な内容を把握しておく。		60	
第2回	マーケティングとはなにか ・マーケティングと呼ばれる活動とその主体について理解する。			【予習】新聞のマーケティング関連記事を読む。		60	
第3回	マーケティングの誕生 ・マーケティングが誕生した歴史的背景と発展について理解する。			【復習】講義で学んだキーワードを説明できるようにする。		60	
第4回	マーケティングの基礎概念 ・マーケティングの基本概念である STP、4P を理解する。			【予習】課題レポート作成のために指示された情報、資料を収集しておく。 【復習】講義で学んだキーワードを説明できるようにする。		90	
第5回	製品戦略① ・4P のうちの Product（製品）のマネジメントについて理解する。			【復習】講義で学んだキーワードを説明できるようにする。		60	
第6回	製品戦略② ・4P のうちの Product（製品）のマネジメントについて理解する。			【復習】講義で学んだキーワードを説明できるようにする。		60	
第7回	価格戦略① ・4P のうちの Price（価格）のマネジメントについて理解する。 ・価格設定のさまざまな方法を具体的に学ぶ。			【復習】講義で学んだキーワードを説明できるようにする。価格設定の計算ができるようにする。		90	
第8回	価格戦略② ・4P のうちの Price（価格）のマネジメントについて理解する。 ・心理的な価格設定と価格変更の方法を学ぶ。			【復習】講義で学んだキーワードを説明できるようにする。		90	
第9回	流通戦略① ・4P のうちの Place（流通）のマネジメントについて理解する。 ・日本特有の流通構造や問題について考察する。			【予習】日本の流通と海外の流通の違いを調べておく。 【復習】講義で学んだキーワードを説明できるようにする。		60	
第10回	流通戦略② ・4P のうちの Place（流通）のマネジメントについて理解する。 ・近年における流通戦略の変化を学ぶ。			【復習】講義で学んだキーワードを説明できるようにする。		90	
第11回	プロモーション戦略① ・4P のうちの Promotion（広告・プロモーション）のマネジメントについて理解する。			【予習】事前配布の資料に目を通しておく		60	
第12回	プロモーション戦略② ・4P のうちの Promotion（広告・プロモーション）のマネジメントについて理解する。 近年におけるプロモーション戦略の変化を学ぶ。			【復習】講義で学んだキーワードを説明できるようにする。		90	
第13回	戦略的マーケティング ・市場での競争のとらえ方、市場地位別の競争戦略について理解する。			【復習】講義で学んだキーワードを説明できるようにする。		60	
第14回	マーケティングと社会的責任 ・企業の社会的責任と利益の両立に関するマーケティングや理論枠組みを理解する。			【予習】企業の社会的貢献活動について情報収集しておく。 【復習】講義で学んだキーワードを説明できるようにする。		60	
〔授業の方法〕							
<p>Course Power にアップロードする資料内容を詳解する講義形式が中心となるが、理解促進のために、新聞記事、映像、ケース等を用いる。授業内に実施するレポートは、受講生が身近なマーケティング事例を授業で得た知識と関連付けて適切に考察できているかを評価する。</p>							
〔成績評価の方法〕							

授業内クイズ、課題レポート(40%)、期末試験(60%)で総合的に評価する。

〔成績評価の基準〕

成蹊大学の成績評価基準(学則第38, 39条)に準拠する。/ Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.38 & 39.

次の点に着目し、その到達度により評価する。

- ・マーケティングの基本であるSTPと4Pの概念および主要フレームワークを実例とともに説明できる。
- ・学んだ知識を活かして実際のマーケティング戦略や戦術を考察できる。
- ・学んだ知識を活かし、マーケティング課題への解決策を提案できる。

〔必要な予備知識/先修科目/関連科目〕

- ・「会社のしくみと制度」(「会社入門」)、「企業経営の基礎」(「企業経営入門」)などの経営経済基礎科目。
- ・この科目は経営学部の2年生以上の配当科目であり、他学部の履修者は『企業と社会』を修得済または履修中であることが望ましい。

〔テキスト〕

特に指定しない。必要な文献や資料などは適宜配布、紹介する(紹介したものを購入する必要はない)。

〔参考書〕

授業内容の理解促進のために以下を参考書として挙げる。購入の必要はない。

- 『コア・テキスト マーケティング』、山本晶[著]、新世社。
- 『マーケティング戦略』、和田充夫・恩蔵直人・三浦俊彦[著]、有斐閣アルマ。

〔質問・相談方法等(オフィス・アワー)〕

ポータルサイトで周知する。

〔特記事項〕

科目名		マーケティング<2>					
教員名		河塚 悠					
科目No.	122322100	単位数	2	配当年次	2年生	開講時期	2025 後期
<p>〔テーマ・概要〕</p> <p>本科目は、売れる仕組みをつくる企業のマーケティング活動を総合的に理解することをテーマとします。企業は、自社の提供する製品やサービスが消費者の支持を得て購買され続けなければ、存続と成長を実現することができません。つまり、消費者にとっての価値を理解し、「売れる製品やサービスを作る」ことが企業にとっての最重要課題なのです。</p> <p>本講義では、身近な現象や事例を用いながらマーケティングの基礎的概念やフレームワークを解説します。</p>							
<p>〔到達目標〕</p> <p>DP1（専門分野の知識・技能）を実現するため、以下を到達目標とする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・企業におけるマーケティングの活動と役割を理解する。 ・マーケティングの基本である STP と 4P の概念および主要フレームワークを実例とともに説明できる。 ・学んだ知識を活かして実際のマーケティング戦略や戦術を考察できる。 							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修の目安（分）	
第1回	オリエンテーション ・講義の内容、進め方等について説明する。			【予習】シラバスに再度目を通し、講義の目的と全体的な内容を把握しておく。		60	
第2回	マーケティングとはなにか ・マーケティングと呼ばれる活動とその主体について理解する。			【予習】新聞のマーケティング関連記事を読む。		60	
第3回	マーケティングの誕生 ・マーケティングが誕生した歴史的背景と発展について理解する。			【復習】講義で学んだキーワードを説明できるようにする。		60	
第4回	マーケティングの基礎概念 ・マーケティングの基本概念である STP、4P を理解する。			【予習】課題レポート作成のために指示された情報、資料を収集しておく。 【復習】講義で学んだキーワードを説明できるようにする。		90	
第5回	製品戦略① ・4P のうちの Product（製品）のマネジメントについて理解する。			【復習】講義で学んだキーワードを説明できるようにする。		60	
第6回	製品戦略② ・4P のうちの Product（製品）のマネジメントについて理解する。			【復習】講義で学んだキーワードを説明できるようにする。		60	
第7回	価格戦略① ・4P のうちの Price（価格）のマネジメントについて理解する。 ・価格設定のさまざまな方法を具体的に学ぶ。			【復習】講義で学んだキーワードを説明できるようにする。価格設定の計算ができるようにする。		90	
第8回	価格戦略② ・4P のうちの Price（価格）のマネジメントについて理解する。 ・心理的な価格設定と価格変更の方法を学ぶ。			【復習】講義で学んだキーワードを説明できるようにする。		90	
第9回	流通戦略① ・4P のうちの Place（流通）のマネジメントについて理解する。 ・日本特有の流通構造や問題について考察する。			【予習】日本の流通と海外の流通の違いを調べておく。 【復習】講義で学んだキーワードを説明できるようにする。		60	
第10回	流通戦略② ・4P のうちの Place（流通）のマネジメントについて理解する。 ・近年における流通戦略の変化を学ぶ。			【復習】講義で学んだキーワードを説明できるようにする。		90	
第11回	プロモーション戦略① ・4P のうちの Promotion（広告・プロモーション）のマネジメントについて理解する。			【予習】事前配布の資料に目を通しておく		60	
第12回	プロモーション戦略② ・4P のうちの Promotion（広告・プロモーション）のマネジメントについて理解する。 近年におけるプロモーション戦略の変化を学ぶ。			【復習】講義で学んだキーワードを説明できるようにする。		90	
第13回	戦略的マーケティング ・市場での競争のとらえ方、市場地位別の競争戦略について理解する。			【復習】講義で学んだキーワードを説明できるようにする。		60	
第14回	マーケティングと社会的責任 ・企業の社会的責任と利益の両立に関するマーケティングや理論枠組みを理解する。			【予習】企業の社会的貢献活動について情報収集しておく。 【復習】講義で学んだキーワードを説明できるようにする。		60	
〔授業の方法〕							
<p>Course Power にアップロードする資料内容を詳解する講義形式が中心となるが、理解促進のために、新聞記事、映像、ケース等を用いる。授業内に実施するレポートは、受講生が身近なマーケティング事例を授業で得た知識と関連付けて適切に考察できているかを評価する。</p>							
〔成績評価の方法〕							

授業内クイズ、課題レポート(40%)、期末試験(60%)で総合的に評価する。

〔成績評価の基準〕

成蹊大学の成績評価基準(学則第 38, 39 条)に準拠する。/ Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 38 & 39.

次の点に着目し、その到達度により評価する。

- ・マーケティングの基本である STP と 4P の概念および主要フレームワークを実例とともに説明できる。
- ・学んだ知識を活かして実際のマーケティング戦略や戦術を考察できる。
- ・学んだ知識を活かし、マーケティング課題への解決策を提案できる。

〔必要な予備知識/先修科目/関連科目〕

- ・「会社のしくみと制度」(「会社入門」)、「企業経営の基礎」(「企業経営入門」)などの経営経済基礎科目。
- ・この科目は経営学部の2年生以上の配当科目であり、他学部の履修者は『企業と社会』を修得済または履修中であることが望ましい。

〔テキスト〕

特に指定しない。必要な文献や資料などは適宜配布、紹介する(紹介したものを購入する必要はない)。

〔参考書〕

授業内容の理解促進のために以下を参考書として挙げる。購入の必要はない。

『コア・テキスト マーケティング』、山本晶[著]、新世社。

『マーケティング戦略』、和田充夫・恩蔵直人・三浦俊彦[著]、有斐閣アルマ。

〔質問・相談方法等(オフィス・アワー)〕

ポータルサイトで周知する。

〔特記事項〕

科目名		人間行動と組織<1>					
教員名		上田 泰					
科目No.	122323000	単位数	2	配当年次	2年生	開講時期	2025 前期
<p>[テーマ・概要]</p> <p>テーマ：組織とかがわる人間の心理と行動を理解する 社会に生きるほとんどの人は、何らかの組織に属し、その組織の一員として活動しています。この講座は、組織の一員として働き、生きていく人間に焦点を当てて、その行動、動機、知覚、態度などを総合的に学んでいく講座です。人間はどのような動機で働くのか、どのようなリーダーシップが効果的なのか、あるいは、上司や部下、同僚などとの人間関係はどのように形成されていくのか、といった働く人にとって身近な話題が提供されます。なお、理解を容易にするために、学生には身近なアイドルの話題などを事例に出す場合があります。</p>							
<p>[到達目標]</p> <p>DP1（専門分野の知識・技能）を実現するため、次の3点を到達目標とする。 (1)個人の心理と行動の特徴を理解する。 (2)小集団の心理と行動の特徴を理解する。 (3)組織が個人や集団の心理や行動に与える影響を理解する。</p>							
[授業の計画と準備学修]							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修の目安（分）	
第1回	イントロダクション ・講座の目的、評価方法などについて学修する。			【予習】日常生活における組織と人間とのかかわりについて考えておく。 【復習】組織行動論の体系と、組織行動論と他の組織論の領域との関係について説明できるようにする。		60	
第2回	パーソナリティ ・パーソナリティの意義、分類方法、組織行動におけるパーソナリティ研究について学修する。			【予習】パーソナリティの一般的な概念についてネットなどで調べておく。 【復習】働き手のパーソナリティの違いが組織に及ぼす影響について説明できるようにする。		60	
第3回	知覚 ・知覚の意義、知覚プロセス、対人知覚、対人知覚における誤り等について学修する。			【予習】知覚の一般的な概念、認知との違いについてネットなどで調べておく。 【復習】働き手の知覚の誤りが組織に及ぼす影響について説明できるようにする。		60	
第4回	態度について ・態度の意義、態度の三要素、ハイダーの理論、フェスティンガーの理論などについて学修する。			【予習】態度の一般的な概念についてネットなどで調べておく。 【復習】働き手の態度の違いが組織に及ぼす影響について説明できるようにする。また、知覚やパーソナリティとの関係も説明できるようにする。		60	
第5回	動機づけ（モチベーション） ・モチベーションに関する理論として、古典的理論と近代的理論を学修する。			【予習】動機づけの一般的な概念についてネットなどで調べておく。 【復習】働き手の動機付けの強さの違いが組織に及ぼす影響について説明できるようにする。また、知覚やパーソナリティ、態度との関係も説明できるようにする。		60	
第6回	学習と記憶 ・心理学でいう学習の概念と基本プロセスを学修する。 ・記憶プロセスと記憶の種類について学修する。			【予習】パブロフの犬、スキナー箱について予め調べておく。 【復習】学習と記憶の概念について説明できるようにする。		60	
第7回	集団力学 ・小集団の定義、集団過程を学修する。 集団力学の基本的な知識として、社会的促進・抑制、極化、同調について学修する。			【予習】自分がどのような集団に属しているか、その集団からどのような影響を受けているかを考える。 【復習】集団力学が個人に及ぼす影響について説明できるようにする。		60	
第8回	対人コミュニケーション ・コミュニケーションプロセス、コミュニケーションの失敗の原因、中心性の概念と計算方法について学修する。			【予習】自分がコミュニケーションで苦労した経験をまとめておく。 【復習】コミュニケーションの意義や、コミュニケーションがうまくいかなくなる理由について説明できるようにする。		60	
第9回	リーダーシップ ・リーダーシップの概念、特性論、2つの基本的なリーダーシップ、条件適合論などについて学修する。			【予習】リーダーシップの一般的な概念についてネットなどで調べておく。 【復習】リーダーシップにはどのような種類があり、そのリーダーシップがどのような状況で有効なのかを説明できるようにする。		60	
第10回	役割・規範・ストレス ・役割の意義、役割曖昧性、役割コンフリクトについて学修する。 ・役割曖昧性や役割ストレスに起因するストレスを中心に、ストレスのプロセス、ストレッサ、ストレス軽減について学修する。			【予習】役割や規範の一般的な概念についてネットなどで調べておく。 【復習】役割がどのような場合にストレスが生じやすいか、それを解消するにはどうしたらよいかを説明できるようにする。		60	
第11回	集団意思決定 ・集団で行う意思決定について、個人の意思決定との違い、長所と短所、意思決定支援などについて学修する。			【予習】集団で物事を決めた経験について、どこが大変だったかをまとめておく。 【復習】集団意思決定はどのようなプロセスで進められるものか、どのような特徴があるかを説明できるようにする。		60	
第12回	組織構造と形態 ・組織構造の基本概念と要素を学修する。 ・組織の基本形態と条件適合理論の考え方を学修する。			【予習】日本の会社を1つとりあげて組織図を調べておく。 【復習】組織構造にはどのような次元があり、どのような要因と関係があるかを説明できるようにする。		60	

第13回	組織文化 ・組織文化の概念とその役割について学修する。 ・組織文化の変革について学修する。	【予習】 文化的に特徴ある日本の会社を1つ調べておく。 【復習】 組織文化にはどのような次元があり、どのような要因と関係があるかを説明できるようにする。	60
第14回	組織変革 ・組織変革の意義とその方法について学修する。	【予習】 組織変革の事例についてネットなどで調べておく。 【復習】 組織変革の方法について説明できるようにする。	60
<p>〔授業の方法〕 通常の講義形式で行います。内容を分かりやすくするために、プリントを配布するほか、実際の例などを適宜とりいれます。また、小テストを通じて授業時間外の学習を促します。</p>			
<p>〔成績評価の方法〕 学期末試験 80%、授業の復習テスト 10%、課題レポート 10%による総合評価とします。</p>			
<p>〔成績評価の基準〕 成蹊大学の成績評価基準（学則第 38 条、39 条）に準拠します。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39. 以下の到達目標の達成度に基づいて評価します。 (1)個人の心理と行動の特徴を理解しているか。 (2)小集団の心理と行動の特徴を理解しているか。 (3)組織が個人や集団の心理や行動に与える影響を理解しているか。</p>			
<p>〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕 「企業経営の基礎」が先修的な位置づけの科目です。 ※この科目は経営学部 2 年生以上の配当科目であり、他学部の履修者は『企業と社会』を修得済または履修中であることが望ましい。</p>			
<p>〔テキスト〕 特になし。</p>			
<p>〔参考書〕 上田泰『組織行動研究の展開』（白桃書房） 上田泰『組織の人間行動』（中央経済社） 手塚・小山・上田・米山編著『現代経営学再入門』（同友館）</p>			
<p>〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕 オフィスアワーはポータルサイトで周知します。</p>			
<p>〔特記事項〕 ICT 活用</p>			

科目名	人間行動と組織<2>						
教員名	義村 敦子						
科目No.	122323100	単位数	2	配当年次	2年生	開講時期	2025 後期
<p>〔テーマ・概要〕</p> <p>テーマ：組織で活動する人の心理と行動について学ぶ 私たちの社会では、大多数の人がなんらかの形で組織と関わって仕事や仕事以外の活動をしています。 この授業は、組織で働く人間の行動や心理特徴の中から、キャリア形成、モチベーション、リーダーシップなどについて学びます。特に、職業選択の時期にある受講生のために、職業志向や進路選択に関する課題も提示し、グループ・ディスカッション等を通じて自己理解を深めていきます。</p>							
<p>〔到達目標〕</p> <p>この授業の到達目標は、DP1（専門分野の知識・技能）を実現するため、以下の2点とします。 ①組織心理学や組織行動論に関して幅広く基礎的な知見を得る。 ②実践的に得た知識を活用して自分のキャリアについて考える。</p>							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）				準備学修の目安（分）	
第1回	イントロダクション：組織で働く意味	【復習】なぜ人は組織を作り、共に働くのかに関する授業内容を把握する。				60	
第2回	キャリア形成と生涯発達心理学	【復習】キャリア形成と生涯発達心理学について、説明できるようにする。				60	
第3回	職業選択理論と職業タイプ分類	【復習】職業選択理論と職業タイプ分類について内容を把握するとともに、各自のキャリアデザインを試みる。				60	
第4回	欲求とモチベーション	【復習】欲求とモチベーションについて、j 授業内容を把握する。				90	
第5回	欲求プロセスの諸モデル	【復習】欲求プロセスの諸モデルについて、説明できるようにする。				60	
第6回	目標設定モデルとフィードバック効果	【復習】目標設定モデルとフィードバック効果に関する授業内容を把握する。				60	
第7回	リーダーシップの特性論	【復習】リーダーシップの特性論について、説明できるようにする。				60	
第8回	リーダーシップのプロセス	【復習】リーダーシップのプロセスに関する授業内容を把握する。				90	
第9回	チームワークとパフォーマンス	【復習】チームワークとパフォーマンスの関連について、説明できるようにする。				60	
第10回	職務特性モデル	【復習】職務特性モデルの内容を理解し、実践的にこの理論の応用を試みる。				60	
第11回	職場ストレスとソーシャルサポート	【復習】職場ストレスに及ぼすソーシャルサポートの影響について、説明できるようにする。				60	
第12回	組織風土と組織文化	【復習】組織風土と組織文化の相違点を理解し、身近な組織における組織文化の強化方法について具体案を考える。				90	
第13回	組織イノベーションと創造性	【復習】組織イノベーションと創造性についての授業内容を把握する。				60	
第14回	組織の公平性とパフォーマンスおよび全体のまとめ	【復習】組織の公平性とパフォーマンスの関連について、説明できるようにする。授業全体を振り返り、要点をまとめる。				60	
<p>〔授業の方法〕</p> <p>講義と討議を行います。具体的には、毎回のテーマに即してパワーポイントによる教材提示をしながら講義を進め、少人数グループによるディスカッションによって理解を深めます。授業内容に基づいて複数回のレポート提出を求めます。評価基準の明示および評価に関するフィードバックは講義中にその都度実施します。</p>							
<p>〔成績評価の方法〕</p> <p>平常点（授業への積極的参加）20%と提出されたレポート（複数回の合計点）80%によって総合的に評価します。</p>							

<p>[成績評価の基準]</p> <p>成蹊大学の成績評価基準（学則第 38 条および第 39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 38 and No. 39.</p> <p>次の 2 点に着目し、その到達度により評価します。</p> <p>①組織心理学および組織行動論の基礎知識が身に付いている。</p> <p>②得た知識を応用して自分理解のツールとして活用できる。</p>
<p>[必要な予備知識/先修科目/関連科目]</p> <p>この科目は経営学部の 2 年生以上の配当科目であり、他学部の履修者は『企業と社会』を修得済または履修中であることが望まれます。この授業をより深く理解するために、『心理学の基礎』、『自己理解の心理学』、『労働市場のしくみと制度』、『人事政策』、『人的資源管理』の受講を推奨します。</p>
<p>[テキスト]</p> <p>特に指定しません。</p>
<p>[参考書]</p> <p>『組織の心理学』 田尾雅夫著 有斐閣 2, 200 円 ISBN 4-641-08631-1</p> <p>『なんでアタシだけ叱るのよ!』 上田泰 著 同友館 1, 600 円 ISBN 4-496-03262-7</p>
<p>[質問・相談方法等 (オフィス・アワー)]</p> <p>ポータルサイトで周知します。</p>
<p>[特記事項]</p> <p>アクティブ・ラーニング</p>

科目名		ファイナンスの基礎<1>					
教員名		時岡 規夫					
科目No.	122324000	単位数	2	配当年次	2年生	開講時期	2025 前期
<p>〔テーマ・概要〕 経済主体の金融に関わる意思決定や金融取引を研究対象とする学問分野であるファイナンスの中で、1950年代以降本格的に展開されるようになるマイクロ経済学に基づいた分析フレームを現代ファイナンスと呼んでいます。 この授業は、「現代ファイナンス」とよばれる分野の基礎的な内容についての理解を深めることを目的とします。そして、そこでは、しばしば、 ・資金の供給主体で証券の需要主体である投資家の資産選択問題などをテーマとする証券投資 ・資金の需要主体で証券の供給主体である企業の投資政策や資本構成や利益還元政策などをテーマとするコーポレート・ファイナンス(企業金融論) ・資金と証券の交換メカニズムである証券市場や銀行 に大別して説明されます。この授業では、はじめに、ファイナンスの学問分野としての特徴、現代ファイナンスの分析フレームワークとしての特徴を概観したのちに、ファイナンスのうち、コーポレート・ファイナンス(企業金融論)に焦点を当て、企業の投資政策、資本構成、利益還元政策の、3つの基本問題とされる企業の意思決定の理論と具体的な事例や関連データをまじえて実際について理解を深めることをめざします。 コーポレート・ファイナンス(企業金融論)の基本的な内容については「企業経営の基礎」や「会社のしくみと制度」ですすでに修得済みでしょうが、ここではそれらを確認した上で、さらに詳しい内容について学んでいきます。</p>							
<p>〔到達目標〕 DP1【専門分野の知識・技能】を実現するため、ファイナンスの学問分野としての特徴、現代ファイナンスの分析フレームワークとしての特徴、さらには、ファイナンスのうち、資金の需要主体で証券の供給主体である企業の金融に関する意思決定をテーマとするコーポレート・ファイナンス(企業金融論)の基本問題とされる、投資政策、資本構成、利益還元政策に関する理論と実際について理解し、明確に説明できることを到達目標とします。</p>							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修(予習・復習等)		準備学修の目安(分)	
第1回	ガイダンスとイントロダクション ・授業の内容、進め方、予習・復習のしかた等を説明します。 ・ファイナンスとはどのような学問分野かについて学修します。 ・クイズ(原則、次回解説)を出すことがあります。			【予習】シラバスを読み、あらかじめその内容を把握する。 【復習】配布資料等を基に、授業の内容を再確認するとともに、キーワード等について説明できるようにする。		120	
第2回	イントロダクション：現代ファイナンスについて ※以下、進捗状況等に応じて内容が一部変更される可能性があります。 ・マイクロ経済学に基づいた分析フレームワークである現代ファイナンスについて学修します。 ・クイズ(原則、次回解説)を出すことがあります。			【復習】配布資料等を基に、キーワード等について説明できるようにする。		90	
第3回	イントロダクション：現代ファイナンスのトピックス(その1) ・証券投資論とコーポレート(企業金融論)のトピックについて学修します。 ・クイズ(原則、次回解説)を出すことがあります。			【復習】配布資料等を基に、キーワード等について説明できるようにする。		90	
第4回	イントロダクション：現代ファイナンスのトピックス(その2) ・証券市場論と銀行論のトピックについて学修します。 ・クイズ(原則、次回解説)を出すことがあります。			【復習】配布資料等を基に、キーワード等について説明できるようにする。		90	
第5回	企業の投資政策(その1) ・企業の投資政策とは何かについて学修します。 ・クイズ(原則、次回解説)を出すことがあります。			【復習】配布資料等を基に、キーワード等について説明できるようにする。		90	
第6回	企業の投資政策(その2) ・正味現在価値ルールについて(1)将来のキャッシュフローに不確実性がない場合を学修します。 ・クイズ(原則、次回解説)を出すことがあります。			【復習】配布資料等を基に、キーワード等について説明できるようにする。		90	
第7回	企業の投資政策(その3) ・正味現在価値ルールについて(2)将来のキャッシュフローにリスクがある場合を学修します。 ・クイズ(原則、次回解説)を出すことがあります。			【復習】配布資料等を基に、キーワード等について説明できるようにする。		90	
第8回	企業の投資政策(その4) ・正味現在価値ルール以外の投資プロジェクトの採用基準とその問題点について学修します。 ・クイズ(原則、次回解説)を出すことがあります。			【復習】配布資料等を基に、キーワード等について説明できるようにする。		90	
第9回	企業の資本構成(その1) ・企業の資本構成とは何かについて学修します。 ・クイズ(原則、次回解説)を出すことがあります。			【復習】配布資料等を基に、キーワード等について説明できるようにする。		90	
第10回	企業の資本構成(その2) ・資本構成に関するモディリアーニ=ミラーの定理について学修します。 ・クイズ(原則、次回解説)を出すことがあります。			【復習】配布資料等を基に、キーワード等について説明できるようにする。		90	
第11回	企業の資本構成(その3) ・資本構成の具体的な事例、関連データについて学修します。 ・クイズ(原則、次回解説)を出すことがあります。			【復習】配布資料等を基に、キーワード等について説明できるようにする。		90	
第12回	企業の利益還元政策(その1) ・企業の利益還元政策とは何か、企業の配当政策と自己株式取得について学修します。			【復習】配布資料等を基に、キーワード等について説明できるようにする。		90	

	・クイズ（原則，次回解説）を出すことがあります。		
第13回	企業の利益還元政策（その2） ・配当政策に関するミラー＝モディリアーニの定理について学修します。 ・クイズ（原則，次回解説）を出すことがあります。	【復習】配布資料等を基に，キーワード等について説明できるようにする。	90
第14回	企業の利益還元政策（その3） ・利益還元政策の具体的な事例，関連データについて学修します。	【復習】配布資料等を基に，キーワード等について説明できるようにする。	90
<p>〔授業の方法〕 通常の講義形式で進めますが，授業中にクイズなどを出すことがあります。また，レポートの提出を求めることがあるかもしれません。ふだんから復習に力を入れ，次回の授業にわからないところを持ち越さないように心がけてください。上で示された準備学修の時間はあくまでも目安であって，各自の理解度に応じて取り組んでください。なお，クイズ，レポートの主なねらいは次のとおりです。 ・クイズ：学修内容についての基本的な理解度やキーワードの理解を確認する。 ・レポート：課題内容を理解し，学修内容をふまえて自分の理解を明確に説明できているかを確認する。 授業自体は，配布資料等を基に，講義内容を詳述します。</p>			
<p>〔成績評価の方法〕 学期末試験および授業中に出されるクイズなどの取り組み状況等ならびにレポートの提出状況・内容等によって総合的に評価します。評価ウェイトは学期末試験が80%，クイズやレポートなどの平常点が20%を目安とする予定です。</p>			
<p>〔成績評価の基準〕 成蹊大学の成績評価基準（学則第38条，39条）に準拠します。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 38, 39. 次の点に着目し，その達成度により評価します。 ・ファイナンスの学問分野としての特徴，現代ファイナンスの分析フレームワークとしての特徴，さらには，ファイナンスのうち，資金の需要主体で証券の供給主体である企業の金融に関する意思決定をテーマとするコーポレート・ファイナンス（企業金融論）の基本問題とされる，投資政策，資本構成，利益還元政策に関する理論と実際について理解し，明確に説明できる。</p>			
<p>〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕 先修科目としては，「企業経営の基礎」，「会社のしくみと制度」など。 関連科目としては，「ミクロ経済学の基礎」，「マクロ経済学の基礎」，「コーポレート・ファイナンス」，「資産選択の意思決定」，「証券市場」，「社会理解実践講義（資本市場の役割と証券投資）」など。 この授業科目は経営学部カリキュラムの2年次配当の専門科目であり，経営学部以外の他学部の履修生にあつては，全学共通科目（成蹊教養カリキュラム）の「企業と社会」を修得済みまたは履修中であることが望ましいです。</p>			
<p>〔テキスト〕 ・俊野 雅司・白須 洋子・時岡 規夫〔著〕，2020，『ファイナンス論・入門』，有斐閣（3,600円＋税，ISBN 978-4-641-16570-0） はじめの授業日に担当者から説明があります。</p>			
<p>〔参考書〕 とりあえず ・新井 富雄・渡辺 茂・太田 智之〔著〕，1999，『資本市場とコーポレート・ファイナンス』，中央経済社（3,500円＋税，ISBN 4-502-34902-1） ・砂川 伸幸，2017，『コーポレート・ファイナンス入門』，第2版，日本経済新聞社（860円＋税，ISBN 978-4-532-11368-1） ・岸本 光永・津森 信也・阿部 正樹〔著〕，1999，『現代ファイナンス入門』，中央経済社（3,000円＋税，ISBN 4-502-34882-1） ・榎原 茂樹・菊池 誠一・新井 富雄・太田 浩司〔著〕，2011，『現代の財務管理』，新版，有斐閣（2,100円＋税，ISBN 4-641-12427-2） ・米澤 康博・小西 大・芹田 敏夫〔著〕，2004，『新しい企業金融』，有斐閣（1,900円＋税，ISBN 4-641-12217-2） ・Brealey, Richard A., Stewart C. Myers, Franklin Allen, and Alex Edmans, 2023, Principles of Corporate Finance, 14th ed., New York: McGraw-Hill Education (ISBN 9781265074159)（邦訳の最新版は第10版；リチャード・ブリーリー＝スチュワート・マイヤーズ＝フランクリン・アレン〔著〕，藤井 眞理子・國枝 繁樹〔監訳〕，2014，『コーポレートファイナンス』，第10版，上・下，日経BP社） を挙げますが，その他，個々のトピックスに関する参考書・参考資料等の参考文献は授業中に適宜紹介，配付します。</p>			
<p>〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕 ポータルサイトで周知します。 また，授業終了後に教室で受け付けます。</p>			
<p>〔特記事項〕</p>			

科目名	ファイナンスの基礎<2>						
教員名	伊藤 敬介						
科目No.	122324100	単位数	2	配当年次	2年生	開講時期	2025 後期
<p>〔テーマ・概要〕</p> <p>ファイナンスとは、お金の調達、運用、管理などに関する研究領域です。企業の資金調達や投資、企業価値評価やリスク管理など、「企業」の立場からみたファイナンス（コーポレート・ファイナンス）、株式・債券・投資信託や不動産などへの投資に関する意思決定やそのリスク管理など、資産運用を行う「投資家」の立場からみたファイナンス（インベストメント・ファイナンス）、個人の貯蓄や投資、借入れ、保険、老後の生活設計など、「個人」の立場からみたファイナンス（パーソナル・ファイナンス）など、経営人材として、そして個人としても様々な局面で活用できる知識になります。</p> <p>当授業では、このようなファイナンスの基礎概念について学修します。わが国におけるお金の流れを鳥瞰したうえで、企業、投資家、個人それぞれの立場から見たファイナンスの概要を学び、経営人材にとって必要不可欠な「お金」に関する理解を深めます。</p>							
<p>〔到達目標〕</p> <p>DP1（専門分野の知識・技能）を実現するため、以下を到達目標とする。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) お金の時間価値を理解し、現在価値を計算できる。 2) コーポレート・ファイナンスの基礎的な事項を理解し、説明できる。 3) インベストメント・ファイナンスの基礎的な事項を理解し、説明できる。 4) パーソナル・ファイナンスの基礎的な事項を理解し、説明できる。 							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）				準備学修の目安（分）	
第1回	イントロダクション ・講義の全体像や進め方、ファイナンスの概要を説明する。	【予習】 シラバスを読み、あらかじめその内容を把握する。 【復習】 配布資料等を基に、授業の内容を再確認するとともに、キーワード等について説明できるようにする。				60	
第2回	わが国の資金の流れ ・わが国の資金の流れや、間接金融と直接金融などについて学修する。	【復習】 配布資料等を基に授業内容を再確認するとともに、出題された課題があればそれに対応する。				60	
第3回	お金の時間価値 ・金利、単利と複利、お金の現在価値について学修し、簡単な演習を行う。	【復習】 配布資料等を基に授業内容を再確認するとともに、出題された課題があればそれに対応する。				60	
第4回	コーポレート・ファイナンスの基礎（1） ・企業の目的・ミッション・パーパスについて学修する。	【復習】 配布資料等を基に授業内容を再確認するとともに、出題された課題があればそれに対応する。				60	
第5回	コーポレート・ファイナンスの基礎（2） ・財務諸表の概要について学修する。	【復習】 配布資料等を基に授業内容を再確認するとともに、出題された課題があればそれに対応する。				60	
第6回	コーポレート・ファイナンスの基礎（3） ・資本配布と投資リターンについて学修する。	【復習】 配布資料等を基に授業内容を再確認するとともに、出題された課題があればそれに対応する。				60	
第7回	コーポレート・ファイナンスの基礎（4） ・資本コストと株主還元について学修する。	【復習】 配布資料等を基に授業内容を再確認するとともに、出題された課題があればそれに対応する。				60	
第8回	インベストメント・ファイナンスの基礎（1） ・資産運用の目的と意義、および主要な金融商品について学修する。	【復習】 配布資料等を基に授業内容を再確認するとともに、出題された課題があればそれに対応する。				60	
第9回	インベストメント・ファイナンスの基礎（2） ・株式価値評価の基礎を学修する。	【復習】 配布資料等を基に授業内容を再確認するとともに、出題された課題があればそれに対応する。				60	
第10回	インベストメント・ファイナンスの基礎（3） ・債券価値評価の基礎を学修する。	【復習】 配布資料等を基に授業内容を再確認するとともに、出題された課題があればそれに対応する。				60	
第11回	インベストメント・ファイナンスの基礎（4） ・期待リターンとリスクについて学修する。	【復習】 配布資料等を基に授業内容を再確認するとともに、出題された課題があればそれに対応する。				60	
第12回	パーソナル・ファイナンスの基礎（1） ・ライフプランニングと個人金融資産について学修する。	【復習】 配布資料等を基に授業内容を再確認するとともに、出題された課題があればそれに対応する。				60	
第13回	パーソナル・ファイナンスの基礎（2） ・ライフサイクル投資の概要を学修する。	【復習】 配布資料等を基に授業内容を再確認するとともに、出題された課題があればそれに対応する。				60	
第14回	ファイナンスの基礎に関するまとめ ・講義全体のまとめを行い、期末試験について説明する。	【復習】 配布資料等を基に、キーワード等について説明できるようにする。				60	
〔授業の方法〕							
講義テキストおよび毎回配付する講義資料（レジュメ）に基づいて、講義形式で進めます。実践的な知識を身につけるために、中間課題（レポート）を提出して頂きます。また、理解度を確認するためのクイズも適宜出題します。							
〔成績評価の方法〕							

期末試験 50%、中間課題（レポート）30%、平常点（授業中の積極的・建設的な発言など）20%で評価します。

〔成績評価の基準〕

成蹊大学の成績評価基準（学則第 38 条、39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 38, 39.

主に、以下に関する到達度に応じて評価します。

- ・ お金の時間価値を理解し、現在価値を計算できる。
- ・ コーポレート・ファイナンスの基礎的な事項を理解し、説明できる。
- ・ インベストメント・ファイナンスの基礎的な事項を理解し、説明できる。
- ・ パーソナル・ファイナンスの基礎的な事項を理解し、説明できる。

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕

特になし

〔テキスト〕

『ファイナンス論・入門』、俊野雅司・白須洋子・時岡規夫[著]、有斐閣、2020年、ISBN：978-4641-16570-0

〔参考書〕

特になし（必要に応じて紹介します）

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕

ポータルサイトで周知します。
また、授業終了後に教室で受け付けます。

〔特記事項〕

科目名	基本簿記<1>						
教員名	伊藤 克容						
科目No.	122325000	単位数	2	配当年次	2年生	開講時期	2025 前期
<p>〔テーマ・概要〕</p> <p>ビジネスで活躍するために「簿記」は、ひじょうに有力なスキルです。簿記の基礎を何もない状態から基本がひととおりできるところまで勉強します。この講義では、「企業会計の基礎」で取り扱った、会計情報作成のプロセスをさらに深めていきます。具体的には、企業会計でアウトプットされる会計数値を作成する上でのもっとも基本的なスキルである「複式簿記」という計算技術の基本原則を習得を目的とします。</p> <p>会計専門職（公認会計士、税理士など）を志す人や金融機関で活躍することを将来の目標に掲げている人にとっては必須の内容です。一般企業に就職してビジネスパーソンとして実力をつけたいと考えている人にとっても現段階で備えておいた方が圧倒的に有利な知識です。</p> <p>スキルの習得のためには、やはり実習が不可欠です。基本的な知識については解説を加えますが、主役は講義に参加する皆さんです。五感を研ぎ澄まし、それぞれ主体的に反応し、電卓をたたくなどの能動的な作業が必須となります。そのため、欠席がちになりそうな人にはお勧めしない授業です。</p>							
<p>〔到達目標〕</p> <p>DP1(専門分野の知識・技能)、DP3(課題の発見と解決)を達成目標として授業を進めます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・複式簿記の基本を理解し、実施できる ・企業や組織がかかわる様々な取引を認識し、その内容を適切に記録して外部に報告できる ・日本商工会議所主催の「簿記検定3級」に合格できるスキルを身に付ける 							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修の目安（分）	
第1回	ガイダンス（企業会計の基本構造、成績評価の方法）			【予習】簿記とはどのようなものか、書籍、ウェブサイトなどで自分なりに調べておくこと。 【復習】確認問題（宿題）を各自解いておくこと。 基本用語の理解 財務諸表の構造 基本3式をつかった計算問題		60	
第2回	重要な財務諸表について（損益計算書、貸借対照表のレイアウト、情報内容）			【復習】確認問題（宿題）を各自解いておくこと。 財務諸表の構造と意味内容 基本3式の運用		60	
第3回	基本的な取引の処理(1)			【復習】確認問題（宿題）を各自解いておくこと。 仕訳・元帳転記のルールの運用 取引から仕訳、元帳転記、残高試算表作成、財務諸表作成までのプロセスを理解し、自力で実行できるようにすること。		60	
第4回	基本的な取引の処理(2)			【復習】確認問題（宿題）を各自解いておくこと。 仕訳・元帳転記のルールの運用 取引から仕訳、元帳転記、残高試算表作成、財務諸表作成までのプロセスを理解し、自力で実行できるようにすること。 期首残高がある場合に特に注意する。		60	
第5回	簿記一巡の手続き(1)			【復習】確認問題（宿題）を各自解いておくこと。 計算間違いに気を付ける。		60	
第6回	簿記一巡の手続き(2)			【復習】確認問題（宿題）を各自解いておくこと。 仕訳・元帳転記のルールの運用 取引から仕訳、元帳転記、残高試算表作成、財務諸表作成までのプロセスを理解し、自力で実行できるようにすること。		60	
第7回	総合問題演習（前半のまとめ）			【復習】確認問題（宿題）を各自解いておくこと。 基本の初歩が身に付いたかどうかをチェックする。		60	
第8回	現金・当座預金関連の取引の処理			【復習】確認問題（宿題）を各自解いておくこと。 小切手の取扱い、当座預金・当座借越勘定について、十分に理解する。		60	
第9回	手形関連の取引の処理、帳簿組織			【復習】確認問題（宿題）を各自解いておくこと。 約束手形の機能と帳簿組織の概要について、しっかり復習し、定着させる。		60	
第10回	商品売買取引の処理			【復習】確認問題（宿題）を各自解いておくこと。 商品売買取引の処理方法（3分法）についてしっかり理解する。 売上原価の算定公式をつかえるようにしておく。		60	
第11回	期末決算と決算整理事項の処理(1)			【復習】確認問題（宿題）を各自解いておくこと。 貸倒引当金の設定、減価償却、売上原価の算定など基本的な処理を完璧にマスターする。		60	
第12回	期末決算と決算整理事項の処理(2)			【復習】確認問題（宿題）を各自解いておくこと。 前払費用、未払費用、前受収益、未収収益について完璧に処理できるようにする。		60	
第13回	期末決算と決算整理事項の処理(3)			【復習】確認問題（宿題）を各自解いておくこと。 小口現金、現金過不足、消耗品などの処理をマスターする。		60	

第14回	伝票会計、総合問題演習	【復習】確認問題(宿題)を各自解いておくこと。 伝票の意義と運用方法について理解する。	60
<p>〔授業の方法〕 基本的には講義形式をとりますが、受講者の授業参加、課題提出なども求められます。授業時間内に扱う計算問題は、かならず自分で解いてみるようにしてください。最初はよくわからなくても、自分で電卓をたたいて計算し、計算用紙にいろいろ書いているうちに段々分かっていくということが、頻繁にあります。計算問題をやる際に必要となるので、毎時間かならず自分用の電卓をもってきてください。</p>			
<p>〔成績評価の方法〕 毎回の課題提出(40%)、授業への貢献(発言、問題演習の回答)(60%)を基本に評価します。 積極的に参加する意欲の高い受講者に対して加点します。</p>			
<p>〔成績評価の基準〕 成蹊大学の成績評価基準(学則第38条、39条)に準拠します。 次の到達目標に着目し、その達成度を総合的に評価します。 ①複式簿記の計算構造を理解している ②単純な複式簿記の計算実務を実施することができる ③決算整理事項を含む、多少複雑な複式簿記の計算実務(日商簿記検定3級レベル)を実施することができる</p>			
<p>〔必要な予備知識/先修科目/関連科目〕 「企業会計の基礎」で学んだ知識があれば、有用です。また、この科目は経営学部の2年生以上の配当科目であり、他学部の履修者は『企業と社会』を修得済または履修中であることがのぞましいです。 基礎から勉強しますので、特定の先修科目を前提とせずに、学習できるように配慮しますが、最低限、経営、企業、会計、金融などへの一般的な関心・興味があったほうがよいでしょう。 複式簿記は、会計の基本的な情報を提供する情報処理機構です。多くの会計科目の基礎として位置付けられます。関連科目として、会計関連の諸科目の受講</p>			
<p>〔テキスト〕 特になし 授業時に資料を配付します。</p>			
<p>〔参考書〕 特になし 必要に応じて指示します。</p>			
<p>〔質問・相談方法等(オフィス・アワー)〕 ポータルサイトで周知する。</p>			
<p>〔特記事項〕 アクティブ・ラーニング</p>			

科目名	基本簿記<2>						
教員名	新江 孝						
科目No.	122325100	単位数	2	配当年次	2年生	開講時期	2025 後期
<p>〔テーマ・概要〕</p> <p>会計はビジネスの言語とも言われます。簿記は会計の基礎ですから、ビジネスにおいて簿記はとても重要なスキルとなります。簿記には単式簿記と複式簿記があります。皆さんの中には小遣い帳をつけている人もいますが、それは単式簿記であって、複式簿記とは仕組みがまったく異なります。この講義では複式簿記について、その基礎が何もない状態から基本的な一連の流れが一通りできるところまで勉強します。</p> <p>会計専門職（公認会計士、税理士など）を志す人や金融機関で活躍することを将来の目標に掲げている人にとっては必須の内容です。一般企業に就職してビジネスパーソンとして実力をつけたいと考えている人にとっても現段階で備えておいた方が圧倒的に有利な知識です。</p> <p>簿記の習得のためには、実習が不可欠です。授業では基本的な知識について説明しますが、予習・復習において皆さん自らが主体的に実習に取り組むことが必要です。</p> <p>複式簿記の場合、授業内容を理解するためには、それまでの授業内容をしっかりと理解していることが必須となります。そして授業内容を理解するためには、すべての授業に出席し、授業中もしっかりと話を聞き、自主的にノートを取る必要があります。したがって、欠席がちになりそうな人、そして授業に集中できない人にはお勧めしない授業です。</p>							
<p>〔到達目標〕</p> <p>DP1(専門分野の知識・技能), DP3(課題の発見と解決)を達成目標として授業を進めます。</p> <p>①複式簿記の基本を理解し、実施できる ②企業や組織がかかわる様々な取引を認識し、その内容を適切に記録して外部に報告できる ③日本商工会議所主催の「簿記検定3級」に合格するための必要な基本的なスキルを身に付ける</p>							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修(予習・復習等)		準備学修の目安(分)	
第1回	<p>ガイダンス</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業の内容、進め方を説明する。 <p>簿記とは</p> <ul style="list-style-type: none"> ・簿記の一連の流れについて学修する。 			<p>【予習】 簿記とは何か、その一連の流れについて、テキストで自分なりに調べておくこと。</p> <p>【復習】 1週間以内に授業内容を復習し、簿記とは何かを説明できるようにする。</p>		60～120分	
第2回	<p>簿記の基礎</p> <ul style="list-style-type: none"> ・仕訳と勘定記入 			<p>【予習】 仕訳と勘定記入について、テキストで自分なりに調べておくこと。</p> <p>【復習】 1週間以内に授業内容を復習し、仕訳と勘定記入のルールを説明できるようにする。</p>		60～120分	
第3回	<p>商品売買取引</p> <ul style="list-style-type: none"> ・分記法 ・三分法 ・掛取引 ・売上原価の算定 			<p>【予習】 商品売買取引について、テキストで自分なりに調べておくこと。</p> <p>【復習】 1週間以内に授業内容を復習し、商品売買取引の仕訳ができるようにする。</p>		60～120分	
第4回	<p>現金・預金の取引</p> <ul style="list-style-type: none"> ・他人振出小切手の受け取り ・現金過不足 ・決算時の現金過不足の処理 ・普通預金、定期預金、当座預金への預入れ ・小切手の振出 ・当座預金の残高を超えた引き出し ・決算時の当座借越の処理 			<p>【予習】 現金・預金の取引について、テキストで自分なりに調べておくこと。</p> <p>【復習】 1週間以内に授業内容を復習し、現金・預金の取引の仕訳ができるようにする。</p>		60～120分	
第5回	<p>約束手形、貸付・借入の取引、貸倒引当金の設定</p> <ul style="list-style-type: none"> ・約束手形の振り出し・受け取り ・貸付、貸付金の返却 ・借入、借入金の返済 ・当期発生の貸倒れ ・決算時の貸倒引当金の設定 			<p>【予習】 約束手形、貸付・借入の取引について、テキストで自分なりに調べておくこと。</p> <p>【復習】 1週間以内に授業内容を復習し、約束手形、貸付・借入の取引の仕訳、貸倒引当金の設定の仕訳ができるようにする。</p>		60～120分	
第6回	<p>有形固定資産の購入取引と減価償却</p> <ul style="list-style-type: none"> ・固定資産の購入 ・減価償却 			<p>【予習】 有形固定資産の購入取引と減価償却について、テキストで自分なりに調べておくこと。</p> <p>【復習】 1週間以内に授業内容を復習し、有形固定資産の購入取引と減価償却の仕訳ができるようにする。</p>		60～120分	
第7回	<p>株式の発行、消費税の取引</p> <ul style="list-style-type: none"> ・株式会社とは ・会社設立と増資 ・当期純利益の計上 ・消費税の支払いと受け取り ・決算時の消費税の処理 			<p>【予習】 株式の発行、消費税の取引について、テキストで自分なりに調べておくこと。</p> <p>【復習】 1週間以内に授業内容を復習し、株式の発行、消費税の取引の仕訳ができるようにする。</p>		60～120分	
第8回	<p>収益・費用の見越し・繰延べ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・費用の繰延べ ・費用の見越し ・収益の繰延べ ・収益の見越し 			<p>【予習】 収益・費用の見越し・繰延べについて、テキストで自分なりに調べておくこと。</p> <p>【復習】 1週間以内に授業内容を復習し、収益・費用の見越し・繰延べの仕訳ができるようにする。</p>		60～120分	
第9回	<p>消耗品費、通信費、租税公課の取引</p> <ul style="list-style-type: none"> ・消耗品の購入 ・切手やはがきの購入 ・固定資産税の支払い ・決算時の貯蔵品への振替え 			<p>【予習】 消耗品費、通信費、租税公課の取引について、テキストで自分なりに調べておくこと。</p> <p>【復習】 1週間以内に授業内容を復習し、消耗品費、通信費、租税公課の取引の仕訳ができるようにする。</p>		60～120分	
第10回	<p>試算表の作成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・簿記の一連の流れにおける試算表作成の位置づけ ・試算表の作成の具体例 			<p>【予習】 試算表の作成について、テキストで自分なりに調べておくこと。</p> <p>【復習】 1週間以内に授業内容を復習し、試算表が作成で</p>		60～120分	

		きるようにする。	
第11回	決算手続き(1) ・決算手続きの概要 ・決算整理仕訳	【予習】決算手続きについて、テキストで自分なりに調べておくこと。 【復習】1週間以内に授業内容を復習し、決算整理仕訳ができるようにする。	60~120分
第12回	決算手続き(2) ・精算表の作成	【予習】精算表について、テキストで自分なりに調べておくこと。 【復習】1週間以内に授業内容を復習し、採算表を作成できるようにする。	60~120分
第13回	到達度確認テスト ・これまでの学修内容について、理解度を確認するためのテスト	【予習】到達度確認テストに備え、これまでの学修内容を確認する。一夜漬けにならないよう、数週間前より計画的に学修に取り組むようにする。 【復習】到達度確認テストで出されたものと同様のテキストの問題を解き、その理解を確かなものとする。	60~120分
第14回	授業のまとめ・質疑応答	【予習】授業全体の内容を簡単に振り返っておく。 【復習】授業全体を振り返り、到達目標と自分の理解度とを点検し、不足している知識等を確認し、学修する。	60~120分
<p>〔授業の方法〕 授業は講義形式で行います。口頭のみで説明することもあるので、適宜ノートをとる必要があります。 授業時間中に計算演習を行うこともありますので、電卓を必ず持参して下さい。 なお、上で示された準備学修の時間はあくまで目安ですので、各自の理解度に応じて取り組む必要があります。 計算課題の狙いは以下の通りです。 ・計算課題：授業時に取り上げる計算問題の復習となるように出題します。</p>			
<p>〔成績評価の方法〕 平常点(確認テストまたはアンケート)：40%、最終試験(授業内の到達度確認テストの予定)1回：60% により総合的に評価します。 (注)履修者数が多い場合には、最終試験を学期末試験として行います。</p>			
<p>〔成績評価の基準〕 成蹊大学の成績評価基準(学則第38条、39条)に準拠します。 次の到達目標に着目し、その達成度を総合的に評価します。 ①複式簿記の基本を理解し、実施できる ②企業や組織がかかわる様々な取引を認識し、その内容を適切に記録して外部に報告できる ③日本商工会議所主催の「簿記検定3級」に合格するための必要な基本的なスキルを身に付ける</p>			
<p>〔必要な予備知識/先修科目/関連科目〕 「企業会計の基礎」で学んだ知識があれば、十分です。基礎から勉強します。特定の先修科目を前提としません。 経営、企業、会計、金融などへの一般的な関心・興味があったほうがよいでしょう。 複式簿記は、会計の基本的な情報を提供する情報処理機構です。多くの会計科目の基礎として位置付けられます。関連科目として、会計関連の諸科目の受講をすすめます。 この講義で基礎を固め、学外の検定試験などへの挑戦を推奨します。</p>			
<p>〔テキスト〕 『2025年度版 スッキリわかる 日商簿記3級』、滝澤ななみ著、TAC出版</p>			
<p>〔参考書〕 特にありません。必要に応じて指示します。</p>			
<p>〔質問・相談方法等(オフィス・アワー)〕 授業終了後に教室で受け付けます。</p>			
<p>〔特記事項〕</p>			

科目名		国際経営<1>					
教員名		時岡 規夫					
科目No.	122326000	単位数	2	配当年次	2年生	開講時期	2025 前期
<p>〔テーマ・概要〕</p> <p>以下の問題関心に沿って、できるだけ最近の事例をまじえつつ、企業活動の国際化についての理解を深めることを目的とします。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・企業活動の「国際化」とは、どういうことなのか？ ・その国際化はどのようにして行なわれるのか？ ・なぜ、企業は国際化するのか？ ・国内だけの経営を考える場合にはない、国際経営ならではの課題にどのようなものがあるか？ <p>ところで、国際経営の分野は、相対的に学際的な性格が強いため、関連する学問領域の成果についても随時織り交ぜていく予定です。</p>							
<p>〔到達目標〕</p> <p>DP1【専門分野の知識・技能】を実現するため、以下を到達目標とします：</p> <p>企業活動の国際化についての理解を深めることをめざします。</p> <p>さらに、国際経営に関連する学問領域の成果について身につけることをめざします。</p>							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修の目安（分）	
第1回	ガイダンス ・授業の内容、進め方、予習・復習のしかた等を説明します。 ・国際経営の学問上の位置づけ（第2回）を説明する準備をします。 ・クイズ（原則、次回解説）を出すことがあります。			【予習】シラバスを読み、あらかじめその内容を把握する。 【復習】配布資料等を基に、授業の内容を再確認するとともに、キーワード等について説明できるようにする。		60	
第2回	イントロダクション：国際経営の学問上の位置づけ ・国際経営の学問上の位置づけを把握します。 ・クイズ（原則、次回解説）を出すことがあります。			【復習】配布資料等を基に、キーワード等について説明できるようにする。		60	
第3回	企業の国際化：最近の動きから ※以下、進捗状況等に応じて授業の計画・内容が一部変更される可能性があります。 ・最近の事例を取り上げて、国際経営の基本的な観点を確認します。 ・クイズ（原則、次回解説）を出すことがあります。			【復習】配布資料等を基に、キーワード等について説明できるようにする。		90	
第4回	日本の自動車産業の歴史から国際経営を考える（その1） ・日本の自動車産業の歴史を事例として、国際経営についての理解を深めます。 ・クイズ（原則、次回解説）を出すことがあります。			【復習】配布資料等を基に、キーワード等について説明できるようにする。		90	
第5回	日本の自動車産業の歴史から国際経営を考える（その2） ・前回にひきつづき、日本の自動車産業の歴史を事例として、国際経営についての理解を深めます。 ・クイズ（原則、次回解説）を出すことがあります。			【復習】配布資料等を基に、キーワード等について説明できるようにする。		90	
第6回	日本の自動車産業の歴史から国際経営を考える（その3） ・前回にひきつづき、日本の自動車産業の歴史を事例として、国際経営についての理解を深めます。 ・クイズ（原則、次回解説）を出すことがあります。			【復習】配布資料等を基に、キーワード等について説明できるようにする。		90	
第7回	日本の自動車産業の歴史から国際経営を考える（その4） ・前回にひきつづき、日本の自動車産業の歴史を事例として、国際経営についての理解を深めます。 ・クイズ（原則、次回解説）を出すことがあります。			【復習】配布資料等を基に、キーワード等について説明できるようにする。		90	
第8回	為替レートとは ・為替レートについての基本的な知識を修得します。 ・クイズ（原則、次回解説）を出すことがあります。			【復習】配布資料等を基に、キーワード等について説明できるようにする。		90	
第9回	為替レートと国際経営（その1） ・為替レートと国際経営についての理解を深めます。 ・クイズ（原則、次回解説）を出すことがあります。			【復習】配布資料等を基に、キーワード等について説明できるようにする。		90	
第10回	為替レートと国際経営（その2） ・前回にひきつづき、為替レートと国際経営についての理解を深めます。 ・クイズ（原則、次回解説）を出すことがあります。			【復習】配布資料等を基に、キーワード等について説明できるようにする。		90	
第11回	多国籍企業とは、コーポレート・ガバナンスと国際経営 ・多国籍企業についての理解を深めます。 ・コーポレート・ガバナンスの観点から、国際経営についての理解を深めます。 ・クイズ（原則、次回解説）を出すことがあります。			【復習】配布資料等を基に、キーワード等について説明できるようにする。		90	
第12回	直接投資とは ・直接投資についての基本的な知識を修得します。 ・クイズ（原則、次回解説）を出すことがあります。			【復習】配布資料等を基に、キーワード等について説明できるようにする。		90	
第13回	直接投資の現状 ・直接投資の現状についての理解を深めます。 ・クイズ（原則、次回解説）を出すことがあります。			【復習】配布資料等を基に、キーワード等について説明できるようにする。		90	

<p>第14回</p>	<p>直接投資の理論 ・直接投資の理論を学修します。</p>	<p>【復習】配布資料等を基に、キーワード等について説明できるようにする。</p>	<p>90</p>
<p>〔授業の方法〕 通常の講義形式で進めますが、授業中にクイズなどを出すことがあります。また、レポートの提出を求める予定です。ふだんから復習に力を入れ、次回の授業にわからないところを持ち越さないように心がけてください。上で示された準備学修の時間はあくまでも目安であって、各自の理解度に応じて取り組んでください。なお、クイズ、レポートのねらいは次のとおりです。 ・クイズ：その回の学修内容についての基本的な理解度やキーワードの理解を確認する。 ・レポート：課題内容を理解し、学修内容をふまえて自分の理解を明確に説明できているかを確認する。 授業自体は、配布資料等を基に、講義内容を詳述します。</p>			
<p>〔成績評価の方法〕 学期末試験および授業に出されるクイズなどの取り組み状況等ならびにレポートの提出状況・内容等によって総合的に評価します。評価ウェイトは学期末試験が80%、クイズやレポートなどの平常点が20%を目安とする予定です。</p>			
<p>〔成績評価の基準〕 成蹊大学の成績評価基準（学則第38条、39条）に準拠します。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 38, 39. 次の点に着目し、その達成度により評価します。 ①企業活動の国際化について理解し、明確に説明できる。 ②国際経営に関連する学問領域の成果について明確に説明できる。</p>			
<p>〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕 先修科目としては、「企業経営の基礎」など。 関連科目としては、「会社のしくみと制度」、「ミクロ経済学の基礎」、「マクロ経済学の基礎」、「経営戦略」、「マーケティング」、「人間行動と組織」、「ファイナンスの基礎」、「競争戦略」、「産業の経済学」、「企業の国際戦略」など。</p>			
<p>〔テキスト〕 現時点では使用するかどうかを含め未定です。 はじめの授業日に担当者から説明があります。</p>			
<p>〔参考書〕 全般的な参考書として、 ・大木 清弘〔著〕、2017、『コア・テキスト国際経営』、ライブラリ 経営学コア・テキスト 11、新世社（2,500円＋税、ISBN 978-4-88384-266-7）をとりあえず挙げておきます。その他、個々のトピックスに関する参考書・参考資料等の参考文献は授業中に適宜紹介等します。</p>			
<p>〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕 ポータルサイトで周知します。 また、授業終了後に教室で受け付けます。</p>			
<p>〔特記事項〕</p>			

科目名	国際経営<2>						
教員名	浜松 翔平						
科目No.	122326100	単位数	2	配当年次	2年生	開講時期	2025 後期
<p>〔テーマ・概要〕</p> <p>本授業では、国際経営の基礎的な理論や実際の企業事例を解説します。現実の課題に対して国際経営の理論がどのように適用できるかを理解できるように、実際の事例をもとに説明をしていきます。近年日本企業の国際化が進み、比較的規模の小さな企業ですらグローバル化を実施している現状を理解します。本授業を受講することで、日本企業はグローバルに活躍できる人材を求めていることを知り、グローバルに働くキャリアについて考えるきっかけにもなるでしょう。</p>							
<p>〔到達目標〕</p> <p>DP1（専門分野の知識・理解）、DP3（課題の発見と解決）、を実現するために、以下の3点を達成目標とする。</p> <p>①国際経営の基礎的な理論について説明できる ②海外ビジネスの実態について自ら情報収集することが出来る ③国際経営の基礎的な理論を用いて、企業の事例を分析することができる</p>							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）					準備学修の目安（分）
第1回	イントロダクション	復習：授業内で取り扱ったキーワードや興味を持ったトピックについて調べる。					60
第2回	国際経営とは何か	復習：授業内で取り扱ったキーワードや興味を持ったトピックについて調べる。					60
第3回	多国籍企業と海外直接投資の歴史と現状	復習：授業内で取り扱ったキーワードや興味を持ったトピックについて調べる。					60
第4回	海外直接投資の理論	復習：授業内で取り扱ったキーワードや興味を持ったトピックについて調べる。					60
第5回	多国籍企業の組織デザイン	復習：授業内で取り扱ったキーワードや興味を持ったトピックについて調べる。					60
第6回	トランスナショナル経営	復習：授業内で取り扱ったキーワードや興味を持ったトピックについて調べる。					60
第7回	海外子会社の経営	復習：授業内で取り扱ったキーワードや興味を持ったトピックについて調べる。					60
第8回	国際経営の実態	復習：授業内で取り扱ったキーワードや興味を持ったトピックについて調べる。					60
第9回	国際マーケティング	復習：授業内で取り扱ったキーワードや興味を持ったトピックについて調べる。					60
第10回	ものづくりの国際拠点展開	復習：授業内で取り扱ったキーワードや興味を持ったトピックについて調べる。					60
第11回	研究開発の国際化	復習：授業内で取り扱ったキーワードや興味を持ったトピックについて調べる。					60
第12回	国際的人的資源管理	復習：授業内で取り扱ったキーワードや興味を持ったトピックについて調べる。					60
第13回	中小企業・ベンチャー企業の国際化	復習：授業内で取り扱ったキーワードや興味を持ったトピックについて調べる。					60
第14回	まとめ	復習：授業内で取り扱ったキーワードや興味を持ったトピックについて調べる。					60
<p>〔授業の方法〕</p> <p>授業は基本的には講義形式で行いますが、質疑応答やコメントシートの記載を通じて双方向の授業形式を取り入れます。講義の内容としては、2つに分かれます。まず、理論に関する講義です。これが本講義の中心的な内容となります。そして、紹介した理論を用いて、実際の企業事例の分析を解説します。これらのプロセスを経験することで、国際経営の基礎的理解を深め、その面白さを体験できる構成を取っています。講義の中で、受講者同士でのグループワークを実施することがあります。授業の進捗によって内容は一部変更する可能性があります。</p>							
<p>〔成績評価の方法〕</p> <p>中間評価（レポート）40%、最終評価（テスト）40%、平常点（コメントシートへの記載など）20%として、その他、授業への積極的な参加をプラスに評価します。</p>							
〔成績評価の基準〕							

経営

25/2/12 20時1分

※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

成蹊大学の成績評価基準（学則第38条、39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39. 到達目標の達成度に基づいて評価する。

- ①国際経営の基礎的な理論について説明できる
- ②海外ビジネスの実態について自ら情報収集することが出来る
- ③国際経営の基礎的な理論を用いて、企業の事例を分析することができる

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
特になし

〔テキスト〕
特になし

〔参考書〕
中川功一・林正・多田和美・大木清弘（2015）『はじめての国際経営』有斐閣ストゥディア.
購入の必要なし

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕
ポータルサイトで周知する。
授業終了後に教室で受け付けます。

〔特記事項〕

科目名		ゲーム理論<1>					
教員名		平尾 由紀子					
科目No.	122327000	単位数	2	配当年次	2年生	開講時期	2025 前期
<p>〔テーマ・概要〕</p> <p>ゲーム理論は、企業同士の関係、人と人との関係、国家間関係などにおける戦略的な行動を理解する上で役に立つ知識を与えてくれる。企業同士の競争と協力関係、スポーツや戦争における戦略、労使交渉や国家間交渉など様々な状況をゲーム理論によって分析することができる。また、オークションや公共財の供給などの経済政策もゲーム理論を使って制度設計されている。学生は、学期を通して演習問題に取り組むことで、ゲーム理論の基礎知識と理解を深めてほしい。</p>							
<p>〔到達目標〕</p> <p>DP1（専門分野の知識・技能）とDP3（課題の発見と解決）を実現するため、以下を到達目標とする。</p> <p>①ゲーム理論の基礎的な概念を学び、さまざまなゲームの結果を導出する理論的な理解力を養う。</p> <p>②理論を産業の経済学、金融、競争戦略、経営戦略、企業の国際戦略などの分野に応用して分析するための基礎知識を身につける。</p>							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修の目安（分）	
第1回	イントロダクション ・ゲーム理論の事例、理論の発展史、紹介			【復習】 授業の内容を復習する。		60	
第2回	完備情報下の静学的ゲーム#1 ・囚人のジレンマと支配戦略均衡			【復習】 授業の内容をよく理解した上で、宿題1に取り組む。		120	
第3回	宿題1の解説 完備情報下の静学的ゲーム#2 ・順次消去による支配戦略均衡とナッシュ純粋戦略均衡			【復習】 授業の内容を復習する。宿題1の理解を確認する。		60	
第4回	完備情報下の静学的ゲーム#3 ・ナッシュ混合戦略均衡			【復習】 授業の内容をよく理解した上で、宿題2に取り組む。		120	
第5回	宿題2の解説 完備情報下の静学的ゲーム#4 ・クールノー数量競争とベルトラン価格競争			【復習】 授業の内容を復習する。宿題2の理解を確認する。		60	
第6回	完備情報下における動学的ゲーム#1 ・展開型ゲームとサブゲーム完全均衡			【復習】 授業の内容をよく理解した上で、宿題3に取り組む。		120	
第7回	宿題3の解説 完備情報下における動学的ゲーム#2 ・ナッシュ均衡とサブゲーム完全均衡の関係			【復習】 授業の内容を復習する。宿題3の理解を確認する。		60	
第8回	完備情報下における動学的ゲーム#3 ・繰り返しのゲーム			【復習】 授業の内容をよく理解した上で、宿題4に取り組む。		120	
第9回	宿題4の解説 完備情報下における動学的ゲーム#4 ・交渉ゲーム			【復習】 授業の内容を復習する。宿題4の理解を確認する。		60	
第10回	不完備情報下における静学的ゲーム#1 ・ベイジアン・ナッシュ均衡			【復習】 授業の内容をよく理解した上で、宿題5に取り組む。		120	
第11回	宿題5の解説 不完備情報下における静学的ゲーム#2 ・オークションその1			【復習】 授業の内容を復習する。宿題5の理解を確認する。		60	
第12回	不完備情報下における静学的ゲーム#3 ・オークションその2			【復習】 授業の内容をよく理解した上で、宿題6に取り組む。		120	
第13回	宿題6の解説 不完備情報下における動学的ゲーム#1 ・ベイズの公式と完全ベイジアン均衡			【復習】 授業の内容を復習する。宿題6の理解を確認する。		60	
第14回	全体のまとめ			【復習】 これまでの授業全体の学習内容を復習する。		120	
<p>〔授業の方法〕</p> <p>授業時にはプリントを配布し、それをもとに講義を行う。授業中の短い演習問題と授業外の宿題を定期的に課し、学生の理解度を見ながら授業を進める。学生は、これらの課題に取り組むことにより、授業の復習をする。分からないことを次の授業に持ち越さないようにする。また、上で示された準備学修の時間はあくまで目安であって、各自の理解度に応じて取り組むこと。</p> <p>なお、演習、宿題と期末レポートの狙いは、以下のとおりである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業中の短い演習と授業外の宿題：その時々授業内容の理解を確認する。 ・期末レポート：学期中に学んだゲーム理論の内容全般の理解を深める。 							
〔成績評価の方法〕							

平常点（評価の60%程度）と学期末の課題レポート（評価の40%程度）を目安として、総合的に成績評価する。
平常点は、授業中の演習問題（毎授業時提出）と、授業外で取り組む宿題（隔週提出）から成る。

〔成績評価の基準〕

成蹊大学の成績評価基準（学則第38条、第39条）に準拠する。また、次の点に着目し、その達成度により評価する。

- ①ゲーム理論の基礎的な概念を学び、さまざまなゲームの均衡を導出する理論の基礎を理解している。
- ②ゲーム理論を産業の経済学、金融、競争戦略、経営戦略、企業の国際戦略などの分野に応用して分析するための基礎知識を身に付けている。

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕

必要な先修科目は特になし。関連が深いのは「戦略とマーケティング」群の科目。ただし、履修していなくても差し支えない。

〔テキスト〕

・渡辺隆裕（2008）『ゼミナール ゲーム理論入門』、日本経済新聞社、3500円＋税（ISBN978-4-532-13346-7）。
ただし、講義プリントを配布するので、テキストの購入は不要。

〔参考書〕

- ・梶井厚志、松井彰彦（2000）『マイクロ経済学 戦略的アプローチ』、日本評論社、2300円＋税（ISBN4-535-55202-9）。
- ・神戸伸輔（2004）『入門ゲーム理論と情報の経済学』、日本評論社、2500円＋税（ISBN4-535-55414-5）。
- ・松島斉（2018）『ゲーム理論はアート』、日本評論社、2000円＋税（ISBN978-4-535-55892-2）。
- ・R. ギボンズ（1995）『経済学のためのゲーム理論入門』、創文社、3200円＋税（ISBN4-423-85080）。
- ・A. ディキシット、B. ナイルバフ（2010）『戦略的思考をどう実践するか』、阪急コミュニケーションズ、4000円＋税（ISBN4-484-10108-8）。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕

ポータルサイトで周知する。

〔特記事項〕

科目名		ゲーム理論<2>					
教員名		平尾 由紀子					
科目No.	122327100	単位数	2	配当年次	2年生	開講時期	2025 後期
<p>〔テーマ・概要〕</p> <p>ゲーム理論は、企業同士の関係、人と人との関係、国家間関係などにおける戦略的な行動を理解する上で役に立つ知識を与えてくれる。企業同士の競争と協力関係、スポーツや戦争における戦略、労使交渉や国家間交渉など様々な状況をゲーム理論によって分析することができる。また、オークションや公共財の供給などの経済政策もゲーム理論を使って制度設計されている。学生は、学期を通して演習問題に取り組むことで、ゲーム理論の基礎知識と理解を深めてほしい。</p>							
<p>〔到達目標〕</p> <p>DP1（専門分野の知識・技能）とDP3（課題の発見と解決）を実現するため、以下を到達目標とする。</p> <p>①ゲーム理論の基礎的な概念を学び、さまざまなゲームの結果を導出する理論的な理解力を養う。</p> <p>②理論を産業の経済学、金融、競争戦略、経営戦略、企業の国際戦略などの分野に応用して分析するための基礎知識を身につける。</p>							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修の目安（分）	
第1回	イントロダクション ・ゲーム理論の事例、理論の発展史、紹介			【復習】 授業の内容を復習する。		60	
第2回	完備情報下の静学的ゲーム#1 ・囚人のジレンマと支配戦略均衡			【復習】 授業の内容をよく理解した上で、宿題1に取り組む。		120	
第3回	宿題1の解説 完備情報下の静学的ゲーム#2 ・順次消去による支配戦略均衡とナッシュ純粋戦略均衡			【復習】 授業の内容を復習する。宿題1の理解を確認する。		60	
第4回	完備情報下の静学的ゲーム#3 ・ナッシュ混合戦略均衡			【復習】 授業の内容をよく理解した上で、宿題2に取り組む。		120	
第5回	宿題2の解説 完備情報下の静学的ゲーム#4 ・クールノー数量競争とベルトラン価格競争			【復習】 授業の内容を復習する。宿題2の理解を確認する。		60	
第6回	完備情報下における動学的ゲーム#1 ・展開型ゲームとサブゲーム完全均衡			【復習】 授業の内容をよく理解した上で、宿題3に取り組む。		120	
第7回	宿題3の解説 完備情報下における動学的ゲーム#2 ・ナッシュ均衡とサブゲーム完全均衡の関係			【復習】 授業の内容を復習する。宿題3の理解を確認する。		60	
第8回	完備情報下における動学的ゲーム#3 ・繰り返しのゲーム			【復習】 授業の内容をよく理解した上で、宿題4に取り組む。		120	
第9回	宿題4の解説 完備情報下における動学的ゲーム#4 ・交渉ゲーム			【復習】 授業の内容を復習する。宿題4の理解を確認する。		60	
第10回	不完備情報下における静学的ゲーム#1 ・ベイジアン・ナッシュ均衡			【復習】 授業の内容をよく理解した上で、宿題5に取り組む。		120	
第11回	宿題5の解説 不完備情報下における静学的ゲーム#2 ・オークションその1			【復習】 授業の内容を復習する。宿題5の理解を確認する。		60	
第12回	不完備情報下における静学的ゲーム#3 ・オークションその2			【復習】 授業の内容をよく理解した上で、宿題6に取り組む。		120	
第13回	宿題6の解説 不完備情報下における動学的ゲーム#1 ・ベイズの公式と完全ベイジアン均衡			【復習】 授業の内容を復習する。宿題6の理解を確認する。		60	
第14回	全体のまとめ			【復習】 これまでの授業全体の学習内容を復習する。		120	
<p>〔授業の方法〕</p> <p>授業時にはプリントを配布し、それをもとに講義を行う。授業中の短い演習問題と授業外の宿題を定期的に課し、学生の理解度を見ながら授業を進める。学生は、これらの課題に取り組むことにより、授業の復習をする。分からないことを次の授業に持ち越さないようにする。また、上で示された準備学修の時間はあくまで目安であって、各自の理解度に応じて取り組むこと。</p> <p>なお、演習、宿題と期末レポートの狙いは、以下のとおりである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業中の短い演習と授業外の宿題：その時々授業内容の理解を確認する。 ・期末レポート：学期中に学んだゲーム理論の内容全般の理解を深める。 							
〔成績評価の方法〕							

平常点（評価の60%程度）と学期末の課題レポート（評価の40%程度）を目安として、総合的に成績評価する。
平常点は、授業中の演習問題（毎授業時提出）と、授業外で取り組む宿題（隔週提出）から成る。

〔成績評価の基準〕

成蹊大学の成績評価基準（学則第38条、第39条）に準拠する。また、次の点に着目し、その達成度により評価する。

- ①ゲーム理論の基礎的な概念を学び、さまざまなゲームの均衡を導出する理論の基礎を理解している。
- ②ゲーム理論を産業の経済学、金融、競争戦略、経営戦略、企業の国際戦略などの分野に応用して分析するための基礎知識を身に付けている。

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕

必要な先修科目は特になし。関連が深いのは「戦略とマーケティング」群の科目。ただし、履修していなくても差し支えない。

〔テキスト〕

・渡辺隆裕（2008）『ゼミナール ゲーム理論入門』、日本経済新聞社、3500円＋税（ISBN978-4-532-13346-7）。
ただし、講義プリントを配布するので、テキストの購入は不要。

〔参考書〕

- ・梶井厚志、松井彰彦（2000）『ミクロ経済学 戦略的アプローチ』、日本評論社、2300円＋税（ISBN4-535-55202-9）。
- ・神戸伸輔（2004）『入門ゲーム理論と情報の経済学』、日本評論社、2500円＋税（ISBN4-535-55414-5）。
- ・松島斉（2018）『ゲーム理論はアート』、日本評論社、2000円＋税（ISBN978-4-535-55892-2）。
- ・R. ギボンズ（1995）『経済学のためのゲーム理論入門』、創文社、3200円＋税（ISBN4-423-85080）。
- ・A. ディキシット、B. ナイルバフ（2010）『戦略的思考をどう実践するか』、阪急コミュニケーションズ、4000円＋税（ISBN4-484-10108-8）。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕

ポータルサイトで周知する。

〔特記事項〕

科目名	経営情報<1>						
教員名	山崎 由香里						
科目No.	122328000	単位数	2	配当年次	2年生	開講時期	2025 前期
<p>〔テーマ・概要〕</p> <p>テーマ：企業活動（ビジネス）の情報化に関する諸理論およびトピックスの体系的理解</p> <p>企業の経営資源「ヒト・モノ・カネ」に加えて新たな経営資源として着目される「情報」は、企業活動において不可欠である以上に、企業が唯一無二のケイパビリティを活かして競争優位を獲得するための武器となる。社会に溢れるありとあらゆる情報の中から有益な情報を見出し的確な取捨選択を行う能力を身に着けることが、企業活動の勝者となるカギと言える。</p> <p>この授業では、“企業と情報”の関連性に着目して、企業にとって情報が不可欠となった背景から、情報を活用した企業経営の現状、さらには、ビジネスで飛び交うさまざまなキーワード（e.g., ERP、IoT、AI/ML、DX、情報倫理、プラットフォームビジネス、シェアリングエコノミー、フィンテック、MaaS…）の意味や意図、解釈や社会における位置づけなどを理解し、企業活動および社会における情報に係る問題を解決する糸口を見出す。</p>							
<p>〔到達目標〕</p> <p>DP1(専門分野の知識・技能)およびDP3(課題の発見と解決)の実現のために、下記を到達目標とする。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 企業の情報化に関する諸理論を理解する。 2. 企業活動における経営資源としての情報の位置づけや、競争優位源泉となる情報の価値を理解する。 3. 昨今のビジネスで飛び交うさまざまな情報関連キーワードを理解し、関連する諸問題を解決する方法を修得する。 							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修の目安（分）	
第1回	オリエンテーション 授業の概要、成績評価方法等			シラバスを読み、授業内容を理解する。		60分	
第2回	経営情報に関する研究範囲			前回授業の資料を再読する。 今回授業の内容をまとめる。		60分	
第3回	企業組織と経営情報			前回授業の資料を再読する。 今回授業の内容をまとめる。		60分	
第4回	企業組織における経営情報および情報システム利活用の変遷			前回授業の資料を再読する。 今回授業の内容をまとめる。		60分	
第5回	経営情報とコミュニケーションと情報技術			前回授業の資料を再読する。 今回授業の内容をまとめる。		60分	
第6回	経営情報とビジネスプロセス			前回授業の資料を再読する。 今回授業の内容をまとめる。		60分	
第7回	インターネットビジネス(1)			前回授業の資料を再読する。 今回授業の内容をまとめる。		60分	
第8回	インターネットビジネス(2)			前回授業の資料を再読する。 今回授業の内容をまとめる。		60分	
第9回	インターネットビジネス(3)			前回授業の資料を再読する。 今回授業の内容をまとめる。		60分	
第10回	デジタルトランスフォーメーション (DX)			前回授業の資料を再読する。 今回授業の内容をまとめる。		60分	
第11回	システム監査、情報セキュリティ、情報倫理			前回授業の資料を再読する。 今回授業の内容をまとめる。		60分	
第12回	昨今の経営情報関連ビジネス(1)			前回授業の資料を再読する。 今回授業の内容をまとめる。		60分	
第13回	昨今の経営情報関連ビジネス(2)			前回授業の資料を再読する。 今回授業の内容をまとめる。		60分	
第14回	総括			前回授業の資料を再読する。 全ての授業の内容をまとめる。		60分	
<p>〔授業の方法〕</p> <p>講義形式の授業である。毎回、授業内容の資料を配布する。時折、授業内の課題レポートなどを数回実施し、履修者の理解を深める。</p>							
〔成績評価の方法〕							

平常点：授業態度（取り組み，課題提出状況等）20%、
 授業内で提出する課題成果 30%
 学期末試験：50%
 を目安に、総合的に評価する。

〔成績評価の基準〕

成蹊大学の成績評価基準（学則第 38、39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.38, 39. に基づき、下記の目標達成度により成績を評価する。

1. 企業の情報化に関連する諸理論を理解する。
2. 企業活動における経営資源としての情報の位置づけや、競争優位源泉となる情報の価値を理解する。
3. 昨今のビジネスで飛び交うさまざまな情報関連キーワードを理解し、関連する諸問題を解決する方法を修得する。

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕

特になし／企業経営の基礎／情報戦略、情報産業、情報コミュニケーション技術など

〔テキスト〕

特になし

〔参考書〕

必要に応じて、授業内で紹介する。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕

ポータルサイトで周知する。
 授業終了後に教室で受け付ける。

〔特記事項〕

科目名		経営情報<2>					
教員名		吉見 憲二					
科目No.	122328100	単位数	2	配当年次	2年生	開講時期	2025 後期
<p>[テーマ・概要] 経営のさまざまな領域に情報通信技術が活用されるようになり、「経営」と「情報」の結びつきはますます強くなっている。それに伴い、要求される基本知識も変化し、膨大になってきている。本授業では、テキストを通して「経営情報」について体系的に学ぶことにより、経営学における専門的な内容と併せて、情報社会における最先端のキーワードについて理解することを目的とする。さらに、テキストを1冊通読することにより、文献の読み方についても学んでいく。 なお、授業の進捗や受講生からの要望によって、内容を一部変更する場合がある。</p>							
<p>[到達目標] DP1【専門分野の知識・技能】、DP2【教養の修得】、DP3【課題の発見と解決】を実現するため、以下の3点を到達目標とする。 (1)「経営情報」に関連した基本用語を説明できる。 (2)情報社会における最先端のキーワードについて説明できる。 (3)文献から重要事項を自分なりに読み解くことができる。</p>							
[授業の計画と準備学修]							
回数	授業の計画・内容			準備学修(予習・復習等)		準備学修の目安(分)	
第1回	イントロダクション、経営情報論の基礎 ・シラパスの内容を中心に、授業の概要や評価基準について説明する。 ・テキスト第1章の内容について学修する。 ・テキスト第1章のキーワードについて理解する。			【予習】事前にシラパスをよく読み、質問等があれば用意しておく。テキスト第1章の内容について事前に読んでおく。 【復習】講義内容を踏まえた小テストに取り組む。		60	
第2回	経営情報論の基礎 ・テキスト第1章の内容について学修する。 ・テキスト第1章のキーワードについて理解する。			【予習】テキスト第1章の内容について事前に読んでおく。 【復習】講義内容を踏まえた小テストに取り組む。		60	
第3回	経営情報論の基礎理論 ・テキスト第2章の内容について学修する。 ・テキスト第2章のキーワードについて理解する。			【予習】テキスト第2章の内容について事前に読んでおく。 【復習】講義内容を踏まえた小テストに取り組む。		60	
第4回	経営情報論の基礎理論 ・テキスト第2章の内容について学修する。 ・テキスト第2章のキーワードについて理解する。			【予習】テキスト第2章の内容について事前に読んでおく。 【復習】講義内容を踏まえた小テストに取り組む。		60	
第5回	情報通信技術の進展と組織 ・テキスト第4章の内容について学修する。 ・テキスト第4章のキーワードについて理解する。			【予習】テキスト第4章の内容について事前に読んでおく。 【復習】講義内容を踏まえた小テストに取り組む。		60	
第6回	情報通信技術の進展と組織 ・テキスト第4章の内容について学修する。 ・テキスト第4章のキーワードについて理解する。			【予習】テキスト第4章の内容について事前に読んでおく。 【復習】講義内容を踏まえた小テストに取り組む。		60	
第7回	経営情報システムの設計・開発 ・テキスト第5章の内容について学修する。 ・テキスト第5章のキーワードについて理解する。			【予習】テキスト第5章の内容について事前に読んでおく。 【復習】講義内容を踏まえた小テストに取り組む。		60	
第8回	経営情報システムの設計・開発 ・テキスト第5章の内容について学修する。 ・テキスト第5章のキーワードについて理解する。			【予習】テキスト第5章の内容について事前に読んでおく。 【復習】講義内容を踏まえた小テストに取り組む。		60	
第9回	経営情報システムの管理 ・テキスト第6章の内容について学修する。 ・テキスト第6章のキーワードについて理解する。			【予習】テキスト第6章の内容について事前に読んでおく。 【復習】講義内容を踏まえた小テストに取り組む。		60	
第10回	経営情報システムの管理 ・テキスト第6章の内容について学修する。 ・テキスト第6章のキーワードについて理解する。			【予習】テキスト第6章の内容について事前に読んでおく。 【復習】講義内容を踏まえた小テストに取り組む。		60	
第11回	情報通信技術を活用したビジネス・イノベーション ・テキスト第7章の内容について学修する。 ・テキスト第7章のキーワードについて理解する。			【予習】テキスト第7章の内容について事前に読んでおく。 【復習】講義内容を踏まえた小テストに取り組む。		60	
第12回	情報通信技術を活用したビジネス・イノベーション ・テキスト第7章の内容について学修する。 ・テキスト第7章のキーワードについて理解する。			【予習】テキスト第7章の内容について事前に読んでおく。 【復習】講義内容を踏まえた小テストに取り組む。		60	
第13回	ビジネス・インテリジェンスとナレッジ・マネジメント ・テキスト第10章の内容について学修する。 ・テキスト第10章のキーワードについて理解する。			【予習】テキスト第10章の内容について事前に読んでおく。 【復習】講義内容を踏まえた小テストに取り組む。		60	
第14回	ビジネス・インテリジェンスとナレッジ・マネジメント、まとめ ・テキスト第10章の内容について学修する。 ・テキスト第10章のキーワードについて理解する。 ・シラパスの内容を再度確認し、授業の概要や評価基準について説明する。			【予習】テキスト第10章の内容について事前に読んでおく。 【復習】講義内容を踏まえた小テストに取り組む。期末試験に向けて準備する。		60	
<p>[授業の方法] 授業はテキストを用いた講義形式で進める。2回の講義でテキストの1章を消化するペースで進める予定であるが、具体的な授業の運営方法については受講者数等に応じて変更するため、初回の講義で説明する。e-ラーニングを活用した自主学习支援として、各回の授業内容に関連した小テストを【予習】【復習】扱いで実施する。</p>							

経営

25/2/12 20時1分

※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

授業はテキストに沿って進めるため、購入が必要となる。テキストの内容をすべて授業で扱うことは困難であることから、特に重要事項や最新事項に絞って取り上げる。講義形式となるため欠席等の連絡は不要であるが、原則としてフォームから出席状況の確認を行い、既定の出席数に不足する場合には自動的に不合格となる。なお、出席や課題に関する不正には厳正に対処する。

〔成績評価の方法〕

各回の小テスト（14回：40%）と期末試験（60%）による総合評価を基本としつつ、各評価項目での優れた回答や講義中の発言に関して適宜加点する。

〔成績評価の基準〕

成蹊大学の成績評価基準（学則第38条、39条）に準拠する。

次の点に着目し、その達成度により評価する。

- (1) 「経営情報」に関連した基本用語を説明できるか。
- (2) 情報社会における最先端のキーワードについて説明できるか。
- (3) 文献から重要事項を自分なりに読み解くことができるか。

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕

・必要な予備知識は特にない。
・関連科目として、「情報戦略」「情報産業」「情報コミュニケーション技術」「経営学特殊講義B（ICT産業概論）」が挙げられる。特に、情報産業や情報技術に興味がある人は積極的に受講してほしい。各科目の特色等については質問があれば対応する。

〔テキスト〕

『現代経営情報論』、遠山暁・村田潔・古賀広志、有斐閣、2,970円、978-4641221789

授業はテキストに沿って進めるため、購入が必要。

〔参考書〕

『経営情報システム<第4版>』、宮川公男・上田泰(編著)、中央経済社、3,080円、978-4502091704、購入の必要なし

『教養としてのデータサイエンス 改訂第2版』、北川源四郎・竹村彰通(編集)他、講談社、1,980円、978-4065379394、購入の必要なし

その他、参考文献については授業内で適宜提示する。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕

ポータルサイトの『オフィスアワー』で周知する。

授業終了後に教室で受け付ける。

〔特記事項〕

- ・アクティブ・ラーニング
- ・ICT活用

科目名		ビジネス法の基礎<1>					
教員名		澤山 裕文					
科目No.	122329000	単位数	2	配当年次	2年生	開講時期	2025 前期
<p>〔テーマ・概要〕 現代のさまざまなビジネスが基本的には種々の商取引、すなわち契約を通じて行われていることを考えると、ビジネスと法が密接な関係にあることは明らかである。 また、ビジネスの主な担い手は株式会社であり、とりわけ上場会社の経営については、適切にリスク管理をしながら、迅速に大量の取引を行うと共に、株主を始めとする各種のステークホルダーの利害をバランス良く調整し、法令等を遵守することが求められている。これがコーポレート・ガバナンスの問題であり、法律問題の側面を有していることは否めない。 この授業では、初学者がビジネスと法との接点や法的知識・法的視点を持つことの重要性を理解し、今後のビジネス法の学習の足がかりとするために、商取引の基本である契約法と企業経営の基本となる会社法の主要なルールについて、具体的なケースを題材に説明するものである。</p>							
<p>〔到達目標〕 DP1-1、2-1、3-1 および 4-1 を実現するため、次の4点を到達目標とする。 ①契約法および会社法の基本的な知識を身につけ、全体構造を理解することを到達目標とする。 ②契約法および会社法の基本的な知識を基に、実際に生じているビジネスに関する法的問題について検討する。 ③自分の選んだトピックに関して、文献や統計資料を調査、収集し、それらを的確に分析し、課題の解決方法について考察する。 ④③について、自分の考えをまとめ、他者に論理的に説明するための表現力を身につける。</p>							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修の目安（分）	
第1回	ガイダンス 授業の進め方 イントロダクション			特になし。		0分	
第2回	企業取引と法律			予習として、事前に指定する学習箇所に係る教科書の該当ページの熟読。復習として、講義後の理解度の確認。		60分以上120分以内	
第3回	企業取引と契約（1）			予習として、事前に指定する学習箇所に係る教科書の該当ページの熟読。復習として、講義後の理解度の確認。		60分以上120分以内	
第4回	企業取引と契約（2）			予習として、事前に指定する学習箇所に係る教科書の該当ページの熟読。復習として、講義後の理解度の確認。		60分以上120分以内	
第5回	企業取引と契約（3）			予習として、事前に指定する学習箇所に係る教科書の該当ページの熟読。復習として、講義後の理解度の確認。		60分以上120分以内	
第6回	企業取引と契約（4）			予習として、事前に指定する学習箇所に係る教科書の該当ページの熟読。復習として、講義後の理解度の確認。		60分以上120分以内	
第7回	不動産および動産の取引			予習として、事前に指定する学習箇所に係る教科書の該当ページの熟読。復習として、講義後の理解度の確認。		60分以上120分以内	
第8回	商取引法の概要と特色（1）			予習として、事前に指定する学習箇所に係る教科書の該当ページの熟読。復習として、講義後の理解度の確認。		60分以上120分以内	
第9回	商取引法の概要と特色（2）			予習として、事前に指定する学習箇所に係る教科書の該当ページの熟読。復習として、講義後の理解度の確認。		60分以上120分以内	
第10回	会社制度の特徴と会社の種類			予習として、事前に指定する学習箇所に係る教科書の該当ページの熟読。復習として、講義後の理解度の確認。		60分以上120分以内	
第11回	株式会社の経営機構と監視・監督制度			予習として、事前に指定する学習箇所に係る教科書の該当ページの熟読。復習として、講義後の理解度の確認。		60分以上120分以内	
第12回	上場会社とコーポレート・ガバナンス			予習として、事前に指定する学習箇所に係る教科書の該当ページの熟読。復習として、講義後の理解度の確認。		60分以上120分以内	
第13回	役員等の義務と報酬規制			予習として、事前に指定する学習箇所に係る教科書の該当ページの熟読。復習として、講義後の理解度の確認。		60分以上120分以内	
第14回	総括			予習として、事前に指定する学習箇所に係る教科書の該当ページの熟読。復習として、講義後の理解度の確認。		60分以上120分以内	
〔授業の方法〕 基本的に講義形式を主体とするが、時に受講者に対して、ディスカッションや質疑応答を行なう予定である。							
〔成績評価の方法〕							

- ・定期試験：80%
- ・レポート：10%
- ・平常点(授業における発言・態度や課題の提出状況)：10%

〔成績評価の基準〕

DP1-1、2-1、3-1 および 4-1 を実現するため、次の4点を到達目標とする。

- ①契約法および会社法の基本的な知識を身につけ、全体構造を理解することを到達目標とする。
- ②契約法および会社法の基本的な知識を基に、実際に生じているビジネスに関する法的問題について検討する。
- ③自分の選んだトピックに関して、文献や統計資料を調査、収集し、それらを的確に分析し、課題の解決方法について考察する。
- ④③について、自分の考えをまとめ、他者に論理的に説明するための表現力を身につける。

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕

特になし。

〔テキスト〕

中村信男＝和田宗久＝新井剛『ビジネス法入門（第4版）』中央経済社

〔参考書〕

授業内で適宜指示する。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕

ポータルサイトで周知する。
授業終了後に教室で受け付ける。

〔特記事項〕

科目名		ビジネス法の基礎<2>					
教員名		澤山 裕文					
科目No.	122329100	単位数	2	配当年次	2年生	開講時期	2025 後期
<p>〔テーマ・概要〕 現代のさまざまなビジネスが基本的には種々の商取引、すなわち契約を通じて行われていることを考えると、ビジネスと法が密接な関係にあることは明らかである。 また、ビジネスの主な担い手は株式会社であり、とりわけ上場会社の経営については、適切にリスク管理をしながら、迅速に大量の取引を行うと共に、株主を始めとする各種のステークホルダーの利害をバランス良く調整し、法令等を遵守することが求められている。これがコーポレート・ガバナンスの問題であり、法律問題の側面を有していることは否めない。 この授業では、初学者がビジネスと法との接点や法的知識・法的視点を持つことの重要性を理解し、今後のビジネス法の学習の足がかりとするために、商取引の基本である契約法と企業経営の基本となる会社法の主要なルールについて、具体的なケースを題材に説明するものである。</p>							
<p>〔到達目標〕 DP1-1、2-1、3-1 および 4-1 を実現するため、次の4点を到達目標とする。 ①契約法および会社法の基本的な知識を身につけ、全体構造を理解することを到達目標とする。 ②契約法および会社法の基本的な知識を基に、実際に生じているビジネスに関する法的問題について検討する。 ③自分の選んだトピックに関して、文献や統計資料を調査、収集し、それらを的確に分析し、課題の解決方法について考察する。 ④③について、自分の考えをまとめ、他者に論理的に説明するための表現力を身につける。</p>							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修の目安（分）	
第1回	ガイダンス 授業の進め方 イントロダクション			特になし。		0分	
第2回	企業取引と法律			予習として、事前に指定する学習箇所に係る教科書の該当ページの熟読。復習として、講義後の理解度の確認。		60分以上120分以内	
第3回	企業取引と契約（1）			予習として、事前に指定する学習箇所に係る教科書の該当ページの熟読。復習として、講義後の理解度の確認。		60分以上120分以内	
第4回	企業取引と契約（2）			予習として、事前に指定する学習箇所に係る教科書の該当ページの熟読。復習として、講義後の理解度の確認。		60分以上120分以内	
第5回	企業取引と契約（3）			予習として、事前に指定する学習箇所に係る教科書の該当ページの熟読。復習として、講義後の理解度の確認。		60分以上120分以内	
第6回	企業取引と契約（4）			予習として、事前に指定する学習箇所に係る教科書の該当ページの熟読。復習として、講義後の理解度の確認。		60分以上120分以内	
第7回	不動産および動産の取引			予習として、事前に指定する学習箇所に係る教科書の該当ページの熟読。復習として、講義後の理解度の確認。		60分以上120分以内	
第8回	商取引法の概要と特色（1）			予習として、事前に指定する学習箇所に係る教科書の該当ページの熟読。復習として、講義後の理解度の確認。		60分以上120分以内	
第9回	商取引法の概要と特色（2）			予習として、事前に指定する学習箇所に係る教科書の該当ページの熟読。復習として、講義後の理解度の確認。		60分以上120分以内	
第10回	会社制度の特徴と会社の種類			予習として、事前に指定する学習箇所に係る教科書の該当ページの熟読。復習として、講義後の理解度の確認。		60分以上120分以内	
第11回	株式会社の経営機構と監視・監督制度			予習として、事前に指定する学習箇所に係る教科書の該当ページの熟読。復習として、講義後の理解度の確認。		60分以上120分以内	
第12回	上場会社とコーポレート・ガバナンス			予習として、事前に指定する学習箇所に係る教科書の該当ページの熟読。復習として、講義後の理解度の確認。		60分以上120分以内	
第13回	役員等の義務と報酬規制			予習として、事前に指定する学習箇所に係る教科書の該当ページの熟読。復習として、講義後の理解度の確認。		60分以上120分以内	
第14回	総括			予習として、事前に指定する学習箇所に係る教科書の該当ページの熟読。復習として、講義後の理解度の確認。		60分以上120分以内	
〔授業の方法〕 基本的に講義形式を主体とするが、時に受講者に対して、ディスカッションや質疑応答を行なう予定である。							
〔成績評価の方法〕							

<ul style="list-style-type: none"> ・定期試験：80% ・レポート：10% ・平常点(授業における発言・態度や課題の提出状況)：10%
<p>〔成績評価の基準〕</p> <p>DP1-1、2-1、3-1 および 4-1 を実現するため、次の4点を到達目標とする。</p> <p>①契約法および会社法の基本的な知識を身につけ、全体構造を理解することを到達目標とする。</p> <p>②契約法および会社法の基本的な知識を基に、実際に生じているビジネスに関する法的問題について検討する。</p> <p>③自分の選んだトピックに関して、文献や統計資料を調査、収集し、それらを的確に分析し、課題の解決方法について考察する。</p> <p>④③について、自分の考えをまとめ、他者に論理的に説明するための表現力を身につける。</p>
<p>〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕</p> <p>特になし。</p>
<p>〔テキスト〕</p> <p>中村信男＝和田宗久＝新井剛『ビジネス法入門（第4版）』中央経済社</p>
<p>〔参考書〕</p> <p>授業内で適宜指示する。</p>
<p>〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕</p> <p>ポータルサイトで周知する。</p> <p>授業終了後に教室で受け付ける。</p>
<p>〔特記事項〕</p>

科目名	競争戦略						
教員名	浜松 翔平						
科目No.	122512000	単位数	2	配当年次	2年生	開講時期	2025 前期
<p>〔テーマ・概要〕</p> <p>この授業では企業の活動について知り、「戦略とは何か」を理解することを目的とします。戦略には、競争戦略と経営戦略という二つの大きな流れがあります。競争戦略では一つのビジネス(事業)で成功するための方法を考えます。経営戦略では複数のビジネス(事業)を束ね、企業全体として成長していくための方法を考えます。本講義は前者の競争戦略です。授業を通じて、競争戦略の基礎的な理論や実際の企業の事例を説明します。</p>							
<p>〔到達目標〕</p> <p>DP1(専門分野の知識・技能)、DP3(課題の発見と解決)を実現するために、以下の3点を達成目標とする。</p> <p>(1)競争戦略論の基礎的な理論を理解することができる</p> <p>(2)実際の企業の事例を書籍、新聞、インターネット等から情報収集することができる</p> <p>(3)競争戦略論の基礎的な理論を用いて、企業の事例を分析することができる</p>							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修(予習・復習等)		準備学修の目安(分)	
第1回	オリエンテーション			【復習】講義で扱った事例や理論に当てはまる企業の事例を探してみる		60	
第2回	競争戦略論とは ～競争戦略論の全体像～			【復習】講義で扱った理論の内容を復習する		60	
第3回	マーケティング① ～理論:顧客のニーズをとらえる～			【復習】講義で扱った理論の内容を復習する		60	
第4回	マーケティング② ～理論:ニーズの多様性と相互作用を利用する～			【復習】書籍や新聞やインターネット等で理論に当てはまる企業事例を探す		60	
第5回	マーケティング③ ～事例紹介～			【復習】企業の分析を実施する		90	
第6回	競争① ～理論:競争優位を作る～			【復習】講義で扱った理論の内容を復習する		60	
第7回	競争② ～理論:反撃を見越す、敵にしない～			【復習】書籍や新聞やインターネット等で理論に当てはまる企業事例を探す		60	
第8回	競争③ ～事例紹介～			【復習】企業分析を実施する		90	
第9回	事業システム① ～理論:事業システムでの差別化～			【復習】講義で扱った理論の内容を復習する		60	
第10回	事業システム② ～理論:効率性と波及効果～			【復習】書籍や新聞やインターネット等で理論に当てはまる企業事例を探す		60	
第11回	事業システム③ ～事例紹介～			【復習】企業の分析を実施する		90	
第12回	技術① ～理論:技術蓄積の活用～			【復習】講義で扱った理論の内容を復習する		60	
第13回	技術② ～理論:戦略と技術の関係～			【復習】書籍や新聞やインターネット等で理論に当てはまる企業事例を探す		60	
第14回	講義のまとめ			これまでの講義で学んだ内容を振り返る		60	
<p>〔授業の方法〕</p> <p>授業は基本的には講義形式で行いますが、質疑応答やコメントシートの記載を通じて双方向の授業形式を取り入れます。講義の内容としては、2つに分かれます。まず、戦略の理論に関する講義です。これが本講義の中心的な内容となります。そして、紹介した理論を用いて、実際の企業事例の分析を解説します。これらのプロセスを経験することで、競争戦略の基礎的理解を深め、その面白さを体験できる構成を取っています。講義の中で、受講者同士でのグループワークを実施することがあります。授業の進捗によって内容は一部変更する可能性があります。</p>							
<p>〔成績評価の方法〕</p> <p>中間評価(レポート)40%、最終評価(テスト)40%、平常点(コメントシートへの記載など)20%として、その他、授業への積極的な参加をプラスに評価します。</p>							

<p>〔成績評価の基準〕</p> <p>成蹊大学の成績評価基準（学則第38条、39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39. 到達目標の達成度に基づいて評価する。</p> <p>(1)競争戦略論の基礎的な理論を理解することができる (2)実際の企業の事例を書籍、新聞、インターネット等から情報収集することができる (3)競争戦略論の基礎的な理論を用いて、企業の事例を分析することができる</p>
<p>〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕</p> <p>予習は特に必要ありません。その他に必要な作業は授業で指示します。</p>
<p>〔テキスト〕</p> <p>テキストは必要ありません。講義におけるプレゼン資料がテキストになります。</p>
<p>〔参考書〕</p> <p>伊丹敬之(2003)『経営戦略の論理（第3版）』日本経済新聞出版社。 伊丹敬之(2012)『経営戦略の論理（第4版）ダイナミック適合と不均衡ダイナミズム』日本経済新聞出版社。 伊丹敬之・加護野忠男(2003)『ゼミナール経営学入門 第3版』日本経済新聞社。 購入の必要なし</p>
<p>〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕</p> <p>ポータルサイトで周知する。</p>
<p>〔特記事項〕</p>

科目名		情報戦略					
教員名		吉見 憲二					
科目No.	122513000	単位数	2	配当年次	2年生	開講時期	2025 前期
<p>〔テーマ・概要〕</p> <p>近年、GAF A (Google, Apple, Facebook, Amazon) や FANG (Facebook, Amazon, Netflix, Google) といった IT 企業が提供する商品・サービスが世界的に大きなシェアを獲得している。これらの企業は巨大なプラットフォームを持っている点が共通しており、そのサービスはプラットフォームの効果を最大限に発揮したもとなっている。本授業では、こうした企業のビジネスモデルをプラットフォーム戦略の観点から検討する。</p> <p>授業の前半では、テキストとなる文献の内容を中心にさまざまなプラットフォームの効果について概観する。後半では、Google, Apple, Meta(Facebook), Amazon のビジネスモデルについて取り上げ、どのようなプラットフォーム戦略を採用しているのかを考察する。一連の学習を通して、IT 企業の情報戦略をプラットフォームの観点から理解することが本授業の目的である。</p> <p>なお、授業の進捗や受講生からの要望によって、内容を一部変更する場合がある。</p>							
<p>〔到達目標〕</p> <p>DP1【専門分野の知識・技能】、DP2【教養の修得】、DP3【課題の発見と解決】を実現するため、以下の3点を到達目標とする。</p> <p>(1)プラットフォームビジネスに関連した基本用語を説明できる。</p> <p>(2)プラットフォームのさまざまな効果について、その優位点や課題を含めて説明できる。</p> <p>(3)IT企業のビジネスモデルについて、プラットフォーム戦略の観点から説明できる。</p>							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修 (予習・復習等)		準備学修の目安 (分)	
第1回	イントロダクション ・シラバスの内容を中心に、授業の概要や評価基準について説明する。 ・プラットフォームの定義について理解する。			【予習】事前にシラバスをよく読み、質問等があれば用意しておく。 【復習】講義内容を踏まえた課題に取り組む。		60	
第2回	プラットフォームの基本 (1) ・レイヤー構造化について理解する。 ・ネットワーク効果について理解する。			【予習】「レイヤー構造化」と「ネットワーク効果」という用語について調べておく。 【復習】講義内容を踏まえた課題に取り組む。		60	
第3回	プラットフォームの基本 (2) ・クロスプラットフォームについて理解する。 ・デバイス転換について理解する。			【予習】「クロスプラットフォーム」と「デバイス転換」という用語について調べておく。 【復習】講義内容を踏まえた課題に取り組む。		60	
第4回	プラットフォームの広がり ・WTA (Winner Takes All) について理解する。 ・プロフィットプールの攻防について理解する。			【予習】「WTA (Winner Takes All)」と「プロフィットプール」という用語について調べておく。 【復習】講義内容を踏まえた課題に取り組む。		60	
第5回	プラットフォームの戦略 (1) ・エコシステムのマネジメントについて理解する。 ・スイッチングコストについて理解する。			【予習】「エコシステム」と「スイッチングコスト」という用語について調べておく。 【復習】講義内容を踏まえた課題に取り組む。		60	
第6回	プラットフォームの戦略 (2) ・マルチホーミングについて理解する。 ・包囲戦略について理解する。			【予習】「マルチホーミング」と「包囲戦略」という用語について調べておく。 【復習】講義内容を踏まえた課題に取り組む。		60	
第7回	中間まとめ ・これまでの授業内容について振り返る。 ・レポート課題に関する説明を行う。			【予習】これまでの授業内容で理解が不十分な点を確認しておく。 【復習】講義内容を踏まえた課題に取り組む。		60	
第8回	Google ・Googleのビジネスモデルについて理解する。 ・Googleのプラットフォーム戦略について議論する。			【予習】Googleが提供する商品・サービスとプラットフォーム戦略の関係について考えておく。 【復習】講義内容を踏まえた課題に取り組む。		60	
第9回	Amazon ・Amazonのビジネスモデルについて理解する。 ・Amazonのプラットフォーム戦略について考える。			【予習】Amazonが提供する商品・サービスとプラットフォーム戦略の関係について考えておく。 【復習】講義内容を踏まえた課題に取り組む。		60	
第10回	Apple ・Appleのビジネスモデルについて理解する。 ・Appleのプラットフォーム戦略について考える。			【予習】Appleが提供する商品・サービスとプラットフォーム戦略の関係について考えておく。 【復習】講義内容を踏まえた課題に取り組む。		60	
第11回	Meta(Facebook) ・Meta(Facebook)のビジネスモデルについて理解する。 ・Meta(Facebook)のプラットフォーム戦略について考える。			【予習】Meta(Facebook)が提供する商品・サービスとプラットフォーム戦略の関係について考えておく。 【復習】講義内容を踏まえた課題に取り組む。		60	
第12回	その他のIT企業 ・その他のIT企業のビジネスモデルについて理解する。 ・その他のIT企業のプラットフォーム戦略について考える。			【予習】講義で取り上げた企業以外にプラットフォーム戦略を活用している企業について考えておく。 【復習】講義内容を踏まえた課題に取り組む。		60	
第13回	レポート課題のフィードバック ・実施したレポート課題について評価ポイントを理解する。 ・レポート執筆の基本事項について再度確認し、理解する。			【予習】自身の提出したレポートの内容について再確認しておく。 【復習】講義内容を踏まえた課題に取り組む。		60	
第14回	まとめ ・全体の内容を振り返り、それぞれのIT企業がどのようなプラットフォーム戦略を採用しているかについて議論する。 ・シラバスの内容を再度確認し、授業の概要や評価基準について説明する。			【予習】全体の内容を振り返り、それぞれのIT企業がどのようなプラットフォーム戦略を採用しているかを考える。 【復習】講義内容を踏まえた課題に取り組む。期末試験に向けて準備する。		60	
<p>〔授業の方法〕</p> <p>授業は講義形式で進める。授業の構成として、①ディスカッション準備 (10分)、②前回内容の振り返り (10分)、③ディスカッション (10分×2回)、④講義 (50分)、⑤質疑応答 (10分)、⑥課題 (授業後) を基本とする。詳細は次の通りである。</p> <p>①冒頭に【予習】と関連したディスカッションテーマを提示し、10分間各自で考える時間を与える。</p>							

<p>②課題の内容に関して次回授業の前半で振り返りを行い、優れた回答は全体に共有する。</p> <p>③授業時間中に、冒頭に提示したテーマに関して受講者にマイクを回し、ディスカッションを行う。受講人数に応じて実施形態については検討する。</p> <p>④講義は配布した資料を中心に展開する。なお、講義中にも受講者にマイクを回し、意見や回答を求めることがある。</p> <p>⑤ICTを活用した双方向型の授業として、スマートフォンでQRコードを読み取り、授業時間内に質問をできるようにする。質問については原則授業内で回答する。</p> <p>⑥eラーニングを活用した自主学習支援として、各回の授業内容に関連した課題を【予習】【復習】扱いで実施する。</p> <p>レポート課題の内容、評価基準については、授業内で説明する。また、受講者の希望等を踏まえて、授業期間内に2回ほど少人数でのグループワークを実施する可能性がある。</p> <p>講義形式となるため欠席等の連絡は不要であるが、原則としてフォームから出席状況の確認を行い、既定の出席数に不足する場合には自動的に不合格となる(ただし、受講状況に応じて出席確認の方法を変更する可能性がある)。なお、出席や課題に関する不正には厳正に対処する。</p>
<p>〔成績評価の方法〕</p> <p>各回の課題(14回:40%)、レポート課題(20%)、期末試験(40%)による総合評価を基本としつつ、各評価項目での優れた回答や講義中の発言に関して適宜加点する。</p>
<p>〔成績評価の基準〕</p> <p>成蹊大学の成績評価基準(学則第38条、39条)に準拠する。</p> <p>次の点に着目し、その達成度により評価する。</p> <p>(1)プラットフォームビジネスに関連した基本用語を説明できるか。</p> <p>(2)プラットフォームのさまざまな効果について、その優位点や課題を含めて説明できるか。</p> <p>(3)IT企業のビジネスモデルについて、プラットフォーム戦略の観点から説明できるか。</p>
<p>〔必要な予備知識/先修科目/関連科目〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・必要な予備知識は特になし。 ・関連科目として、「情報産業」「情報コミュニケーション技術」「経営情報<1><2>」「経営学特殊講義B(ICT産業概論)」が挙げられる。特に、情報産業や情報技術に興味がある人は積極的に受講してほしい。各科目の特色等については質問があれば対応する。
<p>〔テキスト〕</p> <p>資料は毎回の授業で配布する。</p>
<p>〔参考書〕</p> <p>『プラットフォームの教科書 超速成長ネットワーク効果の基本と応用』、根来龍之、日経BP、1,870円、978-4822255091、購入の必要なし</p> <p>『プラットフォームビジネス最前線 26の分野を図解とデータで徹底解剖』、富士通総研(編著)・早稲田大学ビジネススクール根来研究室(編著)・根来龍之(監修)、翔泳社、1,980円、978-4798133973、購入の必要なし</p> <p>『プラットフォームビジネスーデジタル時代を支配する力と陥穽』、マイケル A.クスマノ(著)・アナベル ガワー(著)・デヴィッド・B.ヨッフィー(著)・青島矢一(監修、翻訳)、有斐閣、2,750円、978-4641165687、購入の必要なし</p> <p>その他、参考文献については授業内で適宜提示する。</p>
<p>〔質問・相談方法等(オフィス・アワー)〕</p> <p>ポータルサイトの『オフィスアワー』で周知する。</p> <p>授業終了後に教室で受け付ける。</p>
<p>〔特記事項〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アクティブ・ラーニング ・ICT活用

科目名	ベンチャー・ビジネス						
教員名	浜松 翔平						
科目No.	122514000	単位数	2	配当年次	2年生	開講時期	2025 前期
<p>〔テーマ・概要〕 現在、日本は様々なベンチャー企業（最近ではスタートアップ企業という）が生まれています。この講義では、ベンチャービジネス（＝スタートアップビジネス）の基礎的な理論や実際の企業の事例を解説します。 本講義を受講することで、新しい企業を生み出すスタートアップのダイナミズムを知り、スタートアップについて考えたり、興味を持つきっかけとなるでしょう。講義では、現実の課題に対してスタートアップの理論がどのように適用できるかを理解できるように、現実の事例をもとに講義を進めます。</p>							
<p>〔到達目標〕 DP1（専門分野の知識・技能）、DP3（課題の発見と解決）を実現するために、以下の3点を達成目標とする。 (1)ベンチャービジネスの基礎的な理論を理解することができる (2)実際の企業の事例を書籍、新聞、インターネット等から情報収集することができる (3)ベンチャービジネスの基礎的な理論を用いて、企業の事例を分析することができる</p>							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修の目安（分）	
第1回	イントロダクション			復習：授業内で取り扱ったキーワードや興味を持ったトピックについて調べる。		60	
第2回	事業機会の発見			復習：授業内で取り扱ったキーワードや興味を持ったトピックについて調べる。		60	
第3回	事業機会の評価			復習：授業内で取り扱ったキーワードや興味を持ったトピックについて調べる。		60	
第4回	事業アイデア			復習：授業内で取り扱ったキーワードや興味を持ったトピックについて調べる。		60	
第5回	ビジネスモデル			復習：授業内で取り扱ったキーワードや興味を持ったトピックについて調べる。		60	
第6回	販売チャネル			復習：授業内で取り扱ったキーワードや興味を持ったトピックについて調べる。		60	
第7回	差別化			復習：授業内で取り扱ったキーワードや興味を持ったトピックについて調べる。		60	
第8回	事業計画			復習：授業内で取り扱ったキーワードや興味を持ったトピックについて調べる。		60	
第9回	チームビルディング			復習：授業内で取り扱ったキーワードや興味を持ったトピックについて調べる。		60	
第10回	資金調達			復習：授業内で取り扱ったキーワードや興味を持ったトピックについて調べる。		60	
第11回	キャッシュフロー			復習：授業内で取り扱ったキーワードや興味を持ったトピックについて調べる。		60	
第12回	企業成長			復習：授業内で取り扱ったキーワードや興味を持ったトピックについて調べる。		60	
第13回	サイドプロジェクト			復習：授業内で取り扱ったキーワードや興味を持ったトピックについて調べる。		60	
第14回	まとめ			復習：授業内で取り扱ったキーワードや興味を持ったトピックについて調べる。		60	
<p>〔授業の方法〕 授業は基本的には講義形式で行いますが、質疑応答やコメントシートに記載を通じて双方向の授業形式を取り入れます。講義の内容としては、2つに分かれます。まず、理論に関する講義です。これが本講義の中心的な内容となります。そして、紹介した理論を用いて、実際の企業事例の分析を解説します。これらのプロセスを経験することで、スタートアップの基礎的理解を深め、その面白さを体験できる構成を取っています。 講義の中で、受講者同士でのグループワークを実施することがあります。授業の進捗によって内容は一部変更する可能性があります。</p>							
<p>〔成績評価の方法〕 中間評価（レポート）40%、最終評価（テスト）40%、平常点（コメントシートへの記載など）20%として、その他、授業への積極的な参加をプラスに評価します。</p>							

<p>[成績評価の基準]</p> <p>成蹊大学の成績評価基準(学則第38条、39条)に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39. 到達目標の達成度に基づいて評価する。</p> <p>(1)ベンチャービジネスの基礎的な理論を理解することができる (2)実際の企業の事例を書籍、新聞、インターネット等から情報収集することができる (3)ベンチャービジネスの基礎的な理論を用いて、企業の事例を分析することができる</p>
<p>[必要な予備知識/先修科目/関連科目]</p> <p>特になし</p>
<p>[テキスト]</p> <p>特になし</p>
<p>[参考書]</p> <p>忽那憲治ほか(2013)『アントレプレナーシップ入門-ベンチャーの創造を学ぶ』有斐閣ストゥディア. 購入の必要なし</p>
<p>[質問・相談方法等(オフィス・アワー)]</p> <p>ポータルサイトで周知する。 授業終了後に教室で受け付けます。</p>
<p>[特記事項]</p>

科目名	ブランド戦略						
教員名	米満 良平						
科目No.	122515000	単位数	2	配当年次	2年生	開講時期	2025 後期
<p>〔テーマ・概要〕</p> <p>「ブランド」という言葉を聞いて、みなさんはどんなモノやコトをイメージするでしょうか？高級なラグジュアリー・ブランドをイメージする人も多いかもしれませんが、もちろんそれもひとつの答えですが、「ブランド」が指しているのはそれだけではありません。市場を見てみると製品やサービスに溢れています。さらに、企業発信の情報だけでなく、SNS など消費者が発信する情報も増えたことで、みなさんのもとに届く情報もとても多くなっています。そのような環境の中で、企業は「ブランド」に注目し、様々な戦略を検討しています。企業は「ブランドを構築しよう！」「ブランディングしよう！」と考えたときに、どうしたら良いのでしょうか？</p> <p>本講義では、ブランドの様々な側面に焦点を当てるとともに、企業の具体的な取り組み事例を交えながら、ブランドの考え方、関連する理論や概念について学んでいきます。</p>							
<p>〔到達目標〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ブランド戦略立案に必要な、関連する理論や概念、フレームワークを理解すること ・ブランド戦略立案に向け、企業の取り組みについて思考し、是非を分析・判断できるようになること ・自らブランド戦略を立案し、提案できるようになること 							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修の目安（分）	
第1回	教科書第1章：なぜブランドが必要とされるか？ ・授業オリエンテーション ・ブランドとは何か			【予習】シラバスで講義のテーマと内容を把握しておく。 【復習】講義内容や教科書を振り返り、コメントを提出する。また、学んだ理論や概念について説明できるようにする。		60	
第2回	教科書第2章：マーケティング発想からブランド発想へ ・マーケティングとブランディング			【予習】教科書の該当する章を読み、コメントを提出する。学習済みの関連概念や不明点などを整理しておく。 【復習】講義内容や教科書を振り返り、コメントを提出する。また、学んだ理論や概念について説明できるようにする。		90	
第3回	教科書第3章：プロダクトがブランドに変わる ・カルビー「かっぱえびせん」			【予習】教科書の該当する章を読み、コメントを提出する。学習済みの関連概念や不明点などを整理しておく。 【復習】講義内容や教科書を振り返り、コメントを提出する。また、学んだ理論や概念について説明できるようにする。		90	
第4回	教科書第4章：ブランドづくりに不可欠な目標の明確さとマネジメントの確実さ ・エスエス製菓「ハイチオールC」			【予習】教科書の該当する章を読み、コメントを提出する。学習済みの関連概念や不明点などを整理しておく。 【復習】講義内容や教科書を振り返り、コメントを提出する。また、学んだ理論や概念について説明できるようにする。		90	
第5回	教科書第5章：用途開発によるブランド育成 ・大塚製菓「ポカリスエット」			【予習】教科書の該当する章を読み、コメントを提出する。学習済みの関連概念や不明点などを整理しておく。 【復習】講義内容や教科書を振り返り、コメントを提出する。また、学んだ理論や概念について説明できるようにする。		90	
第6回	教科書第6章：ブランドを成長させるマネジメント ・アサヒ飲料「三ツ矢サイダー」			【予習】教科書の該当する章を読み、コメントを提出する。学習済みの関連概念や不明点などを整理しておく。 【復習】講義内容や教科書を振り返り、コメントを提出する。また、学んだ理論や概念について説明できるようにする。		90	
第7回	教科書第7章：ポジショニング先行型のブランド ・伊藤園「お〜いお茶」			【予習】教科書の該当する章を読み、コメントを提出する。学習済みの関連概念や不明点などを整理しておく。 【復習】講義内容や教科書を振り返り、コメントを提出する。また、学んだ理論や概念について説明できるようにする。		90	
第8回	教科書第8章：市場のカテゴリを創造するブランド ・サントリー食品インターナショナル「GREEN DA・KA・RA」			【予習】教科書の該当する章を読み、コメントを提出する。学習済みの関連概念や不明点などを整理しておく。 【復習】講義内容や教科書を振り返り、コメントを提出する。また、学んだ理論や概念について説明できるようにする。		90	
第9回	教科書第9章：ブランド拡張を通じてのブランド進化 ・P&G「ファブリーズ」			【予習】教科書の該当する章を読み、コメントを提出する。学習済みの関連概念や不明点などを整理しておく。 【復習】講義内容や教科書を振り返り、コメントを提出する。また、学んだ理論や概念について説明できるようにする。		90	
第10回	教科書第10章：サービスブランドの育成 ・アートコーポレーション「アート引越センター」			【予習】教科書の該当する章を読み、コメントを提出する。学習済みの関連概念や不明点などを整理しておく。 【復習】講義内容や教科書を振り返り、コメントを提出する。また、学んだ理論や概念について説明できるようにする。		90	
第11回	教科書第11章：ブランド・ビジョンが事業を育てる ・阪急			【予習】教科書の該当する章を読み、コメントを提出する。学習済みの関連概念や不明点などを整理しておく。 【復習】講義内容や教科書を振り返り、コメントを提出する。		90	

		る。また、学んだ理論や概念について説明できるようにする。	
第12回	教科書第12章：技術、市場分野の拡大によるブランド進化 ・良品計画「無印良品」	【予習】教科書の該当する章を読み、コメントを提出する。学習済みの関連概念や不明点などを整理しておく。 【復習】講義内容や教科書を振り返り、コメントを提出する。また、学んだ理論や概念について説明できるようにする。	90
第13回	教科書第13章：シグネチャー・ストーリーの共創 ・ナイキ	【予習】教科書の該当する章を読み、コメントを提出する。学習済みの関連概念や不明点などを整理しておく。 【復習】講義内容や教科書を振り返り、コメントを提出する。また、学んだ理論や概念について説明できるようにする。	90
第14回	教科書第14章：ビジョンとブランド・レゾナンス ・マザーハウス	【予習】教科書の該当する章を読み、コメントを提出する。学習済みの関連概念や不明点などを整理しておく。 【復習】講義内容や教科書を振り返り、コメントを提出する。また、学んだ理論や概念について説明できるようにする。	90
<p>〔授業の方法〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基本的に教科書に沿った講義形式で進めます。適宜、映像等を用いるとともに、必要に応じて受講生に発言、ディスカッション、発表などを求めることがあります。 ・ブランド戦略に関わる実務家ゲストを招き、話を聞く回を複数回設ける予定です。そのため、授業計画はゲストとの日程調整など必要に応じて変更される場合があります。 ・授業内において複数回の小レポートを実施します。自身が学んだことをもとに、実際の企業のブランド戦略を観察、批評したり、適切な提案ができていないかを評価します。 ・なお本授業は、マーケティング・ブランディング分野の実務経験を有する広告会社社員によって行われます。 			
<p>〔成績評価の方法〕</p> <p>以下の項目を総合的に判断し評価します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ①小レポート提出（50%）：指定するテーマでの複数回の小レポートの提出 ②事前学修（25%）：指定教科書を読んだ上でのコメント提出 ③平常点（25%）：出席および授業後のコメント提出 			
<p>〔成績評価の基準〕</p> <p>大学の成績評価基準（学則第38条、39条）に準拠し、以下の点について評価を行います。</p> <ul style="list-style-type: none"> ①ブランドに関連する基本的な理論や概念を理解し、説明できるか ②重要な概念を使い、自ら思考し、企業のブランド戦略を適切な観点で分析・評価できるか ③重要な概念を使い、自ら思考し、企業のブランド戦略を立案することができるか 			
<p>〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕</p>			
<p>〔テキスト〕</p> <p>『1からのブランド経営』石井淳蔵・廣田章光（編著）、碩学社、2,640円、978-4502384714 ※書籍、電子版どちらでもOKです。授業初回時にも案内をします</p>			
<p>〔参考書〕</p> <p>『ブランド 価値の創造』、石井淳蔵、岩波新書、836円、978-4004306344 『デジタル時代のブランド戦略』、田中洋、有斐閣、2,860円、978-4641166226 『ブランド戦略の実際』、小川 孔輔、日経文庫、913円、978-4532104870 『戦略的ブランド・マネジメント』、ケビン・レーン・ケラー著、恩蔵直人監訳、東急エージェンシー、4,400円、978-4884971229 『ブランド論-無形の差別化をつくる20の基本原則』、デービッド・アーカー著、阿久津聡訳、ダイヤモンド社、2,640円、978-4478027592 (参考書は購入の必要はありません。)</p>			
<p>〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕</p> <p>授業初回時もしくはポータルサイトで案内をします。また、授業終了後に教室でも受け付けます。</p>			
<p>〔特記事項〕</p>			

科目名		消費者行動					
教員名		須田 孝徳					
科目No.	122516000	単位数	2	配当年次	2年生	開講時期	2025 後期
<p>〔テーマ・概要〕</p> <p>マーケティング活動の本質は、消費者のニーズを的確に把握し、それらを充足させる製品やサービスを提供することにあります。そのためには、私たち消費者が何を、いつ、どのように、なぜ買い物をするのかを理解する必要があります。</p> <p>そこで本講義では、経営学やマーケティングにおける消費者行動論の位置づけを確認し、消費者の購買に関する行動や心理を学習していきます。また消費者行動や心理に影響する様々な要因を学ぶことで、単純なようで、複雑な買い物行動の背景にあるメカニズムを紐解いていきます。</p>							
<p>〔到達目標〕</p> <p>DP1（専門分野の知識・技能）を実現するため、以下を到達目標とする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・消費者行動論に関する基本的な知識を習得し、理解をすること ・講義内で紹介する理論やフレームワークを理解し、消費者行動・心理の視点から自身の購買行動や、企業のマーケティング活動について考察できるようになること 							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修の目安（分）	
第1回	授業ガイダンス：私たちはなぜ買い物をするのか ・授業の進め方や成績評価方法 ・消費者行動の基本概念 ・マーケティングと消費者行動との接点			【予習】 シラバスで講義のテーマと全体的な内容を把握しておく。		60	
第2回	消費者意思決定プロセス ・消費者の購買意思決定プロセス ・問題認識(動機づけ、ニーズ) ・内部・外部情報探索			【復習】 講義で学んだキーワードについて説明できるようにする。		60	
第3回	消費者の知覚 ・消費者情報処理 ・知覚プロセス(接触・注意・解釈) ・知覚バイアス			【復習】 講義で学んだキーワードについて説明できるようにする。		60	
第4回	消費者の記憶と知識 ・記憶の二重貯蔵モデル ・学習 ・ブランド・カテゴリーゼーション			【復習】 講義で学んだキーワードについて説明できるようにする。		60	
第5回	消費者情報処理の種類と特性 ・態度 ・多属性態度モデル ・意思決定方略の種類			【復習】 講義で学んだキーワードについて説明できるようにする。		60	
第6回	消費者の関与 ・関与のタイプ、行動類型 ・顧客エンゲージメント ・ブランド・ロイヤルティ			【復習】 講義で学んだキーワードについて説明できるようにする。		60	
第7回	消費者意思決定の状況依存性と変容性 ・選好の逆転 ・解釈レベル理論 ・制御焦点理論			【復習】 講義で学んだキーワードについて説明できるようにする。		60	
第8回	消費者の感情 ・感情の2次元モデル ・感情一致効果とPNA ・感情とコミュニケーション			【復習】 講義で学んだキーワードについて説明できるようにする。		60	
第9回	消費者の感覚 ・センサリー・マーケティング ・多感覚相互作用(クロスモーダル対応)			【復習】 講義で学んだキーワードについて説明できるようにする。		60	
第10回	店舗内での意思決定 ・インスタ・マーケティング ・視覚的・身体的探索 ・選択肢過負荷とゾーニング			【復習】 講義で学んだキーワードについて説明できるようにする。		60	
第11回	消費における自己と他者(1) ・準拠集団 ・社会的アイデンティティ ・セルフ・ブランド・コネクション			【復習】 講義で学んだキーワードについて説明できるようにする。		60	
第12回	消費における自己と他者(2) ・社会的他者 ・家族・友人 ・文化・サブカルチャー			【復習】 講義で学んだキーワードについて説明できるようにする。		60	
第13回	購買後評価 ・口コミ ・イノベーションの普及モデル ・オピニオンリーダーとインフルエンサー			【復習】 講義で学んだキーワードについて説明できるようにする。		60	
第14回	到達度確認テスト ・これまでの学習内容について、理解度を確認するためのテスト			【予習】 これまで講義で学んだ内容を振り返り、不明点等を洗い出ししておく。		120	
〔授業の方法〕							

- ・レジュメを配布し、パワーポイントを用いた講義形式で行います。また、理解促進と企業事例を紹介するために適宜ビデオ教材などを用いる場合があります。
- ・受講生の理解度を確保するため、不定期でレポートを実施します。レポートは受講生が授業で得た知識を実際の消費者行動の分析や考察に適切に適用できているかを評価します。

〔成績評価の方法〕

成績は以下の方法を用いて総合的に評価します。

- 1) 授業内レポート (40%)
授業内で不定期に複数回実施するレポート課題
- 2) 期末テスト (60%)
本講義の学習内容について問うテスト

〔成績評価の基準〕

成蹊大学の成績評価基準(学則第 38 条、39 条)に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.38, 39.

次の点に着目し、その到達度により評価する。

- ・消費者の購買意思決定プロセス全体が明確に説明できる
- ・消費者の購買意思決定にかかわる心理プロセスについて主要な概念を説明できる
- ・企業のマーケティングや消費者の行動(反応)について、理論に基づき考察、提案できる

〔必要な予備知識/先修科目/関連科目〕

- ・「マーケティング」「競争戦略」「ブランド戦略」など経営関連科目全般。
- ・この科目は経営学部の2年生以上の配当科目であり、他学部の履修者は『企業と社会』を修得済または履修中であることが望ましい。

〔テキスト〕

テキストの指定はありません。講義内で適宜書籍を紹介しますが、購入の必要はありません。

〔参考書〕

内容理解を深めるために下記を参考書としますが、購入の必要はありません。

- ・青木(2010)『消費者行動の知識』日本経済新聞出版社。(ISBN-13: 978-4532112226)
- ・青木・新倉・佐々木・松下(2012)『消費者行動論--マーケティングとブランド構築への応用』有斐閣。(ISBN-13: 978-4641124639)
- ・ソロモン(著)・松井(監)(2015)『ソロモン 消費者行動論』丸善出版。(ISBN-13: 978-4621088777)
- ・山田・池内(2018)『消費者心理学』勁草書房。(ISBN-13: 978-4326251285)

〔質問・相談方法等(オフィス・アワー)〕

ポータルサイトおよび初回ガイダンスで周知します。
また、授業終了後に教室で受け付けます。

〔特記事項〕

科目名		生産管理					
教員名		福澤 光啓					
科目No.	122517000	単位数	2	配当年次	2年生	開講時期	2025 前期
<p>〔テーマ・概要〕</p> <p>企業は、製品・サービスを顧客へ提供することで収益をあげているが、ライバルよりも高い収益・利益を獲得するためには、自社の製品・サービスを顧客に選択してもらうために、価格や機能、性能、デザイン、広告などにおいて優れている必要がある。これら顧客が直接評価できる項目について他社より優れた状況を実現するためには、品質やコスト、納期といった顧客からは直接見えないけれども企業の現場の実力を現す項目において優れていることが必要であり、それを可能にする組織の能力を鍛えることが不可欠である。このような現場の実力や組織の能力が、企業の競争力の根本的な支えとなる。製品・サービスを創造し顧客に提供して価値を獲得するための一連の活動は「ものづくり」と呼ばれ、これをいかに有効かつ効率的に行うことができるかが、企業の長期的な成長や存続に大きな影響を与える。</p> <p>本講義では、生産活動に軸足を置きつつ、ものづくりに関わる諸活動をうまくマネジメントするために必要となるさまざまな概念や方策を体系的に取り上げて解説する。ただし、本講義は「お客さんの笑顔づくり」がものづくり活動の根本であるという視点に立っているので、そこで学修することは、いわゆる物理的なモノの生産活動のマネジメントだけでなく、サービス領域にも適用可能なものである。</p> <p>本講義の目標は、受講生が、生産管理に関する基本的な考え方を学ぶとともに、当該活動をマネジメントするうえで実際に生じうる問題を自分なりの視点から分析して解決策を示せるようになることである。そのために、講義では理論と実際のケースをあわせて解説しつつ授業内での質疑応答を積極的に行い、さらにWeb上で実施する課題レポートの作成も行うことにより、自分の頭で論理的に考え説明するトレーニングをする。</p>							
<p>〔到達目標〕</p> <p>DP1（専門分野の知識・技能）、DP3（課題の発見と解決）を実現するため、次の2点を到達目標とする。</p> <p>①ものづくり経営・生産管理に関する基本的な考え方を学修する。</p> <p>②上記を活かして、ものづくり・生産活動をマネジメントするうえで実際に生じうる問題を自分なりの視点から分析して、有効かつ効率的なものづくりを行うための解決策を示せるようになる。</p>							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修の目安（分）	
第1回	イントロダクション：日本におけるものづくりの現状と課題 ・授業の全体像、進め方、予習復習の仕方等を説明する。 ・企業の生産活動について事例から考察する。			【予習】事前配布資料を熟読し、質問を考える。 【復習】授業で言及された概念や理論、用語、事例について確認する。		90	
第2回	付加価値の流れとしての「ものづくり」活動 ・付加価値創造・転写プロセスとしてのものづくり活動を把握する方法を学修する。			【予習】事前配布資料を熟読し、質問を考える。 【復習】授業で言及された概念や理論、用語、事例について確認する。		90	
第3回	製品と工程の歴史分析 ・製品・工程ライフサイクル、大量生産方式の発展の歴史、日本型生産システムについて学修する。			【予習】事前配布資料を熟読し、質問を考える。 【復習】授業で言及された概念や理論、用語、事例について確認する。		90	
第4回	競争力とその構成要素 ・企業の競争力を現場の視点から把握する方法について学修する。 ・競争力の構成要素、能力構築競争について学修する。			【予習】事前配布資料を熟読し、質問を考える。 【復習】授業で言及された概念や理論、用語、事例について確認する。		90	
第5回	コスト・生産性の管理 ・原価管理、生産性の概念と測定、改善活動、「ジャスト・イン・タイム方式」について学修する。			【予習】事前配布資料を熟読し、質問を考える。 【復習】授業で言及された概念や理論、用語、事例について確認する。		90	
第6回	納期と工程管理 ・納期と工程管理の概念、生産計画、生産期間と在庫、かんばんシステムについて学修する。			【予習】事前配布資料を熟読し、質問を考える。 【復習】授業で言及された概念や理論、用語、事例について確認する。		90	
第7回	品質の管理 ・品質の概念・測定、品質管理について学修する。			【予習】事前配布資料を熟読し、質問を考える。 【復習】授業で言及された概念や理論、用語、事例について確認する。		90	
第8回	フレキシビリティ ・部品および工程のフレキシビリティについて学修する。			【予習】事前配布資料を熟読し、質問を考える。 【復習】授業で言及された概念や理論、用語、事例について確認する。		90	
第9回	生産戦略 ・生産戦略の概念、生産能力の決定、工場ネットワーク戦略について学修する。			【予習】事前配布資料を熟読し、質問を考える。 【復習】授業で言及された概念や理論、用語、事例について確認する。		90	
第10回	人事・労務管理 ・ものづくりにかかわる人事・労務管理について学修する			【予習】事前配布資料を熟読し、質問を考える。 【復習】授業で言及された概念や理論、用語、事例について確認する。		90	
第11回	生産設備と生産技術の管理 ・生産設備と生産技術のマネジメントについて学修する。			【予習】事前配布資料を熟読し、質問を考える。 【復習】授業で言及された概念や理論、用語、事例について確認する。		90	
第12回	購買管理とサプライヤ・システム ・購買管理とサプライヤ・システムのマネジメントについて学修する			【予習】事前配布資料を熟読し、質問を考える。 【復習】授業で言及された概念や理論、用語、事例について確認する。		90	
第13回	製品開発の基礎 ・製品開発のプロセス、組織、パフォーマンスについて学修する。			【予習】事前配布資料を熟読し、質問を考える。 【復習】授業で言及された概念や理論、用語、事例について確認する。		90	
第14回	まとめ			【予習】各回の配布資料を確認する。質問を考える。 【復習】各回の授業で言及された概念や理論、用語、事例について確認する。		90	
〔授業の方法〕							

- ・事前に配布してある授業資料（事前資料）を受講生が既に読んでいることを前提として講義を行う。
- ・基本的には、①事前資料のポイントを解説しつつ、事前資料には書かれていない事柄（理論、概念、企業の実例など）についても説明し、②事前資料に書かれている内容について受講生が事前に考えてきた質問の収集とそれにもとづいて議論を行い受講生の理解を深める、という流れで授業を進める。したがって、受講生は、事前資料を熟読して、その内容に対する質問を考えたいうえで、授業に臨むことが必要である。質問内容は「質問メモ」に記入して、授業で定められた方法にて提出すること。
- ・また、授業で学んだことにもとづいて、自分で調査をしたり考えたりする「Web 課題レポート」を実施する（1回から2回を予定）。受講生は、当該課題についてレポートを作成し、提出することを求められる。この課題は CoursePower を用いて行い、成績採点の対象とする。
- ・加えて、適宜、授業内で簡単な課題を出して授業で学んだことを活用して回答してもらうことにより、受講生の理解を深めるための「授業内ワーク」を複数回実施する。これは CoursePower を利用して実施するため、授業にパソコンやタブレットなどの情報端末を持参すること。
- ・授業時間内に実施する「質問メモ」や「授業内ワーク」、および授業期間内に実施する「Web 課題レポート」の提出は、必ず、授業で指定された方法にもとづいて定められた期限内に、受講生本人が作成して授業担当者に対して行うこととする。いかなる場合・理由であっても、事前・事後の提出や代理提出等を認めない。
- ・なお、授業の方法や成績評価の方法等については、第1回目の授業において詳細に説明するので、必ず確認のうえ、授業内で説明された内容にしたがって、Web 課題レポート等への回答や提出を行うこと。
- ・上で示された準備学習の時間はあくまで目安であり、各自の理解度に応じて取り組むこと。

〔成績評価の方法〕

「学期末試験」（80％）への解答内容、および、「Web 課題レポート」（20％）の提出状況と解答内容により総合的に評価する。

〔成績評価の基準〕

成蹊大学の成績評価基準（学則第38条、第39条）に準拠する。

次の点に着目し、その達成度により評価する。

①ものづくり経営・生産管理に関する基本的な考え方を学修できている。

②上記を活かして、ものづくり・生産活動をマネジメントするうえで実際に生じうる問題を自分なりの視点から分析して、有効的かつ効率的にものづくりを行うための解決策を示すことができる。

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕

・経営戦略論、経営組織論、イノベーション・製品開発論、マーケティング論に関する基礎的な知識を習得することが望ましい。

・この科目は「経営学部の2年生以上の配当科目」であり、「他学部の履修者」は『企業と社会』を修得済または履修中であることが望ましい。

〔テキスト〕

各回の授業資料は事前に、CoursePower を通じて配布するので、テキストは特になし。それらの資料を各自必要に応じて印刷したり、PC やタブレット端末等を利用して授業に臨むこと。各回の授業資料を事前に熟読して、質問内容を考えたいうえで授業に臨むこと。

〔参考書〕

参考までに下記を挙げておく（「購入の必要なし」）。この他にも生産管理についてより深く学びたい人のために、授業中に適宜紹介する。

藤本隆宏（1997）『生産システムの進化論』有斐閣

藤本隆宏（2001a）『生産マネジメント入門Ⅰ』日本経済新聞社

藤本隆宏（2001b）『生産マネジメント入門Ⅱ』日本経済新聞社

藤本隆宏（2003）『能力構築競争』中央公論新社

藤本隆宏編（2013）『「人工物」複雑化の時代』有斐閣

藤本隆宏（2013）『現場主義の競争戦略』新潮社

藤本隆宏・新宅純二郎・青島矢一（2015）『日本のものづくりの底力』東洋経済新報社

藤本隆宏編（2024）『工場史』有斐閣

福澤光啓（2022）「新たな価値をいかにして創り出すのかーイノベーション・製品開発ー」, 具滋承編著『経営学の入門』, pp. 164-182, 法律文化社.

福澤光啓（2022）「『神の手』のDX変革：ワコール」, 伊藤宗彦・松尾博文・富田純一編著『1からのデジタル経営』, pp. 97-111, 碩学舎.

門田安弘（2006）『トヨタプロダクションシステム』ダイヤモンド社

中沢孝夫・藤本隆宏・新宅純二郎（2016）『ものづくりの反撃』筑摩書房

大野耐一（1978）『トヨタ生産方式』ダイヤモンド社

高橋伸夫編著（2011）『よくわかる経営管理』ミネルヴァ書房

富野貴弘（2017）『生産管理の基本』日本実業出版社

富田純一・糸久正人（2015）『コア・テキスト生産管理』新世社

土屋元彦（2018）『現場主義を貫いた富士ゼロックスの“経営革新”』日刊工業新聞社

和田一夫（2009）『ものづくりの寓話』名古屋大学出版会

Holweg, M. and Pil, F., K. (2004) The Second Century, The MIT Press, Cambridge, MA.

Womack, J. P., Jones, D.T., and Roos, D. (1990) The Machine that Changed the World, Rawson Associates, New York.

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕

ポータルサイトで周知する。

〔特記事項〕

科目名	産業の経済学						
教員名	鷹岡 澄子						
科目No.	122518000	単位数	2	配当年次	2年生	開講時期	2025 前期
<p>[テーマ・概要]</p> <p>本科目では、企業の戦略的行動と政策の関係について学ぶ。 具体的には、市場集中度やカルテル、M&Aなどのテーマを通じて、競争を促進するための規制と企業活動の国際化に対応した規制の流れを学ぶ。 また、企業と消費者の間には製品に対する情報の格差がある。企業は自分たちの販売する商品の良さをどうやって消費者に伝えようとするのか。消費者はどのような政策によって、情報が完全でない場合保護されるのか。不必要な規制が緩和されると、どのような効果がもたらされるのかなどを学習していく。 なお、授業の進捗によって、以下の授業の計画や内容を一部変更する場合がある。</p>							
<p>[到達目標]</p> <p>本科目では、DP1（専門分野の知識・技能）とDP3（課題の発見と解決）を実現するため、履修学生が次のような水準に到達することを目標とする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現代の産業や市場を経済学的に理解する。 ・学習した基礎的な枠組みを具体例に応用することができる。 ・現実の企業行動や政策を分析することができる。 							
[授業の計画と準備学修]							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修の目安（分）	
第1回	ガイダンス 市場集中度について			【予習】 シラバスを読み、あらかじめ講義内容を把握する。 【復習】 授業の内容を確認する。		60	
第2回	市場集中度について（つづき）			【予習】 授業ノートを読んでおく。 【復習】 授業の内容を確認する。		60	
第3回	カルテルについて カルテルの種類 カルテルの結成動機 カルテル維持の限界 規制			【予習】 授業ノートを読んでおく。 【復習】 授業の内容を確認する。		60	
第4回	カルテルについて（つづき） カルテルの種類 カルテルの結成動機 カルテル維持の限界 規制			【予習】 授業ノートを読んでおく。 【復習】 授業の内容を確認する。		60	
第5回	M&A M&Aとその傾向 M&Aの手法・動機 合併のモデル アドバイザーについて			【予習】 授業ノートを読んでおく。 【復習】 授業の内容を確認する。		60	
第6回	M&A（つづき） M&Aとその傾向 M&Aの手法・動機 合併のモデル アドバイザーについて			【予習】 授業ノートを読んでおく。 【復習】 授業の内容を確認する。		60	
第7回	参入の経済効果 新規参入とその経済効果 過剰参入 コンテストブルマーケットでの新規参入 独占的競争			【予習】 授業ノートを読んでおく。 【復習】 授業の内容を確認する。		60	
第8回	参入の経済効果（つづき） 新規参入とその経済効果 過剰参入 コンテストブルマーケットでの新規参入 独占的競争			【予習】 授業ノートを読んでおく。 【復習】 授業の内容を確認する。		60	
第9回	情報の非対称性と企業行動 品質と情報の非対称性 情報の非対称下の企業戦略 価格と情報の非対称性			【予習】 授業ノートを読んでおく。 【復習】 授業の内容を確認する。		60	
第10回	情報の非対称性と企業行動（つづき） 品質と情報の非対称性 情報の非対称下の企業戦略 価格と情報の非対称性			【予習】 授業ノートを読んでおく。 【復習】 授業の内容を確認する。		60	
第11回	スクリーニング・オークション メカニズム・デザイン入門 スクリーニング オークション			【予習】 授業ノートを読んでおく。 【復習】 授業の内容を確認する。		60	
第12回	スクリーニング・オークション（つづき） メカニズム・デザイン入門 スクリーニング オークション			【予習】 授業ノートを読んでおく。 【復習】 授業の内容を確認する。		60	

第13回	広告 広告の種類 ドーフマン=スタイナーのモデル 広告と経済厚生	【予習】 授業ノートを読んでおく。 【復習】 授業の内容を確認する。	60
第14回	まとめ	【予習】 今までのクイズ・授業ノートを理解する。 【復習】 できなかったところをクイズ・授業ノートで確認する。	120
[授業の方法] 授業は講義を中心に進める。授業中にクイズを行う。クイズを正解し、答え合わせを報告した学生は成績に加点される。授業ノートなど必要な資料は担当教員が作成し、配布する。			
[成績評価の方法] 課題 30%、学期末試験 70%を基本としつつ、授業への積極的参加をプラスに評価する。			
[成績評価の基準] 成蹊大学の成績評価基準（学則第 38 条、39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.38, 39. 上記、到達目標の達成度に基づいて評価する。			
[必要な予備知識/先修科目/関連科目] ミクロ経済学の基礎			
[テキスト] 授業ノートはファイルで配布します。			
[参考書] 『産業組織の経済学 第2版』、長岡貞夫・平尾由紀子、日本評論社、3240 円、ISBN-13: 978-4535556676 Industrial Organization, Oz Shy, The MIT Press、0-262-69179-5			
[質問・相談方法等（オフィス・アワー）] ポータルサイトで周知する。			
[特記事項]			

科目名		情報産業					
教員名		吉見 憲二					
科目No.	122519000	単位数	2	配当年次	2年生	開講時期	2025 後期
<p>〔テーマ・概要〕</p> <p>情報化の進展に伴い、「産業の情報化」「情報の産業化」がますますその勢いを強めている。「産業の情報化」は様々な産業の生産活動の中で情報に関連した労働や中間投入が増加していく側面をとらえた概念であり、「情報の産業化」は産業の情報化に伴い情報関連のサービス活動が独立した産業を形成して発展していく側面をとらえた概念である(出典：平成 29 年版情報通信白書)。近年の各種産業の変化をとらえるためには、「産業の情報化」と「情報の産業化」の観点が必要不可欠である。</p> <p>授業では、広義の情報産業に関連する各種産業の構造・特徴について概観し、近年の課題について取り上げる。そのため、原則として各回の講義で 1 つずつ関連した産業を扱う予定である。授業全体を通して、「産業の情報化」と「情報の産業化」がどのようにそれぞれの産業に影響を与えているかを理解し、今後の展望について考えられるようになることが本授業の目的である。</p> <p>なお、授業の進捗や受講生からの要望によって、内容を一部変更する場合がある。</p>							
<p>〔到達目標〕</p> <p>DP1【専門分野の知識・技能】、DP2【教養の修得】、DP3【課題の発見と解決】を実現するため、以下の 3 点を到達目標とする。</p> <p>(1) 情報産業の発展の過程を「産業の情報化」と「情報の産業化」の概念を踏まえて説明できる。</p> <p>(2) 講義で取り上げる各産業の構造・特徴を理解し、近年の当該産業を巡る課題について議論できる。</p> <p>(3) 講義で取り上げる各産業の理解を踏まえて、広義の情報産業の今後の展望について自分なりの考えを説明できる。</p>							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修 (予習・復習等)		準備学修の目安 (分)	
第 1 回	イントロダクション ・シラバスの内容を中心に、授業の概要や評価基準について説明する。 ・「産業の情報化」と「情報の産業化」について理解する。			【予習】 事前にシラバスをよく読み、質問等があれば用意しておく。 【復習】 講義内容を踏まえた課題に取り組む。		60	
第 2 回	オンラインサービスと情報産業の変化 ・主要なオンラインサービスについて理解する。 ・近年のオンラインサービスの背景にある技術や理論を理解する。			【予習】 オンラインサービスが情報産業に与えた影響について考えておく。 【復習】 講義内容を踏まえた課題に取り組む。		60	
第 3 回	放送産業 ・放送産業の構造・特徴について理解する。 ・近年の放送産業を巡る課題について理解する。			【予習】 情報化によって生じた放送産業の変化について考えておく。 【復習】 講義内容を踏まえた課題に取り組む。		60	
第 4 回	出版産業 ・出版産業の構造・特徴について理解する。 ・近年の出版産業を巡る課題について理解する。			【予習】 情報化によって生じた出版産業の変化について考えておく。 【復習】 講義内容を踏まえた課題に取り組む。		60	
第 5 回	音楽産業 ・音楽産業の構造・特徴について理解する。 ・近年の音楽産業を巡る課題について理解する。			【予習】 情報化によって生じた音楽産業の変化について考えておく。 【復習】 講義内容を踏まえた課題に取り組む。		60	
第 6 回	映画産業 ・映画産業の構造・特徴について理解する。 ・近年の映画産業を巡る課題について理解する。			【予習】 情報化によって生じた映画産業の変化について考えておく。 【復習】 講義内容を踏まえた課題に取り組む。		60	
第 7 回	アニメーション産業 ・アニメーション産業の構造・特徴について理解する。 ・近年のアニメーション産業を巡る課題について理解する。			【予習】 情報化によって生じたアニメーション産業の変化について考えておく。 【復習】 講義内容を踏まえた課題に取り組む。		60	
第 8 回	ゲーム産業 ・ゲーム産業の構造・特徴について理解する。 ・近年のゲーム産業を巡る課題について理解する。			【予習】 情報化によって生じたゲーム産業の変化について考えておく。 【復習】 講義内容を踏まえた課題に取り組む。		60	
第 9 回	中間まとめ ・これまでの講義内容について振り返る。 ・レポート課題に関する説明を行う。			【予習】 これまでの講義内容で理解が不十分な点を確認しておく。 【復習】 講義内容を踏まえた課題に取り組む。		60	
第 10 回	通信産業 ・通信産業の構造・特徴について理解する。 ・近年の通信産業を巡る課題について理解する。			【予習】 情報化によって生じた通信産業の変化について考えておく。 【復習】 講義内容を踏まえた課題に取り組む。		60	
第 11 回	ハードウェア/ソフトウェア産業 ・ハードウェア/ソフトウェア産業の構造・特徴について理解する。 ・近年のハードウェア/ソフトウェア産業を巡る課題について理解する。			【予習】 情報化によって生じたハードウェア/ソフトウェア産業の変化について考えておく。 【復習】 講義内容を踏まえた課題に取り組む。		60	
第 12 回	その他情報産業 ・受講生の要望等を踏まえて、特定の産業について取り上げる。 ・近年の当該産業を巡る課題について理解する。			【予習】 特に授業で取り上げたい産業について考えておく。 【復習】 講義内容を踏まえた課題に取り組む。		60	
第 13 回	レポート課題のフィードバック ・期中に実施したレポート課題について評価ポイントを理解する。 ・レポート執筆の基本事項について再度確認し、理解する。			【予習】 自身の提出したレポートの内容について再確認しておく。 【復習】 講義内容を踏まえた課題に取り組む。		60	
第 14 回	まとめ ・全体の内容を振り返り、「産業の情報化」と「情報の産業化」がどのようにそれぞれの産業に影響を与えているかについて議論する。			【予習】 全体の内容を振り返り、「産業の情報化」と「情報の産業化」がどのようにそれぞれの産業に影響を与えているか考える。 【復習】 講義内容を踏まえた課題に取り組む。期末試験に		60	

	<p>・シラバスの内容を再度確認し、授業の概要や評価基準について説明する。</p>	<p>向けて準備する。</p>	
<p>〔授業の方法〕 授業は講義形式で進める。授業の構成として、①ディスカッション準備（10分）、②前回内容の振り返り（10分）、③ディスカッション（10分×2回）、④講義（50分）、⑤質疑応答（10分）、⑥課題（授業後）を基本とする。詳細は次の通りである。 ①冒頭に【予習】と関連したディスカッションテーマを提示し、10分間各自で考える時間を与える。 ②課題の内容に関して次回授業の前半で振り返りを行い、優れた回答は全体に共有する。 ③授業時間中に、冒頭に提示したテーマに関して受講者にマイクを回し、ディスカッションを行う。受講人数に応じて実施形態については検討する。 ④講義は配布した資料を中心に展開する。なお、講義中にも受講者にマイクを回し、意見や回答を求めることがある。 ⑤ICTを活用した双方向型の授業として、スマートフォンでQRコードを読み取り、授業時間内に質問をできるようにする。質問については原則授業内で回答する。 ⑥eラーニングを活用した自主学习支援として、各回の授業内容に関連した課題を【予習】【復習】扱いで実施する。 レポート課題の内容、評価基準については、授業内で説明する。また、受講者の希望等を踏まえて、授業期間内に2回ほど少人数でのグループワークを実施する可能性がある。 講義形式となるため欠席等の連絡は不要であるが、原則としてフォームから出席状況の確認を行い、既定の出席数に不足する場合には自動的に不合格となる（ただし、受講状況に応じて出席確認の方法を変更する可能性がある）。なお、出席や課題に関する不正には厳正に対処する。</p>			
<p>〔成績評価の方法〕 各回の課題（14回：40%）、レポート課題（20%）、期末試験（40%）による総合評価を基本としつつ、各評価項目での優れた回答や講義中の発言に関して適宜加点する。</p>			
<p>〔成績評価の基準〕 成蹊大学の成績評価基準（学則第38条、39条）に準拠する。 次の点に着目し、その達成度により評価する。 (1) 情報産業の発展の過程を「産業の情報化」と「情報の産業化」の概念を踏まえて説明できるか。 (2) 講義で取り上げる各産業の構造・特徴を理解し、近年の当該産業を巡る課題について議論できるか。 (3) 講義で取り上げる各産業の理解を踏まえて、広義の情報産業の今後の展望について自分なりの考えを説明できるか。</p>			
<p>〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕 ・必要な予備知識は特になし。 ・関連科目として、「情報戦略」「情報コミュニケーション技術」「経営情報<1><2>」「経営学特殊講義B（ICT産業概論）」が挙げられる。特に、情報産業や情報技術に興味がある人は関連科目も積極的に受講してほしい。各科目の特色等については質問があれば対応する。</p>			
<p>〔テキスト〕 資料は毎回の授業で配布する。</p>			
<p>〔参考書〕 『情報メディア白書(各年版)』、電通メディアイノベーションラボ／電通総研 編、ダイヤモンド社、購入の必要なし 『情報通信白書(各年版)』、総務省、購入の必要なし その他、参考文献については授業内で適宜提示する。</p>			
<p>〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕 ポータルサイトの『オフィスアワー』で周知する。 授業終了後に教室で受け付ける。</p>			
<p>〔特記事項〕 ・アクティブ・ラーニング ・ICT活用</p>			

科目名	広告と市場						
教員名	河塚 悠						
科目No.	122521000	単位数	2	配当年次	2年生	開講時期	2025 前期
<p>〔テーマ・概要〕</p> <p>現代社会に生きる私たちは、毎日膨大な量の「広告」に接しています。テレビや新聞、雑誌、駅構内や電車、スマホ画面など、至る所で広告を見かけます。そもそも「広告」とはどのようなものなのでしょうか。なぜ、企業は「広告」をつくっているのでしょうか。また、「広告」はどのようにして作られ、どのようなプロセスを経て、私たちの前に姿を表しているのでしょうか。本講義では、広告活動に関する基本的な知識や理論を解説します。</p> <p>また、近年急増している「広告のような」手法（セールス・プロモーション、PR、パブリシティ、クチコミなど）についても取り上げます。Twitter や Facebook, Instagram といったソーシャルメディアの進展により、今までの「広告概念」ではとらえきれない現象が起きており、このような「広告のような」手法についても学修することで、より「広告」への理解を深めることができます。</p>							
<p>〔到達目標〕</p> <p>DP1（専門分野の知識・技能）を実現するために、以下を到達目標とします。</p> <p>(1) 広告に関する基本的な知識や理論が身についている。</p> <p>(2) マーケティング・コミュニケーションに関する基本的な知識や理論が身についている。</p> <p>(3) 近年のマーケティング・コミュニケーション活動、広告活動のあり方を理解している。</p> <p>(4) 企業のコミュニケーション戦略について、自分なりに考察できる。</p>							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修の目安（分）	
第1回	▼イントロダクション ・講義の進め方について説明する。 ・成績評価について説明する。			▼予習 シラバスで講義のテーマと内容を把握しておく。		60	
第2回	▼広告とは何だろう ・広告の定義について解説する。 ・広告の種類について学修する。 ・広告の社会的機能について学修する。			▼予習 ・事前に配布する資料に目を通す。 ▼復習 ・講義中にとったメモに目を通す。 ・講義で学んだ理論や重要単語について説明できるようにする。		60	
第3回	▼マーケティングにおける広告の位置づけ ・マーケティングにおける広告の位置づけについて解説する。 ・ブランド戦略における広告の役割を説明する。			▼予習 ・事前に配布する資料に目を通す。 ▼復習 ・講義中にとったメモに目を通す。 ・講義で学んだ理論や重要単語について説明できるようにする。		60	
第4回	▼広告と市場 ・マーケティングにおける「市場」のとらえ方を説明する。 ・市場における広告の役割を説明する。			▼予習 ・事前に配布する資料に目を通す。 ▼復習 ・講義中にとったメモに目を通す。 ・講義で学んだ理論や重要単語について説明できるようにする。		60	
第5回	▼広告活動のマネジメント①（広告計画の策定） ・広告マネジメント・プロセスについて解説する。 ・広告計画をどのように策定するのかを解説する。			▼予習 ・事前に配布する資料に目を通す。 ▼復習 ・講義中にとったメモに目を通す。 ・講義で学んだ理論や重要単語について説明できるようにする。		60	
第6回	▼広告活動のマネジメント②（広告予算の設定） ・日本の広告市場の特徴について説明する。 ・さまざまな広告予算の算出方法を紹介する。			▼予習 ・事前に配布する資料に目を通す。 ▼復習 ・講義中にとったメモに目を通す。 ・講義で学んだ理論や重要単語について説明できるようにする。		60	
第7回	▼広告活動のマネジメント③（広告表現の企画と制作） ・広告表現の企画・制作プロセスについて説明する。 ・広告表現の制作にかかわるスタッフを紹介する。			▼予習 ・事前に配布する資料に目を通す。 ▼復習 ・講義中にとったメモに目を通す。 ・講義で学んだ理論や重要単語について説明できるようにする。		60	
第8回	▼広告活動のマネジメント④（広告メディアの選定） ・広告メディアにはどのようなものがあるか紹介する。 ・トリプルメディアについて解説する。 ・クロスメディアの考え方を説明する。			▼予習 ・事前に配布する資料に目を通す。 ▼復習 ・講義中にとったメモに目を通す。 ・講義で学んだ理論や重要単語について説明できるようにする。		60	
第9回	▼広告活動のマネジメント⑤（広告効果の測定・評価） ・広告効果を測定する意義を説明する。 ・広告効果モデルを解説し、測定例を紹介する。			▼予習 ・事前に配布する資料に目を通す。 ▼復習 ・講義中にとったメモに目を通す。 ・講義で学んだ理論や重要単語について説明できるようにする。		60	

第10回	▼さまざまなマーケティング・コミュニケーション① ・マーケティング・コミュニケーションの定義と諸活動について学修する。 ・統合型マーケティング・コミュニケーション（IMC）の考え方について解説する。	▼予習 ・事前に配布する資料に目を通す。 ▼復習 ・講義中にとったメモに目を通す。 ・講義で学んだ理論や重要単語について説明できるようにする。	60
第11回	▼さまざまなマーケティング・コミュニケーション② ・セールス・プロモーションについて解説する。	▼予習 ・事前に配布する資料に目を通す。 ▼復習 ・講義中にとったメモに目を通す。 ・講義で学んだ理論や重要単語について説明できるようにする。	60
第12回	▼さまざまなマーケティング・コミュニケーション③ ・PRとパブリシティについて学修する。 ・クチコミについて解説する。	▼予習 ・事前に配布する資料に目を通す。 ▼復習 ・講義中にとったメモに目を通す。 ・講義で学んだ理論や重要単語について説明できるようにする。	60
第13回	▼さまざまなマーケティング・コミュニケーション④ ・インスタ・マーチャンダイジングについて学修する。	▼予習 ・事前に配布する資料に目を通す。 ▼復習 ・講義中にとったメモに目を通す。 ・講義で学んだ理論や重要単語について説明できるようにする。	60
第14回	▼まとめ ・第13回までの振り返り ・総括	▼予習 ・全体を振り返り、理解が不十分である部分を把握する。 ▼復習 ・講義中にとったメモに目を通す。	60
<p>[授業の方法]</p> <p>講義形式で進めていきます。講義ではパワーポイントで作成した講義資料を用います。履修者には同様の講義資料を配布しますが、空欄をもうけていますので、自分で埋めながら講義を聞いてください。授業内では履修者に発言を求めることがあります。講義毎にミニレポートを実施します。</p>			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>授業内で実施するミニレポート（30%）、期末テスト（70%）等から総合的に評価します。</p>			
<p>[成績評価の基準]</p> <p>成蹊大学の成績評価基準（学則第 38, 39 条）に準拠します。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.38 & 39.</p> <p>(1) 広告に関する基本的な知識や理論が身についている。 (2) マーケティング・コミュニケーションに関する基本的な知識や理論が身についている。 (3) 近年のマーケティング・コミュニケーション活動、広告活動のあり方を理解している。 (4) 企業のコミュニケーション戦略について、自分なりに考察できる。</p>			
<p>[必要な予備知識/先修科目/関連科目]</p> <p>この科目は経営学部の 2 年生以上の配当科目である。経営学部の履修者は『マーケティング』を修得済みであることが望ましい。他学部の履修者は『企業と社会』を修得済みまたは履修中であることが望ましい。 関連科目：「マーケティング」「ブランド戦略」「消費者行動」「マーケティング・リサーチ」など経営関連科目全般。</p>			
<p>[テキスト]</p> <p>特に指定しません。重要な文献については適宜授業内で紹介します。</p>			
<p>[参考書]</p> <p>・『わかりやすい広告論（第2版）』、石崎徹（編著）、八千代出版、2012年（4,970円）。 ・『わかりやすいマーケティング・コミュニケーションと広告（第3版）』、石崎徹（編著）、八千代出版、2019年（2,970円）。 ・『現代広告論（第3版）』、岸志津江・田中洋・嶋村和恵（著）、有斐閣アルマ、2020年（2,640円）。 ・『新版 この1冊ですべてがわかる広告の基本』、波田浩之、2019年（1,650円）。 ・『広告心理』、仁科貞文・田中洋・丸岡吉人（著）、電通、2007年（548円）。</p>			
<p>[質問・相談方法等（オフィス・アワー）]</p> <p>ポータルサイトで周知します。</p>			
<p>[特記事項]</p> <p>特にありません。</p>			

科目名	イノベーションと製品開発						
教員名	福澤 光啓						
科目No.	122522000	単位数	2	配当年次	2年生	開講時期	2025 後期
<p>〔テーマ・概要〕</p> <p>企業は、製品・サービスを顧客へ提供することで収益をあげている。そこで提供される製品・サービスの品質や開発コスト、開発期間において優れていることが、企業の競争力の根本的な支えとなる。</p> <p>この製品・サービスをつくるための一連の活動を製品開発と呼ぶ。いかに有効かつ効率的に製品開発活動を行うことができるかが、企業の長期的な成長や存続に大きな影響を与える。しかし、成功できる製品を開発できる企業の数は限られており、たとえ優れた製品を提供して顧客を獲得できたとしても、それが長続きすることは多くはない。製品開発の戦略や開発組織・プロセスのマネジメントの巧拙が、持続的に成長できる企業とそうでないものを分ける重要な決め手となる。</p> <p>本講義では、イノベーションや製品開発に関するさまざまな概念・現象を、「ものづくりは笑顔づくり」という視点から整理・統合しながら議論を進めていく。本講義の目標は、受講生が、イノベーションや製品開発に関する基本的な考え方を学ぶとともに、製品開発活動をマネジメントするうえで実際に生じる問題を自分なりの視点から分析して、有効かつ効率的に製品開発を行うための解決策を示せるようになることである。そのために、講義では理論と実際のケースをあわせて解説しつつ授業内での質疑応答を積極的に行い、さらに Web 上で実施する課題レポートの作成も行うことにより、自分の頭で論理的に考え説明するトレーニングをする。</p>							
<p>〔到達目標〕</p> <p>DP1（専門分野の知識・技能）、DP3（課題の発見と解決）を実現するため、次の2点を到達目標とする。</p> <p>①イノベーションや製品開発に関する基本的な考え方を学修する。</p> <p>②上記を活かして、製品開発活動をマネジメントするうえで実際に生じる問題を自分なりの視点から分析して、有効かつ効率的に製品開発を行うための解決策を示せるようになる。</p>							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修の目安（分）	
第1回	<p>イントロダクション：ものづくりは笑顔づくり</p> <p>・授業の全体像、進め方、授業の方法、予習復習の仕方等を説明する。</p> <p>・企業の競争力の源泉としての製品開発力について身近な事例から考察する。</p>			<p>【予習】事前配布資料を熟読し、質問を考える。</p> <p>【復習】授業で言及された概念や理論、用語、事例について確認する。</p>		90	
第2回	<p>イノベーションと製品開発</p> <p>・イノベーションのタイプや製品開発活動の概略について学修する。</p>			<p>【予習】事前配布資料を熟読し、質問を考える。</p> <p>【復習】授業で言及された概念や理論、用語、事例について確認する。</p>		90	
第3回	<p>製品開発の戦略①</p> <p>・製品戦略の基礎やコア技術戦略について学修する</p>			<p>【予習】事前配布資料を熟読し、質問を考える。</p> <p>【復習】授業で言及された概念や理論、用語、事例について確認する。</p>		90	
第4回	<p>製品開発の戦略②</p> <p>・複数のプロジェクトをマネジメントする方法や、プラットフォーム開発における戦略や組織運営について学修する。</p> <p>・プラットフォーム・リーダーシップの獲得のための戦略について学修する。</p>			<p>【予習】事前配布資料を熟読し、質問を考える。</p> <p>【復習】授業で言及された概念や理論、用語、事例について確認する。</p>		90	
第5回	<p>製品アーキテクチャ①</p> <p>・製品アーキテクチャのタイプについて学修する</p>			<p>【予習】事前配布資料を熟読し、質問を考える。</p> <p>【復習】授業で言及された概念や理論、用語、事例について確認する。</p>		90	
第6回	<p>製品アーキテクチャ②</p> <p>・製品アーキテクチャのダイナミズムをうまくマネジメントするための戦略と組織運営について学修する</p>			<p>【予習】事前配布資料を熟読し、質問を考える。</p> <p>【復習】授業で言及された概念や理論、用語、事例について確認する。</p>		90	
第7回	<p>製品開発の組織とプロセス①</p> <p>・製品開発の一連の業務について学修する</p>			<p>【予習】事前配布資料を熟読し、質問を考える。</p> <p>【復習】授業で言及された概念や理論、用語、事例について確認する。</p>		90	
第8回	<p>製品開発の組織とプロセス②</p> <p>・製品開発組織のデザインについて学修する</p>			<p>【予習】事前配布資料を熟読し、質問を考える。</p> <p>【復習】授業で言及された概念や理論、用語、事例について確認する。</p>		90	
第9回	<p>製品開発の組織とプロセス③</p> <p>・プロジェクト組織のマネジメントについて学修する</p> <p>・重量級プロジェクト・マネジャーの概念について学修する</p>			<p>【予習】事前配布資料を熟読し、質問を考える。</p> <p>【復習】授業で言及された概念や理論、用語、事例について確認する。</p>		90	
第10回	<p>オープン・イノベーション</p> <p>・先行開発活動、技術統合活動、オープン・イノベーションのマネジメントについて学修する。</p>			<p>【予習】事前配布資料を熟読し、質問を考える。</p> <p>【復習】授業で言及された概念や理論、用語、事例について確認する。</p>		90	
第11回	<p>イノベーションと資源動員</p> <p>・イノベーションを可能にするうえで重要となる資源動員のプロセスや方法について学修する</p>			<p>【予習】事前配布資料を熟読し、質問を考える。</p> <p>【復習】授業で言及された概念や理論、用語、事例について確認する。</p>		90	
第12回	<p>製品開発と企業間関係のマネジメント</p> <p>・製品開発に関わる業務範囲の意思決定について学修する</p>			<p>【予習】事前配布資料を熟読し、質問を考える。</p> <p>【復習】授業で言及された概念や理論、用語、事例について確認する。</p>		90	
第13回	<p>グローバル化とイノベーション</p> <p>・グローバル環境下でのイノベーション・マネジメントについて学修する</p>			<p>【予習】事前配布資料を熟読し、質問を考える。</p> <p>【復習】授業で言及された概念や理論、用語、事例について確認する。</p>		90	

第14回	まとめ	【予習】各回の配布資料を確認する。質問を考える。 【復習】各回の授業で言及された概念や理論、用語、事例について確認する。	90
<p>〔授業の方法〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事前に配布してある授業資料（事前資料）を受講生が既に読んでいることを前提として講義を行う。 ・基本的には、①事前資料のポイントを解説しつつ、事前資料には書かれていない事柄（理論、概念、企業の実例など）についても説明し、②事前資料に書かれている内容について受講生が事前に考えてきた質問の収集とそれにもとづいて議論を行い受講生の理解を深める、という流れで授業を進める。したがって、受講生は、事前資料を熟読して、その内容に対する質問を考えたいうえで、授業に臨むことが必要である。質問内容は「質問メモ」に記入して、授業で定められた方法にて提出すること。 ・また、授業で学んだことにもとづいて、自分で調査をしたり考えたりする「Web 課題レポート」を実施する（1回から2回を予定）。受講生は、当該課題についてレポートを作成し、提出することを求められる。この課題は CoursePower を用いて行い、成績採点の対象とする。 ・加えて、適宜、授業内で簡単な課題を出して授業で学んだことを活用して回答してもらうことにより、受講生の理解を深めるための「授業内ワーク」を複数回実施する。これは CoursePower を利用して実施するため、授業にパソコンやタブレットなどの情報端末を持参すること。 ・授業時間内に実施する「質問メモ」や「授業内ワーク」、および授業期間内に実施する「Web 課題レポート」の提出は、必ず、授業で指定された方法にもとづいて定められた期限内に、受講生本人が作成して授業担当者に対して行うこととする。いかなる場合・理由であっても、事前・事後の提出や代理提出等を認めない。 ・なお、授業の方法や成績評価の方法等については、第1回目の授業において詳細に説明するので、必ず確認のうえ、授業内で説明された内容にしたがって、Web 課題レポート等への回答や提出を行うこと。 ・上で示された準備学習の時間はあくまで目安であり、各自の理解度に応じて取り組むこと。 			
<p>〔成績評価の方法〕</p> <p>「学期末試験」（80％）への解答内容、および、「Web 課題レポート」（20％）の提出状況と解答内容により総合的に評価する。</p>			
<p>〔成績評価の基準〕</p> <p>成蹊大学の成績評価基準（学則第38条、第39条）に準拠する。 次の点に着目し、その達成度により評価する。</p> <p>①イノベーションや製品開発に関する基本的な考え方を修得できている。 ②上記を活かして、製品開発活動をマネジメントするうえで実際に生じうる問題を自分なりの視点から分析して、有効的かつ効率的に製品開発を行うための解決策を示すことができる。</p>			
<p>〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・経営組織論や経営戦略論、マーケティング論に関する基礎的な知識を習得することが望ましい。 ・この科目は「経営学部の2年生以上の配当科目」であり、「他学部の履修者」は『企業と社会』を修得済または履修中であることが望ましい。 			
<p>〔テキスト〕</p> <p>各回の授業資料は事前に、CoursePower を通じて配布するので、テキストは特にない。それらの資料を各自必要に応じて印刷したり、PC やタブレット端末等を利用して授業に臨むこと。各回の授業資料を事前に熟読して、質問内容を考えてうえで授業に臨むこと。</p>			
<p>〔参考書〕</p> <p>日本語で書かれた文献について、参考までに下記を挙げておく（「購入の必要なし」）。この他にもイノベーションや製品開発についてより深く学びたい人のために、授業中に適宜紹介する。</p> <p>浅川和宏（2011）『グローバルR&Dマネジメント』慶應義塾大学出版会 藤本隆宏・安本雅典編著（2000）『成功する製品開発』有斐閣 藤本隆宏編（2013）『「人工物」複雑化の時代』有斐閣 福澤光啓（2022）「新たな価値をいかにして創り出すのかーイノベーション・製品開発ー」, 具滋承編著『経営学の入門』, pp.164-182, 法律文化社. 福澤光啓（2022）「『神の手』のDX変革：ワコール」, 伊藤宗彦・松尾博文・富田純一編著『1からのデジタル経営』, pp.97-111, 碩学舎. 一橋大学イノベーション研究センター（2017）『イノベーション・マネジメント入門<第2版>』日本経済新聞社 生稲史彦（2012）『開発生産性のダイレンマ』有斐閣 近能善範・高井文子（2010）『コア・テキスト イノベーション・マネジメント』新世社 中川功一（2011）『技術革新のマネジメント』有斐閣 延岡健太郎（2006）『MOT[技術経営]入門』日本経済新聞社 小川絃一（2015）『オープン&クローズ戦略 増補改訂版』翔泳社 新宅純二郎（1994）『日本企業の競争戦略』有斐閣 新宅純二郎・天野倫文編（2009）『ものづくりの国際経営戦略』有斐閣 高橋伸夫編著（2011）『よくわかる経営管理』ミネルヴァ書房 武石彰・青島矢一・軽部大（2012）『イノベーションの理由』有斐閣 立本博文（2017）『プラットフォーム企業のグローバル戦略』有斐閣 都留康・守島基博編著（2012）『世界の工場から世界の開発拠点へ』東洋経済新報社</p>			
<p>〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕</p> <p>ポータルサイトで周知する。</p>			
<p>〔特記事項〕</p>			

科目名	環境と経営戦略						
教員名	田口 誠						
科目No.	122523000	単位数	2	配当年次	2年生	開講時期	2025 後期
<p>〔テーマ・概要〕</p> <p>テーマ：「企業戦略と自然環境問題」</p> <p>本講義では、企業の環境マネジメントに関連した具体的なトピックを取り上げ、経営学の側面から詳しく分析する。例えば、</p> <p>(1) 企業の環境対策は収益性を高めるのか？</p> <p>(2) ISO14000 シリーズの認証取得は本当に環境を改善させる効果を持つのか？</p> <p>(3) どのような特性を持つ消費者が環境にやさしい製品を積極的に買うか？</p> <p>(4) 企業は戦略上、どのような商品について優先的に環境対策を進めていくべきか？</p> <p>(5) 企業が環境情報を開示することで、株価はどの程度の影響を受けるのか？</p> <p>といった基本的かつ重要な疑問に対して、国内外の企業の事例や統計、調査研究例を紹介しながら議論する。</p>							
<p>〔到達目標〕</p> <p>DPI（専門分野の知識・技能）を実現するため、次の点を到達目標とする。</p> <p>1. 企業が直面する環境問題の性質や、環境対策の内容について説明できるようにすること。</p> <p>2. 経営学の各分野の理論を用いて、環境経営に関わる問題の解決を提案できるようにすること。</p>							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修の目安（分）	
第1回	ガイダンス ・授業の全体像、進め方、予習・復習の仕方等を説明する。 ・環境経営について、その概略を説明する。			【復習】環境経営を学ぶ意義について説明できるようにする。		60	
第2回	企業の収益性と環境対策 ・環境対策が企業の収益性に与える影響について考える。			【復習】授業で取り上げた概念やキーワードについて説明できるようにする。		60	
第3回	環境に配慮した製品設計・生産：エネルギー ・エネルギー消費に重点を置き、製品設計や生産の面から企業の環境対策について考える。			【復習】授業で取り上げた概念やキーワードについて説明できるようにする。		60	
第4回	環境に配慮した製品設計・生産：有害化学物質 ・有害化学物質に重点を置き、製品設計や生産の面から企業の環境対策について考える。			【復習】授業で取り上げた概念やキーワードについて説明できるようにする。		60	
第5回	環境に配慮した製品設計・生産：LCA ・環境に配慮した生産を支援する手法としての LCA について学ぶ。			【復習】授業で取り上げた概念やキーワードについて説明できるようにする。		60	
第6回	製品差別化と環境対策 ・環境対策を通じた製品の差別化について学ぶ。			【復習】授業で取り上げた概念やキーワードについて説明できるようにする。		60	
第7回	グリーン・マーケティング ・環境に配慮した製品のマーケティングについて考える。			【復習】授業で取り上げた概念やキーワードについて説明できるようにする。		60	
第8回	環境と消費者行動 ・消費者は環境に配慮した製品についてどのように考え、行動するかについて考える。			【復習】授業で取り上げた概念やキーワードについて説明できるようにする。		60	
第9回	ISO14000 と企業組織 ・組織における環境対策手法としての ISO14000 の意義について考える。			【復習】授業で取り上げた概念やキーワードについて説明できるようにする。		60	
第10回	組織としての環境対策の発展 ・企業における環境対策が歴史的にどのように発展して来たかについて説明する。			【復習】授業で取り上げた概念やキーワードについて説明できるようにする。		60	
第11回	政府の規制と企業の戦略的行動 ・政府の環境規制と企業行動の関係性について考える。			【復習】授業で取り上げた概念やキーワードについて説明できるようにする。		60	
第12回	企業による自主的な環境対策の効果と収益性 ・企業の自主的な環境対策が環境や経営に与える効果について考える。			【復習】授業で取り上げた概念やキーワードについて説明できるようにする。		60	
第13回	環境情報の公開と株価 ・環境情報の公開が企業価値に与える影響について考える。			【復習】授業で取り上げた概念やキーワードについて説明できるようにする。		60	
第14回	企業の環境対策と歴史 ・これまでに企業の環境対策に対する考え方がどのように変化してきたかを学ぶ。			【復習】授業で取り上げた概念やキーワードについて説明できるようにする。		60	
<p>〔授業の方法〕</p> <p>授業は講義を中心に進める。普段から講義資料を使った復習に力を入れ、次回の授業にわからない点を持ち越さないようにすること。また、授業中に課題を提示し、レポートの提出を求めることがある。</p> <p>なお、課題レポート、学期末試験の狙いは以下の通りである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・課題レポート：講義の内容が理解できているかを確認する。 ・学期末試験：授業全体の学修内容についての理解度を確認する。 							

<p>〔成績評価の方法〕 学期末試験 70%、課題レポート 30%をめやすとして総合的に評価する。</p>
<p>〔成績評価の基準〕 成蹊大学の成績評価基準（学則第 38, 39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.38, 39. 次の点に着目し、その達成度により評価する。 1. 企業が直面する環境問題の性質や、環境対策の必要性について、事例を交えながら論理的にわかりやすく説明できる。 2. マーケティング、消費者行動、ファイナンスなどの理論を用いて、環境経営に関わる諸問題の解決を提案できる。</p>
<p>〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕 この科目は経営学部の2年生以上の配当科目であり、他学部の履修者は『企業と社会』を修得済または履修中であることが望ましい。</p>
<p>〔テキスト〕 特になし。</p>
<p>〔参考書〕 講義の中で適宜、紹介する。</p>
<p>〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕 ポータルサイトの『オフィスアワー』で周知します。 また、授業終了後に教室で受け付けます。</p>
<p>〔特記事項〕</p>

科目名	企業の国際戦略						
教員名	平尾 由紀子						
科目No.	122524000	単位数	2	配当年次	2年生	開講時期	2025 後期
<p>[テーマ・概要]</p> <p>まず、国際経済のミクロ経済学的側面について講義する。財・サービスの貿易理論、通商政策、および国際経済の時事問題などについて学ぶ。次に、貿易、外国為替取引、および海外直接投資について企業戦略の事例を紹介する。様々な企業の事例を通じて、企業の国際戦略に関する理解を深めてほしい。</p>							
<p>[到達目標]</p> <p>DP1（専門分野の知識・技能）とDP3（課題の発見と解決）を実現するため、以下を到達目標とする。</p> <p>①貿易の経済理論を学ぶことにより、日本や海外諸国の貿易の特徴と変遷に関する知識を深める。</p> <p>②貿易が各国経済に及ぼす厚生効果について学び、通商政策と国際貿易体制に関する理解を深める。</p> <p>③貿易と海外直接投資に関する企業の国際戦略についての事例を習得する。</p>							
[授業の計画と準備学修]							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）			準備学修の目安（分）
第1回	イントロダクション ・国際収支と日本の貿易パターンの変遷			【復習】 授業の内容を復習する。			60
第2回	リカード・モデル#1 ・絶対優位と比較優位の概念			【復習】 授業の内容をよく理解した上で、宿題1に取り組む。			120
第3回	宿題1の解説 課題レポートのテーマを指示 リカード・モデル#2 ・貿易パターン、交易条件と貿易の利益			【復習】 授業の内容を復習する。宿題1の理解を確認する。			60
第4回	ヘクシャー=オリーン・モデル#1 ・自国と外国の生産可能領域			【復習】 授業の内容をよく理解した上で、宿題2に取り組む。			120
第5回	宿題2の解説 ヘクシャー=オリーン・モデル#2 ・貿易のパターンと交易条件			【復習】 授業の内容を復習する。宿題2の理解を確認する。 【予習】 課題レポートの課題について調べ始める。			90
第6回	ヘクシャー=オリーン・モデル#3 ・貿易と所得分配			【復習】 授業の内容をよく理解した上で、宿題3に取り組む。			120
第7回	宿題3の解説 貿易の利益と貿易政策の経済分析			【復習】 授業の内容を復習する。宿題3の理解を確認する。 【予習】 課題レポートの課題について引き続き調べる。			90
第8回	貿易を行う企業の国際戦略#1 ・海外進出の3形態 ・貿易の実務と資金の流れ			【復習】 授業の内容をよく理解した上で、宿題4に取り組む。			120
第9回	宿題4の解説 貿易を行う企業の国際戦略#2 ・企業の輸出努力の事例 ・企業の価格設定とダンピング			【復習】 授業の内容を復習する。宿題4の理解を確認する。 【予習】 課題レポートのテーマについて引き続き調べる。			90
第10回	外国為替取引#1 ・外国為替取引と為替レートの変遷			【復習】 授業の内容をよく理解した上で、宿題5に取り組む。			120
第11回	宿題5の解説 外国為替取引#2 ・為替リスクとリスクヘッジ			【復習】 授業の内容を復習する。宿題5の理解を確認する。 【予習】 課題レポートの執筆を始める。			120
第12回	海外直接投資#1 ・海外直接投資の現状と現地法人の設立方法			【復習】 授業の内容をよく理解した上で、宿題6に取り組む。			120
第13回	宿題6の解説 海外直接投資#2 ・企業の海外直接投資の目的 ・多国籍企業			【復習】 授業の内容を復習する。宿題6の理解を確認する。 【予習】 課題レポートの執筆を続ける。			120
第14回	海外直接投資#3 ・移転価格と税制 ・海外直接投資の経済効果 全体のまとめ			【復習】 学期全体の内容の復習と理解に努める。			120
<p>[授業の方法]</p> <p>授業時にはプリントを配布し、それをもとに講義を行う。授業中の短い演習問題と授業外の演習を定期的に課して、学生の理解度を見ながら授業を進める。学生は、これらの課題に取り組むことにより、授業の復習をする。分からないことを次回の授業に持ち越さないようにする。また、上で示された準備学修の時間はあくまで目安であって、各自の理解度に応じて取り組むこと。</p> <p>なお、演習、宿題と期末レポートの狙いは、以下のとおりである。</p> <p>・授業中の短い演習と授業外の宿題：その時々授業内容の理解を確認する。</p> <p>・期末レポート：現実の国際貿易のしくみと企業の国際戦略の事例について各自が調べることにより、知識を深めることを目的とする。</p>							

<p>[成績評価の方法]</p> <p>平常点(評価の60%程度)と学期末の課題レポート(評価の40%程度)を目安として、総合的に成績評価する。 平常点は、授業中の演習問題(毎授業時提出)と、授業外で取り組む宿題(隔週提出)から成る。</p>
<p>[成績評価の基準]</p> <p>成蹊大学の成績評価基準(学則第38条、第39条)に準拠する。また、次の点に着目し、その達成度により評価する。</p> <p>①日本や海外諸国の貿易の特徴と変遷に関する理論的・現実的な理解を深めている。 ②貿易が各国経済に及ぼす厚生効果、および通商政策と国際貿易体制について説明することができる。 ③企業の国際戦略の多様な事例に関する知識を深めている。</p>
<p>[必要な予備知識/先修科目/関連科目]</p> <p>国際貿易の理解には、「ミクロ経済学の基礎」、「国際経営」などの科目が役に立つ。ただし、これらの科目を履修していなくても差し支えない。</p>
<p>[テキスト]</p> <p>・大川昌幸(2015)『コア・テキスト 国際経済学 第2版』、新生社、2,650円+税 (ISBN978-4-88384-232-2)。 ただし、授業時に講義プリントを配布するので、テキストの購入は不要。</p>
<p>[参考書]</p> <p>・若杉隆平(2009)、『国際経済学 第3版』、岩波書店、2600円+税 (ISBN978-4-00-026699-4)。 ・P.クルーグマンとM.オブズフェルド(1997)、『国際経済 I 国際貿易』、新生社、3,800円+税 (ISBN4-915787-58-3)。 ・木村福成(2000)、『国際経済学入門』、日本評論社、3,200円+税 (ISBN4-535-55128-6)。 ・土屋六郎編著(1997)、『国際経済学』、東洋経済新報社、2,300円+税 (ISBN4-492-81431-0)。 ・R. Feenstra and A. Taylor (2012), "International Economics, Second Edition," Worth Publishers. 以上はいずれも購入の必要なし。</p>
<p>[質問・相談方法等(オフィス・アワー)]</p> <p>ポータルサイトで周知する。</p>
<p>[特記事項]</p>

科目名	応用発展特殊講義A（流通と商業）						
教員名	河塚 悠						
科目No.	122525000	単位数	2	配当年次	2年生	開講時期	2025 後期
<p>〔テーマ・概要〕</p> <p>この講義では、流通に関する基本的な概念や理論的枠組みを学修し、流通のあり方を修得します。</p> <p>生産された商品が消費されるまでの間には、所有、空間、時間、情報などの点で隔たりがあります。その生産と消費の隔たりの橋渡しをするのが流通です。流通は私たちが日常生活を送るうえで重要な役割を果たしています。私たちは、最近の新型コロナウイルスの流行や大雨・大雪・地震などの自然災害の発生など様々な非常事態に見舞われています。このような状況下にあっても日常生活が滞りなく送れているのには、流通が大きく貢献しています。</p> <p>そんな流通を取り巻く環境は、インターネットショッピングの普及に伴い、大きく変化しています。この頃よく話題にのぼっている「物流 2024 年問題」「2025 年の崖」は流通に関連する重大な問題であり、流通に関わるさまざまな業界でこの問題への対応が急務となっています。</p> <p>このようなことを背景に、この講義では流通の仕組みや基本的な概念や理論的枠組みについて解説し、近年の流通を取り巻く環境の変化や流通業の様々な取り組み、直面している課題について考えていきます。</p>							
<p>〔到達目標〕</p> <p>DP1（専門分野の知識・技能）を実現するために、以下を到達目標とします。</p> <p>(1) 流通論の基礎的な概念や理論的枠組みが十分理解できる。</p> <p>(2) 修得した基礎知識をもとに、身近な流通に関する課題を分析・解釈できる。</p> <p>(3) これからの流通のあり方について、学生それぞれが見解を持つことができる。</p>							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修の目安（分）	
第1回	▼イントロダクション ・講義の進め方について説明する。 ・成績評価について説明する。			▼予習 シラバスで講義のテーマと内容を把握しておく。		60	
第2回	▼流通とは ・流通の役割について説明する。 ・流通の担い手について説明する。			▼予習 ・日常生活の中で、新聞の経済面やニュースの経済コンテンツに関心を持って過ごす。 ▼復習 ・講義で取り上げた内容を再度見直す。 ・講義で取り上げた内容に関連する事例を自分で調べる。		60	
第3回	▼流通によって”流れるもの”とは① ・流通フローについて説明する。 ・商流について説明する。			▼予習 ・日常生活の中で、新聞の経済面やニュースの経済コンテンツに関心を持って過ごす。 ▼復習 ・講義で取り上げた内容を再度見直す。 ・講義で取り上げた内容に関連する事例を自分で調べる。		60	
第4回	▼流通によって”流れるもの”とは② ・物流について説明する。 ・物流業者について説明する。 ・「2024年問題」について解説する。			▼予習 ・日常生活の中で、新聞の経済面やニュースの経済コンテンツに関心を持って過ごす。 ▼復習 ・講義で取り上げた内容を再度見直す。 ・講義で取り上げた内容に関連する事例を自分で調べる。		60	
第5回	▼流通によって”流れるもの”とは③ ・情報流について説明する。 ・補助流通について説明する。			▼予習 ・日常生活の中で、新聞の経済面やニュースの経済コンテンツに関心を持って過ごす。 ▼復習 ・講義で取り上げた内容を再度見直す。 ・講義で取り上げた内容に関連する事例を自分で調べる。		60	
第6回	▼流通の担い手：卸売業者とは① ・卸売業の機能と卸売業者の役割について説明する。 ・卸売業者の諸活動について説明する。			▼予習 ・日常生活の中で、新聞の経済面やニュースの経済コンテンツに関心を持って過ごす。 ▼復習 ・講義で取り上げた内容を再度見直す。 ・講義で取り上げた内容に関連する事例を自分で調べる。		60	
第7回	▼流通の担い手：卸売業者とは② ・卸売業者と呼ばれるさまざまな流通業者を紹介する。			▼予習 ・日常生活の中で、新聞の経済面やニュースの経済コンテンツに関心を持って過ごす。 ▼復習 ・講義で取り上げた内容を再度見直す。 ・講義で取り上げた内容に関連する事例を自分で調べる。		60	
第8回	▼流通の担い手：小売業者とは① ・小売業の機能と小売業者の役割について説明する。 ・小売業者の諸活動について説明する。			▼予習 ・日常生活の中で、新聞の経済面やニュースの経済コンテンツに関心を持って過ごす。 ▼復習 ・講義で取り上げた内容を再度見直す。 ・講義で取り上げた内容に関連する事例を自分で調べる。		60	
第9回	▼流通の担い手：小売業者とは② ・小売業者と呼ばれるさまざまな流通業者を紹介する。			▼予習 ・日常生活の中で、新聞の経済面やニュースの経済コンテンツに関心を持って過ごす。 ▼復習 ・講義で取り上げた内容を再度見直す。 ・講義で取り上げた内容に関連する事例を自分で調べる。		60	

第10回	<p>▼流通の担い手：小売業者とは③</p> <ul style="list-style-type: none"> ・商業集積について説明する。 ・小売間競争について説明する。 	<p>▼予習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日常生活の中で、新聞の経済面やニュースの経済コンテンツに関心を持って過ごす。 <p>▼復習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講義で取り上げた内容を再度見直す。 ・講義で取り上げた内容に関連する事例を自分で調べる。 	60
第11回	<p>▼流通業の構造と変化①</p> <ul style="list-style-type: none"> ・卸売業の現況を説明する。 ・卸売業の構造の変化を説明する理論について説明する。 	<p>▼予習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日常生活の中で、新聞の経済面やニュースの経済コンテンツに関心を持って過ごす。 <p>▼復習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講義で取り上げた内容を再度見直す。 ・講義で取り上げた内容に関連する事例を自分で調べる。 	60
第12回	<p>▼流通業の構造と変化②</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小売業の現況を説明する。 ・小売業の構造の変化を説明する理論について説明する。 	<p>▼予習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日常生活の中で、新聞の経済面やニュースの経済コンテンツに関心を持って過ごす。 <p>▼復習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講義で取り上げた内容を再度見直す。 ・講義で取り上げた内容に関連する事例を自分で調べる。 	60
第13回	<p>▼日本の流通の革新と課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本の流通にみられる特徴を説明する。 ・流通業（卸売業・小売業）の革新と課題について説明する。 ・物流業の革新と課題について説明する。 	<p>▼予習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日常生活の中で、新聞の経済面やニュースの経済コンテンツに関心を持って過ごす。 <p>▼復習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講義で取り上げた内容を再度見直す。 ・講義で取り上げた内容に関連する事例を自分で調べる。 	60
第14回	<p>▼まとめ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第13回までの振り返り ・総括 	<p>▼予習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日常生活の中で、新聞の経済面やニュースの経済コンテンツに関心を持って過ごす。 <p>▼復習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講義で取り上げた内容を再度見直す。 ・講義で取り上げた内容に関連する事例を自分で調べる。 	120
<p>〔授業の方法〕</p> <p>講義形式で進めていきます。講義では教科書とパワーポイントで作成した講義資料を用います。履修者には同様の講義資料を配布しますが、空欄をもうけていますので、自分で埋めながら講義を聞いてください。授業内では履修者に発言を求めることがあります。講義毎にミニレポートを実施します。</p>			
<p>〔成績評価の方法〕</p> <p>授業内で実施するミニレポート（40%）、期末テスト（60%）、受講態度などから総合的に評価します。</p>			
<p>〔成績評価の基準〕</p> <p>成蹊大学の成績評価基準（学則第 38, 39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.38 & 39.</p> <p>達成目標の</p> <p>(1) 流通論の基礎的な概念や理論的枠組みが十分理解できる。</p> <p>(2) 修得した基礎知識をもとに、身近な流通に関する課題を分析・解釈できる。</p> <p>に特に着目して成績評価をする。</p>			
<p>〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕</p> <p>この科目は経営学部の 2 年生以上の配当科目である。経営学部の履修者は『マーケティング』を修得済みであることが望ましい。他学部の履修者は『企業と社会』を修得済みまたは履修中であることが望ましい。</p> <p>関連科目：「マーケティング」「ブランド戦略」「消費者行動」「マーケティング・リサーチ」「広告と市場」など経営関連科目全般。</p>			
<p>〔テキスト〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・『基礎からの商業と流通 [第4版]』、石川和男、中央経済社。(3,300円) 			
<p>〔参考書〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・『体系 流通論（新版第2版）』、田口冬樹、白桃書房。(3,740円) ・『1からの流通論(第2版)』、石原武政・竹村正明、中央経済社。(2,640円) ・『流通論をつかむ』、渡辺達朗・原頼利・遠藤明子・田村晃二、有斐閣。(2,970円) <p>※購入の必要はありません。</p>			
<p>〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕</p> <p>ポータルサイトで周知します。</p> <p>また、授業終了後に教室で受け付けます。</p>			
<p>〔特記事項〕</p>			

科目名	人事政策						
教員名	義村 敦子						
科目No.	122532000	単位数	2	配当年次	2年生	開講時期	2025 前期
<p>〔テーマ・概要〕 現代の組織において、ヒト（人的資源）は最も大切な経営資源です。また、多くの受講生が卒業後に企業の組織メンバーとして仕事をするという意味でも、人的資源の活用法は身近な問題と言えます。この授業では、人のマネジメントに関する主な理論を、歴史的な変遷を踏まえながら学びます。そして、人のマネジメントに関する諸理論は時代とともに変化していることや、その変化は仕事内容や働く人自身の仕事観の変化と密接に関連していることもディスカッションなどを通じて学んでいきます。</p>							
<p>〔到達目標〕 この授業の到達目標は、DP1（専門分野の知識・技能）を実現するため、以下の2点とします。 ①人のマネジメントに関する諸理論をその成立背景を踏まえて理解する。 ②労働市場の現状と今後の変化について人のマネジメントの観点から考えるための基礎が身につく。</p>							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修の目安（分）	
第1回	・ガイダンス：授業内容、進め方、予習・復習の仕方などを説明する。 ・労務管理から人的資源管理へ			【復習】授業内容を配布資料をもとにして確認する。		60	
第2回	テイラーの科学的管理法 労働市場の現状①			【復習】当該理論の特徴を理解する。労働市場に関するキータムの意味を説明できるようにする。		60	
第3回	ウェーバーの組織論 労働市場の現状②			【復習】当該理論の特徴を理解する。労働力の構造を確認する。		60	
第4回	フアヨールの古典的経営管理論			【復習】当該理論の特徴を理解する。2～4回を整理して各理論の特徴と共通点を説明できるようにする。キーワードを用いて実際の労働市場の現状を調べる。		120	
第5回	メイヨーの人間関係論			【復習】当該理論の特徴を理解する。		60	
第6回	レスリスバウガーの人間論的組織論			【復習】当該理論の特徴を理解する		60	
第7回	バーナー下の組織論			【復習】当該理論の特徴を理解する。		60	
第8回	マズローの欲求段階説			【復習】当該理論の特徴を理解する。		60	
第9回	マクレガーのX理論Y理論			【復習】当該理論の特徴を理解する。		60	
第10回	ハーズバーグの動機づけ・衛生理論			【復習】当該理論の特徴を理解する。		60	
第11回	マーチ＝サイモンの組織行動論			【復習】当該理論の特徴を理解する。		60	
第12回	人事政策の現状と今後Ⅰ			【予習】前回の授業において指示した労働市場の現状について事前に調べておく。		120	
第13回	人事政策の現状と今後Ⅱ			【予習】前回の授業において指示した労働市場の現状について事前に調べておく。		60	
第14回	人事政策の現状と今後Ⅲ			【予習】前回の授業において指示した労働市場の現状について事前に調べておく。		60	
<p>〔授業の方法〕 基本的に講義形式をとります。具体的にはパワーポイントによる教材提示をしながら授業を進めます。授業内容に基づいて複数回のレポート提出を求めます。評価の基準は講義中にその都度明らかにします。</p>							
<p>〔成績評価の方法〕 平常点（授業への積極的参加）20％と提出されたレポート（複数回の合計点）80％によって総合的に評価します。</p>							
〔成績評価の基準〕							

成蹊大学の成績評価基準（学則第 38 条および第 39 条）に準拠する。/ Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 38 and No. 39.

次の 2 点に着目し、その達成度により評価します。

- ①人のマネジメントに関する諸理論とその成立背景を理解し、説明できる。
- ②労働市場の現状を人のマネジメントの観点から把握し、説明できる。

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕

この科目は経営学部の 2 年生以上の配当科目であり、他学部の履修者は『企業と社会』を修得済または履修中であることが望まれます。幅広い理解のために『労働市場のしくみと制度』、『人的資源管理』、『労働経済学』、『労働法』の受講を推奨します。

〔テキスト〕

特に指定しません。

〔参考書〕

必要に応じて指定します。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕

ポータルサイトの『オフィスアワー』で周知します。また、コースパワー内に示した授業担当者メールアドレスでも質問を受け付けます。

〔特記事項〕

アクティブ・ラーニング

科目名		意思決定科学					
教員名		野際 大介					
科目No.	122533000	単位数	2	配当年次	2年生	開講時期	2025 前期
<p>[テーマ・概要]</p> <p>「意思決定の正解はあるのか？」</p> <p>我々は多様な場面で選択に迫られています。例えば、進学先の大学を決めたり、就職先を決めたり、日々選択の連続です。もちろん、人だけでなく、企業などの組織も常に選択をしています。ここでは、何らかの目標達成のために複数の選択肢から最もふさわしいと思う選択肢を選んでいきます。この行動を意思決定と言います。このように意思決定には、さまざまな背景のもとで意思決定をしており、人や組織が持っている感情、経験、情報などに左右されることは容易に想像つくでしょう。結果として合理的な意思決定をする場合もありますし、非合理的な意思決定をする場合ももちろんあります。</p> <p>本講義では、この「意思決定」に着目し、どのような意思決定の方法があり、人や組織がどのように意思決定行動をするのかについて、科学的な観点から理解を進めることとします。</p>							
<p>[到達目標]</p> <p>本講義では、以下の(1)～(3)を習得することを到達目標とします。</p> <p>(1) 科学的な意思決定の意義と内容についての理解 (2) 意思決定の客観的な評価に関する枠組みの理解 (3) 科学的な意思決定の考え方を企業経営に応用する技術</p> <p>以上、DP1（専門分野の知識・技能）、DP3（課題の発見と解決）を実現することを目的としています。</p>							
[授業の計画と準備学修]							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修の目安（分）	
第1回	ガイダンス ・講義の進め方とスケジュール確認 ・本講義の位置づけ			予習 ・シラバスで学ぶ内容について確認する ・自身の重大な意思決定に関する結果とそれにいたる背景をまとめる 復習 ・講義内容のレビュー		60	
第2回	消費者行動の意思決定 ・消費者の意思決定プロセスとは ・補償型と非補償型の意思決定 ・消費者行動のモデルとは			予習 ・消費者行動の意思決定にどのようなものがあるか確認する 復習 ・講義内容のレビュー		60	
第3回	オペレーションズ・リサーチと意思決定(1) ・モデルによる分析とオペレーションズ・リサーチ ・数理計画の基礎 ・在庫管理モデルと最適発注			予習 ・意思決定とオペレーションズ・リサーチの関係について確認する 復習 ・講義内容のレビュー		60	
第4回	オペレーションズ・リサーチと意思決定(2) ・線形計画の定式化 ・Microsoft Excel のソルバーを用いた数理計画の解法・アルバイットのシフト自動作成			予習 ・Microsoft Excel のソルバーアドインを利用可能にする ・ソルバーとは何か調べる 復習 ・講義内容のレビュー		60	
第5回	最適停止問題 ・最適停止問題とは ・結婚問題／秘書問題 ・何人目の人と結婚すればよいか？			予習 ・最適停止問題における結婚問題とは何か調べる 復習 ・講義内容のレビュー		60	
第6回	階層化意思決定法（AHP） ・階層化意思決定法とは ・複数の目的から意思決定する方法とは ・最もよいリーダーを選ぼう！			予習 ・階層化意思決定法とは何か調べる ・一対比較とは何か調べる 復習 ・講義内容のレビュー		60	
第7回	不確実性のもとの意思決定 ・不確実性のもとの意思決定とは ・意思決定の基準 ・完全情報と不完全情報			予習 ・意思決定論における意思決定の基準とは何か調べる ・情報の価値とは何か調べる 復習 ・講義内容のレビュー		60	
第8回	決定木 ・リスクのもとの意思決定を可視化する決定木とは ・条件付き確率とベイズの定理			予習 ・条件付き確率について復習する ・決定木とは何か調べる 復習 ・講義内容のレビュー		60	
第9回	戦略的意思決定(1) ・ゲーム理論を応用した意思決定とは ・パレート最適とは			予習 ・ゲーム理論について確認する 復習 ・講義内容のレビュー		60	
第10回	戦略的意思決定(2)と問題演習 ・純粋戦略と混合戦略とは ・ナッシュ均衡 ・不確実性下の意思決定に関する復習			予習 ・純粋戦略と混合戦略の違いについて調べる 復習 ・講義内容のレビュー		60	
第11回	集団的意思決定 ・社会選択理論とは ・意見集約の方法について ・戦略的操作とは			予習 ・集団的意思決定とは何か調べる ・選挙について調べる 復習 ・講義内容のレビュー		60	

第12回	社会的選択理論と意思決定 ・多数決は正しいのか？－ボルダールー ・代替案の絞り込み	予習 ・社会的選択理論とは何か調べる 復習 ・講義内容のレビュー	60
第13回	行動経済学と意思決定 ・行動経済学と意思決定の関係 ・ヒューリスティクスとは ・プロスペクト理論	予習 ・行動経済学とは何か調べる ・ヒューリスティクスとは何か調べる ・自身の日々の意思決定行動を整理する 復習 ・講義内容のレビュー	60
第14回	まとめ／理解度確認チェック ・総括 ・理解度確認	予習 ・第1回～第13回の講義内容をレビューする 復習 ・俯瞰的に見た意思決定の理論についてまとめる	120
<p>〔授業の方法〕 講義形式で進める。講義内で問題演習を実施する。 ノートパソコンで Microsoft Excel など利用するときには予め案内する。</p>			
<p>〔成績評価の方法〕 課題演習（50%）＋理解度確認チェック（50%）にて総合評価をする。</p>			
<p>〔成績評価の基準〕 成蹊大学の成績評価基準（学則第38条、第39条）に準拠する。 以下の観点から、到達度や理解度の評価する。 (1) 科学的な意思決定の意義と内容についての理解が進んでいるか (2) 意思決定の客観的な評価に関する枠組みの理解がされているか (3) 科学的な意思決定の考え方を企業経営に応用する技術が習得できているか</p>			
<p>〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕 経営数学A、ゲーム理論</p>			
<p>〔テキスト〕 特になし</p>			
<p>〔参考書〕 『経営のための意思決定論入門』佐々木康朗(2023)オーム社 2,970円 『文科系のための意思決定分析入門』上田泰(2002)日科技連出版社 2,640円 『多数決を疑う－社会的選択理論とは何か』坂井 豊貴(2015)岩波書店 902円 『ビジネス教養 行動経済学』阿部 誠(2021)新星出版社 1,320円</p>			
<p>〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕 ポータルサイトでオフィスアワーを周知する。また、講義終了後、教室で受け付けます。</p>			
<p>〔特記事項〕</p>			

科目名		職場の心理学<1>					
教員名		清水 直美					
科目No.	122534000	単位数	2	配当年次	2年生	開講時期	2025 後期
<p>〔テーマ・概要〕</p> <p>経営学の起源は、ホーソン実験による科学的管理法から、つまり働く側のモチベーションという概念への気付きからとされています。こうしたことから、経営学において心理学は極めて重要な考え方と言えます。また近年、日本の職場では、諸外国と比べた生産性の低さが指摘されたり、従業員が心身の不調から長期休業に至るといったメンタルヘルスの問題が多く見られるようになり、企業にとっても深刻な経営的課題となっています。一方、従業員が健康でいきいきと働き続けるためにも企業は多くの施策を実行しており、そこには心理学的知見が多数活用されています。</p> <p>そこで本科目では、職場におけるさまざまな心理的問題について以下の2つの柱から学びます。第1に、職場・組織・人事制度について整理し「働くということ」を学んだ上で、それを心理学的視点から理解します。第2に社会生活に役立つ経営学と心理学の知識をケースを用いてさまざまな考え方やスキルを学びます。これらの学びを通して、将来職場で遭遇するであろう出来事を予測・理解し、また実際に遭遇した際に、授業で学んだ知識やスキルを用いて問題を解決したり周囲に適切な援助を求められるようになってもらいたいと思います。</p>							
<p>〔到達目標〕</p> <p>DP1（専門分野の知識・技能の修得）を実現するために、以下を到達目標とします。</p> <p>1 現在職場で起きている状況やそこで働く人々の心理的問題について、個人の視点と経営的課題の視点の双方から興味・関心をもち、特に興味をもった特定テーマについて説明できるようになる。</p> <p>2 自分の将来の社会人生活とキャリア形成に役立つための基礎知識として、活用できるようになる。</p>							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修の目安（分）	
第1回	ガイダンス ・授業のねらいや進め方、授業計画、評価基準等について説明する。 ・授業で用いる用語（専門用語を含む）について説明する。			【予習】シラバスを読み、あらかじめ講義内容を把握する。 【復習】課題の実施と提出。授業の全体像や進め方、評価基準、主な専門用語等について確認し、不明な点があれば次回質問できるように準備する。		【予習】30 【復習】60	
第2回	働くということ ①この社会に生きるという事 ②働くことと職業に就いて働くこと ③学ぶことと働くこと			【予習】自身で関心のあるテーマについて調べておく。 【復習】課題の実施と提出。不明な点があれば次回質問できるように準備する。		【予習】30 【復習】60	
第3回	採用と就職 ①企業における採用管理 ②採用計画の立案 ③採用活動の展開			【予習】自身で関心のあるテーマについて調べておく 【復習】課題の実施と提出。不明な点があれば次回質問できるように準備する。		【予習】30 【復習】60	
第4回	組織と私 ①組織における職業生活のはじまり ②組織適応・不適応の結果 ③組織へうまく適応するには			【予習】自身で関心のあるテーマについて調べておく 【復習】課題の実施と提出。不明な点があれば次回質問できるように準備する。		【予習】30 【復習】60	
第5回	リーダーシップ ①リーダーシップとは ②環境変化とリーダーシップ ③ダイナミックな環境におけるリーダー			【予習】自身で関心のあるテーマについて調べておく 【復習】課題の実施と提出。不明な点があれば次回質問できるように準備する。		【予習】30 【復習】60	
第6回	ワークモチベーション ①やる気の源泉 ②認知的選択理論 ③やる気が強まるプロセス			【予習】自身で関心のあるテーマについて調べておく 【復習】課題の実施と提出。不明な点があれば次回質問できるように準備する。		【予習】30 【復習】60	
第7回	コミュニケーション ①職場の人間関係 ②仕事をしやすくなるコミュニケーション			【予習】自身で関心のあるテーマについて調べておく 【復習】課題の実施と提出。不明な点があれば次回質問できるように準備する。		【予習】30 【復習】60	
第8回	キャリア発達 ①キャリアとは ②キャリア発達理論 ③新しいキャリアパラダイム			【予習】自身で関心のあるテーマについて調べておく 【復習】課題の実施と提出。不明な点があれば次回質問できるように準備する。		【予習】30 【復習】60	
第9回	人事マネジメント ①人事マネジメントの特徴 ②業績評価 ③教育研修			【予習】自身で関心のあるテーマについて調べておく 【復習】課題の実施と提出。不明な点があれば次回質問できるように準備する。		【予習】30 【復習】60	
第10回	起業 ①なぜ誰が起業するのか ②起業の心理学 ③起業成功のメカニズム			【予習】自身で関心のあるテーマについて調べておく 【復習】課題の実施と提出。不明な点があれば次回質問できるように準備する。		【予習】30 【復習】60	
第11回	経営革新 ①企業の成長と経営革新 ②経営革新の心理学 ③経営革新を実現する組織			【予習】自身で関心のあるテーマについて調べておく 【復習】課題の実施と提出。不明な点があれば次回質問できるように準備する。		【予習】30 【復習】60	
第12回	心の健康 ①ストレス ②メンタルヘルス ③セルフケアとラインケア			【予習】自身で関心のあるテーマについて調べておく 【復習】課題の実施と提出。不明な点があれば次回質問できるように準備する。		【予習】30 【復習】60	
第13回	働く環境の質 ①安全な作業環境を保つ組織 ②安心して働ける組織とは			【予習】自身で関心のあるテーマについて調べておく 【復習】課題の実施と提出。不明な点があれば次回質問できるように準備する。		【予習】30 【復習】60	

		る。	
第14回	働くことと心理学 ①モチベーション管理 ②リーダーシップ ③マーケティング分野の研究	【予習】自身で関心のあるテーマについて調べておく 【復習】課題の実施と提出。不明な点があれば次回質問できるように準備する。	【予習】30 【復習】60
<p>〔授業の方法〕 リアクションペーパーの提出により出席を確認します。 なお、授業の進捗により、内容を一部変更する場合があります。</p>			
<p>〔成績評価の方法〕 「学期末試験」の結果を50%、「授業中に課すリアクションペーパー(毎回)」結果を50%とし、これらを総合的に評価します。 また講義中に対する質問、積極的な参加については平常点としてプラスに評価します。 なお、上記の通り単位取得には総合的な学修が求められます。授業は出席することが前提であるため、安定した出席が見込めるかどうかをよく考えた上で履修すること。</p>			
<p>〔成績評価の基準〕 成蹊大学の成績評価基準(学則第38条、39条)に準拠する。次の点に着目し、その達成度により評価します。 現在職場で起きている状況やそこで働く人々の心理的問題について、個人の観点と経営的課題の観点の双方から興味・関心を持ち、特に興味をもった特定テーマについて説明することができるか 2本講義の内容を自分の将来の社会人生活とキャリア形成に役立てるための基礎知識として理解できているか</p>			
<p>〔必要な予備知識/先修科目/関連科目〕 適宜、指示します。</p>			
<p>〔テキスト〕 授業はパワーポイントを使用し、毎回事前に必要な授業資料を公開します。</p>			
<p>〔参考書〕 購入の必要なし</p>			
<p>〔質問・相談方法等(オフィス・アワー)〕 ポータルサイトで周知する。 授業終了後に教室で受け付けます。</p>			
<p>〔特記事項〕</p>			

科目名		職場の心理学<2>					
教員名		清水 直美					
科目No.	122534100	単位数	2	配当年次	2年生	開講時期	2025 後期
<p>〔テーマ・概要〕</p> <p>経営学の起源は、ホーソン実験による科学的管理法から、つまり働く側のモチベーションという概念への気付きからとされています。こうしたことから、経営学において心理学は極めて重要な考え方と言えます。また近年、日本の職場では、諸外国と比べた生産性の低さが指摘されたり、従業員が心身の不調から長期休業に至るといったメンタルヘルスの問題が多く見られるようになり、企業にとっても深刻な経営的課題となっています。一方、従業員が健康でいきいきと働き続けるためにも企業は多くの施策を実行しており、そこには心理学的知見が多数活用されています。</p> <p>そこで本科目では、職場におけるさまざまな心理的問題について以下の2つの柱から学びます。第1に、職場・組織・人事制度について整理し「働くということ」を学んだ上で、それを心理学的視点から理解します。第2に社会生活に役立つ経営学と心理学の知識をケースを用いてさまざまな考え方やスキルを学びます。これらの学びを通して、将来職場で遭遇するであろう出来事を予測・理解し、また実際に遭遇した際に、授業で学んだ知識やスキルを用いて問題を解決したり周囲に適切な援助を求められるようになってもらいたいと思います。</p>							
<p>〔到達目標〕</p> <p>DP1（専門分野の知識・技能の修得）を実現するために、以下を到達目標とします。</p> <p>1 現在職場で起きている状況やそこで働く人々の心理的問題について、個人の観点と経営的課題の観点の双方から興味・関心を持ち、特に興味をもった特定テーマについて説明できるようになる。</p> <p>2 自分の将来の社会人生活とキャリア形成に役立つための基礎知識として、活用できるようになる。</p>							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修の目安（分）	
第1回	ガイダンス ・授業のねらいや進め方、授業計画、評価基準等について説明する。 ・授業で用いる用語（専門用語を含む）について説明する。			【予習】シラバスを読み、あらかじめ講義内容を把握する。 【復習】課題の実施と提出。授業の全体像や進め方、評価基準、主な専門用語等について確認し、不明な点があれば次回質問できるように準備する。		【予習】30 【復習】60	
第2回	働くということ ①この社会に生きるという事 ②働くことと職業に就いて働くこと ③学ぶことと働くこと			【予習】自身で関心のあるテーマについて調べておく。 【復習】課題の実施と提出。不明な点があれば次回質問できるように準備する。		【予習】30 【復習】60	
第3回	採用と就職 ①企業における採用管理 ②採用計画の立案 ③採用活動の展開			【予習】自身で関心のあるテーマについて調べておく 【復習】課題の実施と提出。不明な点があれば次回質問できるように準備する。		【予習】30 【復習】60	
第4回	組織と私 ①組織における職業生活のはじまり ②組織適応・不適応の結果 ③組織へうまく適応するには			【予習】自身で関心のあるテーマについて調べておく 【復習】課題の実施と提出。不明な点があれば次回質問できるように準備する。		【予習】30 【復習】60	
第5回	リーダーシップ ①リーダーシップとは ②環境変化とリーダーシップ ③ダイナミックな環境におけるリーダー			【予習】自身で関心のあるテーマについて調べておく 【復習】課題の実施と提出。不明な点があれば次回質問できるように準備する。		【予習】30 【復習】60	
第6回	ワークモチベーション ①やる気の源泉 ②認知的選択理論 ③やる気が強まるプロセス			【予習】自身で関心のあるテーマについて調べておく 【復習】課題の実施と提出。不明な点があれば次回質問できるように準備する。		【予習】30 【復習】60	
第7回	コミュニケーション ①職場の人間関係 ②仕事をしやすくなるコミュニケーション			【予習】自身で関心のあるテーマについて調べておく 【復習】課題の実施と提出。不明な点があれば次回質問できるように準備する。		【予習】30 【復習】60	
第8回	キャリア発達 ①キャリアとは ②キャリア発達理論 ③新しいキャリアパラダイム			【予習】自身で関心のあるテーマについて調べておく 【復習】課題の実施と提出。不明な点があれば次回質問できるように準備する。		【予習】30 【復習】60	
第9回	人事マネジメント ①人事マネジメントの特徴 ②業績評価 ③教育研修			【予習】自身で関心のあるテーマについて調べておく 【復習】課題の実施と提出。不明な点があれば次回質問できるように準備する。		【予習】30 【復習】60	
第10回	起業 ①なぜ誰が起業するのか ②起業の心理学 ③起業成功のメカニズム			【予習】自身で関心のあるテーマについて調べておく 【復習】課題の実施と提出。不明な点があれば次回質問できるように準備する。		【予習】30 【復習】60	
第11回	経営革新 ①企業の成長と経営革新 ②経営革新の心理学 ③経営革新を実現する組織			【予習】自身で関心のあるテーマについて調べておく 【復習】課題の実施と提出。不明な点があれば次回質問できるように準備する。		【予習】30 【復習】60	
第12回	心の健康 ①ストレス ②メンタルヘルス ③セルフケアとラインケア			【予習】自身で関心のあるテーマについて調べておく 【復習】課題の実施と提出。不明な点があれば次回質問できるように準備する。		【予習】30 【復習】60	
第13回	働く環境の質 ①安全な作業環境を保つ組織 ②安心して働ける組織とは			【予習】自身で関心のあるテーマについて調べておく 【復習】課題の実施と提出。不明な点があれば次回質問できるように準備する。		【予習】30 【復習】60	

		る。	
第14回	働くことと心理学 ①モチベーション管理 ②リーダーシップ ③マーケティング分野の研究	【予習】自身で関心のあるテーマについて調べておく 【復習】課題の実施と提出。不明な点があれば次回質問できるように準備する。	【予習】30 【復習】60
<p>〔授業の方法〕 リアクションペーパーの提出により出席を確認します。 なお、授業の進捗により、内容を一部変更する場合があります。</p>			
<p>〔成績評価の方法〕 「学期末試験」の結果を50%、「授業中に課すリアクションペーパー(毎回)」結果を50%とし、これらを総合的に評価します。 また講義中に対する質問、積極的な参加については平常点としてプラスに評価します。 なお、上記の通り単位取得には総合的な学修が求められます。授業は出席することが前提であるため、安定した出席が見込めるかどうかをよく考えた上で履修すること。</p>			
<p>〔成績評価の基準〕 成蹊大学の成績評価基準(学則第38条、39条)に準拠する。次の点に着目し、その達成度により評価します。 現在職場で起きている状況やそこで働く人々の心理的問題について、個人の観点と経営的課題の観点の双方から興味・関心をもち、特に興味をもった特定テーマについて説明することができるか 2本講義の内容を自分の将来の社会人生活とキャリア形成に役立てるための基礎知識として理解できているか</p>			
<p>〔必要な予備知識/先修科目/関連科目〕 適宜、指示します。</p>			
<p>〔テキスト〕 授業はパワーポイントを使用し、毎回事前に必要な授業資料を公開します。</p>			
<p>〔参考書〕 購入の必要なし</p>			
<p>〔質問・相談方法等(オフィス・アワー)〕 ポータルサイトで周知する。 授業終了後に教室で受け付けます。</p>			
<p>〔特記事項〕</p>			

科目名		カウンセリングの基礎					
教員名		林 潤一郎					
科目No.	122535000	単位数	2	配当年次	2年生	開講時期	2025 前期
<p>〔テーマ・概要〕</p> <p>カウンセリングの定義は様々な観点からなされているが、あえて単純化した定義をするならば「悩みや成長欲求を持つ個人を支援・援助する専門的かかわり」である。</p> <p>カウンセリングにおいては、各個人が有する固有の悩みや人間性をいかに理解していくのか、そして、そうした理解に基づき、いかなる援助的なかかわりを提供していくのかという点についての多様なアプローチが提唱されている。そして、こうしたアプローチは、自他の心の動きについての理解を深め、円滑な対人関係の構築を助けるものであるため、日常生活（学生生活や就職後の社会生活）にも役立つものを多く含んでいる。</p> <p>そこで本講義では次の3つを軸として、カウンセリングについて学ぶこととする。第一に、カウンセリングの全体像を把握し、発展の歴史や多様性について学ぶ。第二に、カウンセリングの代表的なアプローチ法を知り、それぞれの理論と実際を学ぶ。第三に、カウンセリングスキルの中から日常生活で活かすことができると思われるコミュニケーションスキルを学ぶ。こうした一連の学びを通して、カウンセリングについての正しい理解を得るとともに、各受講生が自他の心の動きや対人関係についての理解を深め、日常生活で役立てることのできる知識やスキルを身につけるきっかけにしてもらいたいと考えている。</p> <p>なお、授業の進捗および学生の希望や担当教員の判断によって、内容を一部変更する場合がある。</p>							
<p>〔到達目標〕</p> <p>DPI（専門分野の知識・技能）を実現するために、以下を達成目標とする。</p> <p>(1) カウンセリングについて正しい理解を得ること</p> <p>(2) カウンセリング（人を理解する視点や人を支援する方法）の多様なアプローチを知ること</p> <p>(3) 自他を理解する目を養うとともに、自分の日常生活（学生生活や将来の社会生活）で活かすことのできるようなスキルを身につけること。</p>							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修の目安（分）	
第1回	イントロダクション ・授業の内容、進め方、予習・復習の仕方等を理解する。 カウンセリングの全体像を把握する（1） ・カウンセリングとは何かを学ぶ。			【復習】授業で紹介した主要トピックやキーワードを振り返り、理解を深めるとともに説明できるようにする。		【復習】60	
第2回	カウンセリングの全体像を把握する（2） ・カウンセリングの発展の経緯と多様性を知る。			【予習】該当資料をダウンロードし、プリントアウトした上で、一通り、目を通しておく。 【復習】授業で紹介した主要トピックやキーワードを振り返り、理解を深めるとともに説明できるようにする。		【予習】10 【復習】50	
第3回	カウンセリングの全体像を把握する（3） ・カウンセリングの効果とそれを規定する要因を学ぶ。			【予習】該当資料をダウンロードし、プリントアウトした上で、一通り、目を通しておく。 【復習】授業で紹介した主要トピックやキーワードを振り返り、理解を深めるとともに説明できるようにする。		【予習】10 【復習】50	
第4回	カウンセリングの全体像を把握する（4） ・カウンセリングの効果とそれを規定する要因を学ぶ（続き）。			【予習】該当資料をダウンロードし、プリントアウトした上で、一通り、目を通しておく。 【復習】授業で紹介した主要トピックやキーワードを振り返り、理解を深めるとともに説明できるようにする。		【予習】10 【復習】50	
第5回	カウンセリング・心理療法の代表的なアプローチ法の特徴と着目点の違いを知る（1） ・精神分析的療法・力動的療法を学ぶ。			【予習】該当資料をダウンロードし、プリントアウトした上で、一通り、目を通しておく。 【復習】授業で紹介した主要トピックやキーワードを振り返り、理解を深めるとともに説明できるようにする。		【予習】10 【復習】50	
第6回	カウンセリング・心理療法の代表的なアプローチ法の特徴と着目点の違いを知る（2） ・精神分析的療法・力動的療法を学ぶ（続き）。			【予習】該当資料をダウンロードし、プリントアウトした上で、一通り、目を通しておく。 【復習】授業で紹介した主要トピックやキーワードを振り返り、理解を深めるとともに説明できるようにする。		【予習】10 【復習】50	
第7回	カウンセリング・心理療法の代表的なアプローチ法の特徴と着目点の違いを知る（3） ・来談者中心療法・パーソンセンタード療法を学ぶ。			【予習】該当資料をダウンロードし、プリントアウトした上で、一通り、目を通しておく。 【復習】授業で紹介した主要トピックやキーワードを振り返り、理解を深めるとともに説明できるようにする。		【予習】10 【復習】50	
第8回	カウンセリング・心理療法の代表的なアプローチ法の特徴と着目点の違いを知る（4） ・認知療法／行動療法／認知行動療法を学ぶ			【予習】該当資料をダウンロードし、プリントアウトした上で、一通り、目を通しておく。 【復習】授業で紹介した主要トピックやキーワードを振り返り、理解を深めるとともに説明できるようにする。		【予習】10 【復習】50	
第9回	カウンセリング・心理療法の代表的なアプローチ法の特徴と着目点の違いを知る（5） ・認知療法／行動療法／認知行動療法を学ぶ（続き）。			【予習】該当資料をダウンロードし、プリントアウトした上で、一通り、目を通しておく。 【復習】授業で紹介した主要トピックやキーワードを振り返り、理解を深めるとともに説明できるようにする。		【予習】10 【復習】50	
第10回	カウンセリング・心理療法の代表的なアプローチ法の特徴と着目点の違いを知る（6） ・家族療法／コミュニティアプローチ／システム療法を学ぶ。			【予習】該当資料をダウンロードし、プリントアウトした上で、一通り、目を通しておく。 【復習】授業で紹介した主要トピックやキーワードを振り返り、理解を深めるとともに説明できるようにする。		【予習】10 【復習】50	
第11回	カウンセリング・心理療法の代表的なアプローチ法の特徴と着目点の違いを知る（7） ・家族療法／コミュニティアプローチ／システム療法を学ぶ（続き）。			【予習】該当資料をダウンロードし、プリントアウトした上で、一通り、目を通しておく。 【復習】授業で紹介した主要トピックやキーワードを振り返り、理解を深めるとともに説明できるようにする。		【予習】10 【復習】50	
第12回	日常生活で使えるカウンセリングスキル／コミュニケーションスキルを学ぶ（1） ・話を聴く技術（マイクロカウンセリングと基本的なかかわり技法）を学ぶ。			【予習】該当資料をダウンロードし、プリントアウトした上で、一通り、目を通しておく。 【復習】授業で紹介した主要トピックやキーワードを振り返り、理解を深めるとともに説明できるようにする。		【予習】10 【復習】50	

<p>第13回</p>	<p>日常生活で使えるカウンセリングスキル／コミュニケーションスキルを学ぶ(2) ・話を聴く技術(マイクロカウンセリングと基本的かかわり技法)を学ぶ(続き)。</p>	<p>【予習】該当資料をダウンロードし、プリントアウトした上で、一通り、目を通しておく。 【復習】授業で紹介した主要トピックやキーワードを振り返り、理解を深めるとともに説明できるようにする。</p>	<p>【予習】10 【復習】50</p>
<p>第14回</p>	<p>日常生活で使えるカウンセリングスキル／コミュニケーションスキルを学ぶ(3) ・相手に意見や意向を伝える技術(アサーションスキル)を学ぶ。</p>	<p>【予習】該当資料をダウンロードし、プリントアウトした上で、一通り、目を通しておく。 【復習】授業で紹介した主要トピックやキーワードを振り返り、理解を深めるとともに説明できるようにする。</p>	<p>【予習】10 【復習】50</p>
<p>〔授業の方法〕 この授業は、オンラインで実施する。初回～第4回および第12回～第14回は「ライブ型(リアルタイムオンライン)授業+録画提供」形式で実施する。一方、第5～第11回は講義中心となるため「オンデマンド型」形式での実施を予定している。 授業において毎回、前回分の確認ミニテストを実施する。また各回レスポンスシートの提出を求める。学期末に期末レポートの提出を求める。普段からプリントを使った復習に力を入れ、学んだ内容の整理に努めること。また、上で示された準備学修の時間はあくまで目安であって、各自の理解度に応じて取り組むこと。なお、レスポンスシート、期末レポートの狙いは以下のとおりである。 ・レスポンスシート：各授業に参加して、学んだこと、感じたこと、思ったこと、疑問点を言語化し、各自の整理をすすめる。なお、レスポンスシートは必ず当日の授業内容を踏まえたものを提出すること。 ・期末レポート：授業での学修内容および授業を通して得られた自分自身の見解(意見)を整理し、表明する。</p>			
<p>〔成績評価の方法〕 授業への参加状況・確認ミニテスト・レスポンスシートの提出状況などの平常点(60%：内訳は出席およびレスポンスシート約30%、確認ミニテスト約30%)、期末テスト(40%)、により総合的に評価する。</p>			
<p>〔成績評価の基準〕 成蹊大学の成績評価基準(学則第38条、39条)に準拠する。 次の点に着目し、その到達度により評価する。 (1) カウンセリングについて正しい理解を得ること (2) カウンセリング(人を理解する視点や人を支援する方法)の多様なアプローチを知ること (3) 自分を理解する目を養うとともに、自分の日常生活(学生生活や将来の社会生活)で活かすことのできるようなスキルを身につけること。</p>			
<p>〔必要な予備知識/先修科目/関連科目〕 必要な予備知識・先修科目：この科目は経営学部の2年生以上の配当科目であることから、経営学部副専攻認定のための他学部の履修者は『企業と社会』を修得済または履修中であることが望ましい。また、心理学副専攻認定のための他学部の履修者は心理学副専攻の基礎科目に位置づく『心理学の基礎』『自己理解の心理学』『脳科学と心』のいずれかを修得済または履修中であることが望ましい。 関連科目：こころの健康と臨床/ストレス・マネジメント</p>			
<p>〔テキスト〕 特になし。なお、各回のレジュメは事前に Course Power にアップロードされるので、各自でダウンロードをした上で、それを持参して授業に臨むこと。</p>			
<p>〔参考書〕 特になし。ただし、必要に応じて、授業の中で紹介する。</p>			
<p>〔質問・相談方法等(オフィス・アワー)〕 ポータルサイトで周知する。</p>			
<p>〔特記事項〕</p>			

科目名		組織と管理					
教員名		向井 三貴					
科目No.	122536000	単位数	2	配当年次	2年生	開講時期	2025 前期
<p>〔テーマ・概要〕</p> <p>私たちは、社会人になれば何らかの形で組織に属したり関わったりして、仕事をします。この授業では、企業組織に焦点をあて、組織全体の仕組や効率的な管理方法について理解をします。その上で、組織の中での個人の役割や責任について理解を深めるとともに、個人行動のあり方を実際を学びます。また、グループワークを通して、成果のまとめ方、ディスカッションやコミュニケーションスキルを身につけます。</p> <p>経営コンサルタントとして、20年以上企業の人事制度構築・組織活性化等のコンサルティングに携わった実務経験に基づき、実践的な講義や演習等を行います。また、企業の管理職研修、専門スキル研修（問題解決、プレゼンテーション等）の実務経験に基づいて、グループワークやプレゼンのアドバイスをを行います。</p>							
<p>〔到達目標〕</p> <p>DP1（専門分野の知識・技能）を実現するため、以下を到達目標とする。</p> <p>①企業組織の仕組を説明することができる。 ②組織の管理方法の実際を説明することができる。 ③基本ルールを守ったプレゼンテーションができる。 ④グループディスカッションのファシリテータができる。 ⑤グループワークに積極的に参加する。</p>							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修の目安（分）	
第1回	<p>ガイダンス</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業の全体像、進め方、予習・復習、課題の仕方を説明する。 <p>経営学6分野とビジネスモデルの関係</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ビジネスモデルの4要素を理解する 			<p>(復習)</p> <p>ビジネスモデルの要素を理解して、経営の基本を理解する。</p>		60	
第2回	<p>組織の種類と特性</p> <ul style="list-style-type: none"> ・企業の組織形態の種類と特性を学修する。 			<p>(復習)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・企業の主な組織形態の種類と特性を理解しておく。 		60	
第3回	<p>企業を取り巻く環境変化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・企業を取り巻く環境変化と競争要素を学修する。 <p>グループディスカッションの仕方</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ブレインストーミングのルール・方法、ディスカッション時の発言の仕方を学修する。 			<p>(復習)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・企業の競争要素がどのように変化してきたかを理解しておく。 ・ブレインストーミングのルールを理解して実践できるようにする。 ・グループディスカッションが、円滑に進むような発言の仕方を実践できるようにする。 		60	
第4回	<p>ICTによる企業活動の変化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・競争に勝つためのICTを活用した企業戦略や活動について学修する。 <p>グループワーク（テーマ：働きたい組織）課題説明</p>			<p>(復習)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ICTが企業活動をどのように変化させているかを把握する。また、どのようなシステムがあるかを理解しておく。 		60	
第5回	<p>ビジョンと企業文化・企業倫理</p> <ul style="list-style-type: none"> ・個々の企業が掲げるビジョンについて学修する。 ・企業文化を構成する要素について学修する。 ・企業が活動する上で守るべき法律や行動規範について学修する。 <p>プレゼンテーション課題説明（選択式）</p> <p>プレゼンテーション資料作成方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ビジュアル化したプレゼン資料の作り方を学修する。 <p>グループワーク 1/3</p>			<p>(復習)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・企業ビジョンとは何かと企業文化の構成要素を理解しておく。 ・企業倫理について理解しておく。 <p>(予習)</p> <p>グループの各メンバーが、どのような組織で働きたいかを考えてくる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・見せるプレゼン資料を作成するポイントやルールを理解しておく。 		60	
第6回	<p>モチベーション理論</p> <ul style="list-style-type: none"> ・働く際、どのような要素がモチベーション向上につながるのか、逆に下がるのはどのような要素かについて学修する。 <p>プレゼンテーションのポイント</p> <ul style="list-style-type: none"> ・プレゼンテーションの基本ルールを学修する。 <p>グループワーク 2/3</p>			<p>(復習)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分のモチベーション向上の要素を分析する。 ・プレゼンテーションの基本ルールを理解し、実践できるようにする。 		60	
第7回	<p>マネジメント（管理）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・企業のマネジメントとはどのようなものを学修する。 <p>プレゼンテーション（学生の課題） 1/2</p> <p>グループワーク 3/3</p>			<p>(予習)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・プレゼン予定者は、資料作成及び発表練習を十分行う。 <p>(復習)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・マネジメントの重要性を理解する。 		60	
第8回	<p>ポスマネジメント（部下力）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・上司と信頼関係を築く部下力とは何かを学修する。 <p>プレゼンテーション（学生の課題） 2/2</p> <p>グループプレゼンテーション 1/2</p>			<p>(予習)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・プレゼン予定者は、資料作成及び発表練習を十分行う。 <p>(復習)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分が上司から信頼を得るためには、どのような行動様式が良いかを考える。 		60	
第9回	<p>組織での仕事の進め方</p> <ul style="list-style-type: none"> ・効率的、効果的な仕事を行うための視点やプロセスを学修する。 <p>グループプレゼンテーション 2/2</p>			<p>(予習)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・プレゼン予定者は、資料作成及び発表練習を十分行う。 <p>(復習)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大学での学習に応用して効果的、効率的な勉強の仕方を考える。 		60	
第10回	<p>組織コミュニケーションとEQ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・組織のコミュニケーション円滑化の施策や要素とEQ（感情知能指数）について学修する。 			<p>(復習)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・EQとは何か、そして向上させるための方法を自分自身に置き換えて考える。 		60	

第11回	到達度確認テスト ・これまでの学修内容について、理解度を確認するためのテストを行なう。 ・個人最終プレゼン課題説明 ・ケーススタディ課題 ・仕事で起きた問題の解決	(予習) ・到達度確認テストに備えて、これまでの学修内容を確認する。	60
第12回	ケーススタディのグループディスカッション ・グループでケースの最適な解答を検討する。 ・グループディスカッションを通して個々のコンピテンシーを発見する。 ・他者の良い行動様式を見つけ、自分に取り入れる	(予習) ケース問題の解答を考えてくる。	90
第13回	ケーススタディ発表、コメント 個人最終課題プレゼン1/2	(復習) ・ケーススタディの最適な解答を復習する。 (予習) ・プレゼン予定者は、資料作成及び発表練習を十分行う。	60
第14回	個人最終課題プレゼン2/2 組織と管理まとめ	(予習) ・プレゼン予定者は、資料作成及び発表練習を十分行う。	60
<p>[授業の方法]</p> <p>授業は講義、グループワーク、演習、プレゼンテーションなど学生参画型で進めます。全体として、講義を聞くだけの授業はありませんので、積極的に授業に参画することが必要です。また、プレゼンテーションの準備はもちろん、他の学生のプレゼン評価を行うなど双方向の授業を達成するために意欲的に取り組むことが重要です。</p>			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>到達度確認テスト (40%) 課題 (30%) グループワーク (20%) 授業中の発言・質問、予習・復習・プレゼンや課題の積極的な取り組みを総合評価 (10%)</p>			
<p>[成績評価の基準]</p> <p>成蹊大学の成績評価基準 (学則第 38 条、39 条) に準拠します。 以下の点に着目して、その達成度により評価します。 ①企業活動の変化を明確に理解している。 ②モチベーション理論と実際の関係を説明できる。 ③組織の人材の効果的な活用システムをわかりやすく説明できる。 ④グループワークに積極的に参加している。 ⑤基本ルールを守ったプレゼンテーションができる。</p>			
<p>[必要な予備知識/先修科目/関連科目]</p> <p>この科目は経営学部の2年生以上の配当科目であり、他学部の履修者は『企業と社会』を修得済または履修中であることが望ましい。</p>			
<p>[テキスト]</p> <p>オリジナルテキスト</p>			
<p>[参考書]</p> <p>適宜紹介</p>			
<p>[質問・相談方法等 (オフィス・アワー)]</p> <p>授業終了後に教室で受け付けます。また、随時 e メールで受け付けます。</p>			
<p>[特記事項]</p> <p>アクティブ・ラーニング 基本的には、学生さんが参画する双方向の授業形態です。講義と学生さんの成果を発表する形で運営していきます。具体的には、グループワークを通して、ディスカッションの仕方やルールを学びチームワーク力を養います。また、個々のプレゼンテーションを学生さん同士、教員からフィードバックを行い、社会でも活用できるスキルとなるように支援します。</p>			

科目名		組織と社会					
教員名		望月 雄介					
科目No.	122538000	単位数	2	配当年次	2年生	開講時期	2025 後期
<p>〔テーマ・概要〕 本講義は、組織と社会との関係性について、経営学の中心的役割を果たしてきている経営管理の観点から学ぶことを目的としています。特に、企業が大規模化・複雑化したのがゆえに発生・発展してきた経営管理について、本講義では主に管理プロセス、モチベーション、リーダーシップを中心に講義していきます。また、経営管理の現状について主に日本企業を用いて経営管理の現状について説明していく予定です。</p>							
<p>〔到達目標〕 DP1（専門分野の知識・技能）とDP3（課題の発見と解決）を実現するために、次の3点を到達目標とする。 ①組織と社会に関する代表的な理論や概念を説明できるようになること。 ②組織を考えるうえで、なぜ社会を考慮する必要があるのかについて説明できること。 ③組織と社会の知見を用いて、企業現象や身近な現象について分析・考察できるようになること。</p>							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修の目安（分）	
第1回	ガイダンス ・授業の内容、進め方、レポート・期末試験等を説明する。 講義の全体像を提示する。			【予習】シラバスを読み、あらかじめその内容を把握する。 【復習】講義資料を読み、キーワードについて説明できるようにする。		60分	
第2回	産業発展と経営管理論の展開（1） ・アメリカの経済発展と移民流入の観点について学ぶ。			【予習】シラバスを読み、あらかじめその内容を把握する。 【復習】講義資料を読み、キーワードについて説明できるようにする。		60分	
第3回	産業発展と経営管理論の展開（2） ・経営管理が必要になった理由について学ぶ。			【予習】シラバスを読み、あらかじめその内容を把握する。 【復習】講義資料を読み、キーワードについて説明できるようにする。		60分	
第4回	ファヨールおよび管理プロセス ・ファヨールが示した管理=計画化、組織化、命令、調整、統制からなる一連のプロセスについて学ぶ。			【予習】シラバスを読み、あらかじめその内容を把握する。 【復習】講義資料を読み、キーワードについて説明できるようにする。		60分	
第5回	計画化 ・経営計画の基本的な考えを学ぶ。			【予習】シラバスを読み、あらかじめその内容を把握する。 【復習】講義資料を読み、キーワードについて説明できるようにする。		60分	
第6回	組織化(1) ・適切な管理をするための適切な組織構築について学ぶ。			【予習】シラバスを読み、あらかじめその内容を把握する。 【復習】講義資料を読み、キーワードについて説明できるようにする。		60分	
第7回	組織化(2) ・組織と組織の「外」との関係について学習するとともに、組織は環境にどのように対処するのかを学ぶ。			【予習】シラバスを読み、あらかじめその内容を把握する。 【復習】講義資料を読み、キーワードについて説明できるようにする。		60分	
第8回	指揮(1) ・組織の目的を達成するために、協働意欲を確保することについて学ぶ。			【予習】シラバスを読み、あらかじめその内容を把握する。 【復習】講義資料を読み、キーワードについて説明できるようにする。		60分	
第9回	指揮(2) ・組織の目的を達成するために、リーダーは何をすればよいのかについて学ぶ。			【予習】シラバスを読み、あらかじめその内容を把握する。 【復習】講義資料を読み、キーワードについて説明できるようにする。		60分	
第10回	指揮(3) ・コンフリクトとその対処方法について学ぶ。			【予習】シラバスを読み、あらかじめその内容を把握する。 【復習】講義資料を読み、キーワードについて説明できるようにする。		60分	
第11回	意思決定 ・個人の意思決定と組織の意思決定について学ぶ。			【予習】シラバスを読み、あらかじめその内容を把握する。 【復習】講義資料を読み、キーワードについて説明できるようにする。		60分	
第12回	組織文化(1) ・組織文化がメンバーにどのような影響を及ぼすのかについて学ぶ。			【予習】シラバスを読み、あらかじめその内容を把握する。 【復習】講義資料を読み、キーワードについて説明できるようにする。		60分	
第13回	組織文化(2) ・日本の経営や近年議論になっているブラック企業問題について学ぶ。			【予習】シラバスを読み、あらかじめその内容を把握する。 【復習】講義資料を読み、キーワードについて説明できるようにする。		60分	
第14回	まとめ ・講義のまとめと期末試験の説明行う。			【予習】シラバスを読み、あらかじめその内容を把握する。 【復習】講義資料を読み、キーワードについて説明できるようにする。		60分	

<p>〔授業の方法〕</p> <p>パワーポイントを使った講義形式（対面）の授業である。スライドは講義の前日までにポータルサイトにアップロードするので、各自で準備すること。</p>
<p>〔成績評価の方法〕</p> <p>リアクションペーパー20%、期末試験 80%で評価を行う。 詳細は、第1回講義で説明する。</p>
<p>〔成績評価の基準〕</p> <p>成蹊大学の成績評価基準（学則第38条、39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39. 上述した次の3点の目標が達成できていること。 ①組織と社会に関する代表的な理論や概念を説明できるようになること。 ②組織を考えるうえで、なぜ社会を考慮する必要があるのかについて説明できること。 ③組織と社会の知見を用いて、企業現象や身近な現象について分析・考察できるようになること。</p>
<p>〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕</p> <p>授業で指示</p>
<p>〔テキスト〕</p> <p>未定（決まり次第お伝えします）。</p>
<p>〔参考書〕</p> <p>必要に応じて適宜紹介します。</p>
<p>〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕</p> <p>授業終了後に教室で受け付けます。</p>
<p>〔特記事項〕</p> <p>特にありません。</p>

科目名	人的資源管理						
教員名	義村 敦子						
科目No.	122539000	単位数	2	配当年次	2年生	開講時期	2025 後期
<p>〔テーマ・概要〕 人的資源管理施策とは、組織に雇用される人が受ける具体的なマネジメントの方策です。人材マネジメント、人事管理など組織によって様々な呼び方も存在しています。具体的には、採用、配属、人事評価、報酬制度など多岐にわたる施策を含んでいます。どのような人的資源管理を実施するかは、組織が働く人へのメッセージともいえるでしょう。これらの人的資源管理施策の成り立ちと現状を学びながら、今後どのような人的資源管理施策の変更が求められるかについても考えていきます。</p>							
<p>〔到達目標〕 この授業では、DP1（専門分野の知識・技能）を実現するため、以下を到達目標とします。 ①人的資源管理施策に関する基本的な知識を得る。 ②今後の人的資源管理のあり方について議論するための基盤となる力を養成する。</p>							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修の目安（分）	
第1回	イントロダクション：労働市場と人的資源			【予習】テキスト第一章を熟読。		90	
第2回	採用（組織メンバーの選定と雇用）			【復習】第2回の内容を把握する。		90	
第3回	人材配置（組織メンバーを最適なポジションに配置）			【復習】第3回の内容を把握する。		90	
第4回	教育訓練（職務遂行能力を向上させる教育サポート）			【復習】第4回の内容を把握する。		120	
第5回	キャリア開発（個人の生涯キャリア発達と組織によるサポート）			【復習】第5回の内容を把握する。		90	
第6回	職務設計（個人やチームに適した職務をデザイン）			【復習】第6回の内容を把握する。		90	
第7回	人事評価（働きぶりを公正に評価）			【復習】第7回の内容を把握する。		90	
第8回	報酬制度（貢献に見合った報酬の仕組み）			【復習】第8回の内容を把握する。		120	
第9回	雇用差別の是正（雇用における機会の均等を考える）			【復習】第9回の内容を把握する。		90	
第10回	雇用形態の多様化（さまざまな働き方と企業対応）			【復習】第10回の内容を把握する。		90	
第11回	労使間コミュニケーション（経営者と労働者の意思疎通）			【復習】第11回の内容を把握する。		90	
第12回	高齢化と退職制度（キャリアプランと年金など）			【復習】第12回の内容を把握する。		120	
第13回	成果主義の行方（成果主義の課題と留意点）			【復習】第13回の内容を把握する。		90	
第14回	人的資源管理のこれから・まとめ			【復習】第14回の内容を把握する。		90	
<p>〔授業の方法〕 オンライン授業です。基本的に講義形式をとります。具体的にはパワーポイントによる教材提示をしながら授業を進めます。授業内容に基づいて複数回のレポート提出を求めます。評価の基準は講義中にその都度明らかにします。</p>							
<p>〔成績評価の方法〕 平常点（レスポンス・シート等）20%と提出レポート80%によって総合的に評価します。</p>							
〔成績評価の基準〕							

成蹊大学の成績評価基準（学則第 38 条および第 39 条）に準拠する。/ Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 38 and No. 39.

次の点に着目し、その達成度により評価します。

- ①人的資源管理の特徴と背景を明確に説明できる。
- ②各人的資源管理施策の機能と留意点を明確に説明できる。
- ③①と②をもとに人的資源管理に関する自分の意見を表明できる。

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕

この科目は経営学部の2年生以上の配当科目であり、他学部の履修者は『企業と社会』を修得済または履修中であることが望まれます。また、幅広い理解のために『労働市場のしくみと制度』、『人事政策』、『人間行動と組織』の受講を推奨します。

〔テキスト〕

特に指定しません。

〔参考書〕

- 『『グラフィック ヒューマン・リソース・マネジメント』 守島基博・島貫智行編著 新世社 2,600 円+税
- 『入門 人的資源管理 第2版』 奥林康司 上林宣雄・平野光俊 編著 中央経済社 2,940 円
- 『改訂新版 人的資源管理—理論と実践を架橋する—』 原田順子・平野光俊 著 NHK 出版 2900 円+税

その他、必要に応じて提示します。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕

ポータルサイトの『オフィスアワー』で周知します。また、コースパワー内に示した授業担当者メールアドレスでも質問を受け付けます。

〔特記事項〕

科目名		人間情報処理					
教員名		山崎 由香里					
科目No.	122541000	単位数	2	配当年次	2年生	開講時期	2025 後期
<p>〔テーマ・概要〕</p> <p><テーマ>人間の情報処理(=意思決定)を理解し、望ましい判断を導く方法を考える。</p> <p>日常生活や企業活動において、人々は常に何らかの情報を処理し、判断を下している。我々は、よい判断を導き出したいと思うものである。しかし、常時的確な情報処理が行えるとは限らないため、時には偏った、あるいは誤った判断をしてしまうことがある。また、同じ情報が手元にあったとしても、人や状況によって判断が異なったりもする。なぜ誤ってしまうのか、なぜ異なる判断が下されるのか。この間の答えを出すべく、本授業では人間の情報処理についての諸理論を理解する。そして、2017年のノーベル経済学賞を受賞した R. Thaler らによるキーワード「ナッジ (Nudge)」をヒントに、より望ましい判断を下すための糸口を探っていく。</p>							
<p>〔到達目標〕</p> <p>DP1(専門分野の知識・技能)とDP3(課題の発見と解決)を実現するために、次の3点を到達目標とする。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 人間の情報処理・意思決定に関する理論を修得する。 2. 社会におけるさまざまな現象を、修得した理論を用いて説明する。 3. より望ましい情報処理をするためにはどのようなことができるか、自分なりに考えて意見を表明する。 							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修(予習・復習等)		準備学修の目安(分)	
第1回	ガイダンス: 授業の内容、進め方、予習・復習の仕方等を説明する。成績評価方法を確認する。 簡単なクイズや事例を通じて、人間の情報処理傾向に触れる。			【予習】シラバスをよく読み、内容を把握する。 【復習】授業内のクイズを自分の周りの人に紹介し、説明できるようにする。		60	
第2回	情報処理とは: 人間とコンピュータの情報処理を比較しながら、人間の情報処理の特徴を理解する。 人間の情報処理=意思決定を理解するための3つのアプローチを学ぶ。			【復習】今回のキーワードについて説明できるようにする。		60	
第3回	規範的意思決定~理想の追求: 合理性、最大化原理、期待値、期待効用理論、期待効用理論の4つの公理などについて学ぶ。 ※課題の確認。			【復習】今回のキーワードについて説明できるようにする。 提出課題を行う。		90	
第4回	記述的意思決定1: 人間の情報処理・思考における「2つのシステム」について学び、システムに関連する情報処理例を考える。			【復習】今回のキーワードについて説明できるようにする。		60	
第5回	記述的意思決定2: 人間に備わる心理性向、集団意思決定の特徴、および向社会性/社会的影響を理解し、人間の情報処理に及ぼす影響を考える。			【復習】今回のキーワードについて説明できるようにする。		90	
第6回	記述的意思決定3: ヒューリスティック#1 ヒューリスティックスについて学び、代表性ヒューリスティックの影響を考える。			【復習】今回のキーワードについて説明できるようにする。		60	
第7回	記述的意思決定4: ヒューリスティック#2 利用可能性ヒューリスティックの影響を考える。			【復習】今回のキーワードについて説明できるようにする。		60	
第8回	記述的意思決定5: ヒューリスティック#3 アンカリングヒューリスティックと、その他の情報処理への影響を考える。			【復習】今回のキーワードについて説明できるようにする。		60	
第9回	記述的意思決定6: プロスペクト理論#1 プロスペクト理論を学び、情報処理への影響を考える。 ※課題の確認。			【復習】今回のキーワードについて説明できるようにする。		60	
第10回	記述的意思決定7: プロスペクト理論#2 プロスペクト理論を学び、情報処理への影響を考える。			【復習】今回のキーワードについて説明できるようにする。		60	
第11回	処方的意思決定1~改善に向けて: 処方的アプローチを採用する諸理論を学び、情報処理について考える。			【復習】今回のキーワードについて説明できるようにする。		60	
第12回	処方的意思決定2: ナッジ(NUDGE)について学び、情報処理への影響を考える。			【復習】今回のキーワードについて説明できるようにする。		60	
第13回	処方的意思決定3: 選択アーキテクチャ(Choice Architecture)について学び、情報処理への影響を考える。 ダークパターンの事例から、ナッジの倫理性を考える。			【復習】今回のキーワードについて説明できるようにする。		90	
第14回	総括			【復習】これまで学んだ内容を踏まえて、自分なりの処方方を考察する。		60	
〔授業の方法〕							

経営

25/2/12 20時1分

※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

授業は講義形式で進める。授業の進行具合に応じて、数回の課題提出も予定している。質問などは、教室やメールなどで随時受け付ける。授業終了後、配布資料を見直して理解できなかったことや疑問点を確認し、次回の授業やメールなどで質問をするように心がけること。

また、上で示された準備学修の時間はあくまで目安なので、各自の理解度に応じて取り組むこと。なお、取り上げる内容は、学生の理解度に応じて変更する可能性がある。

〔成績評価の方法〕

授業取り組みに対する態度意欲 (20%)、
授業関連課題 (30%)、
学期末試験 (50%)

を基準に、総合的に評価する。

※Course Power 等を用いたレポート、小テスト、クリッカー、クイズ、コメントシートの提出など、学生の受講状況および授業進捗に応じた方法を用いて授業課題を出す。

〔成績評価の基準〕

成蹊大学の成績評価基準 (学則第 38、39 条) に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.38, 39.

次の点に着目し、その達成度により評価する。

①授業で取り上げた理論を理解し、説明できる。

②さまざまな理論を踏まえ、諸要因が情報処理に及ぼす影響について考えることができる。

③よりよい情報処理を行うために、どのような取り組みが必要かなど、自分の意見を持ち、表明することができる。

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕

この科目は経営学部の2年生以上の配当科目であり、他学部の履修者は『企業と社会』を修得済または履修中であることが望ましい。

〔テキスト〕

山崎由香里『行動科学／行動経済学キーワード事典』, Next Publishing Authors Press

(Kindle 版 ASIN : B09KT6HCT2 \1,000)

(ペーパーバック ISBN-10 : 4802081448 \1,650)

授業時の配布資料

〔参考書〕

『組織における意思決定の心理』、山崎由香里、同文館出版、¥3,360、ISBN-13: 9784495379919

その他、必要に応じて適宜指示する。

〔質問・相談方法等 (オフィス・アワー)〕

ポータルサイトで周知する。

〔特記事項〕

科目名		コーチングの基礎					
教員名		田原 麗衣					
科目No.	122542000	単位数	2	配当年次	2年生	開講時期	2025 後期
〔テーマ・概要〕 近年、スポーツ以外の分野で人材育成や円滑な対人関係構築を目的として、スポーツにおけるコーチングの手法やスポーツ・身体活動が取り入れられている。また、我が国でもオリンピック・パラリンピックや各種ワールドカップをはじめ、大きなスポーツイベントを招致している。本講義では、スポーツの側面から個や集団を良い方向に導くための基本概念や手法、国内外のスポーツを取り巻く環境を様々な事例をもとに概説する。							
〔到達目標〕 ①スポーツにおける優れた指導者・コーチが実践している「コーチング」の本質や、優れた組織・チーム運営の仕組みを理解する。 ②個人や集団を目標達成に導く手法や求められる資質・能力などについて理解する。 ③学んだ内容を自らの状況等に当てはめて、適切な対処法や改善策を考察する。 上記を到達目標とし、DP1（専門分野の知識・理解）およびDP3（課題の発見と解決）の実現を目指す。							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修の目安（分）	
第1回	ガイダンス： シラバスの内容、授業の進め方、評価基準等について把握する。			【予習】これまでの生活の中で目標達成できた経験と達成できなかった経験を振り返っておく。 【復習】これまで出会った優れたコーチ・指導者を思い浮かべ、優れていた点（資質・能力）を挙げておく。		60	
第2回	コーチング～指導者の役割： 個・チームを導くために必要な資質・能力について把握する。			【予習】スポーツ現場でコーチが果たしている役割を考えてみる。 【復習】実在する個人やチームを例に、コーチにどのような資質が必要か考えてみる。		60	
第3回	競技力向上を目的としたコーチング～トップアスリートの指導： 競技力向上のためのトレーニングについて把握する。			【予習】競技力向上のためにコーチが考慮すべきことは何か考えておく。 【復習】競技力向上のためのコーチングで考慮すべき4つのダイヤモンドについて説明できるようにする。		60	
第4回	医学を活用したコーチング： 現代の情報・医学・科学にもとづいた合理的なコーチングについて把握する。			【予習】コーチングにどのような情報や知見が活用されているか（必要か）考えてみる。 【復習】コーチを支える様々な分野のスタッフについて説明できるようにする。		60	
第5回	教育現場におけるコーチング～教育にスポーツは必要なのか？： 学校教育や企業等でスポーツが取り入れられている意義を理解する。			【予習】スポーツが持つ教育的意義について考えておく。 【復習】人材育成の観点からスポーツに期待される役割と勝利至上主義について説明できるようにする。		60	
第6回	社会におけるコーチング～余暇としてのスポーツの意義： スポーツ普及の意義について理解する。			【予習】余暇としてのスポーツの楽しみ方にどのようなものがあるか考えてみる。 【復習】今後の自分の生活の中へのスポーツの取り入れ方について考えてみる。		60	
第7回	チームビルディングと戦略目標： チームビルディングの手法、戦略目標の導出について把握する。			【予習】SWOT分析のやり方についてネット等で調べておく。 【復習】集団を導くために必要な戦略目標の設定の仕方を説明できるようにする。		60	
第8回	組織運営～競技団体、クラブチーム： 国内外のスポーツ組織運営について把握する。			【予習】日本の競技団体やクラブチームを1つ選び、その組織体制について調べておく。 【復習】日本のスポーツに関連する組織をより充実させるためには何が必要か考えてみる。		60	
第9回	人材育成～指導者の育成プログラム： 適切な指導者の育成・ライセンスについて考察する。			【予習】指導者に必要な知識や資質について考えておく。 【復習】日本の指導者育成の現状と課題について説明できるようにする。		60	
第10回	大会招致とスポーツ立国戦略： 大きなスポーツイベントを招致する意義・課題を理解する。			【予習】東京オリパラを招致して良かった点と悪かった点を考えておく。 【復習】スポーツイベント招致が及ぼす影響・効果について、多面的に考えてみる。		60	
第11回	スポーツイベントの運営と経済効果： スポーツイベントの運営・マネジメントについて把握する。			【予習】オリンピックやワールドカップ等のビックイベントを1つ選び、運営費を調べておく。 【復習】今後のスポーツイベントのあり方について考えてみる。		60	
第12回	スポーツと関わる技術開発・商品開発： スポーツと関連した技術開発について把握する。			【予習】スポーツと関連した用具器具の開発について、どのようなものがあるか調べてみる。 【復習】スポーツ技術開発に求められる視点や課題について説明できるようにする。		60	
第13回	パラアスリートのコーチングと支援： パラアスリートを取り巻く環境について把握する。			【予習】パラアスリートの雇用について調べておく。 【復習】パラスポーツとの関わり方や今後のパラアスリートの支援のあり方について考えてみる。		60	
第14回	講義のまとめ： これまでに行った学修内容を確認する。			【予習】これまでの回で学んだ内容を確認しておく。 【復習】理解度確認テストを通して自分の理解度を確認し、理解度が足りない点は復習する。		90	
〔授業の方法〕							

各回のテーマに則した資料（スライド、動画資料、配布資料）を用いて講義形式で授業を展開する。
 授業内課題レポートを課すので、そのレポートを利用して受講生徒のコミュニケーションを図り、できる限り双方向の授業を展開する。
 ただし、授業の進捗状況等によって、内容を一部変更する場合がある。

〔成績評価の方法〕
 課題提出状況 60%、平常点(授業への参加状況) 40%により、総合的に評価する。
 最終週に到達度確認テストを実施する。

〔成績評価の基準〕
 成蹊大学の成績評価基準（学則第 38 条、39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.
 上記、到達目標の達成度にもとづいて評価する。

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
 予備知識は特に必要としない。先修科目の設定は特になし。

〔テキスト〕
 特になし。

〔参考書〕
 日本コーチング学会『コーチング学への招待』（大修館書店）
 レイナー・マートン『スポーツ・コーチング学 指導理念からフィジカルトレーニングまで』（西村書店）
 広瀬一郎『「尊重」と「覚悟」を育む スポーツマンシップ立国論』（小学館）
 テューダー・ボンバー『競技力向上のトレーニング戦略』（大修館書店）
 ※購入の必要なし

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕
 授業後に実施場所にて受け付ける。
 また、それ以外の質問・相談方法はポータルサイトで周知する。

〔特記事項〕

科目名	ストレス・マネジメント						
教員名	林 潤一郎						
科目No.	122543000	単位数	2	配当年次	2年生	開講時期	2025 後期
<p>〔テーマ・概要〕</p> <p>ストレスに対する正しい理解を得るとともに、ストレスへの対処能力を高めていくことは、学生生活、さらには卒後の社会生活において、自分自身を守り、支えながら、自らの持つ力を発揮していくために有益なものとなる。</p> <p>そこで本講義では次の2つを軸として、ストレス・マネジメントについての専門性を高めていく。第一に、ストレスについての基礎的知見を学び、正しい知識を得ること。第二に、ストレス・マネジメント力向上のための一連の体験ワークやエクササイズを通して、実践的スキルを身につけること。</p> <p>なお、本講義は対面形式で実施する。また、心理学の知見だけでなく担当教員のカウンセラーとしての実務経験も活かした実践的な授業となる。そのためストレスに対する知識取得だけでなく、自分自身に適したストレス・マネジメントスキルを獲得し、実生活で実際に活用できるようになることを目指している。そのため、授業時間内だけでなく授業時間外でも体験ワークやエクササイズをホームワークとして課すことがあり、積極的な取り組みを期待している（ホームワークは、レポート作成のような学術的なものではなく、日々の中で、自分の特徴をモニターしたり、行動の仕方や考え方を変えてみて、その影響をモニターするなどの体験的・実習的・実験的なものを主に想定している）。さらに、授業の初回と最終回において、自分自身のストレス反応パターンおよびストレス・マネジメントスキルの評価を行い、ストレス・マネジメントに関する各自の元来の特徴を把握するとともに、受講後の変化について振り返りを行う予定である。</p> <p>また、授業の進捗状況および学生の関心や担当教員の判断によって、内容を一部変更する場合がある。</p>							
<p>〔到達目標〕</p> <p>DP1（専門分野の知識・技能）を実現するために、以下を達成目標とする。</p> <p>(1) ストレスについて正しい理解を得ること。</p> <p>(2) ストレス・マネジメント力向上のための体験ワークやエクササイズに取り組み、実践的スキルを身につけること。</p>							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修の目安（分）	
第1回	オリエンテーション： ・授業の内容、進め方、評価、予習・復習の仕方等を知る ストレスについて正しい理解を得る（1）： ・ストレス理解の概要を把握する ・これまでのストレス体験を測定する（事前評価）			【復習】授業で紹介した内容を振り返り、理解する。ホームワークが課された場合はそれを実施する。		【復習】60	
第2回	ストレスについて正しい理解を得る（2）： ・ストレスの影響について学ぶ ・自分自身に特徴的なストレスの影響を理解する			【予習】該当資料をダウンロードし、プリントアウトした上で、一通り、目を通しておく。 【復習】授業で紹介した内容を振り返り、理解する。ホームワークが課された場合はそれを実施する。		【予習】10 【復習】50	
第3回	ストレスについて正しい理解を得る（3）： ・ストレスが（悪）影響を及ぼす過程について学ぶ ・自分自身に特徴的な「ストレスが（悪）影響を及ぼす過程」について理解する			【予習】該当資料をダウンロードし、プリントアウトした上で、一通り、目を通しておく。 【復習】授業で紹介した内容を振り返り、理解する。ホームワークが課された場合はそれを実施する。		【予習】10 【復習】50	
第4回	ストレスについて正しい理解を得る（4）： ・ストレス対処について学ぶ ・自分自身に特徴的なストレス対処について理解する			【予習】該当資料をダウンロードし、プリントアウトした上で、一通り、目を通しておく。 【復習】授業で紹介した内容を振り返り、理解する。ホームワークが課された場合はそれを実施する。		【予習】10 【復習】50	
第5回	ストレス・マネジメント力向上のための知識と体験ワーク（1）： ・問題解決スキルについて学び、実践する			【予習】該当資料をダウンロードし、プリントアウトした上で、一通り、目を通しておく。 【復習】授業で紹介した内容を振り返り、理解する。ホームワークが課された場合はそれを実施する。		【予習】10 【復習】50	
第6回	ストレス・マネジメント力向上のための知識と体験ワーク（2）： ・人と上手にやりとりするスキル（コミュニケーション・アサーションスキル）について学び、実践する			【予習】該当資料をダウンロードし、プリントアウトした上で、一通り、目を通しておく。 【復習】授業で紹介した内容を振り返り、理解する。ホームワークが課された場合はそれを実施する。		【予習】10 【復習】50	
第7回	ストレス・マネジメント力向上のための知識と体験ワーク（3）： ・行動変容スキルについて学び、実践する			【予習】該当資料をダウンロードし、プリントアウトした上で、一通り、目を通しておく。 【復習】授業で紹介した内容を振り返り、理解する。ホームワークが課された場合はそれを実施する。		【予習】10 【復習】50	
第8回	ストレス・マネジメント力向上のための知識と体験ワーク（4）： ・時間管理スキルについて学び、実践する			【予習】該当資料をダウンロードし、プリントアウトした上で、一通り、目を通しておく。 【復習】授業で紹介した内容を振り返り、理解する。ホームワークが課された場合はそれを実施する。		【予習】10 【復習】50	
第9回	ストレスマネジメント力向上のための知識と体験ワーク（5）： ・思考（認知）の癖と上手に付き合うスキルについて学び、実践する			【予習】該当資料をダウンロードし、プリントアウトした上で、一通り、目を通しておく。 【復習】授業で紹介した内容を振り返り、理解する。ホームワークが課された場合はそれを実施する。		【予習】10 【復習】50	
第10回	ストレス・マネジメント力向上のための知識と体験ワーク（6）： ・身体感覚を介したリラクゼーション・マインドフルネススキルについて学び、実践する			【予習】該当資料をダウンロードし、プリントアウトした上で、一通り、目を通しておく。 【復習】授業で紹介した内容を振り返り、理解する。ホームワークが課された場合はそれを実施する。		【予習】10 【復習】50	
第11回	ストレス・マネジメント力向上のための知識と体験ワーク（7）： ・健康的なライフスタイルを保つスキルについて学び、実践する			【予習】該当資料をダウンロードし、プリントアウトした上で、一通り、目を通しておく。 【復習】授業で紹介した内容を振り返り、理解する。ホームワークが課された場合はそれを実施する。		【予習】10 【復習】50	
第12回	ストレス・マネジメント力向上のための知識と体験ワーク（8）： ・自他の心の痛みやしんどさに気づき、受け入れ、温かくケ			【予習】該当資料をダウンロードし、プリントアウトした上で、一通り、目を通しておく。 【復習】授業で紹介した内容を振り返り、理解する。ホームワークが課された場合はそれを実施する。		【予習】10 【復習】50	

	アしていくためのコンパッションネートスキルについて学び、実践する	ムワークが課された場合はそれを実施する。	
第13回	ストレス・マネジメント方向上のための知識と体験ワーク(9): ・誰かの成長(変化)を支えて、応援していくためのコミュニケーションスキルについて学び、実践する	【予習】該当資料をダウンロードし、プリントアウトした上で、一通り、目を通しておく。 【復習】授業で紹介した内容を振り返り、理解する。ホームワークが課された場合はそれを実施する。	【予習】10 【復習】50
第14回	授業のまとめと事後評価: ・ストレス場面での対処(マネジメントスキル)をシミュレーションする ・各回を振り返り、自身のストレス反応パターンおよびストレスマネジメントスキルの変化を整理する ・授業を受けたあとのストレス体験を測定する(事後評価)	【予習】該当資料をダウンロードし、プリントアウトした上で、一通り、目を通しておく。 【復習】授業で紹介した内容を振り返り、理解する。	【予習】10 【復習】50
<p>〔授業の方法〕 対面形式で実施し、授業は講義と体験ワーク(エクササイズ)を併用して行う。また、各授業を受けた結果や感想をレスポンスシートにまとめ、毎回提出する。学期末に期末レポートを課す。普段からプリントを使った復習(およびホームワークがあればそれ)に力を入れ、学んだ内容の整理に努めること。また、上で示された準備学修の時間はあくまで目安であって、各自の理解度に応じて取り組むこと。出欠確認のために学生証を使用するため、必ず持参して授業に臨むこと。 なお、レスポンスシート、期末レポートの狙いは以下のとおりである。 ・レスポンスシート:各授業に参加して、学んだこと、感じたこと、思ったこと、疑問点を言語化し、各自の整理をすすめる(なお、必要に応じて、適時レスポンスシートの内容に対するフィードバックを行う予定である)。 ・期末レポート:授業全体の学修成果をまとめる。</p>			
<p>〔成績評価の方法〕 授業への参加状況や各回のレスポンスシート・セルフチェック・ホームワークの提出状況などの平常点(60%:内訳はおおよそ、出席およびレスポンスシート30%、セルフチェック15%、HW15%)、期末レポート(40%:内訳は内容30%、事前事後の測定10%)、により総合的に評価する。</p>			
<p>〔成績評価の基準〕 成蹊大学の成績評価基準(学則第38条、39条)に準拠する。 次の点に着目し、その到達度により評価する。 (1) ストレスについて正しい理解を得ること。 (2) ストレス・マネジメント方向上のための体験ワークやエクササイズに取り組み、実践的スキルを身につけること。</p>			
<p>〔必要な予備知識/先修科目/関連科目〕 必要な予備知識・先修科目:この科目は経営学部の2年生以上の配当科目であることから、経営学部副専攻認定のための他学部の履修者は『企業と社会』を修得済または履修中であることが望ましい。また、心理学副専攻認定のための他学部の履修者は心理学副専攻の基礎科目に位置づく『心理学の基礎』『自己理解の心理学』『脳科学と心』のいずれかを修得済または履修中であることが望ましい。 関連科目:こころの健康と臨床/カウンセリングの基礎</p>			
<p>〔テキスト〕 特になし。なお、各回のレジュメは事前に Course Power にアップロードする予定なので、各自でダウンロードをした上で、それを持参して授業に臨むこと。</p>			
<p>〔参考書〕 特になし。ただし、必要に応じて、授業の中で紹介する。</p>			
<p>〔質問・相談方法等(オフィス・アワー)〕 ポータルサイトで周知する。また、授業終了後に教室で受け付ける。</p>			
<p>〔特記事項〕 ・アクティブ・ラーニング</p>			

科目名		組織の経済学					
教員名		平尾 由紀子					
科目No.	122544000	単位数	2	配当年次	2年生	開講時期	2025 前期
<p>[テーマ・概要]</p> <p>民営化、企業の合併・買収、従業員の報酬制度、取締役会制度や監査制度など、新聞には経済組織に関する記事が毎日のように載っている。これらの現象をばらばらにみるのではなく、統一的な経済学の視点から捉えることが組織の経済学の目的である。企業組織内のモチベーション（動機付け）、企業間関係と契約、企業の資本構成とインセンティブ、組織のデザインなど、経営学で扱われてきた対象を、経済学的手法を用いて分析する。</p>							
<p>[到達目標]</p> <p>DP1（専門分野の知識・技能）とDP3（課題の発見と解決）を実現するため、以下を到達目標とする。</p> <p>①組織の経済学の基礎的な概念を学び、理論的な理解力を養う。</p> <p>②理論をさまざまな組織に応用して分析するための基礎知識を身に付ける。</p>							
[授業の計画と準備学修]							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修の目安（分）	
第1回	はじめに：組織の経済学とは			【復習】 授業の内容を復習する。		60	
第2回	取引コスト理論の基本原則			【復習】 授業の内容をよく理解した上で、宿題1に取り組む。		120	
第3回	宿題1の解説 取引コスト理論と組織デザイン			【復習】 授業の内容を復習する。宿題1の理解を確認する。		60	
第4回	取引コスト理論と企業の境界			【復習】 授業の内容をよく理解した上で、宿題2に取り組む。		120	
第5回	宿題2の解説 情報の非対称性の問題：逆選択とモラル・ハザード			【復習】 授業の内容を復習する。宿題2の理解を確認する。		60	
第6回	情報の非対称性への対策			【復習】 授業の内容をよく理解した上で、宿題3に取り組む。		120	
第7回	宿題3の解説、期末レポートのテーマを周知 エージェンシー理論と人事労務			【復習】 授業の内容を復習する。宿題3の理解を確認する。 【予習】 期末レポートに取り組む。		120	
第8回	日本の人事制度			【復習】 授業の内容をよく理解した上で、宿題4に取り組む。		120	
第9回	宿題4の解説 エージェンシー理論とコーポレート・ガバナンス			【復習】 授業の内容を復習する。宿題4の理解を確認する。 【予習】 期末レポートについて調べる。		120	
第10回	日米コーポレート・ガバナンスの特徴			【復習】 授業の内容をよく理解した上で、宿題5に取り組む。		120	
第11回	宿題5の解説 エージェンシー理論と企業財務（コーポレート・ファイナンス）			【復習】 授業の内容を復習する。宿題5の理解を確認する。 【予習】 期末レポートについて調べる。		120	
第12回	所有権理論の原理			【復習】 授業の内容をよく理解した上で、宿題6に取り組む。		120	
第13回	宿題6の解説 所有権理論と企業組織			【復習】 授業の内容を復習する。宿題6の理解を確認する。 【予習】 期末レポートを執筆する。		120	
第14回	全体のまとめ			【復習】 学期中に学んだ内容全体の復習と理解に努める。		120	
<p>[授業の方法]</p> <p>この授業は、オンラインで実施する。</p> <p>授業時にはプリントを配布し、それをもとに講義を行う。授業中の短い演習問題と授業外の宿題を定期的に課し、学生の理解度を見ながら授業を進める。学生は、これらの課題に取り組むことにより、授業の復習をする。分からないことを次の授業に持ち越さないようにする。また、上で示された準備学修の時間はあくまで目安であって、各自の理解度に応じて取り組むこと。</p> <p>なお、演習、宿題と期末レポートの狙いは、以下のとおりである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業中の短い演習と授業外の宿題：その時々の授業内容の理解を確認する。 ・期末レポート：現実の組織形態について学生各自が調べることに伴い、授業第1部（取引コスト理論）に関する理解を深める。 							
[成績評価の方法]							

平常点（評価の60%程度）と学期末の課題レポート（評価の40%程度）を目安として、総合的に成績評価する。
平常点は、授業中の演習問題（毎授業時提出）と、授業外で取り組む宿題（隔週提出）から成る。

〔成績評価の基準〕

成蹊大学の成績評価基準（学則第38条、第39条）に準拠する。また、次の点に着目し、その達成度により評価する。

- ①組織の経済学の基礎的な概念を学び、理論的な理解を深めた。
- ②理論をさまざまな組織に応用して分析するための基礎知識を身に付けた。

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕

必要な予備知識、先修科目は特になし。関連科目は「ゲーム理論」、「情報の経済学」、及び「組織と人間」群の科目。ただし、これらの科目を履修していなくても差し支えない。

〔テキスト〕

特にテキストを指定しない。授業で講義プリントを配布する。

〔参考書〕

- ・伊藤秀史、小林創、宮原泰之（2019）『組織の経済学』、有斐閣、3200円＋税。
 - ・菊澤研宗（2006）『組織の経済学 入門』、有斐閣、2300円＋税（ISBN4-641-16277-8）。
 - ・菊澤研宗編著（2006）『業界分析 組織の経済学』、中央経済社、2600円＋税。
 - ・清水克俊・堀内昭義（2003）『インセンティブの経済学』、有斐閣、3200円＋税。
 - ・中林真幸・石黒真吾編（2010）『比較制度分析・入門』、有斐閣、2800円＋税。
 - ・柳川範之（2000）『契約と組織の経済学』、東洋経済新報社、2500円＋税。
 - ・エドワード・ラジアー、マイケル・ギブス（2017）『人事と組織の経済学 実践編』日本経済新聞社、4800円＋税。
 - ・Besanko, D., D. Dranove, M. Shanley, and S. Schaefer (2010), "Economics of Strategy, Fifth Edition," Wiley.
 - ・Milgrom, P., and J. Roberts (1997) 『組織の経済学』、NTT出版、5500円＋税。
- 以上はいずれも参考書であり、購入の必要はない。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕

ポータルサイトで周知する。

〔特記事項〕

科目名	コーポレート・ファイナンス						
教員名	時岡 規夫						
科目No.	122552000	単位数	2	配当年次	2年生	開講時期	2025 前期
<p>〔テーマ・概要〕</p> <p>ファイナンスは経済主体の金融に関わる意思決定や金融取引を研究対象とする学問分野です。ここでは、しばしば、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・資金の供給主体で証券の需要主体である投資家の金融に関する意思決定をテーマとする証券投資 ・資金の需要主体で証券の供給主体である企業の金融に関する意思決定をテーマとするコーポレート・ファイナンス（企業金融論） ・資金と証券の交換メカニズムである証券市場や銀行 <p>に大別して説明されます。この授業では、経営学部カリキュラムの2年次配当の専門科目のうち、経営専門基礎科目である「ファイナンスの基礎」の内容を受けて、コーポレート・ファイナンスの発展的なトピックスを学んでいきます。できるだけ具体的な事例等をまじえることで、コーポレート・ファイナンスの実践についての理解をさらに深める一助とすることもめざします。</p>							
<p>〔到達目標〕</p> <p>DP1【専門分野の知識・技能】を実現するため、以下を到達目標とします：</p> <p>コーポレート・ファイナンス（企業金融論）の発展的なトピックス、具体的には、コーポレート・ガバナンス（企業統治）、M&A（合併・買収）、株式公開、国際財務管理に関する理論と具体的な事例や関連データをまじえて実際について理解し、明確に説明できることを到達目標とします。</p>							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修の目安（分）	
第1回	<p>ガイダンス</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業の内容、進め方、予習・復習のしかた等を説明します。 ・ファイナンスの学問分野としての特徴、コーポレート・ファイナンス（企業金融論）の分析の視点を確認します。 ・クイズ（原則、次回解説）を出すことがあります。 			<p>【予習】シラバスを読み、あらかじめその内容を把握する。</p> <p>【復習】配布資料等を基に、授業の内容を再確認するとともに、キーワード等について説明できるようにする。</p>		90	
第2回	<p>コーポレート・ガバナンス（その1）</p> <p>※以下、進捗状況等に応じて内部が一部変更される可能性があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コーポレート・ガバナンスの課題について学修します。 ・クイズ（原則、次回解説）を出すことがあります。 			<p>【復習】配布資料等を基に、キーワード等について説明できるようにする。</p>		90	
第3回	<p>コーポレート・ガバナンス（その2）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・株主と経営者の利害の対立とその解決策について学修します。 ・クイズ（原則、次回解説）を出すことがあります。 			<p>【復習】配布資料等を基に、キーワード等について説明できるようにする。</p>		90	
第4回	<p>コーポレート・ガバナンス（その3）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・株主と債権者の利害の対立とその解決策について学修します。 ・クイズ（原則、次回解説）を出すことがあります。 			<p>【復習】配布資料等を基に、キーワード等について説明できるようにする。</p>		90	
第5回	<p>コーポレート・ガバナンス（その4）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・取締役会のコーポレート・ガバナンス上の役割、その国際比較について学修します。 ・クイズ（原則、次回解説）を出すことがあります。 			<p>【復習】配布資料等を基に、キーワード等について説明できるようにする。</p>		90	
第6回	<p>M&Aとコーポレート・ファイナンス（その1）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・M&Aの基礎知識を学修します。 ・クイズ（原則、次回解説）を出すことがあります。 			<p>【復習】配布資料等を基に、キーワード等について説明できるようにする。</p>		90	
第7回	<p>M&Aとコーポレート・ファイナンス（その2）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・M&Aはなぜ行なわれるのかについて学修します。 ・クイズ（原則、次回解説）を出すことがあります。 			<p>【復習】配布資料等を基に、キーワード等について説明できるようにする。</p>		90	
第8回	<p>M&Aとコーポレート・ファイナンス（その3）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・敵対的買収について学修します。 ・クイズ（原則、次回解説）を出すことがあります。 			<p>【復習】配布資料等を基に、キーワード等について説明できるようにする。</p>		90	
第9回	<p>M&Aとコーポレート・ファイナンス（その4）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・M&Aは実際に成功しているのかについて学修します。 ・クイズ（原則、次回解説）を出すことがあります。 			<p>【復習】配布資料等を基に、キーワード等について説明できるようにする。</p>		90	
第10回	<p>株式公開とコーポレート・ファイナンス（その1）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・株式公開の基礎知識を学修します。 ・クイズ（原則、次回解説）を出すことがあります。 			<p>【復習】配布資料等を基に、キーワード等について説明できるようにする。</p>		90	
第11回	<p>株式公開とコーポレート・ファイナンス（その2）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・株式公開の事例分析を学修します。 ・クイズ（原則、次回解説）を出すことがあります。 			<p>【復習】配布資料等を基に、キーワード等について説明できるようにする。</p>		90	
第12回	<p>株式公開とコーポレート・ファイナンス（その3）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・株式の非公開化について学修します。 ・クイズ（原則、次回解説）を出すことがあります。 			<p>【復習】配布資料等を基に、キーワード等について説明できるようにする。</p>		90	
第13回	<p>国際財務管理（その1）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国際財務管理とは何かについて学修します。 ・クイズ（原則、次回解説）を出すことがあります。 			<p>【復習】配布資料等を基に、キーワード等について説明できるようにする。</p>		90	
第14回	<p>国際財務管理（その2）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国際財務管理の理論と実際を学修します。 			<p>【復習】配布資料等を基に、キーワード等について説明できるようにする。</p>		90	

<p>〔授業の方法〕</p> <p>通常の講義形式で進めますが、授業中にクイズなどを出すことがあります。また、レポートの提出を求めることがあるかもしれません。ふだんから復習に力を入れ、次回の授業にわからないところを持ち越さないように心がけてください。上で示された準備学修の時間はあくまでも目安であって、各自の理解度に応じて取り組んでください。なお、クイズ、レポートの主なねらいは次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・クイズ：学修内容についての基本的な理解度やキーワードの理解を確認する。 ・レポート：課題内容を理解し、学修内容をふまえて自分の理解を明確に説明できているかを確認する。 <p>授業自体は、配布資料等を基に、講義内容を詳述します。</p>
<p>〔成績評価の方法〕</p> <p>学期末試験および授業中に与えられるクイズなどの取り組み状況等ならびにレポートの提出状況・内容等によって総合的に評価します。評価ウェイトは学期末試験が80%、クイズやレポートなどの平常点が20%を目安とする予定です。</p>
<p>〔成績評価の基準〕</p> <p>成蹊大学の成績評価基準（学則第38条、39条）に準拠します。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 38, 39.</p> <p>次の点に着目し、その達成度により評価します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コーポレート・ファイナンス（企業金融論）の発展的なトピックス、具体的には、コーポレート・ガバナンス（企業統治）、M&A（合併・買収）、株式公開、国際財務管理に関する理論と実際について理解し、明確に説明できる。
<p>〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕</p> <p>先修科目としては、「企業経営の基礎」、「ファイナンスの基礎」など。 関連科目としては、「会社のしくみと制度」、「マイクロ経済学の基礎」、「マクロ経済学の基礎」、「資産選択の意思決定」、「証券市場」、「社会理解実践講義（資本市場の役割と証券投資）」など。 この授業科目は経営学部カリキュラムの2年次配当の専門科目であり、経営学部以外の他学部の履修生にあつては、全学共通科目（成蹊教養カリキュラム）の「企業と社会」を修得済みまたは履修中であることが望ましいです。</p>
<p>〔テキスト〕</p> <p>現時点では使用するかどうかを含め未定です。 はじめの授業日に担当者から説明があります。</p>
<p>〔参考書〕</p> <p>とりあえず</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新井 富雄・渡辺 茂・太田 智之〔著〕, 1999, 『資本市場とコーポレート・ファイナンス』, 中央経済社 (3,500円＋税, ISBN 4-502-34902-1) ・榊原 茂樹・菊池 誠一・新井 富雄・太田 浩司〔著〕, 2011, 『現代の財務管理』, 新版, 有斐閣 (2,100円＋税, ISBN 4-641-12427-2) ・俊野 雅司・白須 洋子・時岡 規夫〔著〕, 2020, 『ファイナンス論・入門』, 有斐閣 (3,600円＋税, ISBN 978-4-641-16570-0) ・米澤 康博・小西 大・芹田 敏夫〔著〕, 2004, 『新しい企業金融』, 有斐閣 (1,900円＋税, ISBN 4-641-12217-2) ・Brealey, Richard A., Stewart C. Myers, Franklin Allen, and Alex Edmans, 2023, Principles of Corporate Finance, 14th ed., New York: McGraw-Hill Education (ISBN 9781265074159) (邦訳の最新版は第10版; リチャード・ブリーリー・ステュワート・マイヤーズ＝フランクリン・アレン〔著〕, 藤井 眞理子・國枝 繁樹〔監訳〕, 2014, 『コーポレートファイナンス』, 第10版, 上・下, 日経BP社) <p>を挙げますが、その他、個々のトピックスに関する参考書・参考資料等の参考文献は授業中に適宜紹介、配付します。</p>
<p>〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕</p> <p>ポータルサイトで周知します。 また、授業終了後に教室で受け付けます。</p>
<p>〔特記事項〕</p>

科目名		資産選択の意思決定					
教員名		伊藤 敬介					
科目No.	122553000	単位数	2	配当年次	2年生	開講時期	2025 前期
<p>〔テーマ・概要〕</p> <p>株式や債券などへの投資は、豊かな老後生活を目指す個人投資家や、お客様から預かった資金の効率的な運用を目指す金融機関・機関投資家、そして保有資金の効率的な活用を目指す事業法人や財団法人など、様々な投資主体によって行われています。そして、株式や債券などの証券に投資される資金額は、国内投資家による資金だけでも1,000兆円を上回ります。</p> <p>株式や債券などに投資する意義や効果はどのようなものか。世の中にはどのような金融商品があるのか。株式や債券に投資した場合に期待されるリターンやリスクはどのようなものか。株価が割高か割安かをどう判断すればよいか。投資リスクはどのように把握すればよいか。複数の証券に分散投資した場合、即ち複数証券の「ポートフォリオ」に投資した場合に期待されるリターンやリスクをどのように考えればよいか。当授業では、このような「投資家」の立場からみた資産選択の意思決定、即ち「インベストメント・ファイナンス」の基礎を体系的に整理することを目指します。</p>							
<p>〔到達目標〕</p> <p>DP1（専門分野の知識・技能）を実現するため、以下を到達目標とします。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 証券市場や金融商品の概要を理解し、説明できる。 2) 株式投資で期待されるリターンやリスクの概要を理解し、説明できる。 3) 複数の証券に分散投資したポートフォリオの期待リターンとリスクの概要を理解し、エクセルを用いて最適な投資比率を計算できる。 4) 投資方針策定の考え方やCAPMの概要を理解し、説明できる。 							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修の目安（分）	
第1回	イントロダクション ・講義の全体像や進め方、株式や債券などの証券投資の概要を説明する。			【予習】シラバスを読み、あらかじめその内容を把握する。 【復習】配布資料等を基に、授業の内容を再確認するとともに、キーワード等について説明できるようにする。		60	
第2回	証券市場と金融商品 ・株式や債券などの証券に投資する意義や、代表的な金融商品について学修する。			【復習】配布資料等を基に授業内容を再確認するとともに、出題された課題があればそれに対応する。		60	
第3回	期待リターンとリスク ・リターンに不確実性があるなかで、「期待リターン」や「リスク」について学修する。			【復習】配布資料等を基に授業内容を再確認するとともに、出題された課題があればそれに対応する。		60	
第4回	株式の価値評価（1） ・株価が割安か割高かを判断するための、株式価値評価手法の基礎を学修する。			【復習】配布資料等を基に授業内容を再確認するとともに、出題された課題があればそれに対応する。		60	
第5回	株式の価値評価（2） ・株式価値評価手法の基礎をレビューし、簡単な演習を行う。			【復習】配布資料等を基に授業内容を再確認するとともに、出題された課題があればそれに対応する。		60	
第6回	株式の期待リターンとリスク ・株式に投資する場合の期待リターンとリスクについて学修する。			【復習】配布資料等を基に授業内容を再確認するとともに、出題された課題があればそれに対応する。		60	
第7回	ポートフォリオの期待リターンとリスク（1） ・複数の証券に分散投資した場合、即ち複数証券の「ポートフォリオ」に投資した場合の期待リターンとリスクについて学修する。			【復習】配布資料等を基に授業内容を再確認するとともに、出題された課題があればそれに対応する。		60	
第8回	ポートフォリオの期待リターンとリスク（2） ・複数証券の「ポートフォリオ」に投資した場合の期待リターンとリスクをレビューし、簡単な演習を行う。			【復習】配布資料等を基に授業内容を再確認するとともに、出題された課題があればそれに対応する。		60	
第9回	投資方針の策定 ・リターン目標、リスク制約、想定投資期間、流動性制約の考慮など、投資方針を策定する際のポイントを学修する。			【復習】配布資料等を基に授業内容を再確認するとともに、出題された課題があればそれに対応する。		60	
第10回	最適ポートフォリオ（1） ・同じ期待リターンでもリスクが最小となるような証券への投資比率を簡単に計算できる、エクセルのソルバー機能について学修する。			【復習】配布資料等を基に授業内容を再確認するとともに、出題された課題があればそれに対応する。		60	
第11回	最適ポートフォリオ（2） ・エクセルのソルバー機能を用いたポートフォリオの最適化の演習を行う。			【復習】配布資料等を基に授業内容を再確認するとともに、出題された課題があればそれに対応する。		60	
第12回	資本資産評価モデル（CAPM）（1） ・ノーベル経済学賞の受賞にもつながった、証券投資に関する重要な理論、「CAPM」について学修する。			【復習】配布資料等を基に授業内容を再確認するとともに、出題された課題があればそれに対応する。		60	
第13回	資本資産評価モデル（CAPM）（2） ・資産選択の意思決定を行う上で、CAPM から得られる示唆は何かを学修する。			【復習】配布資料等を基に授業内容を再確認するとともに、出題された課題があればそれに対応する。		60	
第14回	資産選択の意思決定に関するまとめ ・講義全体のまとめを行い、期末試験について説明する。			【復習】配布資料等を基に、キーワード等について説明できるようにする。		60	
<p>〔授業の方法〕</p> <p>講義テキストおよび毎回配付する講義資料（レジュメ）に基づいて、講義形式で進めます。実践的な知識を身につけるために、中間課題（レポート）を提出して頂きます。また、理解度を確認するためのクイズも適宜出題します。</p>							

<p>[成績評価の方法]</p> <p>期末試験 50%、中間課題（レポート）30%、平常点（授業中の積極的・建設的な発言など）20%で評価します。</p>
<p>[成績評価の基準]</p> <p>成蹊大学の成績評価基準（学則第 38 条、39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.38, 39.</p> <p>主に、以下に関する到達度に応じて評価します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 証券市場や金融商品の概要を理解し、説明できるか。 ・ 株式投資で期待されるリターンやリスクの概要を理解し、説明できるか。 ・ 複数の証券に分散投資したポートフォリオの期待リターンとリスクの概要を理解し、エクセルを用いて最適な投資比率を計算できるか。 ・ 投資方針策定の考え方や CAPM の概要を理解し、説明できるか。
<p>[必要な予備知識/先修科目/関連科目]</p> <p>先修科目：「ファイナンスの基礎」</p>
<p>[テキスト]</p> <p>『ファイナンス論・入門』、俊野雅司・白須洋子・時岡規夫[著]、有斐閣、2020年、ISBN：978-4641-16570-0</p>
<p>[参考書]</p> <p>『新・証券投資論Ⅱ 実務篇』、日本証券アナリスト協会 [編]、伊藤敬介・荻島誠治・諏訪部貴嗣 [著]、日本経済新聞出版社、2009年、ISBN：978-4532133733 (購入の必要はありません)</p>
<p>[質問・相談方法等 (オフィス・アワー)]</p> <p>ポータルサイトで周知します。 また、授業終了後に教室で受け付けます。</p>
<p>[特記事項]</p>

科目名	管理会計						
教員名	伊藤 克容						
科目No.	122554000	単位数	2	配当年次	2年生	開講時期	2025 後期
<p>〔テーマ・概要〕</p> <p>企業会計には、「財務会計」と「管理会計」という2つの領域があります。現在のような競争の激しい世の中で、会社の経営をうまくおこなおうとすれば、様々なデータを駆使することがどうしても必要になります。「どの商品が儲かっているか」、「業績の好調な支店はどの店か、その原因は何か」、「計画どおりに利益があがらなかったのはなぜか、対策をどう考えたらいいか」、「あたらしい工場を建てるべきか、思いとどまった方がいいか」など、経営者が直面するいろいろな問題を処理するのにデータはひじょうに有効です。管理会計の講義では、経営に役立つ数字の扱い方を学習します。</p> <p>「管理会計」という言葉は、英語で書くと management accounting といいます。この言葉は、「財務会計」とセットになる言葉です。株主、債権者、税務当局など企業外部の人たちに役立つ情報を提供するものが財務会計とよばれる領域です。これに対して、会社のなかの経営者が問題を処理するのにつかう情報を提供するものが管理会計です。会社のなかの経営者といっても、社長などのトップ・マネジメントから部課長レベルおよび現場の第一線で活躍する管理者のすべてが含まれます。経営管理 (management) のための会計 (accounting) が、管理会計だというわけです。この講義では、企業が競争優位を構築し、維持するために利用している会計手法のうち、基本的な内容を学習します。</p>							
<p>〔到達目標〕</p> <p>DP1 (専門分野の知識・技能) を実現するため、次の3点を到達目標とする。</p> <p>①管理会計の基本用語について説明できる。</p> <p>②管理会計の代表的な手法について、実際に計算ができる。</p> <p>③企業における管理会計の運用プロセスを理解することができる。</p>							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修 (予習・復習等)		準備学修の目安 (分)	
第1回	ガイダンス (管理会計と財務会計、成績評価の方法)			【予習】 管理会計とはどのようなものか、書籍、ウェブサイトなどで自分なりに調べておくこと。 【復習】 確認問題 (宿題) を各自解いておくこと。		60	
第2回	原価計算の基礎知識 (1)			【復習】 確認問題 (宿題) を各自解いておくこと。		60	
第3回	原価計算の基礎知識 (2)			【復習】 確認問題 (宿題) を各自解いておくこと。		60	
第4回	個別原価計算と総合原価計算 (1)			【復習】 確認問題 (宿題) を各自解いておくこと。		60	
第5回	個別原価計算と総合原価計算 (2)			【復習】 確認問題 (宿題) を各自解いておくこと。		60	
第6回	事業部の業績測定			【復習】 確認問題 (宿題) を各自解いておくこと。		60	
第7回	総合問題演習 (前半のまとめ)			【復習】 確認問題 (宿題) を各自解いておくこと。		60	
第8回	プレゼンテーション大会、差額原価収益分析			【復習】 確認問題 (宿題) を各自解いておくこと。		60	
第9回	組織間コストマネジメント			【復習】 確認問題 (宿題) を各自解いておくこと。		60	
第10回	コスト・マネジメントの新しい体系 原価企画・原価改善・原価維持			【復習】 確認問題 (宿題) を各自解いておくこと。		60	
第11回	予算実績差異分析 (1)			【復習】 確認問題 (宿題) を各自解いておくこと。		60	
第12回	予算実績差異分析 (2)			【復習】 確認問題 (宿題) を各自解いておくこと。		60	
第13回	主要財務指標の改善 (1)			【復習】 確認問題 (宿題) を各自解いておくこと。		60	
第14回	主要財務指標の改善 (2) + 全体のまとめ			【復習】 確認問題 (宿題) を各自解いておくこと。		60	
<p>〔授業の方法〕</p> <p>基本的には講義形式 (教官の話を中心にする授業形態) をとっていますが、教官の話をおとなしく聞いていれば、それだけでいいという授業ではありません。授業時間中のディスカッション、課題提出など、受講者の側からの積極的な取り組みを前提として考えています。授業時間内に扱う計算問題は、かならず自分で解いてみるようにしてください。最初はよくわからなくても、自分で電卓をたたいて計算し、計算用紙にいろいろ書いているうちに段々分かってく</p>							

ることが、頻繁にあります。計算問題をする際に必要となるので、毎時間かならず自分用の電卓をもってきてください。
質問はいつでも受け付けます。授業時間中に不明な点をその都度、確認するようにしてください。

〔成績評価の方法〕

中間試験と期末試験（試験成績、50%）、講義時間内の確認テスト、発言など講義時間内の取り組み（平常点、50%）を基本に評価します。
積極的に参加する意欲の高い受講者に対して加点します。いくつかの重要概念、経営手法について、受講者が作成したレポートを発表し、討議・共有する機会を設けます。受講者が主体となって課題解決に取り組む、プロジェクト型授業としての性格を一部、有します。

〔成績評価の基準〕

成蹊大学の成績評価基準（学則第38条、39条）に準拠します。
次の点に着目し、その達成度を総合的に評価します。
①管理会計の重要概念、計算構造を理解している。
②管理会計の計算実務を実施することができる。
概ね、「試験50%+平常点50%」での評価となります。

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕

「企業会計入門」で学んだ知識があれば、十分です。基礎から勉強します。特定の先修科目を前提としません。
経営、企業、会計、金融などへの一般的な関心・興味があったほうがよいでしょう。
この科目は経営学部の2年生以上の配当科目であり、他学部の履修者については『企業と社会』を修得済または履修中であることがのぞましいです。
管理会計は、財務会計と対になる概念で、企業会計の重要な構成要素です。多くの会計科目の基礎として位置付けられます。関連科目として、会計関連の諸科目の受講をすすめます。

〔テキスト〕

特に定めません。毎回、プリントを配付します。

〔参考書〕

必要に応じて指示します。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕

オフィスアワーについては、ポータルサイトで周知しています。

〔特記事項〕

アクティブ・ラーニング

科目名		財務会計					
教員名		調 勇二					
科目No.	122555000	単位数	2	配当年次	2年生	開講時期	2025 前期
<p>〔テーマ・概要〕</p> <p>本科目は経営学部総合経営学科の専門応用発展科目のなかのファイナンスと会計科目に位置づけられています。本科目では企業活動を理解するための「言語」あるいは「レンズ」である財務会計について学びます。財務会計は、企業の経営成績（儲かっているのか）や財政状態（財務的に健全なのか）を測定し、報告するための仕組みです。私たちが日々にするニュースでも、企業の売上高、利益、自己資本比率といった会計数値が頻繁に取り上げられています。本科目では、これらの会計数値がどのように作られ、何を意味しているのかを理解することを目指します。</p>							
<p>〔到達目標〕</p> <p>本科目では、DP1（専門分野の知識・技能）の涵養を目指しています。具体的な到達目標は以下の通りです。</p> <p>①基本的な財務会計の用語を理解できる。 ②財務会計の考え方や会計処理について説明できる。 ③習得した知識に基づいて、企業の財務情報を分析できる。</p>							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修の目安（分）	
第1回	イントロダクション ・授業の全体像、進め方、予習・復習について説明する。			【予習】事前に配布された資料に目を通して科目に対する理解を深め、さらに自分なりに調べておく。		60	
第2回	企業会計の本質とフレームワーク ・会計の意義や財務会計の機能、フレームワーク等について学ぶ。			【予習】事前に講義資料に目を通して大まかな内容を把握しておく。 【復習】講義資料を元に復習を行い主要なトピックや概念、用語について説明できるようにする。		90	
第3回	会計制度の論理と体系 ・会計基準の設定について学ぶ。			【予習】事前に講義資料に目を通して大まかな内容を把握しておく。 【復習】講義資料を元に復習を行い主要なトピックや概念、用語について説明できるようにする。		90	
第4回	企業のディスクロージャー ・財務会計を含む企業のディスクロージャーについて学ぶ。			【予習】事前に講義資料に目を通して大まかな内容を把握しておく。 【復習】講義資料を元に復習を行い主要なトピックや概念、用語について説明できるようにする。		90	
第5回	損益計算書のパラダイム ・損益計算書の本質と現在地について学ぶ。			【予習】事前に講義資料に目を通して大まかな内容を把握しておく。 【復習】講義資料を元に復習を行い主要なトピックや概念、用語について説明できるようにする。		90	
第6回	経営パフォーマンスの測定と表示 ・損益計算書において経営パフォーマンスがどのように測定・表示されるのかを学ぶ。			【予習】事前に講義資料に目を通して大まかな内容を把握しておく。 【復習】講義資料を元に復習を行い主要なトピックや概念、用語について説明できるようにする。		90	
第7回	貸借対照表のパラダイム ・貸借対照表の本質と現在地について学ぶ。			【予習】事前に講義資料に目を通して大まかな内容を把握しておく。 【復習】講義資料を元に復習を行い主要なトピックや概念、用語について説明できるようにする。		90	
第8回	資産の会計 ・貸借対照表において資産がどのように測定・表示されるのかを学ぶ。			【予習】事前に講義資料に目を通して大まかな内容を把握しておく。 【復習】講義資料を元に復習を行い主要なトピックや概念、用語について説明できるようにする。		90	
第9回	持分の会計 ・貸借対照表において持分がどのように測定・表示されるのかを学ぶ。			【予習】事前に講義資料に目を通して大まかな内容を把握しておく。 【復習】講義資料を元に復習を行い主要なトピックや概念、用語について説明できるようにする。		90	
第10回	金融商品の会計 ・金融商品が公正価値会計に基づいてどのように測定・表示されるのかを学ぶ。			【予習】事前に講義資料に目を通して大まかな内容を把握しておく。 【復習】講義資料を元に復習を行い主要なトピックや概念、用語について説明できるようにする。		90	
第11回	従業員給付の会計 ・従業員給付が公正価値会計に基づいてどのように測定・表示されるのかを学ぶ。			【予習】事前に講義資料に目を通して大まかな内容を把握しておく。 【復習】講義資料を元に復習を行い主要なトピックや概念、用語について説明できるようにする。		90	
第12回	連結グループの会計 ・連結グループの経営成績や財政状態がどのように測定・表示されるのかを学ぶ。			【予習】事前に講義資料に目を通して大まかな内容を把握しておく。 【復習】講義資料を元に復習を行い主要なトピックや概念、用語について説明できるようにする。		90	
第13回	企業結合・事業分離等の会計 ・企業結合・事業分離等が会計上どのように測定・表示されるのかを学ぶ。			【予習】事前に講義資料に目を通して大まかな内容を把握しておく。 【復習】講義資料を元に復習を行い主要なトピックや概念、用語について説明できるようにする。		90	
第14回	総復習・質問回 ・これまでの学習内容を復習して、疑問点を質問して解消する。			【予習】これまでの学習内容を総復習して理解度を確認する。理解が不足している点を洗い出しておく。 【復習】不足していた点が充足できたか確認しておく。		120	

<p>〔授業の方法〕</p> <p>基本的に講義形式で進めます。授業内容を振り返って理解度を深めるため、毎回課される事後課題に取り組むことが求められます。講義資料は原則として CoursePower 等の LMS を通じて配信します。各自・ダウンロード・印刷したうえで講義に臨んでください。</p>
<p>〔成績評価の方法〕</p> <p>平常点（講義への参加状況や課題の提出状況）：50% 期末試験：50%</p>
<p>〔成績評価の基準〕</p> <p>成蹊大学の成績評価基準（学則第 38 条、39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 38, 39.</p> <p>次の点に着目し、その達成度により評価します。</p> <p>①基本的な財務会計の用語を理解できる。 ②財務会計の考え方や会計処理について説明できる。 ③習得した知識に基づいて、企業の財務情報を分析できる。</p>
<p>〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕</p> <p>企業経営や企業会計に関する基礎科目を履修済みであることが望ましい。</p>
<p>〔テキスト〕</p> <p>必要な場合は別途指示します。</p>
<p>〔参考書〕</p> <p>購入の必要なし</p> <p>『新・現代会計入門 第 6 版』、伊藤邦雄、日本経済新聞出版、4,000 円＋税、ISBN：978-4-296-12004-8。 『財務・非財務報告のアカデミック・エビデンス』、中野誠、加賀谷哲之、河内山拓磨編著、中央経済社、2025 年、3,600 円＋税、ISBN：978-4-502-51821-8。 『財務会計講義』（最新版）、桜井久勝、中央経済社、3,800 円＋税、ISBN：978-4-502-50071-8。</p>
<p>〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕</p> <p>ポータルサイトで周知します。 また、授業終了後に教室で受け付けます。</p>
<p>〔特記事項〕</p>

科目名		国際会計					
教員名		調 勇二					
科目No.	122556000	単位数	2	配当年次	2年生	開講時期	2025 後期
<p>〔テーマ・概要〕</p> <p>本科目は経営学部総合経営学科の専門応用発展科目のなかのファイナンスと会計科目に位置づけられています。本科目では、グローバル化が進展する現代のビジネス環境において重要性を増している国際会計について学びます。そもそも国際会計とは何なのか、どのような考え方に基づいて国際会計の基準が設定されているのかを、日本の会計と比較して相対的な位置づけを理解します。そのうえで、個々の会計基準について学びます。本科目を通じて、具体的には以下のような観点から国際会計の全体像を把握します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グローバルビジネスにおける会計の役割 ・各国の会計制度の違いが生まれる背景 ・国際会計の基本的な考え方と特徴 ・日本企業の国際会計への対応状況 ・国際的な会計基準統一化の動向と課題 <p>実際の企業の財務諸表や具体的な事例を活用しながら、理論と実務の両面から国際会計について理解を深めていきます。将来、グローバルに活躍するビジネスパーソンとして必要となる、国際会計の基礎知識を修得しましょう。</p>							
<p>〔到達目標〕</p> <p>本科目では、DP1（専門分野の知識・技能）の涵養を目指しています。具体的な到達目標は以下の通りです。</p> <ol style="list-style-type: none"> ①基本的な国際会計の用語を理解できる。 ②国際的な会計ルールの考え方や会計処理について説明できる。 ③習得した知識に基づいて、国際会計基準を適用する企業の財務情報を分析できる。 							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修の目安（分）	
第1回	イントロダクション ・授業の内容、進め方、成績評価方法などを確認する。 ・IFRS とは何かについて理解する			【予習】 講義資料に事前に目を通して科目の全体像を把握しておく。日本企業のグローバル展開に伴い、どのような会計上の問題が生じるかについてイメージする。		60	
第2回	概念フレームワーク (1) ・IFRS における財務報告とその目的について学ぶ。			【復習】 講義資料を元に復習を行い主要なトピックや概念、用語について説明できるようにする。		60	
第3回	概念フレームワーク (2) ・IFRS における財務諸表の構成要素とその認識・測定について学ぶ。			【復習】 講義資料を元に復習を行い主要なトピックや概念、用語について説明できるようにする。		60	
第4回	IFRS の考え方とその背景 (1) ・企業価値評価モデルによる考察を行う。			【復習】 講義資料を元に復習を行い主要なトピックや概念、用語について説明できるようにする。		60	
第5回	IFRS の考え方とその背景 (2) ・資産・負債アプローチと包括利益について学ぶ。			【復習】 講義資料を元に復習を行い主要なトピックや概念、用語について説明できるようにする。		60	
第6回	IFRS による財務諸表 ・IFRS による各財務諸表について概観する。			【復習】 講義資料を元に復習を行い主要なトピックや概念、用語について説明できるようにする。		60	
第7回	IFRS による営業活動の会計 (1) ・IFRS における営業活動の会計の考え方について学ぶ。			【復習】 講義資料を元に復習を行い主要なトピックや概念、用語について説明できるようにする。		60	
第8回	IFRS による営業活動の会計 (2) ・IFRS における営業活動の投入要素の会計の考え方について学ぶ。			【復習】 講義資料を元に復習を行い主要なトピックや概念、用語について説明できるようにする。		60	
第9回	IFRS による固定資産の会計 (1) ・IFRS における固定資産の会計の考え方について学ぶ。			【復習】 講義資料を元に復習を行い主要なトピックや概念、用語について説明できるようにする。		60	
第10回	IFRS による固定資産の会計 (2) ・IFRS における賃貸借する固定資産に関する会計の考え方について学ぶ。			【復習】 講義資料を元に復習を行い主要なトピックや概念、用語について説明できるようにする。		60	
第11回	IFRS による金融商品の会計 (1) ・IFRS における金融商品に関する会計の考え方について学ぶ。			【復習】 講義資料を元に復習を行い主要なトピックや概念、用語について説明できるようにする。		60	
第12回	IFRS による金融商品の会計 (2) ・IFRS におけるヘッジ会計、金融商品の認識の中止、公正価値測定、外貨建取引の換算について学ぶ。			【復習】 講義資料を元に復習を行い主要なトピックや概念、用語について説明できるようにする。		60	
第13回	IFRS による組織再編の会計 ・IFRS における組織再編に関する会計の考え方について学ぶ。			【復習】 講義資料を元に復習を行い主要なトピックや概念、用語について説明できるようにする。		60	
第14回	IFRS による持分投資の会計 ・IFRS における持分投資に関する会計の考え方について学ぶ。			【復習】 講義資料を元に復習を行い主要なトピックや概念、用語について説明できるようにする。		60	
〔授業の方法〕							

授業はオンデマンド形式で進めます。

各回、理解度を確保するための課題が設定されるので受講者は課題に取り組むことが求められます。

講義内容に関する疑問点は、CoursePower等のLMSを用いて受け付けるので、随時質問してください。

〔成績評価の方法〕

平常点（講義への参加状況や課題の提出状況）：50%

期末試験：50%

〔成績評価の基準〕

成蹊大学の成績評価基準（学則第 38 条、39 条）に準拠します。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.

次の点に着目し、その達成度により評価します。

- ①基本的な国際会計の用語を理解できる。
- ②国際的な会計ルールの考え方や会計処理について説明できる。
- ③習得した知識に基づいて、国際会計基準を適用する企業の財務情報を分析できる。

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕

企業経営や企業会計に関する基礎科目を履修済みであることが望ましい。

〔テキスト〕

必要な場合は別途指示します。

〔参考書〕

購入の必要なし

『エッセンシャル IFRS』（最新版），秋葉賢一，中央経済社，3,500 円＋税，ISBN：978-4-502-43891-2.

・『財務・非財務報告のアカデミック・エビデンス』，中野誠，加賀谷哲之，河内山拓磨編著，中央経済社，2025 年，3,600 円＋税，ISBN：978-4-502-51821-8.

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕

ポータルサイトで周知します。また、授業終了後に教室で受け付けます。

〔特記事項〕

科目名		経営分析					
教員名		新江 孝					
科目No.	122557000	単位数	2	配当年次	2年生	開講時期	2025 前期
<p>〔テーマ・概要〕</p> <p>この講義では、「企業会計の基礎」で取り扱った会計情報をビジネスにおいていかに活かしていくのかについて学修します。会計はビジネスの言語と言われるように、会計情報はビジネスに関する情報の中でも特に重要なものです。会計情報は最終的には決算書という形にまとめられ、その基本的な決算書には、貸借対照表、損益計算書、キャッシュフロー計算書の3つがあります。そこでこの講義ではまず、それらの決算書が全体として何を示しており、そこに示されている重要な会計情報が何を意味しているのかについて学びます。その上で、それらの会計情報にさらに加工を加えることで、それらをビジネス上有効活用する方法についても学びます。</p> <p>なおこの講義の内容を理解するためには、すべての授業に出席し、授業中もしっかりと話しを聞き、自主的にノートを取る必要があります。そのため、欠席がちになりそうな人、授業に集中できない人にはお勧めしない授業です。</p>							
<p>〔到達目標〕</p> <p>DP1（専門分野の知識・技能）を実現するため、次の3点を到達目標とします。</p> <p>①決算書における会計情報が何を意味しているのかについて説明できる。</p> <p>②会計情報を加工して、そこからより有用な情報を引き出すことができる。</p> <p>③会計情報を活用して、企業のどこに問題があるのかを明らかにすることができる。</p>							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修の目安（分）	
第1回	ガイダンス ・授業の内容、進め方を説明する。 経営分析・決算書とは ・決算書の種類 ・連結決算 ・決算書の国際基準			予習】シラバスを読み、あらかじめ講義内容を把握する。 【復習】 1週間以内に授業内容を復習し、キーワードについて説明できるようにする。		60～120分	
第2回	貸借対照表の分析 ・全体像 ・資産の部、負債の部、純資産の部 ・企業のタイプ			予習】シラバスを読み、あらかじめ講義内容を把握する。 【復習】 1週間以内に授業内容を復習し、キーワードについて説明できるようにする。		60～120分	
第3回	損益計算書の分析 ・全体像 ・5つの利益概念 ・期間比較			予習】シラバスを読み、あらかじめ講義内容を把握する。 【復習】 1週間以内に授業内容を復習し、キーワードについて説明できるようにする。		60～120分	
第4回	キャッシュフロー計算書の分析 ・全体像 ・キャッシュとは ・損益計算書との相違 ・企業のタイプ			予習】シラバスを読み、あらかじめ講義内容を把握する。 【復習】 1週間以内に授業内容を復習し、キーワードについて説明できるようにする。		60～120分	
第5回	経営分析の基礎 ・他社比較 ・自己資本比率			予習】シラバスを読み、あらかじめ講義内容を把握する。 【復習】 1週間以内に授業内容を復習し、キーワードについて説明できるようにする。		60～120分	
第6回	収益性の分析（1） ・収益性とは ・資本利益率			予習】シラバスを読み、あらかじめ講義内容を把握する。 【復習】 1週間以内に授業内容を復習し、キーワードについて説明できるようにする。		60～120分	
第7回	収益性の分析（2） ・損益分岐点分析			予習】シラバスを読み、あらかじめ講義内容を把握する。 【復習】 1週間以内に授業内容を復習し、キーワードについて説明できるようにする。		60～120分	
第8回	コスト・マネジメント ・コスト・リダクション（原価低減） ・コスト・コントロール（原価管理）			予習】シラバスを読み、あらかじめ講義内容を把握する。 【復習】 1週間以内に授業内容を復習し、キーワードについて説明できるようにする。		60～120分	
第9回	生産性の分析 ・生産性、付加価値とは ・労働生産性 ・労働分配率			予習】シラバスを読み、あらかじめ講義内容を把握する。 【復習】 1週間以内に授業内容を復習し、キーワードについて説明できるようにする。		60～120分	
第10回	安全性の分析 ・流動性分析 ・長期債務支払能力の分析			予習】シラバスを読み、あらかじめ講義内容を把握する。 【復習】 1週間以内に授業内容を復習し、キーワードについて説明できるようにする。		60～120分	
第11回	成長性の分析 ・売上高研究開発費比率 ・各種の増加率			予習】シラバスを読み、あらかじめ講義内容を把握する。 【復習】 1週間以内に授業内容を復習し、キーワードについて説明できるようにする。		60～120分	
第12回	経営分析の実践			予習】シラバスを読み、あらかじめ講義内容を把握する。 【復習】 1週間以内に授業内容を復習し、同様の分析ができるようにする。		60～120分	

<p>第13回</p>	<p>到達度確認テスト ・これまでの学修内容について、理解度を確保するためのテスト</p>	<p>【予習】到達度確認テストに備え、これまでの学修内容を確認する。一夜漬けとならないよう、数週間前より計画的に学修に取り組むようにする。 【復習】到達度確認テストで出されたものと同様のテキストの問題を解き、その理解を確かなものとする。</p>	<p>60～120分</p>
<p>第14回</p>	<p>授業のまとめ・質疑応答</p>	<p>【予習】授業全体の内容を簡単に振り返っておく。 【復習】授業全体を振り返り、到達目標と自分の理解度とを点検し、不足している知識等を確認し、学修する。</p>	<p>60～120分</p>
<p>〔授業の方法〕 授業は講義形式で行います。口頭のみで説明することもあるので、適宜ノートをとる必要があります。授業時間中に計算演習を行うこともありますので、電卓を必ず持参して下さい。 なお、上で示された準備学修の時間はあくまで目安ですので、各自の理解度に応じて取り組む必要があります。 レポート/計算課題の狙いは以下の通りです。 ・レポート：自ら考える機会を設ける目的で、授業内容に関する簡単な問いを出題します。 ・計算課題：授業時に取り上げる計算問題の復習となるように出題します。</p>			
<p>〔成績評価の方法〕 平常点（確認テストまたはアンケート）：40%、最終試験（授業内の到達度確認テストの予定）1回：60% により総合的に評価します。 （注）履修者数が多い場合には、最終試験を学期末試験として行います。</p>			
<p>〔成績評価の基準〕 成蹊大学の成績評価基準（学則第38条、39条）に準拠する。 次の点に着目し、その達成度により評価します。 ①決算書における会計情報が何を意味しているのかについて説明できる。 ②会計情報を加工して、そこからより有用な情報を引き出すことができる。 ③会計情報を活用して、企業のどこに問題があるのかを明らかにすることができる。</p>			
<p>〔必要な予備知識/先修科目/関連科目〕 「企業会計入門」で学修した会計・簿記の基本的な知識を習得していることを前提として講義を行います。できれば企業経営や企業会計に関する基本科目を履修済みであることが望ましいです。</p>			
<p>〔テキスト〕 『決算書はここだけ読もう〈2025年版〉』、矢島雅巳著、弘文堂</p>			
<p>〔参考書〕 特にありません。必要に応じて指示します。</p>			
<p>〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕 授業終了後に教室で受け付けます。</p>			
<p>〔特記事項〕</p>			

科目名		証券市場					
教員名		俊野 雅司					
科目No.	122558000	単位数	2	配当年次	2年生	開講時期	2025 後期
<p>〔テーマ・概要〕</p> <p>世の中には、余裕資金のある黒字主体と資金を必要としている赤字主体が存在する。両者を仲介して、経済活動を円滑に進める機能が金融（ファイナンス）である。その中で、企業や国などの赤字主体が株式や債券などの証券を発行して、これを家計（個人投資家）や機関投資家などの黒字主体が購入することで、資金の過不足を調整する場が証券市場である。本講座では、講義担当者の証券会社系のシンクタンクや年金コンサルティング会社での実務経験に基づいて、証券市場の発展の経緯や仕組み、そこで活動する市場参加者や仲介機関の概要について解説する。</p> <p>本講座では、冒頭で金融システムや証券市場の機能・仕組みについて説明した後で、赤字主体の主要なファイナンス手段である株式と債券について、発展の経緯や発行・売買（流通）の仕組みなどを整理する。最近では証券価格や経済指標等の変動が激しくなっているが、このようなリスクに対する管理手段として活用されているデリバティブ取引の概要についても説明する。さらに、証券市場における投資家の種類や投資行動、主要な機関投資家である投資信託や年金基金の概要、証券市場の仲介者である証券業者（証券会社）の役割について説明する。</p> <p>株式市場（債券市場）とオルタナティブ投資（証券化）に関する2つの課題（かつこ内のテーマを選択することも可）を課す。</p>							
<p>〔到達目標〕</p> <p>D P 1（専門分野の知識・技能）を実現するため、以下を到達目標とする。</p> <p>証券市場の仕組みに加えて、そこで活動する市場参加者の役割を理解することを主な目標とする。証券市場という枠組みを通じて、事業会社や資産運用会社、証券会社などの企業がどのような活動を行っているのかを理解することは、今後、就職先を検討するうえでも、重要な意義があると思われる。</p>							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修の目安（分）	
第1回	<ul style="list-style-type: none"> イントロダクション 講義の進め方と取り扱うテーマの説明 金融市場としての証券市場の概要 			<p>【予習・復習】講義用資料は、事前に CoursePower を通じて掲載するので、読んでおくこと。</p> <p>基本テキストを入手して、第1章を読んでおくこと。</p>		60	
第2回	<ul style="list-style-type: none"> 赤字主体のファイナンス手段 ファイナンス手段の分類 財務レバレッジと負債の節税効果 ファイナンス方法の選択に関する理論 日本企業のファイナンスの特徴 政府によるファイナンス 			<p>【予習・復習】基本テキスト第2章を読んでおくこと。</p>		60	
第3回	<ul style="list-style-type: none"> 株式会社制度と株式の発行 株式会社制度の誕生と発展 株式の公開と株式発行市場 			<p>【予習・復習】基本テキスト第3章を読んでおくこと。</p>		60	
第4回	<ul style="list-style-type: none"> 証券取引所とマーケットシステム 証券取引システムの誕生と発展 証券取引所の機能 マーケットシステムの種類 			<p>【予習・復習】基本テキスト第4章を読んでおくこと。</p>		60	
第5回	<ul style="list-style-type: none"> 日本の株式市場 株式市場の歴史 上場制度 売買取引制度 証券税制 株価指数 			<p>【予習・復習】基本テキスト第5章を読んでおくこと。</p>		60	
第6回	<ul style="list-style-type: none"> 債券の基礎知識 債券の歴史 債券の種類 債券の仕組み 債券の利回り 債券のリスク要因 			<p>【予習・復習】基本テキスト第6章を読んでおくこと。</p>		60	
第7回	<ul style="list-style-type: none"> 債券の発行・流通市場 債券発行方法の分類 日本の債券発行市場 日本の債券流通市場 アメリカの債券市場 			<p>【予習・復習】基本テキスト第7章を読んでおくこと。</p>		60	
第8回	<ul style="list-style-type: none"> 債券格付け 格付けサービスの存在意義 格付けビジネスの歴史と課題 格付けの仕組み スプリット・レーティング 格付情報の有効性 			<p>【予習・復習】基本テキスト第8章を読んでおくこと。</p>		60	
第9回	<ul style="list-style-type: none"> デリバティブ デリバティブとは何か デリバティブ取引の機能 代表的なデリバティブ取引（先渡・先物取引、オプション取引、スワップ取引） デリバティブ取引の歴史 デリバティブ取引の原資産 			<p>【予習・復習】基本テキスト第9章を読んでおくこと。</p>		60	
第10回	<ul style="list-style-type: none"> 先渡・先物取引 先物取引の仕組み 先渡・先物取引の価格形成 先渡・先物取引の活用方法 			<p>【予習・復習】基本テキスト第10章を読んでおくこと。</p>		60	

第11回	オプション取引 ・オプション取引の仕組み ・オプションプレミアムの特性 ・オプション取引の活用方法	【予習・復習】基本テキスト第11章を読んでおくこと。 【復習】課題①を取りまとめて提出すること。	120
第12回	投資家の種類と証券市場 ・投資家の種類 ・日本の年金制度 ・日本の投資信託 ・個人投資家	【予習・復習】基本テキスト第12章を読んでおくこと。	60
第13回	機関投資家 ・(狭義)機関投資家の受託者責任 ・日本版スチュワードシップ・コード ・機関投資家の投資プロセス ・機関化現象 ・社会的責任投資	【予習・復習】基本テキスト第13章を読んでおくこと。	60
第14回	証券業(者)の機能 ・証券業と証券業者 ・証券業(者)の誕生と発展の経緯 ・証券自由化と証券業者の競争激化 ・日本の証券業	【予習・復習】基本テキスト第14章を読んでおくこと。 【復習】課題②を取りまとめて提出すること。	120
[授業の方法] ・毎回掲載するレジュメに基づいて、対面式の講義形式で進める。			
[成績評価の方法] 期末試験 60%、課題 40%で評価を行う。			
[成績評価の基準] 成蹊大学の成績評価基準(学則第38条、第39条)に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.38 and No.39. 主に、以下の点に関する到達度に応じて評価する。 ・株式市場と債券市場を中心とする証券市場の仕組みについて十分に理解できているか ・与えられた課題について自主学修して、その内容を取りまとめる能力があるか			
[必要な予備知識/先修科目/関連科目] この科目は経営学部の2年生以上の配当科目であり、他学部の履修者は『企業と社会』を修得済または履修中であることが望ましい。			
[テキスト] 『証券論(改訂版)』大村敬一・俊野雅司、有斐閣、2025年(刊行予定)			
[参考書] 特になし			
[質問・相談方法等(オフィス・アワー)] 学内専用ホームページで周知する。			
[特記事項]			

科目名	財務諸表論						
教員名	調 勇二						
科目No.	122559000	単位数	2	配当年次	2年生	開講時期	2025 後期
<p>〔テーマ・概要〕</p> <p>本科目は経営学部総合経営学科の専門応用発展科目のなかのファイナンスと会計科目に位置づけられ、財務諸表から得られる情報を基礎として企業経営をとりわけ事業活動の価値の観点から評価するための概念・理論・手法を習得し、自ら企業分析・企業評価を行えるようになることを目的としています。</p> <p>経営者は一般に長期的な株主資本価値の創造を目的として企業を経営することを求められています。それゆえ、株主資本価値の観点からは、より大きな株主資本価値を創造する企業ほど高い評価を受けることになります。株主資本価値は、その企業が将来に生み出すと予測されるキャッシュ・フローに基づいて算定されるため、現時点では赤字を計上しているような企業であっても、将来に大きな成長が見込まれる場合には高く評価される一方、現時点では黒字を計上していても将来的に衰退が見込まれる場合には低く評価されるという、一見すると不思議な現象が発生します。</p> <p>本科目では、財務諸表に対する深い理解を基礎として、業績の分析および将来業績の予測に基づいて、どのように企業を評価するのかを実践的に学修します。</p>							
<p>〔到達目標〕</p> <p>本科目では、DP1（専門分野の知識・技能）、DP3（課題の発見と解決）の涵養を目指しています。具体的な到達目標は以下の通りです。</p> <p>①企業評価を行うにあたって必要な財務諸表及びコーポレート・ファイナンスに関する基礎的な概念や理論、手法等について説明できる。</p> <p>②習得した理論・手法に基づいて、自ら企業評価を行うことができる。</p> <p>③企業評価の知見を活用して、投資家・経営者の視点から企業経営を考えることができる。</p>							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修の目安（分）	
第1回	イントロダクション ・授業の全体像、進め方、予習・復習について説明する。			【予習】事前に配布された資料に目を通して科目に対する理解を深め、さらに自分なりに調べておく。		60	
第2回	貸借対照表 ・貸借対照表の内容について学ぶ。			【予習】事前学習を行い、理解度を深め、疑問点や論点等を明らかにする。そのうえで理解度確認テストを受ける。 【復習】授業内の議論を振り返り、整理する。議論について深掘りして調べる。グループワークの成果物を完成させて提出する。		90	
第3回	損益計算書 ・損益計算書の内容について学ぶ。			【予習】事前学習を行い、理解度を深め、疑問点や論点等を明らかにする。そのうえで理解度確認テストを受ける。 【復習】授業内の議論を振り返り、整理する。議論について深掘りして調べる。グループワークの成果物を完成させて提出する。		90	
第4回	さまざまな財務情報 ・さまざまな財務情報について把握する。			【予習】事前学習を行い、理解度を深め、疑問点や論点等を明らかにする。そのうえで理解度確認テストを受ける。 【復習】授業内の議論を振り返り、整理する。議論について深掘りして調べる。グループワークの成果物を完成させて提出する。		90	
第5回	収益性分析 ・収益性分析の考え方や指標について学ぶ。			【予習】事前学習を行い、理解度を深め、疑問点や論点等を明らかにする。そのうえで理解度確認テストを受ける。 【復習】授業内の議論を振り返り、整理する。議論について深掘りして調べる。グループワークの成果物を完成させて提出する。		90	
第6回	効率性分析 ・効率性分析の考え方や指標について学ぶ。			【予習】事前学習を行い、理解度を深め、疑問点や論点等を明らかにする。そのうえで理解度確認テストを受ける。 【復習】授業内の議論を振り返り、整理する。議論について深掘りして調べる。グループワークの成果物を完成させて提出する。		90	
第7回	安全性・成長性分析 ・安全性・成長性分析の考え方や指標について学ぶ。			【予習】事前学習を行い、理解度を深め、疑問点や論点等を明らかにする。そのうえで理解度確認テストを受ける。 【復習】授業内の議論を振り返り、整理する。議論について深掘りして調べる。グループワークの成果物を完成させて提出する。		90	
第8回	企業価値評価の手法 ・どのような企業価値評価の手法があるのかを学ぶ。			【予習】事前学習を行い、理解度を深め、疑問点や論点等を明らかにする。そのうえで理解度確認テストを受ける。 【復習】授業内の議論を振り返り、整理する。議論について深掘りして調べる。グループワークの成果物を完成させて提出する。		90	
第9回	インカムアプローチ ・インカムアプローチに基づく企業価値表について学ぶ。			【予習】事前学習を行い、理解度を深め、疑問点や論点等を明らかにする。そのうえで理解度確認テストを受ける。 【復習】授業内の議論を振り返り、整理する。議論について深掘りして調べる。グループワークの成果物を完成させて提出する。		90	
第10回	DCF法による企業価値評価の実践 ・実際にDCF法による企業価値評価を行う。			【予習】事前学習を行い、理解度を深め、疑問点や論点等を明らかにする。そのうえで理解度確認テストを受ける。 【復習】授業内の議論を振り返り、整理する。議論について深掘りして調べる。グループワークの成果物を完成させて提出する。		90	

※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

第11回	コーポレート・ファイナンスと事業投資 ・コーポレート・ファイナンスについて概観したうえで、事業投資の意思決定に関する理論と実証について学ぶ。	【予習】事前学習を行い、理解度を深め、疑問点や論点等を明らかにする。そのうえで理解度確認テストを受ける。 【復習】授業内の議論を振り返り、整理する。議論について深掘りして調べる。グループワークの成果物を完成させて提出する。	90
第12回	資金調達・資本構成 ・資金調達・資本構成の意思決定に関する理論と実証について学ぶ。	【予習】事前学習を行い、理解度を深め、疑問点や論点等を明らかにする。そのうえで理解度確認テストを受ける。 【復習】授業内の議論を振り返り、整理する。議論について深掘りして調べる。グループワークの成果物を完成させて提出する。	90
第13回	株主還元 ・株主還元の意思決定に関する理論と実証について学ぶ。	【予習】事前学習を行い、理解度を深め、疑問点や論点等を明らかにする。そのうえで理解度確認テストを受ける。 【復習】授業内の議論を振り返り、整理する。議論について深掘りして調べる。グループワークの成果物を完成させて提出する。	90
第14回	総復習・質問回 ・これまでの学習内容を復習して、疑問点を質問して解消する。	【予習】これまでの学習内容を総復習して理解度を確認する。理解が不足している点を洗い出しておく。 【復習】不足していた点が充足できたか確認しておく。	120
<p>〔授業の方法〕 原則として反転授業形式（前すべり形式とも）で行います。履修者は事前に配布された講義資料で事前学習を行い、知識を習得します。そのうえで、理解度確認テストに取り組みます。 授業内では、事前に習得した知識を元に個人ワークやグループワークに取り組み、発表し、その成果物を提出します。</p>			
<p>〔成績評価の方法〕 理解度確認テスト（20%） 個人ワーク・グループワークの取り組みと成果物（40%） ディスカッション・クラス全体への貢献（10%） 期末試験（30%）</p>			
<p>〔成績評価の基準〕 成蹊大学の成績評価基準（学則第38条、39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.38, 39. 次の点に着目し、その達成度により評価します。 ①企業評価を行うにあたって必要な財務諸表及びコーポレート・ファイナンスに関する基礎的な概念や理論、手法等について説明できる。 ②習得した理論・手法に基づいて、自ら企業評価を行うことができる。 ③企業評価の知見を活用して、投資家・経営者の視点から企業経営を考えることができる。</p>			
<p>〔必要な予備知識/先修科目/関連科目〕 必須ではありませんが、企業会計の基礎や財務会計といった科目の履修を通じて、会計に関する基礎知識を習得していることが望ましい。</p>			
<p>〔テキスト〕 必要な場合は別途指示します。</p>			
<p>〔参考書〕 購入の必要なし ・『財務・非財務報告のアカデミック・エビデンス』、中野誠、加賀谷哲之、河内山拓磨編著、中央経済社、2025年、3,600円＋税、ISBN:978-4-502-51821-8。 ・S.H.ベンマン(著)、荒田映子、大雄智、勝尾裕子、木村晃久翻訳、『アナリストのための財務諸表分析とバリュエーション 原書第5版』、有斐閣、2018年、5,600円＋消費税。 ・ラッセル・ランドホルム、リチャード・スローン著、『企業価値評価 eVal による財務分析と評価』、マグロウヒル・エデュケーション、日本経済新聞出版社、2015年、3,500円＋消費税。 ・ジョナサン・パーク、ピーター・ディマーズ著、『コーポレートファイナンス 第2版』（入門編・応用編）、丸善出版、2014年。 ・リチャード・A・ブリーリー、スチュワート・C・マイヤーズ、フランクリン・アレン、『コーポレートファイナンス 第10版』（上下巻）、日経BP社、2014年。 ・中野誠著、『戦略的コーポレートファイナンス』、日本経済新聞出版社、2016年。 ・砂川伸幸、笠原真人、『はじめての企業価値評価』、日本経済新聞出版社、2015年。 ・伊藤邦雄、『新・企業価値評価』、日本経済新聞出版社、2014年。 ・マッキンゼー・アンド・カンパニー他著、『企業価値評価 第6版』（上下巻）、ダイヤモンド社、2016年。</p>			
<p>〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕 ポータルサイトで周知します。 また、授業終了後に教室で受け付けます。</p>			
<p>〔特記事項〕 アクティブ・ラーニング</p>			

科目名	コスト・マネジメント						
教員名	新江 孝						
科目No.	122561000	単位数	2	配当年次	2年生	開講時期	2025 後期
<p>〔テーマ・概要〕</p> <p>コスト・マネジメント(cost management)は、原価計画(cost planning=原価低減;cost reduction)と原価管理(cost control;原価統制)とに分けることができます。簡単に説明すると、原価計画(原価低減)とは、原価の目標値自体を引き下げようとするものです。他方、原価管理とは、原価の目標値を定めて、この目標値を実際に達成していくことを通じて原価を引き下げようとするための取り組みです。原価管理については、そのための代表的な手法である標準原価計算を取り上げて学んでいきます。標準原価計算では、差異分析の計算が中心となります。原価計画(原価低減)の手法としては、日本で開発された原価企画を取り上げます。その他、日本的なコスト・マネジメントについても学びます。</p> <p>授業では、コスト・マネジメントの前提となる原価概念および原価計算、特に間接費の配賦とその管理についても取り上げます。</p>							
<p>〔到達目標〕</p> <p>DP1(専門分野の知識・技能)、DP3(課題の発見と解決)を実現するため、次の4点を到達目標とします。</p> <p>① 基本的な原価概念を説明できる。 ② 製造間接費の配賦計算ができる。 ③ コスト・マネジメント、日本のコスト・マネジメントについて説明できる。 ④ 標準原価計算における差異分析の計算ができる。</p>							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修(予習・復習等)		準備学修の目安(分)	
第1回	ガイダンス ・授業の内容、進め方等を説明する。 会計とは ・会計の体系を学修する。			【予習】シラバスを読み、あらかじめ講義内容を把握する。 【復習】1週間以内に授業内容を復習し、キーワードについて説明できるようにする。		60~120分	
第2回	原価の内容 ・材料費、労務費、経費、製造原価、販売費、一般管理費、総原価について学修する。 ・直接費/間接費について学修する。			【予習】シラバスを読み、あらかじめ講義内容を把握する。 【復習】1週間以内に授業内容を復習し、キーワードについて説明できるようにする。		60~120分	
第3回	原価とは(1) ・原価の定義について学修する。 ・原価と価値の関係について学修する。			【予習】シラバスを読み、あらかじめ講義内容を把握する。 【復習】1週間以内に授業内容を復習し、キーワードについて説明できるようにする。		60~120分	
第4回	原価とは(2) ・機会減価について学修する。 ・原価と価格の関係について学修する。 ・変動費/固定費について学修する。			【予習】シラバスを読み、あらかじめ講義内容を把握する。 【復習】1週間以内に授業内容を復習し、キーワードについて説明できるようにする。		60~120分	
第5回	原価計算の基礎 ・原価計算期間について学修する。 ・製造間接費の実際配賦の計算手順について学修する。			【予習】シラバスを読み、あらかじめ講義内容を把握する。 【復習】1週間以内に授業内容を復習し、キーワードについて説明できるようにする。		60~120分	
第6回	製造間接費の予定配賦(1) ・予定配賦の計算手順について学修する。			【予習】シラバスを読み、あらかじめ講義内容を把握する。 【復習】 ・1週間以内に、キーワードについて説明できるようにする。 ・(特に重要!)1週間以内に、計算問題を解き直す。		60~120分	
第7回	製造間接費の予定配賦(2) ・グラフを用いた差異分析の方法について学修する。			【予習】シラバスを読み、あらかじめ講義内容を把握する。 【復習】 ・1週間以内に、キーワードについて説明できるようにする。 ・(特に重要!)1週間以内に、計算問題を解き直す。		60~120分	
第8回	コスト・マネジメント ・コスト・マネジメントの体系について学修する。 コントロール ・コントロールの定義について学修する。 製造間接費の管理 ・製造間接費はどう管理するかについて学修する。			【予習】シラバスを読み、あらかじめ講義内容を把握する。 【復習】 ・1週間以内に、キーワードについて説明できるようにする。 ・(特に重要!)1週間以内に、計算問題を解き直す。		60~120分	
第9回	会計データの活用 ・会計データの比較方法について学修する。 標準原価計算(1) ・実際原価、標準原価について学修する。			【予習】シラバスを読み、あらかじめ講義内容を把握する。 【復習】1週間以内に授業内容を復習し、キーワードについて説明できるようにする。		60~120分	
第10回	標準原価計算(2) ・標準原価計算の目的について学修する。 ・加工進捗度について学修する。 ・完成品原価、月末仕掛品原価の算定方法について学修する。			【予習】シラバスを読み、あらかじめ講義内容を把握する。 【復習】 ・1週間以内に、キーワードについて説明できるようにする。		60~120分	

※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

		・(特に重要!) 1週間以内に、計算問題を解き直す。	
第11回	標準原価計算の差異分析 ・直接材料費の差異分析の計算方法について学修する。 ・標準原価管理の重点について学修する。 ・直接労務費の差異分析の計算方法について学修する。	【予習】 シラバスを読み、あらかじめ講義内容を把握する。 【復習】 ・1週間以内に、キーワードについて説明できるようにする。 ・(特に重要!) 1週間以内に、計算問題を解き直す。	60~120分
第12回	日本のコスト・マネジメント ・原価企画について学修する。 ・日本のコスト・マネジメントの体系について学修する。	【予習】 シラバスを読み、あらかじめ講義内容を把握する。 【復習】 1週間以内に授業内容を復習し、キーワードについて説明できるようにする。	60~120分
第13回	到達度確認テスト ・これまでの学修内容について、理解度を確保するためのテスト	【予習】 到達度確認テストに備え、これまでの学修内容を確保する。一夜漬けとならないよう、数週間前より計画的に学修に取り組むようにする。 【復習】 到達度確認テストで出されたものと同様のテキストの問題を解き、その理解を確かなものとする。	60~120分
第14回	授業のまとめ・質疑応答	【予習】 授業全体の内容を簡単に振り返っておく。 【復習】 授業全体を振り返り、到達目標と自分の理解度とを点検し、不足している知識等を確保し、学修する。	60~120分
<p>〔授業の方法〕 授業は講義形式で行います。口頭のみで説明することもあるので、適宜ノートをとる必要があります。授業時間中に計算演習を行うこともありますので、電卓を必ず持参して下さい。 なお、上で示された準備学修の時間はあくまで目安ですので、各自の理解度に応じて取り組む必要があります。 レポート/計算課題の狙いは以下の通りです。 ・レポート：自ら考える機会を設ける目的で、授業内容に関する簡単な問いを出題します。 ・計算課題：授業時に取り上げる計算問題の復習となるように出題します。</p>			
<p>〔成績評価の方法〕 平常点(確認テストまたはアンケート)：40%、最終試験(授業内の到達度確認テストの予定)1回：60% により総合的に評価します。 (注)履修者数が多い場合には、最終試験を学期末試験として行います。</p>			
<p>〔成績評価の基準〕 成蹊大学の成績評価基準(学則第38条、39条)に準拠します。 次の点に着目し、その達成度により評価します。 ① 基本的な原価概念を理解している。 ② 製造間接費の配賦計算ができる。 ③ コスト・マネジメント、日本のコスト・マネジメントについて説明できる。 ④ 標準原価計算における差異分析の計算ができる。</p>			
<p>〔必要な予備知識/先修科目/関連科目〕 「企業会計入門」で学修した会計・簿記の基本的な知識を習得していることを前提として講義を行います。「経営学特殊講義/(上級簿記)」,「管理会計」,「戦略支援システム」との関連性が高いため、併せて履修すると学修の効果がより高まると期待されます。 この科目は経営学部の2年生以上の配当科目であり、他学部の履修者は『企業と社会』を修得済または履修中であることが望ましい。</p>			
<p>〔テキスト〕 『新検定 簿記講義2級工業簿記』(2025年4月時点の最新版), 岡本清・廣本敏郎編著, 中央経済社(なお、このテキストは前期開講の「経営学特殊講義/(上級簿記)」のテキストと同一です)</p>			
<p>〔参考書〕 『原価計算(6訂版)』, 岡本清著, 国元書房(購入の必要はありません。必要な際に、図書館等で参照してください。)</p>			
<p>〔質問・相談方法等(オフィス・アワー)〕 授業終了後に教室で受け付けます。</p>			
<p>〔特記事項〕</p>			

科目名	戦略支援システム						
教員名	生方 裕一						
科目No.	122562000	単位数	2	配当年次	2年生	開講時期	2025 後期
<p>〔テーマ・概要〕 企業の戦略を実現するために必要な「事業計画」の作成方法とその実行のための方策について勉強します。なお、事業計画の作成については、Business Model Canvas(ビジネスモデルキャンパス)を取り扱います。競争の激しい企業環境では、適切な経営戦略を策定し、他社に対する競争優位性を確立することが企業の存続に不可欠です。ただし、適切な経営戦略を形成するためには、経営者個人の才覚に頼っているばかりではリスクが大きすぎます。適切な経営戦略の形成を促進するための仕組みを作っておく必要があります。また、仮にいくら立派な経営戦略を作成したとしても組織全体としてそれを効果的に実施するための工夫がなければ意味を成さず、単なる「絵に書いた餅(画餅)」に終わってしまいます。戦略を組織内で共有したり、外部から資金調達を円滑に行ったりするためには、構想やアイデアとしての戦略を具体的な会計数値に置き換え、事業計画に翻訳する作業が重要なのです。</p>							
<p>〔到達目標〕 DP1(専門分野の知識・技能)を実現するため、次の3点を到達目標とする。 ①管理会計を中心としたキャッシュフロー経営推進のための基本概念について説明できる。 ②キャッシュフローを活用した、初歩的な分析を行うことができる。 ③企業における資金循環の重要性と現実的な課題について理解することができる。</p>							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容	準備学修(予習・復習等)					準備学修の目安(分)
第1回	ガイダンス/経営戦略の役割と理論	【予習】事業計画(ビジネスプラン)とはどのようなものか、経営企画部門の役割とは何か、書籍、ウェブサイトなどで自分なりに調べておくこと。 【復習】確認問題(宿題)を各自解いておくこと。					60
第2回	経営戦略の理論俯瞰①	【復習】今回のキーワードについて自分の言葉で説明できるようにする。					60
第3回	経営戦略の理論俯瞰②	【復習】今回のキーワードについて自分の言葉で説明できるようにする。					60
第4回	新規事業の構想&BMCの書き方①	【復習】今回のキーワードについて自分の言葉で説明できるようにする。					60
第5回	BMCの書き方②	【復習】今回のキーワードについて自分の言葉で説明できるようにする。					60
第6回	BMCの検証	【復習】今回のキーワードについて自分の言葉で説明できるようにする。中間レポート作成にむけて、これまでの授業の総復習を行う。					60
第7回	BMCから事業計画書へ	【復習】今回のキーワードについて自分の言葉で説明できるようにする。					60
第8回	戦略を動かすための仕組み&全社戦略	【復習】今回のキーワードについて自分の言葉で説明できるようにする。					60
第9回	個別事業の競争構築①	【復習】今回のキーワードについて自分の言葉で説明できるようにする。					60
第10回	個別事業の競争構築②	【復習】今回のキーワードについて自分の言葉で説明できるようにする。					60
第11回	個別事業の競争構築③	【復習】今回のキーワードについて自分の言葉で説明できるようにする。					60
第12回	新しい戦略論①	【復習】今回のキーワードについて自分の言葉で説明できるようにする。					60
第13回	新しい戦略論②	【復習】今回のキーワードについて自分の言葉で説明できるようにする。					60
第14回	不確実性への対応	【復習】今回のキーワードについて自分の言葉で説明できるようにする。期末レポートの準備をする。					60
<p>〔授業の方法〕 授業の進め方は第1回の授業において詳しく説明しますので、必ず出席してください。なお、上で示された準備学習の時間はあくまで目安のため、各自の理解度に応じて取り組んでください。また、受講生の理解度に応じて、授業計画・内容を変更する可能性があります。</p>							
〔成績評価の方法〕							

中間レポート（40%）、学期末レポート（60%）によって総合評価します。これらに加えて、討議への積極的参加等を加点対象とする場合もあります。

〔成績評価の基準〕

成蹊大学の成績評価基準（学則第38条、39条）に準拠します。

次の点に着目し、その達成度を総合的に評価します。

- ①ビジネスモデルキャンパスなどの基礎資料を用いて、適切な事業計画書を作成することができる。
- ②戦略実現のための事業計画（キャッシュフロー経営）について、その重要概念、計算構造を理解している。
- ③事業計画作成の計算実務を正確に実施することができる。

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕

先修科目としては「企業会計入門」、「管理会計」があげられます。これらの科目で学んだ知識があれば、理解が深まります。

経営、企業、会計、金融などへの一般的な関心・興味があったほうがよいと思います。この科目は経営学部の2年生以上の配当科目であり、他学部の履修者については『企業と社会』を修得済または履修中であるとのぞましいです。

〔テキスト〕

- ・『新版 経営戦略の基本』手塚貞治・株式会社日本総合研究所 経営戦略研究会、株式会社日本実業出版社、978-4534060983
- ・『事業計画に落とせるビジネスモデルキャンパスの書き方』西田泰典、クロスメディア・パブリッシング、978-4295403401

〔参考書〕

- ・『ビジネスモデル・ジェネレーション：ビジネスモデル設計書 ビジヨナリー、イノベーターと挑戦者のためのハンドブック』アレックス・オスターワイルダー、イヴ・ピニユール、翔泳社、978-4798122977
- ・『「事業構想を『書く』ービジネスモデルを可視化し新規事業開発を加速させるフレームワークー』堀雅彦、翔泳社、978-4798184166

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕

オフィスアワーについては、ポータルサイトで周知しています。

〔特記事項〕

アクティブ・ラーニング

科目名		税務会計					
教員名		伊藤 公哉					
科目No.	122563000	単位数	2	配当年次	2年生	開講時期	2025 後期
<p>〔テーマ・概要〕</p> <p>この授業では、みなさんが社会人になったときに役立つ税金の知識を学修します。たとえば、年末になると「ふるさと納税」という言葉を耳にする機会が増えるかもしれません。自分の選んだ自治体に寄附（ふるさと納税）をすると所得税と住民税から控除することができる制度で、（返礼品のある自治体が多いことから）多くの人が利用しています。慣れれば簡単な手続きですが、税務用語（テクニカルターム）を理解できないと難しく感じるでしょう。</p> <p>また、突然の予期せぬ怪我や病気で多額の医療費が発生したようなとき、確定申告（税務署に納税申告書を提出）することで還付を受けられる（税金が戻ってくる）場合もあります。</p> <p>将来、会社に就職をしたならば、会社の資金で商品やサービスを発注したり、営業の仕事を任せられ商品を販売したり、顧客を接待する機会があるかもしれません。そのようなときには、法人税の知識（たとえば商品の販売では収益の認識基準、顧客の接待にあたっては交際費等の知識）が必要になりますし、また税務会計の知識を用いて経理担当者と適切にコミュニケーションを図ることでビジネスをスムーズに進めることができるようになるでしょう。</p> <p>なお、授業で扱う内容は一般的な税務に関する内容になります。個別の税務相談等については（授業では応じませんので）税務署や税理士に相談してください。</p>							
<p>〔到達目標〕</p> <p>DP1（専門分野の知識・技能）を実現するため、次の点を到達目標とする。</p> <p>① 将来、社会人になったときに、自分の所得税の確定申告書を作成できるようになること。</p> <p>② 企業税務（法人税）の基礎知識を修得し、ビジネスの場で適切にコミュニケーションを図ることができるようになること。</p>							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修の目安（分）	
第1回	ガイダンス（オンライン授業で実施） ① 履修上の留意事項（試験や評価など） ② ガイダンス（この授業で学修すること）			【準備】 シラバスを読み、内容を把握する。 【復習】 税務のテクニカルターム（キーワード）について説明できるようにする。		60	
第2回	税金の種類と所得税のしくみ（オンライン授業で実施） ①税金の種類（国税と地方税、直接税と間接税） ②所得税（国税）のしくみ（概要、源泉徴収制度と年末調整、確定申告の概要、納税地、予定納税、復興特別所得税、確定申告の方法、納税方法等）			【準備】 システム（CoursePower）からレジュメ等の配布資料をダウンロードして内容を確認する。 【復習】 税務のテクニカルターム（キーワード）について説明できるようにする。 システム（CoursePower）上で実施する復習クイズに解答し到達度を確認する。		60	
第3回	個人住民税と所得税の概要（オンライン授業で実施） ①個人住民税（地方税）の仕組み（概要、特別徴収と普通徴収等） ②所得税（国税）の所得税額の算出（概要、所得の種類と所得金額の計算方法、所得の総合と分離課税、「分離課税用（第三表）」のポイント等）			【準備】 システム（CoursePower）からレジュメ等の配布資料をダウンロードして内容を確認する。 【復習】 税務のテクニカルターム（キーワード）について説明できるようにする。 システム（CoursePower）上で実施する復習クイズに解答し到達度を確認する。		60	
第4回	所得控除と税額控除（オンライン授業で実施） ①所得控除の概要（基礎控除、勤労学生控除、社会保険料控除、寄附金控除等を中心に） ②税額控除の概要（公益社団法人等寄附金特別控除等を中心に） ③税額計算（超過累進税率の適用）			【準備】 システム（CoursePower）からレジュメ等の配布資料をダウンロードして内容を確認する。 【復習】 税務のテクニカルターム（キーワード）について説明できるようにする。 システム（CoursePower）上で実施する復習クイズに解答し到達度を確認する。		60	
第5回	給与所得（オンライン授業で実施） ①給与所得の取扱い（給与所得の意義（現物給与等を含む）、「まなかい」等の取扱い、非課税所得、労働基準法の休業手当等の課税関係等） ②給与所得金額の計算（給与所得控除、年末調整等のための給与所得控除後の給与等の金額の表（所得税法別表第五）、特定支出控除等）			【準備】 システム（CoursePower）からレジュメ等の配布資料をダウンロードして内容を確認する。 【復習】 税務のテクニカルターム（キーワード）について説明できるようにする。 システム（CoursePower）上で実施する復習クイズに解答し到達度を確認する。		60	
第6回	個人演習（中間まとめ）（オンライン授業で実施） 給与所得の申告書の作成（給与所得の源泉徴収票を用いて申告書をつくる練習をします）			【準備】 システム（CoursePower）からレジュメ等の配布資料をダウンロードして内容を確認する。 【復習】 税務のテクニカルターム（キーワード）について説明できるようにする。 システム（CoursePower）上で実施する復習クイズに解答し到達度を確認する。		60	
第7回	事業所得と青色申告制度（オンライン授業で実施） ①事業所得（事業所得の意義、概要、損益通算、損失の繰越控除、事業所得の金額の計算、家事及び家事関連費、親族に支払われる対価に関する取扱い等） ②青色申告制度（制度の概要、青色申告特別控除、青色事業専従者給与、貸倒引当金、個人事業の開業届出書、青色申告承認申請書、所得税の減価償却資産の償却方法の届出書等）			【準備】 システム（CoursePower）からレジュメ等の配布資料をダウンロードして内容を確認する。 【復習】 税務のテクニカルターム（キーワード）について説明できるようにする。 システム（CoursePower）上で実施する復習クイズに解答し到達度を確認する。		60	
第8回	雑所得など（オンライン授業で実施） ①期間帰属（権利確定主義と管理支配基準、棚卸資産の販売による収益、債務確定主義等） ②雑所得（意義（公的年金等、業務に係るもの、その他の雑収入）、所得の金額の計算） ③電子帳簿保存法と帳簿書類の保存期間等			【準備】 システム（CoursePower）からレジュメ等の配布資料をダウンロードして内容を確認する。 【復習】 税務のテクニカルターム（キーワード）について説明できるようにする。 システム（CoursePower）上で実施する復習クイズに解答し到達度を確認する。		60	
第9回	金融所得税制（オンライン授業で実施） ①金融所得税制（概要、上場株式等、特定口座と一般口座、株式等に係る譲渡所得等の金額の計算明細書、上場株式等の			【準備】 システム（CoursePower）からレジュメ等の配布資料をダウンロードして内容を確認する。 【復習】 税務のテクニカルターム（キーワード）について		60	

	譲渡損失の損益通算及び繰越控除、確定申告書付表（上場株式等に係る譲渡損失の損益通算及び繰越控除用）、上場株式等の配当等を受けた場合の課税関係） ②1億円の壁（申告納税者の所得税負担率等）	説明できるようにする。 システム（CoursePower）上で実施する復習クイズに解答し到達度を確認する。	
第10回	不動産の税制（オンライン授業で実施） ①譲渡所得（譲渡した資産の種類別の課税方法、譲渡所得の金額の計算、取得費、特別控除額等） ②土地・建物等の分離課税制度（課税方法、税額の計算、居住用財産を売却した場合の軽減税率、特定居住用財産の買換え特例等） ③不動産所得（所得の金額の計算、必要経費、賃貸不動産の減価償却とキャッシュ・シュブローのシミュレーション等）	【準備】システム（CoursePower）からレジュメ等の配布資料をダウンロードして内容を確認する。 【復習】税務のテクニカルターム（キーワード）について説明できるようにする。 システム（CoursePower）上で実施する復習クイズに解答し到達度を確認する。	60
第11回	所得控除（オンライン授業で実施） ①配偶者控除と配偶者特別控除（概要、控除対象配偶者、配偶者控除額の金額、配偶者特別控除を受けるための要件、配偶者特別控除額の金額等） ②扶養控除（概要、控除対象扶養親族、扶養控除額の金額） ③ふるさと納税（寄附金控除） ④医療費控除（概要、セルフメディケーション税制等）	【準備】システム（CoursePower）からレジュメ等の配布資料をダウンロードして内容を確認する。 【復習】税務のテクニカルターム（キーワード）について説明できるようにする。 システム（CoursePower）上で実施する復習クイズに解答し到達度を確認する。	60
第12回	法人税概論（オンライン授業で実施） ①法人税法上の法人概念（法人税の納税義務者） ②法人税の性質・課税根拠（シャープ勧告）と法人税の特色（所得税との比較） ③法人税の申告と納税（事業年度と決算書の確定、確定決算主義、納税地、申告期限と納付期限、中間申告、延滞税と利子税等） ④法人税額計算の概要（法人税の別表、地方法人税（国税）、所得の金額の計算、税務調整（決算調整事項と申告調整事項）、損金経理、使途秘匿金課税と留保金課税、税額控除等）	【準備】システム（CoursePower）からレジュメ等の配布資料をダウンロードして内容を確認する。 【復習】税務のテクニカルターム（キーワード）について説明できるようにする。 システム（CoursePower）上で実施する復習クイズに解答し到達度を確認する。	60
第13回	法人税各論（オンライン授業で実施） ①確定申告と添付書類（別表一、別表四、決算報告書、租税特別措置と適用説明書等） ②所得の金額の計算（法人税法 22 条、益金の額（資産の無償譲渡、役務の無償提供を含む）、損金の額（債務確定主義、損失の両建経理）、公正処理基準、資本等取引等） ③交際費等（概要、範囲、接待飲食費、期末資本金の額に応じた取扱い、中小法人の特例）	【準備】システム（CoursePower）からレジュメ等の配布資料をダウンロードして内容を確認する。 【復習】税務のテクニカルターム（キーワード）について説明できるようにする。 システム（CoursePower）上で実施する復習クイズに解答し到達度を確認する。	60
第14回	法人税各論とまとめ（オンライン授業で実施） ①減価償却（概要、非減価償却資産、減価償却資産の種類、償却限度額の計算、期中に取得した資産、償却不足と償却超過、償却方法の変更等） ②まとめ	【準備】システム（CoursePower）からレジュメ等の配布資料をダウンロードして内容を確認する。 【復習】税務のテクニカルターム（キーワード）について説明できるようにする。 システム（CoursePower）上で実施する復習クイズに解答し到達度を確認する。	60
<p>〔授業の方法〕 この授業は14回の授業をオンデマンド型のオンライン授業で実施します。講義形式で授業を行いますが、学修効果を高める目的で計算や申告書記入などの個人のアクティビティ等も行います。各回の学習方法の詳細は CoursePower で明示しますが、基本的にはオンデマンドの授業を受講し、復習クイズ等の課題を提出する流れになります（復習クイズ等の課題の取り組み状況をもって出席とみなします）。 なお、各回で扱う範囲等については、受講者の理解を確認しながら弾力的に講義を進めていくこととし、場合によっては変更することがありますので CoursePower の連絡事項を確認するようにしてください。 上で示された準備学修の時間はあくまで目安であって、各自の理解度に応じて取り組むようにしてください。 アカウントの不正使用、テスト等における不正行為は禁止ですのでご注意ください。</p>			
<p>〔成績評価の方法〕 授業後に CoursePower で実施する復習クイズ等（70%）、期末試験（30%）により、授業の到達目標を達成しているかどうかを総合的に評価します。</p>			
<p>〔成績評価の基準〕 成蹊大学の成績評価基準（学則第 38 条、39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.38, 39. 次の点に着目し、その達成度により評価する。 ① 将来、社会人になったときに、自分の所得税の確定申告書を作成できるようになること。 ② 企業税務（法人税）の基礎知識を修得し、ビジネスの場で適切にコミュニケーションを図ることができるようになること。</p>			
<p>〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕 1年次で履修する「企業会計の基礎」の知識が役に立ちます。 関連科目として、前期「租税法の基礎」（判例を用いて租税法の基礎を学びます）、後期「経営学特殊講義B（租税法）」（租税法の側面から法人税法、相続税法、消費税法等の基礎を学びます）。</p>			
<p>〔テキスト〕 CoursePower で資料（レジュメ及び参考資料等）を配布します。</p>			
<p>〔参考書〕 ・国税庁 Web サイト (https://www.nta.go.jp/) ・ふるさと納税については、総務省の「ふるさと納税ポータルサイト」(https://www.soumu.go.jp/main_sosiki/jichi_zeisei/czaisei/czaisei_seido/080430_2_kojin.html)</p>			
<p>〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕 ポータルサイトで周知します。</p>			
<p>〔特記事項〕</p>			

科目名	応用発展特殊講義C (デリバティブ)						
教員名	伊藤 敬介						
科目No.	122564000	単位数	2	配当年次	2年生	開講時期	2025 後期
<p>〔テーマ・概要〕</p> <p>「数ヶ月後に米国での売金ドルで入金されるが、入金日までに円高になって円の手取り額が減ることを懸念している」、「株式に投資しているが、短期的な株価下落リスクが気になる」。企業や株式・債券などへの投資家は、為替、株式、金利などの市場変動リスクに常にさらされています。そしてこのようなリスクは、「デリバティブ」を用いることで制御できます。例えば、「半年後に入金されるドル資金を円に換える為替レートを『今』確定させる(先渡取引)」、「保有している株の価格が1年後に1,000円以下に下落しても1,000円で売れる『権利』を買う(オプション取引)」などは、何れも「デリバティブ取引」の例です。</p> <p>当授業では、企業経営者、財務担当者、投資家などがどのように「デリバティブ取引」を用いてリスクを制御できるのか、デリバティブの適正な価格はどのように考えれば良いか、などを学修します。数式の使用は極力抑え、「どのようなデリバティブがあるか」、「デリバティブをどのように活用できるか」、「デリバティブを用いる留意点は何か」など、経営人材として修得することが有用と思われる内容を中心に扱います。</p>							
<p>〔到達目標〕</p> <p>DP1 (専門分野の知識・技能) を実現するため、以下を到達目標とします。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 主要なデリバティブ取引(先物・先渡取引、スワップ取引、オプション取引)の概要を理解し、説明できる。 2) デリバティブの適正な価格に関する基本的な考え方を理解し、説明できる。 3) 企業や投資家から見たデリバティブ活用の効果と留意点を理解し、説明できる。 							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修(予習・復習等)		準備学修の目安(分)	
第1回	イントロダクション ・講義の全体像や進め方、デリバティブの概要を説明する。			【予習】シラバスを読み、あらかじめその内容を把握する。 【復習】配布資料等を基に、授業の内容を再確認するとともに、キーワード等について説明できるようにする。		60	
第2回	企業や投資家が抱える市場リスク ・企業や投資家が抱える様々な市場リスクを議論する。			【復習】配布資料等を基に授業内容を再確認するとともに、出題された課題があればそれに対応する。		60	
第3回	デリバティブの種類と市場規模 ・主要なデリバティブの種類やそれらの市場規模について学修する。			【復習】配布資料等を基に授業内容を再確認するとともに、出題された課題があればそれに対応する。		60	
第4回	先物・先渡取引(1) ・先物取引や先渡取引の概要やその意義・効果を学修する。			【復習】配布資料等を基に授業内容を再確認するとともに、出題された課題があればそれに対応する。		60	
第5回	先物・先渡取引(2) ・先物取引や先渡取引の適正価格の考え方を学修する。			【復習】配布資料等を基に授業内容を再確認するとともに、出題された課題があればそれに対応する。		60	
第6回	先物・先渡取引(3) ・先物取引や先渡取引を用いた取引戦略について学修する。			【復習】配布資料等を基に授業内容を再確認するとともに、出題された課題があればそれに対応する。		60	
第7回	スワップ取引 ・スワップ取引の概要やその意義・効果を学修する。			【復習】配布資料等を基に授業内容を再確認するとともに、出題された課題があればそれに対応する。		60	
第8回	オプション取引(1) ・オプション取引の概要やその意義・効果を学修する。			【復習】配布資料等を基に授業内容を再確認するとともに、出題された課題があればそれに対応する。		60	
第9回	オプション取引(2) ・オプション取引の適正価格の考え方を学修する。			【復習】配布資料等を基に授業内容を再確認するとともに、出題された課題があればそれに対応する。		60	
第10回	オプション取引(3) ・オプション取引を用いた取引戦略について学修する。			【復習】配布資料等を基に授業内容を再確認するとともに、出題された課題があればそれに対応する。		60	
第11回	デリバティブの活用事例(1) ・企業のデリバティブ活用事例を考える。			【復習】配布資料等を基に授業内容を再確認するとともに、出題された課題があればそれに対応する。		60	
第12回	デリバティブの活用事例(2) ・投資家のデリバティブ活用事例を考える。			【復習】配布資料等を基に授業内容を再確認するとともに、出題された課題があればそれに対応する。		60	
第13回	デリバティブ活用の留意点 ・デリバティブ活用のリスクや留意点を学修する。			【復習】配布資料等を基に授業内容を再確認するとともに、出題された課題があればそれに対応する。		60	
第14回	デリバティブに関するまとめ ・講義全体のまとめを行い、期末試験について説明する。			【復習】配布資料等を基に、キーワード等について説明できるようにする。		60	
〔授業の方法〕							
毎回配付する講義資料(レジュメ)に基づいて、講義形式で進めます。実践的な知識を身につけるために、中間課題(レポート)を課します。また、理解度を確認するためのクイズも適宜出題します。							
〔成績評価の方法〕							

期末試験 50%、中間課題（レポート）30%、平常点（授業中の積極的・建設的な発言など）20%で評価します。

〔成績評価の基準〕

成蹊大学の成績評価基準（学則第 38 条、39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 38, 39.

主に、以下に関する到達度に応じて評価します。

- ・ 主要なデリバティブ取引（先物・先渡取引、スワップ取引、オプション取引）の概要を理解し、説明できるか。
- ・ デリバティブの適正な価格に関する基本的な考え方を理解し、説明できるか。
- ・ 企業や投資家から見たデリバティブ活用の効果と留意点を理解し、説明できるか。

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕

先修科目：ファイナンスの基礎

〔テキスト〕

特になし

〔参考書〕

- ・ 『新・証券投資論Ⅰ 理論篇』、日本証券アナリスト協会 [編]、小林 孝雄・芹田 敏夫 [著]、日本経済新聞出版社、2009 年、ISBN: 978-4532133726
- ・ 『新・証券投資論Ⅱ 実務篇』、日本証券アナリスト協会 [編]、伊藤敬介・荻島誠治・諏訪部貴嗣 [著]、日本経済新聞出版社、2009 年、ISBN: 978-4532133733
- ・ 『フィナンシャルエンジニアリング [第 9 版]』、ジョン ハル [著]、三菱 UFJ モルガン・スタンレー証券市場商品本部 [訳]、2016 年、ISBN: 978-4322121766

(いずれも購入の必要はありません)

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕

ポータルサイトで周知します。
また、授業終了後に教室で受け付けます。

〔特記事項〕

科目名		応用発展特殊講義C（税務事件簿の探求）					
教員名		伊藤 公哉					
科目No.	122564010	単位数	2	配当年次	2年生	開講時期	2025 後期
<p>〔テーマ・概要〕</p> <p>企業経営において税務に関する知識は不可欠といえます。例えば個人で事業を行う個人事業主は、毎年、所得税等の確定申告が必要になります。所得税の計算や各種申告書等の記入方法については「税務会計」（後期開講）の授業で、また、租税に関する法的な側面については「租税法の基礎」（前期開講）、「経営学特殊講義 B（租税法）」（後期開講）の授業で概要を学修をします。そこで、例えば個人事業の「必要経費」の正しい会計処理、法人の「交際費等」の正しい計算や会計処理については上記の授業でマスターすることができるでしょう。</p> <p>しかし、実際の申告にあたっては判断に悩む取引も存在します。例えば個人事業であればどこまでの範囲の支出を「必要経費」に含めることができるのか（例えば自宅の一部を事務所として用いるような場合に、自宅の家賃又は減価償却費、光熱費、火災保険料等は必要経費に含まれるか）、法人であれば、どのような支出が「交際費等」に含まれるか（例えば製薬会社が負担した大学病院の医師が執筆した学術論文の翻訳等の費用は交際費等に含まれるか）など、裁判で争われることもあります。企業活動の実態は様々ななかで、税務実務においては単なる会計処理の知識のみならず、租税法を正しく解釈し実際の企業活動に適用できる能力が必要とされます。</p> <p>この授業（応用発展特殊講義）では、実際の企業経営の現場で判断に悩むような応用的な税務論点について、アクティブ・ラーニング形式で学修を行うこととします。具体的には、チーム単位で（法令のみならず）裁判所の判例や国税庁の通達・ガイドライン等のリサーチを行い、プレゼンテーションとディスカッションを通じて理解を深めることとします。</p> <p>なお、この授業では毎回、出席確認を厳格に行います。やむをえず遅刻または欠席するときは、必ずチームのメンバーに事前連絡をしてください。無断遅刻や欠席等はチームのメンバーに多大なる迷惑をかけることとなりますので厳禁です。</p>							
<p>〔到達目標〕</p> <p>【経営学部総合経営学科】</p> <p>DP1（専門分野の知識・技能）を実現するため、次の点を到達目標とする。</p> <p>① 国税庁の Web サイトや図書館の利用を通じた税務情報の収集手法を修得すること。</p> <p>② 収集した情報を適切に整理・分析し分かりやすい成果物をつくることができること。</p> <p>③ 裁判所や国税局が重視する諸判断の基準について説明できるようになること。</p>							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修の目安（分）	
第1回	① ガイダンスと履修上の留意事項 ② チーム分けおよび各チーム内での自己紹介等			【準備】 シラバスを読み、内容を把握する。		60	
第2回	税務情報のリサーチ方法を学ぶ （情報収集の方法として、国税庁の Web サイト（通達や各種ガイドライン）、図書館にあるコンメンタールや法律データベース等を紹介します）			【復習】 法律データベース等を実際に操作してリサーチに慣れる。		60	
第3回	「個人事業の必要経費の範囲」についてチーム単位でのリサーチ等 （チームごとに例えば「YouTuber の衣装費」、「マルチレベルマーケット業の自宅事務所（豪華なリビングで商談やパーティー等の業務を行う）の家賃」などの具体的なテーマを提示しますので、チームで分担をしてリサーチ等を進めます。）			【準備】 図書館等を利用してテーマに関する情報（例えば関連する法令、コンメンタール等の解釈や実務書、判例及びその評釈等）を収集し、チームで決めた作業分担にもとづいて分かりやすく PowerPoint に纏める等のプレゼンに向けた準備をする。		60	
第4回	チーム単位でのリサーチ等 （前回に引続き、チームごとにリサーチと分析を行い、プレゼンに向けた準備を行います）			【準備】 図書館等を利用してテーマに関する情報（例えば関連する法令、コンメンタール等の解釈や実務書、判例及びその評釈等）を収集し、チームで決めた作業分担にもとづいて分かりやすく PowerPoint に纏める等のプレゼンに向けた準備をする。		60	
第5回	チーム単位でのリサーチ等 （前回に引続き、チームごとにリサーチと分析を行い、プレゼンに向けた準備を行います）			【準備】 図書館等を利用してテーマに関する情報（例えば関連する法令、コンメンタール等の解釈や実務書、判例及びその評釈等）を収集し、チームで決めた作業分担にもとづいて分かりやすく PowerPoint に纏める等のプレゼンに向けた準備をする。		60	
第6回	プレゼンテーションとディスカッション （各チームでリサーチしたことについてプレゼンを行い、また、納税者にとって有利な取扱いとなるためにはどうすべきか等をクラス全体でディスカッションします）			【復習】 担当教員や参加者からのフィードバックを整理し改善につなげる。		60	
第7回	「給与と外注費の区別」についてチーム単位でのリサーチ等 （チームごとに例えばシステム開発等の業種などでの具体的なテーマを提示しますので、チームで分担をしてリサーチ等を行います）			【準備】 図書館等を利用してテーマに関する情報（例えば関連する法令、コンメンタール等の解釈や実務書、判例及びその評釈等）を収集し、チームで決めた作業分担にもとづいて分かりやすく PowerPoint に纏める等のプレゼンに向けた準備をする。		60	
第8回	チーム単位でのリサーチ等 （前回に引続き、チームごとにリサーチと分析を行い、プレゼンに向けた準備を行います）			【準備】 図書館等を利用してテーマに関する情報（例えば関連する法令、コンメンタール等の解釈や実務書、判例及びその評釈等）を収集し、チームで決めた作業分担にもとづいて分かりやすく PowerPoint に纏める等のプレゼンに向けた準備をする。		60	
第9回	チーム単位でのリサーチ等 （前回に引続き、チームごとにリサーチと分析を行い、プレゼンに向けた準備を行います）			【準備】 図書館等を利用してテーマに関する情報（例えば関連する法令、コンメンタール等の解釈や実務書、判例及びその評釈等）を収集し、チームで決めた作業分担にもとづいて分かりやすく PowerPoint に纏める等のプレゼンに向けた準備をする。		60	
第10回	プレゼンテーションとディスカッション （各チームでリサーチしたことについてプレゼンを行い、また、納税者にとって有利な取扱いとなるためにはどうすべきか等を全体でディスカッションします）			【復習】 担当教員や参加者からのフィードバックを整理し改善につなげる。		60	

※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

第11回	「従業員等の福利厚生」についてチーム単位でのリサーチ等 (チームごとに例えば海外への社員旅行など具体的なテーマを提示しますので、チームで分担をしてリサーチ等をします)	【準備】図書館等を利用してテーマに関する情報(例えば関連する法令、コンメンタール等の解釈や実務書、判例及びその評釈等)を収集し、チームで決めた作業分担にもとづいて分かりやすく PowerPoint に纏める等のプレゼンに向けた準備をする。	60
第12回	チーム単位でのリサーチ等 (前回は引続き、チームごとにリサーチと分析を行い、プレゼンに向けた準備を行います)	【準備】図書館等を利用してテーマに関する情報(例えば関連する法令、コンメンタール等の解釈や実務書、判例及びその評釈等)を収集し、チームで決めた作業分担にもとづいて分かりやすく PowerPoint に纏める等のプレゼンに向けた準備をする。	60
第13回	チーム単位でのリサーチ等 (前回は引続き、チームごとにリサーチと分析を行い、プレゼンに向けた準備を行います)	【準備】図書館等を利用してテーマに関する情報(例えば関連する法令、コンメンタール等の解釈や実務書、判例及びその評釈等)を収集し、チームで決めた作業分担にもとづいて分かりやすく PowerPoint に纏める等のプレゼンに向けた準備をする。	60
第14回	プレゼンテーションとディスカッション (各チームでリサーチしたことについてプレゼンを行い、また、納税者にとって有利な取扱いとなるためにはどうすべきか等を全体でディスカッションします)	【復習】担当教員や参加者からのフィードバックを整理し改善につなげる。	60
<p>〔授業の方法〕 アクティブ・ラーニング形式で学修をします。チーム単位で(法令のみならず)裁判所の判例等や国税庁の通達・ガイドライン等のリサーチを行い、クラス全体に対して PowerPoint でプレゼンテーションを行っていただきます。その後、クラス全体でディスカッションを行い理解を深めることとします。なるべく楽しい雰囲気での授業ができればと考えています。 各回で扱う範囲や内容については、受講者の理解を確認しながら弾力的に授業を進めていくこととし、一部変更する場合があります。 ※第1回目のガイダンス後にチーム分け等を行いますので、履修者は第1回目には出席するようにしてください。</p> <p>※毎回、出席確認(点呼)を行います。やむをえず遅刻または欠席するときは、必ずチームのメンバーに事前連絡をしてください。無断遅刻や欠席等はチームのメンバーに多大なる迷惑をかけることとなりますので厳禁です。 ※授業にはノート PC 又はタブレット等のインターネットに接続できるデバイスを持参してください。</p>			
<p>〔成績評価の方法〕 平常点(グループワークへの貢献やディスカッションでの発言など 70%)及びプレゼンテーションの内容(30%)による総合評価。なお、無断遅刻や欠席等チームのメンバーに迷惑をかける行為は大幅減点になります。 ※ この授業では、毎回、出席確認を厳格に行います。</p>			
<p>〔成績評価の基準〕 成蹊大学の成績評価基準(学則第38条、39条)に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 38, 39. 次の点に着目し、その達成度により評価する。 ① 国税庁の Web サイトや図書館の利用を通じた税務情報の収集手法を修得すること。 ② 収集した情報を適切に整理・分析し分かりやすい成果物をつくること。 ③ 裁判所や国税局が重視する諸判断の基準について説明できるようになること。</p>			
<p>〔必要な予備知識/先修科目/関連科目〕 関連科目として、所得税の計算や各種申告書等の記入方法については「税務会計」(後期開講)の授業で、また、租税に関する法的な側面については「租税法の基礎」(前期開講)、「経営学特殊講義(租税法)」(後期開講)の授業で概要を学修をします。</p>			
<p>〔テキスト〕 とくにありません。 授業では、図書館にあるコンメンタール(実務で法令解釈に使う文献)や図書館の判例データベース等を使うことになります。</p>			
<p>〔参考書〕 授業のなかで、適宜紹介します。</p>			
<p>〔質問・相談方法等(オフィス・アワー)〕 ポータルサイトで周知します。 質問は授業中及び授業終了後に教室で受け付けますので気軽に声をかけてください。 また、Teams に開設する履修者のコミュニティーを通じてコミュニケーションを促進します。教員への質問や相談等はチャットでも受け付けます。</p>			
<p>〔特記事項〕 アクティブ・ラーニング</p>			

科目名		労働法の基礎					
教員名		伊藤 隆大, 植木 麻里, 宇賀神 崇, 岸川 修, 竹腰 幸綱, 松井 博昭					
科目No.	122571000	単位数	2	配当年次	2年生	開講時期	2025 前期
<p>〔テーマ・概要〕 人事労務案件に関する実務経験が豊富な弁護士らが講師となり、各講師の実務経験に基づき、労働基準法、労働契約法、労働組合法等の労働法令の基礎的な内容について、実例や政府資料に触れつつ講義する。前提知識がない状態でも受講できるよう基礎的な点を中心とするが、ニュース等で目にする働き方改革、ハラスメント、過労死等といったテーマにも触れつつ講義する。</p>							
<p>〔到達目標〕 DP1-1(専門分野の知識・理解)を実現するため、企業経営の専門領域である人的資源管理にも深く関連する労働法令について、基礎的な知識や考え方の習得を目標とする。具体的には、労働基準法、労働契約法、労働組合法等の代表的な労働法令の基礎的な知識や考え方を習得する。</p>							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修(予習・復習等)		準備学修の目安(分)	
第1回	はじめに/労働法の当事者・労働法とはいかなる法律か・講義の全体像及び各回の概要・労働契約の当事者(労働者・使用者・労働組合)			【予習】テキスト該当箇所を一読する。具体的な該当箇所は講義開始時に改めてお知らせする。		60	
第2回	労働契約の根拠・法令・労働協約・就業規則・労働契約の意義及び相互関係・就業規則の変更			【予習】同上		60	
第3回	労働契約の開始・採用の自由・内々定・内定・試用期間			【予習】同上		60	
第4回	賃金・賃金の意義(基本給・賞与・割増賃金等)・賃金の支払いに関する規制・休業手当			【予習】同上		60	
第5回	労働時間・法定労働時間・休憩・休日・時間外・休日労働・労働時間規制の例外形態			【予習】同上		60	
第6回	休暇・休業・年次有給休暇・育児・介護休業			【予習】同上		60	
第7回	人事異動・配転・出向・転籍の意義・人事異動の権利濫用			【予習】同上		60	
第8回	雇用平等/ハラスメント・男女雇用機会均等法、障害者雇用促進法・ハラスメントの意義・問題点・ハラスメントの防止策・救済策			【予習】同上		60	
第9回	労働者の義務/懲戒・労働者の義務(誠実労働義務)・懲戒の要件・種類・代表的な懲戒事由			【予習】同上		60	
第10回	非正規雇用・有期雇用/パートタイム(短時間)労働者・派遣労働者・均等待遇(同一労働同一賃金)			【予習】同上		60	
第11回	労働契約の終了①・解雇に対する法令の規制・内定取消・本採用拒否			【予習】同上		60	
第12回	労働契約の終了②・有期雇用契約の終了(雇止めの法理)・退職・定年制・退職金			【予習】同上		60	
第13回	集団的労使関係・労働組合の意義・実態・労働組合の権利・不当労働行為			【予習】同上		60	
第14回	労働紛争/まとめ・労働紛争の解決手段・各回の簡単なおさらい・今回の講義を通じて学んでほしいこと			【予習】同上(また、テキスト、ノートを読み返す。)		60	
<p>〔授業の方法〕 各回の授業の前半では、テキストである『プレップ労働法』に基づき、講師が用意した資料や事例紹介を交え、労働法の基礎につき講義を行う。各回の授業の後半では、国家試験等を基に加工した試験問題等を題材にし、労働法の基礎が、社会においてどのように問題になるのかを考察する。通期に一度、任意の宿題レポート(A4・1-3枚程度)を出題する。</p>							
<p>〔成績評価の方法〕 試験：70% 平常点(授業への参加状況等)：30% ※宿題レポートの提出は任意とするが、加点事由とする。</p>							
〔成績評価の基準〕							

経営

25/2/12 20時1分

※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

成蹊大学の成績評価基準（学則第 38 条、39 条）に準拠する。このため、試験結果又は平常点が著しく低い場合には F とする。 ・労働法令に関する基礎的な知識を習得できているか。具体的には、労働法令に関する基礎的な知識を実例(授業で取り上げたものを中心とする試験問題を含む)に当てはめることができる水準に達しているか。
〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕 特になし
〔テキスト〕 『ブレップ労働法 第 7 版』、森戸英幸、弘文堂、2200 円、978-4-335-31333-2
〔参考書〕 特になし(レポート用の書籍については別途講義の中で指定する)
〔質問・相談方法等 (オフィス・アワー)〕 ポータルサイトで周知します。 また、授業終了後に教室で受け付けます。
〔特記事項〕 特になし

科目名		租税法の基礎					
教員名		伊藤 公哉					
科目No.	122572000	単位数	2	配当年次	2年生	開講時期	2025 前期
<p>〔テーマ・概要〕</p> <p>学問としての租税法は、租税に関する法の体系的かつ理論的な研究を目的とする法律学の独立の一分野である。ここで租税とは、国又は地方公共団体が、特別の給付に対する反対給付としてではなく、公共サービスを提供するための資金を調達する目的で、法律の定めに基づいて私人に課す金銭給付のことである。現代社会において市場で取引等の意思決定を行うにあたっては、その取引等により負うこととなるであろう納税額及び納税時期について正しく理解できなければならないだろう。また、租税法は、国民の財産権への侵害を根拠づける侵害規範であるから、厳格に解釈されるべきである。この授業では、租税法主義を中心とする租税法の基本原則と、個人に課される所得税（国税）の概要について正しく理解することを目標とする。</p>							
<p>〔到達目標〕</p> <p>【経営学部総合経営学科】DP1（専門分野の知識・技能）、DP2（教養の修得）を実現するため、次の点を到達目標とする。</p> <p>① 租税法の基本原則の理解を通じたリーガルマインドの醸成を目標とする。より具体的には、租税法の諸原則（とくに租税法主義）について説明できるとともに、実社会での事例に適用できるようになること。</p> <p>② 所得税の基礎知識を学問（法律学）の観点から修得し、説明できるようになること。</p>							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修の目安（分）	
第1回	① ガイダンスと履修上の留意事項（試験や評価など） ② イントロダクション（租税の意義と種類） （※オンライン授業で実施）			【準備】 シラバスを読み、内容を把握する。 【復習】 今回学んだ租税法のテクニカルターム（キーワード）について説明できるようにする。		60	
第2回	租税法の基本原則（租税法主義と租税公平主義） （※オンライン授業で実施）			【準備】 システム（CoursePower）からレジュメ等の資料をダウンロードして内容を確認する。 【復習】 今回学んだ租税法のテクニカルターム（キーワード）について説明できるようにする。 システム（CoursePower）上で実施する復習クイズに解答し到達度を確認する。		60	
第3回	租税法の法源 （※オンライン授業で実施）			【準備】 システム（CoursePower）からレジュメ等の資料をダウンロードして内容を確認する。 【復習】 今回学んだ租税法のテクニカルターム（キーワード）について説明できるようにする。 システム（CoursePower）上で実施する復習クイズに解答し到達度を確認する。		60	
第4回	租税法の解釈と適用 （※オンライン授業で実施）			【準備】 システム（CoursePower）からレジュメ等の資料をダウンロードして内容を確認する。 【復習】 今回学んだ租税法のテクニカルターム（キーワード）について説明できるようにする。		60	
第5回	租税法の解釈と適用（続き） （※オンライン授業で実施）			【準備】 システム（CoursePower）からレジュメ等の資料をダウンロードして内容を確認する。 【復習】 今回学んだ租税法のテクニカルターム（キーワード）について説明できるようにする。 システム（CoursePower）上で実施する復習クイズに解答し到達度を確認する。		60	
第6回	課税要件 所得税（所得税法総説） （※オンライン授業で実施）			【準備】 システム（CoursePower）からレジュメ等の資料をダウンロードして内容を確認する。 【復習】 今回学んだ租税法のテクニカルターム（キーワード）について説明できるようにする。 システム（CoursePower）上で実施する復習クイズに解答し到達度を確認する。		60	
第7回	中間試験（租税法主義に関する正確な理解と知識の定着を図ることを目的とします） （※オンライン授業で実施）			【準備】 前回までに学んだ租税法のテクニカルターム（キーワード）について説明できるようにする。		60	
第8回	中間試験のフィードバック。 所得税（「所得」の意義） （※オンライン授業で実施）			【準備】 システム（CoursePower）からレジュメ等の資料をダウンロードして内容を確認する。 【復習】 今回学んだ租税法のテクニカルターム（キーワード）について説明できるようにする。 システム（CoursePower）上で実施する復習クイズに解答し到達度を確認する。		60	
第9回	所得税（所得税の納税義務者、所得税額算出の基本的な仕組み） （※オンライン授業で実施）			【準備】 システム（CoursePower）からレジュメ等の資料をダウンロードして内容を確認する。 【復習】 今回学んだ租税法のテクニカルターム（キーワード）について説明できるようにする。 システム（CoursePower）上で実施する復習クイズに解答し到達度を確認する。		60	
第10回	所得税（利子所得、配当所得、不動産所得、事業所得） （※オンライン授業で実施）			【準備】 システム（CoursePower）からレジュメ等の資料をダウンロードして内容を確認する。 【復習】 今回学んだ租税法のテクニカルターム（キーワード）について説明できるようにする。 システム（CoursePower）上で実施する復習クイズに解答し到達度を確認する。		60	

第11回	所得税（給与所得、退職所得、所得控除） （※オンライン授業で実施）	【準備】システム（CoursePower）からレジュメ等の資料をダウンロードして内容を確認する。 【復習】今回学んだ租税法のテクニカルターム（キーワード）について説明できるようにする。 システム（CoursePower）上で実施する復習クイズに解答し到達度を確認する。	60
第12回	所得税（譲渡所得（概論）） （※オンライン授業で実施）	【準備】システム（CoursePower）からレジュメ等の資料をダウンロードして内容を確認する。 【復習】今回学んだ租税法のテクニカルターム（キーワード）について説明できるようにする。 システム（CoursePower）上で実施する復習クイズに解答し到達度を確認する。	60
第13回	所得税（譲渡所得（各論）、山林所得、一時所得、雑所得） （※オンライン授業で実施）	【準備】システム（CoursePower）からレジュメ等の資料をダウンロードして内容を確認する。 【復習】今回学んだ租税法のテクニカルターム（キーワード）について説明できるようにする。 システム（CoursePower）上で実施する復習クイズに解答し到達度を確認する。	60
第14回	所得税（年度帰属、必要経費）等 （※オンライン授業で実施）	【準備】システム（CoursePower）からレジュメ等の資料をダウンロードして内容を確認する。 【復習】今回学んだ租税法のテクニカルターム（キーワード）について説明できるようにする。 システム（CoursePower）上で実施する復習クイズに解答し到達度を確認する。	60
<p>〔授業の方法〕</p> <p>この授業は14回をオンデマンド型のオンライン授業で実施します。</p> <ul style="list-style-type: none"> 授業方法は、基本的にPowerPoint等を用いた講義形式ですが、学修効果を高める目的で個人単位のアクティビティ等を行うことがあります。 授業で使うレジュメ及び判例等は毎回CoursePowerで配付します。なお、レジュメ及び判例等はPDFで配付しますが、PowerPoint（重要な部分のアンダーラインや吹き出し等のアニメーションを付したもの）や映像等のデータは配付しませんので、受講にあたりメモやノートをとるようにしてください。 各回の学習方法についてはCoursePowerで明示しますが、基本的にはオンデマンドの授業を受講し、復習クイズ等の課題を提出する流れになります（復習クイズ等の課題の取り組み状況をもって出席とみなします）。 第7回目の中間試験は、CoursePowerを用いて実施します（ノートやレジュメ等披見可）。中間試験の問題は租税法主義について出題します。なお、中間試験には追試はありません。 期末試験は対面で実施します。試験範囲は第1回から第13回までの内容です。披見不可（持込不可）。 アカウントの不正使用、テストやレポート課題における不正行為は禁止ですのでご注意ください。 			
<p>〔成績評価の方法〕</p> <p>CoursePower上での復習クイズ等の課題（35%換算）、中間試験（「租税法主義」について出題します：5%換算）、期末試験（60%換算）により、授業の到達目標を達成しているかどうかを総合的に評価します。</p> <p>※この授業は複数学部での合併開講ですが、この授業のカリキュラム上の位置づけは学部により異なります（たとえば、経営学部では2年次から履修可能な非基幹科目（非コアの基礎的内容を扱う）という位置づけ、法学部では3年次以上で履修できる基幹科目又は応用科目という位置づけ）。そこで、所属学部により</p>			
<p>〔成績評価の基準〕</p> <p>成蹊大学の成績評価基準（学則第38条、39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 38, 39.</p> <p>次の点に着目し、その達成度により評価する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 租税法の基本原則の理解を通じたリーガルマインドの醸成を目標とする。より具体的には、租税法の諸原則（とくに租税法主義）について説明できるとともに、実社会での事例に適用できるようになること。 所得税の基礎知識を学問（法律学）の観点から修得し、説明できるようになること。 			
<p>〔必要な予備知識/先修科目/関連科目〕</p> <p>先修科目として、「税務会計」（会計処理にフォーカスした関連科目）等があります。</p> <p>また、応用的な関連科目として、「経営学特殊講義B/租税法」（法人税法等を扱う関連科目）があります。</p>			
<p>〔テキスト〕</p> <p>CoursePowerで資料（レジュメ及び判例等）を配付する。</p>			
<p>〔参考書〕</p> <p>予習及び復習の参考書としては、金子宏『租税法〔第24版〕』（弘文堂、2021年）。</p> <p>租税法における所得概念については、伊藤公哉『アメリカ連邦税法〔第9版〕』（中央経済社、2024年）の第I章（租税と所得概念）が詳しい。</p> <p>重要な法令はレジュメでも紹介しますが、以下で紹介するウェブサイトも有用です。</p> <ul style="list-style-type: none"> e-Gov 法令検索（税法を含む法令の検索が可能） https://elaws.e-gov.go.jp/ 裁判所（裁判例の検索が可能） http://www.courts.go.jp/app/hanrei_jp/search1 国税庁（法令解釈通達の検索が可能） https://www.nta.go.jp/shiraberu/zeiho-kaishaku/tsutatsu/menu.htm <p>また、租税判例は、TKCローライブラリー（図書館の法律データベース）も充実しています。</p>			
<p>〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕</p> <p>ポータルサイトで周知します。</p>			
<p>〔特記事項〕</p>			

科目名		経営学特殊講義A (自然保護論)					
教員名		田口 誠					
科目No.	122573000	単位数	2	配当年次	2年生	開講時期	2025 前期
<p>〔テーマ・概要〕</p> <p>テーマ：「さまざまな自然環境問題とその対策について経営学の視点から深く考える」</p> <p>経営学の枠組みを基礎として、企業と自然環境をめぐる様々な問題にアプローチします。</p> <p>具体的には、経営学の諸分野（企業倫理、マーケティング、消費者行動、企業組織論、リスクコミュニケーション、財務分析、環境政策論など）から、気候変動や生態系保護、資源・エネルギー管理など、最近重要になっている自然環境問題への企業の対応について学びます。</p> <p>経営学は一企業の効率的な運営を考えるための学問ですが、この授業では企業のみならず、個人や社会の視点を含め、広く人間と自然環境との関係性について考えます。</p>							
<p>〔到達目標〕</p> <p>DP1（専門分野の知識・技能）を実現するため、次の点を到達目標とする。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 自然環境保護と企業経営の関係性について理解すること 2. 経営学の理論を応用して、様々な自然環境問題への対応方法を提案できるようにすること 							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修の目安（分）	
第1回	ガイダンス ・授業の全体像、進め方、予習・復習の仕方等を説明する。			【復習】環境経営の意義について説明できるようにする。		60	
第2回	サステナビリティ ・サステナビリティとは具体的に何を意味するのか。			【復習】授業で取り上げた概念やキーワードについて説明できるようにする。		60	
第3回	国際経営 ・各国の自然環境規制が経営に与える影響			【復習】授業で取り上げた概念やキーワードについて説明できるようにする。		60	
第4回	生産(1) ・サプライチェーン・マネジメントと自然環境問題			【復習】授業で取り上げた概念やキーワードについて説明できるようにする。		60	
第5回	生産(2) ・ライフ・サイクル・アセスメント(LCA)と企業戦略			【復習】授業で取り上げた概念やキーワードについて説明できるようにする。		60	
第6回	競争戦略 ・自然環境にやさしい製品の競争戦略			【復習】授業で取り上げた概念やキーワードについて説明できるようにする。		60	
第7回	マーケティング(1) ・環境マーケティングの歴史的発展			【復習】授業で取り上げた概念やキーワードについて説明できるようにする。		60	
第8回	マーケティング(2) ・自然環境にやさしい製品の市場分析			【復習】授業で取り上げた概念やキーワードについて説明できるようにする。		60	
第9回	消費者行動(1) ・意思決定モデルの基本			【復習】授業で取り上げた概念やキーワードについて説明できるようにする。		60	
第10回	消費者行動(2) ・意思決定モデルの応用			【復習】授業で取り上げた概念やキーワードについて説明できるようにする。		60	
第11回	組織論 ・組織における認知障壁と自然環境問題			【復習】授業で取り上げた概念やキーワードについて説明できるようにする。		60	
第12回	情報戦略 ・自然環境情報の開示戦略			【復習】授業で取り上げた概念やキーワードについて説明できるようにする。		60	
第13回	財務分析 ・自然環境問題とファイナンス市場			【復習】授業で取り上げた概念やキーワードについて説明できるようにする。		60	
第14回	授業のまとめ 質疑応答			【復習】この授業を振り返り、到達目標と自分の理解度を点検し、不足している知識等を確認する。		60	
<p>〔授業の方法〕</p> <p>授業は講義を中心に進める。普段から講義資料を使った復習に力を入れ、次回の授業にわからない点を持ち越さないようにすること。</p> <p>なお、授業期間中の課題、最終レポートの狙いは以下の通りである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業期間中の課題：講義の内容が理解できているかを確認する。 ・最終レポート：授業全体の学修内容についての理解度を確認する。 							
〔成績評価の方法〕							

平常点による総合評価。
 期末レポート 70%, 授業期間中の課題 30%をめやすとする。

〔成績評価の基準〕

成蹊大学の成績評価基準（学則第 38, 39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 38, 39.

次の点に着目し、その達成度により評価する。

1. 自然環境保護と企業経営の関係性について論理的に説明できること
2. 経営学の理論にもとづき、自然環境問題への対応方法について考察できること

〔必要な予備知識/先修科目/関連科目〕

必要な予備知識：経営学の各分野、特にマーケティング、消費者行動、経営組織論についての基礎的な知識があることが望ましい。

関連科目：「環境と経営戦略」

〔テキスト〕

テキストは使用しない。
 授業中に資料を配布する。

〔参考書〕

講義の中で適宜、紹介する。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕

ポータルサイトの『オフィスアワー』で周知します。
 また、授業終了後に教室で受け付けます。

〔特記事項〕

科目名	経営学特殊講義A (上級簿記)						
教員名	新江 孝						
科目No.	122573010	単位数	2	配当年次	2年生	開講時期	2025 前期
<p>〔テーマ・概要〕</p> <p>この上級簿記の授業では、工業簿記について学びます。簿記(複式簿記)は商業簿記と工業簿記とに大別でき、商業簿記は商店等の商業が対象とされていますが、工業簿記では製造業(メーカー)が対象とされています。すなわち、複式簿記の機構を製造業に適用したものが工業簿記です。簿記・会計との関連で、製造業において特に重要な課題とされるのは、製造した製品の原価をいかに計算するかということです。その計算の仕組み自体に焦点を当てているのが原価計算です。他方、その計算過程を複式簿記の機構を用いて記録することに焦点を当てているのが工業簿記です。厳密にはこのように両者を区別することもできませんが、そもそも原価がいくらか計算しなければ記録することもできませんから、授業では、原価計算の基礎についても併せて学修していきます。授業では、その基礎となる各種の原価概念について学修します。そして、特に製造間接費の配賦および総合原価計算について詳しく学びます。</p>							
<p>〔到達目標〕</p> <p>DP1(専門分野の知識・技能)、DP3(課題の発見と解決)を実現するため、次の3点を到達目標とします。</p> <p>① 各種の原価概念を説明できる。 ② 製造間接費の配賦計算および差異分析ができる。 ③ 総合原価計算によって完成品原価を算定できる。</p>							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修(予習・復習等)		準備学修の目安(分)	
第1回	ガイダンス ・授業の内容、進め方等を説明する。 会計とは ・会計の体系について学修する。			【予習】シラバスを読み、あらかじめ講義内容を把握する。 【復習】1週間以内、授業内容を復習し、キーワードについて説明できるようにする。		60~120分	
第2回	原価の内容 ・材料費、労務費、経費、製造原価、販売費、一般管理費、総原価について学修する。			【予習】シラバスを読み、あらかじめ講義内容を把握する。 【復習】1週間以内、授業内容を復習し、キーワードについて説明できるようにする。		60~120分	
第3回	各種原価概念(1) ・直接費/間接費について学修する。 原価とは(1) ・原価の定義について学修する。			【予習】シラバスを読み、あらかじめ講義内容を把握する。 【復習】1週間以内、授業内容を復習し、キーワードについて説明できるようにする。		60~120分	
第4回	原価とは(2) ・原価と価値の関係について学修する。			【予習】シラバスを読み、あらかじめ講義内容を把握する。 【復習】1週間以内、授業内容を復習し、キーワードについて説明できるようにする。		60~120分	
第5回	原価とは(3) ・機会原価について学修する。 ・原価と費用の関係について学修する。 ・原価と価格の関係について学修する。 各種原価概念(2) ・変動費/固定費について学修する。			【予習】シラバスを読み、あらかじめ講義内容を把握する。 【復習】1週間以内、授業内容を復習し、キーワードについて説明できるようにする。		60~120分	
第6回	原価計算の基礎 ・原価計算期間について学修する。 ・製造原価の計算手順について学修する。 ・製造間接費の実際配賦について学修する。			【予習】シラバスを読み、あらかじめ講義内容を把握する。 【復習】1週間以内、授業内容を復習し、キーワードについて説明できるようにする。 ・(特に重要!)1週間以内に、計算問題を解き直す。		60~120分	
第7回	製造間接費の予定配賦(1) ・製造間接費の予定配賦の手順について学修する。			【予習】シラバスを読み、あらかじめ講義内容を把握する。 【復習】1週間以内、授業内容を復習し、キーワードについて説明できるようにする。 ・(特に重要!)1週間以内に、計算問題を解き直す。		60~120分	
第8回	製造間接費の予定配賦(2) ・製造間接費の差異分析について学修する。			【予習】シラバスを読み、あらかじめ講義内容を把握する。 【復習】1週間以内、授業内容を復習し、キーワードについて説明できるようにする。 ・(特に重要!)1週間以内に、計算問題を解き直す。		60~120分	
第9回	製造間接費の予定配賦(3) ・正常配賦の理論について学修する。 個別原価計算と総合原価計算 ・両者の相違について学修する。 ・個別原価計算の基本について学修する。 ・仕掛品概念について学修する。			【予習】シラバスを読み、あらかじめ講義内容を把握する。 【復習】1週間以内、授業内容を復習し、キーワードについて説明できるようにする。		60~120分	
第10回	総合原価計算(1) ・総合原価計算の基本について学修する。 ・進捗度について学修する。			【予習】シラバスを読み、あらかじめ講義内容を把握する。 【復習】1週間以内、授業内容を復習し、キーワードについて説明		60~120分	

		できるようにする。 ・(特に重要!) 1週間以内に、計算問題を解き直す。	
第11回	総合原価計算(2) ・平均法, 先入先出法の計算方法について学修する。	【予習】 シラバスを読み, あらかじめ講義内容を把握する。 【復習】 1週間以内、授業内容を復習し、キーワードについて説明できるようにする。 ・(特に重要!) 1週間以内に、計算問題を解き直す。	60~120分
第12回	工業簿記 ・勘定記入と仕訳の関係について学修する。 ・勘定連絡図について学修する。	【予習】 シラバスを読み, あらかじめ講義内容を把握する。 【復習】 1週間以内、授業内容を復習し、キーワードについて説明できるようにする。 ・(特に重要!) 1週間以内に、計算問題を解き直す。	60~120分
第13回	到達度確認テスト ・これまでの学修内容について, 理解度を確認するためのテスト	【予習】 到達度確認テストに備え, これまでの学修内容を確認する。一夜漬けとならないよう、数週間前より計画的に学修に取り組むようにする。 【復習】 到達度確認テストで出されたものと同様のテキストの問題を解き, その理解を確かなものとする。	60~120分
第14回	授業のまとめ・質疑応答	【予習】 授業全体の内容を簡単に振り返っておく。 【復習】 授業全体を振り返り, 到達目標と自分の理解度とを点検し, 不足している知識等を確認し, 学修する。	60~120分
<p>〔授業の方法〕 授業は講義形式で行います。口頭のみで説明することもあるので、適宜ノートをとる必要があります。授業時間中に計算演習を行うこともありますので、電卓を必ず持参して下さい。 なお、上で示された準備学修の時間はあくまで目安ですので、各自の理解度に応じて取り組む必要があります。 レポート/計算課題の狙いは以下の通りです。 ・レポート：自ら考える機会を設ける目的で、授業内容に関する簡単な問いを出題します。 ・計算課題：授業時に取り上げる計算問題の復習となるように出題します。</p>			
<p>〔成績評価の方法〕 平常点(確認テストまたはアンケート)：40%、最終試験(授業内の到達度確認テストの予定)1回：60% により総合的に評価します。 (注) 履修者数が多い場合には、最終試験を学期末試験として行います。</p>			
<p>〔成績評価の基準〕 成蹊大学の成績評価基準(学則第38条、39条)に準拠します。 次の点に着目し、その達成度により評価します。 ① 各種の原価概念および原価計算の基本的な仕組みを理解している。 ② 製造間接費の配賦計算ができる。 ③ 製造間接費の差異分析ができる。 ④ 総合原価計算によって完成品原価、期末仕掛品原価を算定できる。</p>			
<p>〔必要な予備知識/先修科目/関連科目〕 「企業会計の基礎」で学習した会計・簿記の基本的な知識を習得していることを前提として講義を行います。「コスト・マネジメント」、「管理会計」、「戦略支援システム」との関連性が高いため、併せて履修すると学修の効果がより高まると期待されます。</p>			
<p>〔テキスト〕 『検定 簿記講義2級工業簿記』(授業開始時点での最新版), 岡本清・廣本敏郎編著, 中央経済社(なお、このテキストは後期開講の「コスト・マネジメント」のテキストと同一です)</p>			
<p>〔参考書〕 『原価計算(6訂版)』, 岡本清著, 国元書房(購入の必要はありません。必要な際に、図書館等で参照してください。)</p>			
<p>〔質問・相談方法等(オフィス・アワー)〕 授業終了後に教室で受け付けます。</p>			
<p>〔特記事項〕</p>			

科目名		経営学特殊講義A（環境経営の基礎）					
教員名		鶴田 佳史					
科目No.	122573020	単位数	2	配当年次	2年生	開講時期	2025 前期
<p>〔テーマ・概要〕</p> <p>本授業の目的は、履修者が企業の環境経営について基礎的な知識を習得することです。SDGs（持続可能な開発目標）、ESG 投資・インパクトファイナンスといったサステナブルファイナンス、パリ協定・カーボンプライシングといった気候変動対策、非財務情報開示のフレームワークの構築等、国際的な環境保全への取り組みが進んできています。これにより、企業と社会との関係も日々変化し、その変化は環境保全と経済活動との総合領域において顕著に現れています。環境保全の取り組みについて理解することは、現在と未来の社会を読み解くことに他なりません。本授業では、この「環境」という新しい時代における企業活動について理解していきます。さらに、それらが生みだされてきた背景である、地球環境問題、持続可能性（サステナビリティ）・SDGs、環境コミュニケーション等についても触れていきます。</p> <p>また、本授業では、企業に限らず、行政、市民、NGO/NPO 等のさまざまな主体の環境経営の取り組みについて実際の事例を通じて理解していきます。なお、企業の非財務情報評価についての実務経験を活かした内容ともなっています。</p> <p>第1回の授業ではオリエンテーションを行います。授業の進行方法と内容について授業で必要な資料（ポートフォリオ等）を配付します。履修希望者は必ず資料を確認してください。</p>							
<p>〔到達目標〕</p> <p>DPI(専門分野の知識・技能)を実現するため、以下を到達目標とする。</p> <p>①持続可能性や環境保全と企業経営との関係性についての知識を修得する。</p> <p>②企業の環境経営や持続可能経営について環境保全と経済活動との関係性の視点からフレームワークを提示することができる。</p>							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修の目安（分）	
第1回	はじめに（オリエンテーション） ・授業の全体像、進め方、予習・復習の仕方等を説明する。			シラバスを読み、あらかじめ講義内容を把握する。		60	
第2回	地球環境問題の諸相（1）地球環境問題の歴史 ・地球環境問題の歴史の変遷について学修する。			地球環境問題の歴史について新聞記事等を調べる。 講義内容を振り返り、理解を深める。		60	
第3回	地球環境問題の諸相（2）地球環境問題の類型 ・地球環境問題の類型について学修する。			地球環境問題に関わる国際会議や条約について新聞記事等を調べる。 講義内容を振り返り、理解を深める。		60	
第4回	地球環境問題の諸相（3）国際会議・条約 ・地球環境問題に関する国際会議・条約について学修する。			地球環境問題に関わる国際会議や条約について新聞記事等を調べる。 講義内容を振り返り、理解を深める。		60	
第5回	地球環境問題の諸相（4）環境意識の変化 ・市民の環境意識の変化について学修する。			環境省による調査・報告等を調べる。 講義内容を振り返り、理解を深める。		60	
第6回	地球環境問題の諸相（5）環境保全と経済活動 ・環境保全と経済との関係性について学修する。			環境保全と経済との関係性について新聞記事等を調べる。 講義内容を振り返り、理解を深める。		60	
第7回	持続可能な社会にむけて（1）グローバルコンパクト ・グローバルコンパクトについて学修する。			グローバルコンパクトについて調べる。 講義内容を振り返り、理解を深める。		60	
第8回	持続可能な社会にむけて（2）MDGs と SDGs ・MDGs と SDGs について学修する。			MDGs と SDGs について調べる。 講義内容を振り返り、理解を深める。		60	
第9回	持続可能な社会にむけて（3）企業の環境保全対策 ・企業の環境保全対策について学修する。			企業の環境保全対策について調べる。 講義内容を振り返り、理解を深める。		60	
第10回	持続可能性と環境経営（1）気候変動と企業活動 ・気候変動に関する基礎知識について学修する。			気候非常事態宣言、パリ協定や IPCC の報告書等を調べる。 講義内容を振り返り、理解を深める。		60	
第11回	持続可能性と環境経営（2）ESG・非財務情報開示 ・企業の非財務情報開示について学修する。			ESG 投資、サステナブルファイナンスなどの対応の一つとして非財務情報の開示について企業の財務・非財務に関する報告書や新聞記事等を調べる。 講義内容を振り返り、理解を深める。		60	
第12回	持続可能性と環境経営（3）SDGs と企業活動 ・SDGs と企業の環境経営について学修する。			持続可能性と持続可能な発展、SDGs（持続可能な開発目標）について新聞記事等を調べる。 講義内容を振り返り、理解を深める。		60	
第13回	期末レポート（ポスター）の提出（目標到達度確認） ・ポスターを作成し、環境問題について紹介する。			授業開始時に案内した項目を満たしたポスターを作成し提出する。		120	
第14回	まとめ ・これまでの講義内容の総括を行う。			講義内容を振り返り、理解を深める。		60	
〔授業の方法〕							

本授業は講義形式で実施します。「大学で学ぶ」ということは、知的興奮をいかに多く共有し、共鳴し、共進でき、充実した今を生きるかということでもあります。今を充実させて、未来の選択可能性を拡げてください。

気候変動、SDGs、ESG 投資、非財務情報開示への対応等といった環境経営に関わる取組は日々急激に変化しています。その変化に対応するため、授業開催時の環境経営に関わるトピックを取り上げ、企業だけではなく、行政、市民、NPO/NGO の地球環境保全と経済活動についての取組み事例を紹介しながら学習していきます。

授業は講義形式で行い、期末レポート（ポスター）および小レポートを実施します。

授業の進捗によって、内容を一部変更する場合があります。

環境活動のリーダーとして社会で活躍できるようになってもらいたいと願っています。そのためにも社会での最低限のマナーを授業でもしっかりと守っていきましょう。

〔成績評価の方法〕

「平常点（授業への参加状況等）：40%」、「期末レポート（ポスター）・小レポート：60%」により評価します。

なお、毎回出席をとります。

〔成績評価の基準〕

成蹊大学の成績評価基準（学則第 38 条、39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.

次の点に着目し、その達成度により評価します。

- ・持続可能性についての基本的な理解ができているか。
- ・企業の環境経営について説明することができるか。

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕

本授業は、環境経営に関する基本的な知識と情報を習得することに重点を置いているため、必要とされる予備知識は特にはありません。

〔テキスト〕

独自に作成した資料を配布し使用します。購入の必要はありません。

〔参考書〕

野村佐智代・山田雅俊・佐久間信夫編（2021）『現代環境経営要論』創成社。 さらに詳しく環境経営を学びたい学生向けの参考書ですので、特に購入の必要はありません。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕

授業開始前および授業終了後に教室で受け付けます。

また、随時、電子メールでも対応します。

電子メールのアドレスは初回授業で案内します。

〔特記事項〕

科目名		経営学特殊講義A (マーケティング・リサーチ)					
教員名		野際 大介					
科目No.	122573050	単位数	2	配当年次	2年生	開講時期	2025 前期
<p>〔テーマ・概要〕</p> <p>本講義では、マーケティング戦略に対するさまざまな問題を識別、把握、解決し、適切な意思決定のため、必要な情報を収集し分析する手法や枠組みに関する知識を身につけます。具体的には、マーケティングや消費者行動論の理論的背景に基づき、質問紙調査や購買履歴データ、アクセスログデータなど情報化に伴い取得が比較的容易になった膨大なデータを活用、解析することで効果的なマーケティング戦略を策定できることを目標とします。</p> <p>・シンクタンクでの実務経験に基づき、マーケティングにおけるリサーチの方法やデータ活用方法について講義する。</p>							
<p>〔到達目標〕</p> <p>本講義では、以下の(1)～(3)を習得することを到達目標とします。</p> <p>(1) マーケティングや消費者行動論に基づく基礎知識の応用 (2) データを活用したマーケティング戦略策定のためのプロセス理解や実践方法 (3) 上記に関わる実務的な応用を見据えた論理的で科学的な提案方法</p> <p>以上、DP1 (専門分野の知識・技能)、DP3 (課題の発見と解決) を実現することを目的としています。</p>							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修 (予習・復習等)		準備学修の目安 (分)	
第1回	オリエンテーション ・講義の進め方とスケジュール確認 ・本講義の位置づけ			予習 ・シラバスや関連科目について確認する		60分	
第2回	マーケティング概論(1) ・マーケティングの概要 (復習) ・製品戦略 ・価格戦略、価格弾力性			復習 ・演習問題を解きなおす ・講義トピックの確認		60分	
第3回	マーケティング概論(2) ・流通戦略 ・プロモーション戦略 ・効果測定のための因果効果			復習 ・演習問題を解きなおす ・講義トピックの確認		60分	
第4回	消費者行動論概論(1) ・消費者行動論の概要 ・消費者行動分析とデータ ・消費者調査と統計の基礎			復習 ・演習問題を解きなおす ・講義トピックの確認		60分	
第5回	消費者行動論概論(2) ・消費者の情報処理と選択行動 ・購買行動プロセス ・定量分析の導入			復習 ・演習問題を解きなおす ・講義トピックの確認		60分	
第6回	マーケティング・リサーチ手法(1) ・消費者の情報処理の測定とは ・影響される因子と相関 ・相関と偏相関			復習 ・演習問題を解きなおす ・講義トピックの確認		60分	
第7回	理解度チェック(1) ・第1回～第6回の理解度確認			予習 ・第1回～第6回演習問題を解きなおす ・第1回～第6回講義トピックの確認と整理		120分	
第8回	マーケティング・リサーチ手法(2) ・市場反応分析とは ・相関から回帰分析			予習 ・統計の基礎について確認 復習 ・演習問題を解きなおす ・講義トピックの確認		90分	
第9回	マーケティング・リサーチ手法(3) ・商品の組合せを評価する (アソシエーション分析)			予習 ・高校数学 (確率) の確認 復習 ・演習問題を解きなおす ・講義トピックの確認		90分	
第10回	マーケティング・リサーチのデザインと意思決定 ・リサーチデザインの決定 ・マーケティングリサーチ実施の意思決定分析			予習 ・高校数学 (確率) の確認 復習 ・演習問題を解きなおす ・講義トピックの確認		90分	
第11回	シナリオ予測 ・マーケティングにおけるシナリオとは ・シェアの予測			復習 ・演習問題を解きなおす ・講義トピックの確認		90分	
第12回	価格調査 ・プライシングとは ・PSM分析			予習 ・第2回目の講義を復習 復習 ・演習問題を解きなおす ・講義トピックの確認		90分	
第13回	消費者行動とマーケティングモデル ・消費者行動モデルを応用しよう ・新製品普及モデル ・Huffモデル			復習 ・演習問題を解きなおす ・講義トピックの確認		90分	

第14回	理解度チェック(2) ・第1回～第13回の理解度確認	予習 ・第1回～第13回演習問題を解きなおす ・第1回～第13回講義トピックの確認と整理	120分
<p>〔授業の方法〕 講義内では授業とディスカッションを織り交ぜながら、進捗し、講義後半では演習問題やデータ解析を実施する回もある。各自マーケティングに関して、考察、提案の策定を行う。 講義内の演習の際には、ノートパソコンなどを用いてもよいため、各自必要に応じて持参すること。</p>			
<p>〔成績評価の方法〕 講義課題提出(40%)、2回の理解度チェック(30%+30%)によって総合的に評価する。 また、講義内で課題演習についての回答例を発言等した場合についてはボーナスポイントを付与する。</p>			
<p>〔成績評価の基準〕 成蹊大学の成績評価基準(学則第38条、第39条)に準拠する。上記の到達目標の達成度に基づいて評価します。 以下の観点から、到達度や理解度の評価する。 (1) マーケティングや消費者行動論に基づく基礎知識の応用が可能か (2) データを活用したマーケティング戦略策定のためのプロセス理解や実践方法を理解しているか (3) 上記に関わる実務的な応用を見据えた論理的で科学的な提案方法が身についているか</p>			
<p>〔必要な予備知識/先修科目/関連科目〕 マーケティング、統計の基礎、消費者行動など</p>			
<p>〔テキスト〕 特になし</p>			
<p>〔参考書〕 『現代マーケティング・リサーチ〔新版〕：市場を読み解くデータ分析』照井伸彦・佐藤忠彦(2022)有斐閣 3,190円—購入の必要なし—</p>			
<p>〔質問・相談方法等(オフィス・アワー)〕 ポータルサイトでオフィスアワーを周知する。また、講義終了後、教室で受け付けます。</p>			
<p>〔特記事項〕</p>			

科目名	経営学特殊講義A (ESG とサステナビリティ)						
教員名	伊藤 敬介						
科目No.	122573070	単位数	2	配当年次	2年生	開講時期	2025 前期
<p>〔テーマ・概要〕</p> <p>2008年の世界的な金融危機以降、短期的な効率性よりも中長期的な持続可能性が重視されるなか、企業の ESG（環境、社会、企業統治）およびサステナビリティに向けた取組みは、企業経営者、投資家、そして金融機関にとって最重要課題の一つとなっています。一方、近年では米国などで反 ESG や反脱炭素の動きも見られます。</p> <p>ESG や SDGs とは何か、これらの非財務情報がなぜ重要なのか、ESG と企業価値の関係、ESG 投資やサステナビリティ・ファイナンスがもたらすフィナンシャルリターンとソーシャルリターン、投資家と企業のエンゲージメントやステュワードシップ活動、ESG 投資の課題とは何か。このような、これからの経営人材にとって重要となる「ESG とサステナビリティ」について、企業経営者、投資家、そして金融機関の視点を踏まえて、メガバンクグループでリサーチやコンサルティング業務に従事した実務経験に基づき講義します。</p>							
<p>〔到達目標〕</p> <p>D P 1（専門分野の知識・技能）を実現するため、以下を到達目標とします。</p> <p>1) ESG や SDGs とは何か、なぜこれが企業経営者・投資家・金融機関にとって重要なのかを理解し、説明できる。</p> <p>2) ESG と企業価値や株価リターンの関係を理解する。</p> <p>3) ESG やサステナビリティに関する最近の潮流や課題を理解し、説明できる。</p>							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修の目安（分）	
第1回	イントロダクション ・講義の全体像や進め方、ESG やサステナビリティが重視されるようになった背景を説明する。			【予習】シラバスを読み、あらかじめその内容を把握する。 【復習】配布資料等を基に、授業の内容を再確認するとともに、キーワード等について説明できるようにする。		60	
第2回	企業価値評価の基礎 ・お金の時間価値、企業の財務諸表、企業価値と株式価値、配当割引モデルなど、企業価値評価の基礎をレビューする。			【復習】配布資料等を基に、キーワード等について説明できるようにする。		60	
第3回	ESG と企業価値 ・ESG やサステナビリティの情報がなぜ企業価値や株式価値に影響するかを説明し、企業の ESG 強化に向けた取組み事例を紹介する。			【復習】配布資料等を基に、キーワード等について説明できるようにする。		60	
第4回	環境(E: Environment) ・ESG の「E」をめぐる潮流、移行リスクや物理リスク、企業価値に影響を与える環境ファクターなどを説明する。			【復習】配布資料等を基に、キーワード等について説明できるようにする。		60	
第5回	社会(S: Social) ・ESG の「S」をめぐる潮流、従業員のウェルビーイングや人的資本経営、企業価値に影響を与える社会ファクターなどを説明する。			【復習】配布資料等を基に、キーワード等について説明できるようにする。		60	
第6回	企業統治(G: Governance) ・ESG の「G」をめぐる潮流、ガバナンスの形態やその特徴、企業価値に影響を与えるガバナンスファクターなどを説明する。			【復習】配布資料等を基に、キーワード等について説明できるようにする。		60	
第7回	ESG 投資 ・ESG 投資市場、株式投資プロセスにおける ESG 情報の活用のしかた、ESG インテグレーション、インパクト投資などを説明する。			【復習】配布資料等を基に、キーワード等について説明できるようにする。		60	
第8回	SDGs の潮流 ・SDGs (Sustainable Development Goals; 持続可能な開発目標) の概要や、企業や投資家、金融機関の SDGs への取組みなどについて説明する。			【復習】配布資料等を基に、キーワード等について説明できるようにする。		60	
第9回	サステナブルファイナンス ・サステナビリティ・ボンドやグリーン・ボンドとは何か、金融機関からみた ESG やサステナビリティに関して説明する。			【復習】配布資料等を基に、キーワード等について説明できるようにする。		60	
第10回	企業の ESG ディスクロージャー ・統合報告書や ESG レポートなど、非財務情報に関する近年の企業ディスクロージャーの状況やその意義などを説明する。			【復習】配布資料等を基に、キーワード等について説明できるようにする。		60	
第11回	エンゲージメントとステュワードシップ ・投資家と企業の建設的な対話やステュワードシップコード、アセット・オーナーの取組みなどを説明する。			【復習】配布資料等を基に、キーワード等について説明できるようにする。		60	
第12回	ESG 投資や ESG データ提供機関の課題 ・ESG 評価手法の事例紹介やデータベンダー間の ESG 評価のバラツキ、グリーン・ウォッシュなど、ESG 情報を活用する際の留意点や課題などを説明する。			【復習】配布資料等を基に、キーワード等について説明できるようにする。		60	
第13回	脱炭素時代の株式投資 ・脱炭素に向けた世界的な潮流や、それらが株式リターンに与える影響などを、最新の実証分析事例も踏まえて説明する。			【復習】配布資料等を基に、キーワード等について説明できるようにする。		60	
第14回	ESG とサステナビリティに関するまとめ ・講義全体のまとめを行い、期末試験について説明する。			【復習】配布資料等を基に、キーワード等について説明できるようにする。		60	

<p>〔授業の方法〕</p> <p>毎回配付する講義資料（レジュメ）に基づいて、講義形式で進めます。実践的な知識を身につけるために、中間課題（レポート）を課します。また、理解度を確認するためのクイズも適宜出題します。</p>
<p>〔成績評価の方法〕</p> <p>期末試験 40%、中間課題（レポート） 30%、平常点（授業中の積極的・建設的な発言やクイズの提出状況） 30%で評価します。</p>
<p>〔成績評価の基準〕</p> <p>成蹊大学の成績評価基準（学則第 38 条、39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39. 主に、以下の点に関する到達度に応じて評価します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ESG や SDGs とは何か、これらが企業経営者・投資家・金融機関にとってなぜ重要かを理解しているか。 ・ ESG と企業価値や株価リターンの関係を理解しているか。 ・ ESG やサステナビリティに関する潮流や課題を理解しているか。
<p>〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕</p> <p>特になし</p>
<p>〔テキスト〕</p> <p>特になし</p>
<p>〔参考書〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 『ESG 投資 新しい資本主義のかたち』、水口 剛、日本経済新聞出版社、2017 年 ・ 『[普及版]ESG 投資の研究 - 理論と実践の最前線』、加藤 康之、一灯舎、2019 年 (いずれも購入の必要はありません)
<p>〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕</p> <p>ポータルサイトで周知します。 また、授業終了後に教室で受け付けます。</p>
<p>〔特記事項〕</p>

科目名	商法A						
教員名	受川 環大						
科目No.	122574000	単位数	2	配当年次	2年生	開講時期	2025 後期
<p>〔テーマ・概要〕</p> <p>商法 A は、「会社法」を主な対象として講義を行う。会社はわが国の経済活動の主要な担い手であり、また国民生活も会社が行う経済活動に大きな影響を受けている。したがって、会社、とくにその中核を占める株式会社の経営・管理が効率的かつ適正に行われることが重要であり、それを制度的に支える法律制度が適切に構築されていることが重要である。その意味で、会社法制は、わが国の経済社会の発展にとっても必要不可欠のインフラであるため、その内容を学ぶ意義は極めて大きいものと思われる。</p> <p>商法Aは株式会社のコーポレート・ガバナンス（企業統治）および役員等の義務と責任に関する法規制を中心に扱う。具体的な講義項目は「授業の計画・内容と準備学習」に掲げたとおりであるが、商法の意義、会社法総論（会社の意義と種類等）、株式会社の設立、株式と株主、株式会社の機関（管理運営の仕組み）、株主総会、役員等の義務と責任などについて解説する。</p> <p>なお、第1回・第2回の授業は商法Bとほぼ同じ内容を扱う。</p>							
<p>〔到達目標〕</p> <p>DPI（専門分野の知識・技能）を実現するため、次の4点を到達目標とする。</p> <p>①会社制度の意義と株式会社の基本的な特徴についてを理解する。 ②株式会社の機関設計について理解する。 ③株主総会について理解する。 ④役員等の義務と責任について理解する。</p>							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修の目安（分）	
第1回	イントロダクション：商法の意義、会社法の意義、共同企業と会社			教科書とレジュメの該当箇所を事前に読んでください。		60	
第2回	会社の意義と種類、株式会社の特徴			教科書とレジュメの該当箇所を事前に読んでください。		60	
第3回	株式会社の設立			教科書とレジュメの該当箇所を事前に読んでください。		60	
第4回	株式と株主、株式会社の機関設計			教科書とレジュメの該当箇所を事前に読んでください。		60	
第5回	株主総会（1）意義、権限、招集、議事			教科書とレジュメの該当箇所を事前に読んでください。		60	
第6回	株主総会（2）決議、決議の瑕疵			教科書とレジュメの該当箇所を事前に読んでください。		60	
第7回	株主総会（3）株主総会の動画視聴			教科書とレジュメの該当箇所を事前に読んでください。		60	
第8回	取締役会設置会社（1）：取締役、取締役会、代表取締役			教科書とレジュメの該当箇所を事前に読んでください。		60	
第9回	取締役会設置会社（2）：監査役、監査役会、会計監査人、会計参与			教科書とレジュメの該当箇所を事前に読んでください。		60	
第10回	指名委員会等設置会社、監査等委員会設置会社、非取締役会設置会社			教科書とレジュメの該当箇所を事前に読んでください。		60	
第11回	役員等の義務、会社と取締役の利益衝突			教科書とレジュメの該当箇所を事前に読んでください。		60	
第12回	役員等の会社に対する責任、役員等の責任の追及			教科書とレジュメの該当箇所を事前に読んでください。		60	
第13回	役員等の第三者に対する責任、補償契約と役員等賠償責任保険契約			教科書とレジュメの該当箇所を事前に読んでください。		60	
第14回	到達度確認テストおよびその解説			到達度確認テストに備え、総合的に復習をしておいてください。		180	
<p>〔授業の方法〕</p> <p>授業に先立ち Course Power に予習用レジュメを掲載する。レジュメには、教科書の該当頁、理解度を確認するための正誤問題を掲載する。授業では、教科書を参照しながら、レジュメの記載にしたがって講義を進める。また、適宜、実際の会社関係資料を例示して補足説明をする。正誤問題については、受講生に解答を求めた上で解説する。</p> <p>教科書の該当頁とレジュメをよく読んだ上で授業に出席することが求められる。教科書を持参しないで授業に出席することは認められない。</p>							
〔成績評価の方法〕							

平常点（30%）および到達度確認テスト（70%）によって評価する。平常点は出席および授業への参加状況によって判断する。

〔成績評価の基準〕

成蹊大学の成績評価基準（学則第38条、39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39. 次の点に着目し、その達成度により評価する。

- ①会社制度の意義と株式会社の特徴について理解する。
- ②株式会社の機関設計について理解する。
- ③株主総会について理解する。
- ④役員等の義務と責任について理解する。

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕

予備知識は必要ない。

経営学部のカリキュラムに設置されている関連科目としては、「会社のしくみと制度」、「ビジネス法の基礎」、「コーポレート・ファイナンス」などを挙げることができる。商法Aは、「会社のしくみと制度」で扱う内容について、法律的な観点から習得する科目である。

なお、商法Aと商法Bの両科目を履修することによって会社法の全体を習得できるので、商法Bも併せて履修することが望ましい。

〔テキスト〕

伊藤靖史=大杉謙一=田中亘=松井秀征『会社法（第5版）』（有斐閣、2021年）2,900円、ISBN978-4-641-17946-2 [購入を要する]

〔参考書〕

特になし。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕

授業終了後に教室で受け付けます。

〔特記事項〕

科目名		商法B					
教員名		受川 環大					
科目No.	122575000	単位数	2	配当年次	2年生	開講時期	2025 後期
<p>〔テーマ・概要〕</p> <p>商法 B は、商法 A と同様、「会社法」を対象として講義を行う。会社はわが国の経済活動の主要な担い手であり、また国民生活も会社が行う経済活動に大きな影響を受けている。したがって、会社、とくにその中核を占める株式会社の経営・管理が効率的かつ適正に行われることが重要であり、それを制度的に支える法律制度が適切に構築されていることが重要である。その意味で、会社法は、わが国の経済社会の発展にとっても必要不可欠のインフラであるため、その内容を学ぶ意義は極めて大きいものと思われる。</p> <p>商法 B は株式会社のファイナンス（企業の資金調達）および M&A（企業の合併・買収）に関する法規制を中心に扱う。具体的な講義項目は「授業の計画・内容と準備学習」に掲げたとおりであるが、商法の意義、会社法総論、株式会社の特徴、株式制度、計算規制、資金調達手段である募集株式の発行・新株予約権・社債、企業の買収・結合・再編の方法とその法規制などについて解説する。</p> <p>なお、第1回・第2回の授業は商法 A とほぼ同じ内容を扱う。</p>							
<p>〔到達目標〕</p> <p>DPI（専門分野の知識・技能）を実現するため、次の4点を到達目標とする。</p> <p>①会社制度の意義と株式会社の基本的な特徴について理解する。 ②株式制度について理解する。 ③株式会社の資金調達の方法及びその法規制について理解する。 ④企業の買収・結合・再編の方法及びその法規制について理解する。</p>							
〔授業の計画と準備学習〕							
回数	授業の計画・内容			準備学習（予習・復習等）		準備学習の目安（分）	
第1回	イントロダクション：商法の意義、会社法の意義、共同企業と会社			教科書とレジュメの該当箇所を事前に読んでください。		60	
第2回	会社の意義と種類、株式会社の特徴			教科書とレジュメの該当箇所を事前に読んでください。		60	
第3回	株式制度（1）：株式と株主			教科書とレジュメの該当箇所を事前に読んでください。		60	
第4回	株式制度（2）：株式の譲渡等			教科書とレジュメの該当箇所を事前に読んでください。		60	
第5回	株式会社の計算：会計と開示、剰余金の配当、自己株式			教科書とレジュメの該当箇所を事前に読んでください。		60	
第6回	株式会社の資金調達（1）：資金調達の方法及び募集株式の発行等の手続			教科書とレジュメの該当箇所を事前に読んでください。		60	
第7回	株式会社の資金調達（2）：募集株式の発行等の瑕疵を争う手続			教科書とレジュメの該当箇所を事前に読んでください。		60	
第8回	株式会社の資金調達（3）：新株予約権、社債			教科書とレジュメの該当箇所を事前に読んでください。		60	
第9回	企業の買収・結合・再編（1）：企業の買収の意義と方法、キャッシュ・アウト			教科書とレジュメの該当箇所を事前に読んでください。		60	
第10回	組織再編の意義と種類、合併			教科書とレジュメの該当箇所を事前に読んでください。		60	
第11回	株式交換、株式移転、株式交付			教科書とレジュメの該当箇所を事前に読んでください。		60	
第12回	会社分割、事業譲渡等			教科書とレジュメの該当箇所を事前に読んでください。		60	
第13回	同意なき買収（敵対的買収）と防衛策			教科書とレジュメの該当箇所を事前に読んでください。		60	
第14回	到達度確認テストおよびその解説			到達度確認テストに備え、総合的に復習をしておいてください。		180	
<p>〔授業の方法〕</p> <p>授業に先立ち Course Power に予習用レジュメを掲載する。レジュメには、教科書の該当頁、理解度を確認するための正誤問題を掲載する。授業では、教科書を参照しながら、レジュメの記載にしたがって講義を進める。また、適宜、実際の会社関係資料を例示して補足説明をする。正誤問題については、受講生に解答を求めた上で解説する。</p> <p>教科書の該当頁とレジュメをよく読んだ上で授業に出席することが求められる。教科書を持参しないで授業に出席することは認められない。</p>							
〔成績評価の方法〕							

平常点（30%）および到達度確認テスト（70%）によって評価する。平常点は出席および授業への参加状況によって判断する。

〔成績評価の基準〕

成蹊大学の成績評価基準（学則第38条、39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39. 次の点に着目し、その達成度により評価する。
 ①会社制度の意義と株式会社の特徴について理解する。
 ③株式制度について理解する。
 ④株式会社の資金調達の方法とその法規制について理解する。
 ④企業の買収・結合・再編の方法とその法規制について理解する。

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕

予備知識は必要ない。
 経営学部のカリキュラムに設置されている関連科目としては、「会社のしくみと制度」、「ビジネス法の基礎」、「コーポレート・ファイナンス」などを挙げることができる。商法Bは、「会社のしくみと制度」で扱う内容について、法律的な観点から習得する科目である。
 なお、商法Aと商法Bの両科目を履修することによって会社法の全体を習得できるので、商法Aも併せて履修することが望ましい。

〔テキスト〕

伊藤靖史=大杉謙一=田中亘=松井秀征『会社法（第5版）』（有斐閣、2021年）2,900円、ISBN978-4-641-17946-2 [購入を要する]

〔参考書〕

特になし。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕

授業終了後に教室で受け付けます。

〔特記事項〕

科目名		経営学特殊講義B (行動ファイナンス)					
教員名		俊野 雅司					
科目No.	122576000	単位数	2	配当年次	2年生	開講時期	2025 前期
<p>〔テーマ・概要〕</p> <p>本講座では、行動ファイナンス (行動経済学) に関する議論を通じて、人間の意思決定の特徴や金融分野への応用問題について学修する。行動ファイナンスは、資産選択の意思決定に関する標準的な理論体系 (「現代ポートフォリオ理論」もしくは「伝統的ファイナンス理論」) に対して何らかの修正を試みる研究分野である。伝統的ファイナンス理論は、1950年代から構築されてきたが、投資家をはじめとする証券市場の意思決定主体は市場に存在するすべての情報を証券価格に的確に反映できるという点で合理的な行動を示すことを前提にしている。ところが、実際の証券市場ではこれらの従来の理論体系では説明できない現象が数多く見られ、アノマリーと呼ばれている。行動ファイナンスは、投資家の情報分析能力の限界や感情的な要因がアノマリーの背景にあるのではないかという考え方のもとで構築されている。その際、心理学の一分野である意思決定理論における研究成果が応用される。本講座では、行動ファイナンスの基礎的な概念と応用例の習得を主な目的とする。</p> <p>本講座では、まず人間の思考プロセスの特徴を説明したうえで、伝統的ファイナンス理論が想定しているような合理的な意思決定を妨げている「意思決定上の歪みの源泉」について整理する。この種の研究は心理学の一分野である意思決定理論の範疇に属するが、その応用分野は非常に広く、その中でファイナンス関連のトピックへの応用研究が行動ファイナンスであることを説明する。そのうえで、具体的に、簡便的意思決定法、プロスペクト理論、心理的勘定の設定という行動ファイナンスの基礎理論について説明する。</p> <p>後半では、伝統的ファイナンス理論の基礎となっている期待効用理論や効率的市場仮説について説明した後で、伝統的ファイナンス理論では説明困難なアノマリーの例を紹介する。次に、証券投資や企業金融などの具体的な局面における行動ファイナンスの応用例を示し、最後に、行動ファイナンスの課題と展望について説明する。</p> <p>前半の講義の終了後に、意思決定上の歪みの実例と意思決定プロセスの改善策に関するグループワークを実施する。</p>							
<p>〔到達目標〕</p> <p>D P 1 (専門分野の知識・技能) を実現するため、以下を到達目標とする。</p> <p>本講座では、資産決定の意思決定に関する標準的な理論体系 (伝統的ファイナンス理論) の概要と問題点を認識したうえで、これらの理論の修正を図ろうと試みる行動ファイナンスの基礎概念について理解することを第1の目標とする。また、行動ファイナンスの概念を用いて、意思決定の歪みが生じやすい事例を理解し、意思決定プロセスの改善等の面で、これらの概念の応用力を身につけることも第2の目標とする。さらに、行動ファイナンスに関連する著書や論文を読むこと</p>							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修 (予習・復習等)		準備学修の目安 (分)	
第1回	イントロダクション ・講義の進め方や行動ファイナンスの全体像について説明する。			【予習】【復習】講義用資料 (パワーポイント版のレジュメとワード版のノート、どちらも PDF 化している) をコースパワーに掲載するので、読んでおくこと。		60	
第2回	人間の思考プロセスの特徴 ・直感的な思考プロセス (システム1) とじっくりと熟慮する思考プロセス (システム2) の違い ・様々な錯覚の事例			【予習】【復習】講義用レジュメとノート①「人間の意思決定プロセスの特徴」を読んでおくこと。		60	
第3回	限定合理性 ・記憶の不正確性 ・情報の選別的認識 ・判断の不正確性			【予習】【復習】講義用レジュメとノート②「意思決定上の歪みの源泉」の該当箇所を読んでおくこと。		60	
第4回	意思決定上の歪みの源泉 ・感情的要因 (自信過剰、後悔の回避) ・社会的要因 (ムード、群れの行動、認知不協和の回避)			【予習】【復習】講義用レジュメとノート②「意思決定上の歪みの源泉」の該当箇所を読んでおくこと。		60	
第5回	簡便的意思決定法 (ヒューリスティクス) の採用と歪み ・アンカリング ・代表性の簡便法 ・利用可能性の簡便法			【予習】【復習】講義用レジュメとノート③「行動ファイナンスの基礎理論」の該当箇所を読んでおくこと。		60	
第6回	プロスペクト理論 ・評価関数の推計 ・ウェイト付け関数の推計			【予習】【復習】講義用レジュメとノート③「行動ファイナンスの基礎理論」の該当箇所を読んでおくこと。		60	
第7回	心理的勘定の設定 ・損益の分離と統合 ・参照価格の設定 ・心理的勘定の設定 ・マーケティング戦略への応用			【予習】【復習】講義用レジュメとノート③「行動ファイナンスの基礎理論」の該当箇所を読んでおくこと。		60	
第8回	グループワーク ・意思決定上の歪みの源泉の整理 ・意思決定上の歪みの実例の共有 ・改善策の検討			【予習】【復習】事前準備を踏まえて、グループワークを行い、課題の取りまとめを行うこと。		120	
第9回	ファイナンス理論の基礎 ・期待効用理論 ・ファイナンス理論の前提条件と概要			【予習】【復習】講義用レジュメとノート④「伝統的ファイナンス理論と行動ファイナンス」を読んでおくこと。		60	
第10回	証券市場のアノマリー ・アノマリーとは何か ・アノマリーの類型			【予習】【復習】講義用レジュメとノート⑤「証券市場のアノマリー」を読んでおくこと。		60	
第11回	行動ファイナンスの投資家行動への示唆① ・自社株投資と利用可能性 ・ホームバイアス ・年金加入者の意思決定上の歪みと制度的対応の可能性			【予習】【復習】講義用レジュメとノート⑥「行動ファイナンスの意思決定プロセスへの示唆」の該当箇所を読んでおくこと。		60	
第12回	行動ファイナンスの投資家行動への示唆② ・インターネット取引と投資行動 ・分散投資を巡る意思決定上の歪み (1/n ルールの採用)			【予習】【復習】講義用レジュメとノート⑥「行動ファイナンスの意思決定プロセスへの示唆」の該当箇所を読んでおくこと。		60	

	・売買タイミングに関する示唆		
第13回	行動ファイナンスと企業金融 ・新規株式公開（IPO）と価格形成 ・企業買収と企業経営者の自信過剰 ・配当政策と行動ファイナンス	【予習】【復習】講義用レジュメとノート⑥「行動ファイナンスの意思決定プロセスへの示唆」の該当箇所を読んでおくこと。	60
第14回	行動ファイナンスの課題と展望 ・価値ベースの選択モデルの限界と論理的思考 ・人間の意思決定過程の特徴 ・選択肢の提示方法と意思決定	【予習】【復習】講義用レジュメとノート⑦「行動ファイナンスの課題と展望」の該当箇所を読んでおくこと。 【復習】講義全体の復習と課題の提出、期末試験の準備を行うこと。	120
〔授業の方法〕 毎回配布する講義用資料（レジュメ）に基づいて、講義形式で進める。適宜、講義用ノートや関連する論文等を配布する。			
〔成績評価の方法〕 期末試験 50%、2つの課題 50%（25%ずつ）の配分で評価を行う。 課題①：意思決定上の歪みの源泉について自分なりの言葉でまとめたうえで、これまでの自分や仲間の意思決定上の歪みに関する実例をまとめて、意思決定プロセスに対する改善策を示すこと 課題②：行動ファイナンスに関する文献（論文や著書）を1点選んで、その内容を要約するとともに、関心を持った点をまとめること			
〔成績評価の基準〕 成蹊大学の成績評価基準（学則第 38 条、第 39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 38 and No. 39. 主に、以下の点に関する到達度に応じて評価する。 ・人間の意思決定プロセスの特徴や意思決定上の歪みの源泉を理解できているか ・行動ファイナンスの基礎概念を理解し、これを応用する能力を身につけているか ・ファイナンス理論の概要と行動ファイナンスの応用例を理解しているか			
〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕 特になし			
〔テキスト〕 特になし			
〔参考書〕 『ファスト&スロー（上）、（下）』ダニエル・カーネマン、早川書房、2012年（購入の必要なし） 『行動経済学の逆襲』リチャード・セイラー、早川書房、2016年（購入の必要なし）			
〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕 ポータルサイトで周知する。			
〔特記事項〕			

科目名	経営学特殊講義B (企業の社会的責任)						
教員名	多田 博之						
科目No.	122576020	単位数	2	配当年次	2年生	開講時期	2025 後期
<p>〔テーマ・概要〕</p> <p>授業はすべて対面で実施する。授業計画や準備学習等、変更の詳細は対面授業内の指示で確認すること。</p> <p>CSR (企業の社会的責任) とは、単なるコンプライアンスやボランティア活動ではなく、企業が多様なステークホルダーと連携しつつ、本業を通して、社会的課題の解決に挑み、持続可能な社会の構築に寄与することを意味する。</p> <p>講義は、単なる CSR の解説に留まらず、CSR と表裏一体の関係にある、持続可能な社会とはどんな社会なのか、バックキャスティング思考とはどのような考え方なのか、また近年世界各国で取り組みが加速している国連の SDGs(Sustainable Development Goals)やグローバルコンパクトとの関連性など、CSR を基軸としたサステナビリティの基盤の習得を計画している。</p> <p>CSR は新しい学際的な学問領域であるため、時々刻々、常に概念が進化している。そのため、机上での一方的な知識のインプットというよりも、履修者とともに、良い企業、あるべき企業の理想像とは何なのかを考え、模索し、追求してゆきたい。</p>							
<p>〔到達目標〕</p> <p>DP1 (専門分野の知識・技能) を実現するため、以下を到達目標とする。</p> <p>変化の激しいグローバル時代における企業のあり方について、履修者一人ひとりが、自分なりの基軸、尺度で、評価できる「モノサシ」を獲得できることを、到達目標のゴールとする。</p> <p>そのためには、CSR 単体に留まらず、「サステナビリティ」の基礎となる知識や、キーワードへの正しい理解を、毎回の講義で身に付けることをゴール達成のためのベーシックな到達目標に置く。</p> <p>具体的には、「持続可能な社会」、「バックキャスティング思考」、「国連 SDG</p>							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修 (予習・復習等)		準備学修の目安 (分)	
第1回	イントロダクション 授業の内容、進め方を説明 そもそも CSR とは何なのか。良い企業とは何かを考える。			CSR が、企業の社会貢献活動やボランティア活動ではないことをまず、基本認識する。		60	
第2回	持続可能な社会とは何か (1) 持続可能な社会が何かを掘り下げて考察する。			CSR と持続可能な社会の構築とが、表裏一体の関係にあることを、基本認識する。		60	
第3回	持続可能な社会とは何か (2) 世界や日本の様々な持続可能な社会像から学ぶ。			世界では持続可能な社会像が必ずしも一つではなく、多様な定義が存在することを理解する。		60	
第4回	フォアキャスト思考とバックキャスティング思考について 重要概念である後者について、基本的な考え方を学ぶ。			あるべき未来像をまず定め、そこから現在に立ち返って戦略を思考するバックキャスティング概念を正しく理解する。		60	
第5回	持続可能な社会の描出 第2回から第4回で学んだ知識を活用して、自分が考える持続可能な社会像を描いてみる (演習)。			今までの知識を活用して、各人が自ら考える持続可能な社会像を、実際に描いてみて、理解度の確認を図る。		60	
第6回	CSR の歴史と定義の変遷について CSR 概念が世界でどのように形成されてきたか、また今後どのような方向に向かうかを考察する。			欧米、アジア、日本など諸地域で形成されてきた CSR の概念や定義が異なることを理解する。		60	
第7回	国際規格 ISO26000 における CSR ISO において CSR がどのように定義されているのかを学ぶ。品質や環境 ISO との違いも概説する。			ISO26000 の全体像 (主要 7 領域と実践課題) について、基本的な理解をする。		60	
第8回	CSR コミュニケーションの重要性 CSR においては様々なステークホルダーが存在し、双方向の対話が重要であることを学ぶ。			単なる一方的な情報開示に留まらず、様々な媒体を使って、多様なステークホルダーと対話することの意義を理解する。		60	
第9回	CSR と SDGs, Global Compact 国連の定めた目標と CSR とがどのように関わり合い、企業に何が求められているかを学ぶ。			国連の定めた持続可能な開発目標が、CSR と密接に関連することを理解する。		60	
第10回	CSR の先進事例 (各企業の具体例) 国内外を問わず、CSR で先進的な取り組みを行っている企業事例を紹介し、そこから学ぶ。			企業によって、一口に CSR といっても、多様な取り組みが行われていることについて理解する。		60	
第11回	CSR 報告書を読んでも 履修者に各 1 冊ずつ CSR 報告書を読み、感想を記す宿題を事前に課し、その課題発表を行う。			机上の理論に留まらず、実際に企業の CSR 報告書を読むことで、CSR の訴求ポイントを理解する。		120	
第12回	ESG 投資について 海外のみならず日本においてもここ数年で台頭してきた新しい投資のあり方と CSR との関係性を学ぶ。			売り上げや利益など、既存の財務情報だけでは、真の企業価値を測ることはできないことを理解する。		60	
第13回	これからの CSR と企業風土について 今後グローバルに CSR はどのように進化していくのか、企業の長期ビジョンと共に考察する。			一つの潮流として、企業が長期的な企業価値を考え始めていることを、実際の具体例から理解する。		60	
第14回	到達度確認テストは行わない。 これまでの学習内容に関して、履修者の理解度を総合的に振り返る。			振り返りに備え、今まで学んだことを総整理すると共に、自分自身が CSR をどう考えているかも再認識する。		120	
<p>〔授業の方法〕</p> <p>基本的に対面形式であり、履修者との双方向のコミュニケーションを重視し、質問やコメントなど、積極的な参画を求める。講義が中心ではあるが、随時演習なども交える。</p> <p>毎回、講義の終わりに、その回で学んだことに関するミニレポートを課す。</p> <p>毎回、基本的には講師が作成した講義レジュメを表示する。</p>							

各自でバックキャスト思考を用いた演習を1回行う、これを重視する。
 テキストは特に用いないが、新聞記事等を随時参考資料として配布することがある。
 授業の計画・内容は、履修者数、履修者の理解度等により、柔軟に変更することがある。

〔成績評価の方法〕

講師の、企業やNGO、研究所などでの多様な経験を交えて話し、毎回ミニレポートの提出を求めるため、出席は重視する。
 規定数の出席とミニレポート、演習、最終課題レポートを基本的な合格条件とする。公欠届は認める。
 ミニレポート（60%）+演習（30%）、最終課題レポート（10%）=100点満点。

〔成績評価の基準〕

成蹊大学の成績評価基準（学則第38条、39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.
 上記、到達目標の達成度に基づいて評価する。

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕

「環境経営」や「企業統治論」など関連講義、演習を受講していると、CSR の概念や経緯、将来像などについて、理解がしやすいと思われるが、特に予備知識は求めない。

〔テキスト〕

特に定めない。
 講師が毎回、テーマに沿ったレジュメを表示する。

〔参考書〕

川村雅彦著「CSR 経営 パーフェクトガイド」ウイズワークス社刊を推薦する。但し、「購入の必要なし」。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕

授業終了後に教室で受け付けます。
 教員の電子メールアドレスは講義時に受講学生に伝える。

〔特記事項〕

科目名	経営学特殊講義B (実践人事管理)						
教員名	向井 三貴						
科目No.	122576030	単位数	2	配当年次	2年生	開講時期	2025 後期
<p>〔テーマ・概要〕</p> <p>この授業では、企業の競争力の源泉である人材を生かすために、どのような施策や制度が運用されているのかについて学びます。その中で、企業の人事管理制度の構築に携わってきた経験から、ビジネス現場の実際についても講義を行います。また、将来の自分のキャリア開発の方向性を見極めるための実習を行います。さらに、グループでのケーススタディ演習やフィールドワーク（現場調査）を行い、チームワークやグループコミュニケーションの実際を学びます。</p> <p>経営コンサルタントとして、20年以上企業の人事制度構築・組織活性化等のコンサルティングに携わった実務経験に基づき、実践的な講義や演習等を行います。また、企業の管理職研修、専門スキル研修（問題解決、プレゼンテーション等）の実務経験に基づいて、グループワークやプレゼンのアドバイスをを行います。</p>							
<p>〔到達目標〕</p> <p>DP1（専門分野の知識・技能）を実現するため、以下を到達目標とする。</p> <p>①企業の人事管理システムを説明できる。 ②フィールドワークを通して、働く人の行動様式を分析できる。 ③プレゼンテーションスキルを身につける。 ④グループディスカッションスキルを身につける。 ⑤グループディスカッションのファシリテータができる。 ⑥グループワークに積極的に参加する。</p>							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修の目安（分）	
第1回	ガイダンス ・授業の全体像、進め方、予習・復習、課題の仕方を説明する。 企業の個人問題ディスカッション ・企業内の社員の不祥事についてディスカッションを行う。			(復習) ・社員が企業内で起こす不祥事と懲戒措置について理解しておく。		60	
第2回	日本の人事管理の変化 ・従来の人事管理方法がどのように変化しているかを学修する。 プレゼンテーション資料作成方法 ・ビジュアル化したプレゼン資料の作り方を学修する。			(復習) ・人事管理制度の変遷を理解しておく。 ・見せるプレゼン資料を作成するポイントやルールを理解しておく。		60	
第3回	等級制度 ・現在企業で採用されている職能・職務・役割等級制度の違いを学修する。 プレゼンテーション課題説明 プレゼンテーション技術 ・効果的で説得力のあるプレゼンテーションのポイントを学修する。			(復習) ・それぞれの等級制度の特性を理解しておく。 ・プレゼンテーションの基本ルールを理解し、実践できるようにする。		60	
第4回	昇進と昇格 ・昇進と昇格の違いや条件について学修する。 プレゼンテーション（学生の課題）1/3			(予習) ・プレゼン予定者は、資料作成及び発表練習を十分行う。 (復習) ・昇進と昇格の条件と違いを理解しておく。		60	
第5回	人事評価制度 ・仕事の成果がどのような要素で評価されるかを学修する。 プレゼンテーション（学生の課題）2/3			(予習) ・プレゼン予定者は、資料作成及び発表練習を十分行う。 (復習) ・人事評価の評価要素を理解しておく。		60	
第6回	報酬制度 ・企業の賃金制度の仕組みを学修する。 グループディスカッションの仕方 ・プレゼンストーリーミングのルール・方法、ディスカッション時の発言の仕方を学修する。 プレゼンテーション（学生の課題）3/3			(予習) ・プレゼン予定者は、資料作成及び発表練習を十分行う。 (復習) ・賃金の構成要素を理解しておく。 ・グループディスカッションが円滑に進むような発言の仕方を実践できるようにする。		60	
第7回	コンピテンシーの概要と活用方法 社員の知識、スキル、行動様式であるコンピテンシーとその活用方法について学修する。 フィールドワークグループワーク1/3 グループディスカッションルール作成 ・各グループのディスカッション運用ルールを作る。 フィールドワーク（コンピテンシー調査・分析）課題説明			(復習) ・フィールドワークに備えてコンピテンシーの具体的な行動を分析できるようにする。		60	
第8回	労働時間制度とワークスタイル ・労働時間制度の種類と特性、またICTを活用したテレワークを学修する。 フィールドワークグループワーク2/3 ・対象店舗選定、調査項目を決める。			(復習) ・労働時間の種類と特性、テレワークについて理解しておく。 (予習) ・各グループで対象店舗の調査を行う。		60	
第9回	人材育成制度 ・企業の人材育成の考え方と教育研修の種類と特性を学修する。 ・DX人材の必要性やリスクニングについて学修する。 フィールドワークグループワーク3/3 ・フィールドワークの調査結果をまとめる。 ・グループプレゼンテーションのための資料作成と発表練習を行う。			(復習) ・企業の人材育成の考え方、リスクニングと教育研修制度を理解しておく。		60	
第10回	福利厚生、ワークライフバランス、キャリア開発 ・企業の福利厚生の概要、ワークライフバランスの施策等について学修する。また、CDP（キャリア開発計画）につい			(復習) ・福利厚生制度とワークライフバランスについて理解しておく。		90	

	て説明する。 フィールドワークプレゼンテーション	(予習) ・グループで個々のプレゼンテーションレベルを合わせるように十分練習を行う。	
第11回	到達度確認テスト ・これまでの学修内容について、理解度を確認するためのテストを行なう。 ケーススタディ（事例研究）演習 ・企業の現場で起きた問題の事例を検討して解決策を考える。	(予習) ・到達度確認テストに備えて、これまでの学修内容を確認する。	90
第12回	フィールドワークのフィードバック ケーススタディ グループディスカッション 個人最終プレゼン課題説明	(復習) 各グループの良かった点、改善点を確認し、グループワークのレベル向上に役立てる。 (予習) ・ケーススタディの解答を考えてくる。	60
第13回	ケーススタディ発表 最終課題プレゼン 1/2	(予習) ・プレゼン予定者は、資料作成及び発表練習を十分行う。	60
第14回	最終課題プレゼン 2/2 授業のまとめ	(予習) ・プレゼン予定者は、資料作成及び発表練習を十分行う。	60
<p>〔授業の方法〕 授業は講義、グループワーク、演習、プレゼンテーションなど学生参画型で進めます。全体として、講義を聞くだけの授業はありませんので、積極的に授業に参画することが必要です。また、プレゼンテーションの準備はもちろん、他の学生のプレゼン評価を行うなど双方向の授業を達成するために意欲的に取り組むことが重要です。</p>			
<p>〔成績評価の方法〕 到達度確認テスト (40%) 課題 (20%) グループワーク (10%) フィールドワーク (20%) 授業中の発言・質問、予習・復習・プレゼンや課題の積極的な取り組みを総合評価 (10%)</p>			
<p>〔成績評価の基準〕 成蹊大学の成績評価基準（学則第38条、39条）に準拠します。 以下の点に着目して、その達成度により評価します。 ①企業の人事コア制度（等級、評価、報酬）の関係や内容を説明できる。 ②人材育成、教育研修制度を理解している。 ③労働時間、ワークスタイルについて説明できる。 ④自己のキャリア開発の分析ができる。 ⑤グループワークに積極的に参加している。 ⑥基本ルールを守ったプレゼンテーションができる。</p>			
<p>〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕 予備知識は、必要ありません。</p>			
<p>〔テキスト〕 オリジナルテキスト</p>			
<p>〔参考書〕 適宜紹介</p>			
<p>〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕 授業終了後に教室で受け付けます。また、随時 e メールで受け付けます。</p>			
<p>〔特記事項〕 アクティブ・ラーニング 基本的には、学生さんが参画する双方向の授業形態です。講義と学生さんの成果を発表する形で運営していきます。具体的には、グループワークを通して、ディスカッションの仕方やルールを学びチームワーク力を養います。また、個々のプレゼンテーションを学生さん同士、教員からフィードバックを行い、社会でも活用できるスキルとなるように支援します。</p>			

科目名	経営学特殊講義B（企業と市場）						
教員名	鷹岡 澄子						
科目No.	122576070	単位数	2	配当年次	2年生	開講時期	2025 後期
<p>〔テーマ・概要〕</p> <p>本科目では、企業の戦略的行動と市場競争のメカニズムについて学ぶ。 具体的には、企業が活動を行う産業の市場構造の差が企業の行動にどのような違いを生じるのか見ていく。競争的な市場で活動している企業と独占的な市場で活動している企業の行動にはどのような違いがあるのか。市場構造が企業の行動を決めるのであろうか。市場が競争的かどうかというのは、どうやったら分かるのだろうか（例えば、市場とは国内市場のことか、国際市場のことなのか？ 等）。企業が海外でも活動を行う現在では、産業や市場をどの範囲でとらえたらいいか考える。 なお、授業の進捗によって、以下の授業の計画や内容を一部変更する場合がある。</p>							
<p>〔到達目標〕</p> <p>本科目では、DP1（専門分野の知識・技能）を実現するため、履修学生が次のような水準に到達することを目標とする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・寡占市場の基礎的な理論と応用力を身につける。 ・学習した基礎的な枠組みを具体例に応用することができる。 ・現実の市場や企業行動を分析することができる。 							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修の目安（分）	
第1回	ガイダンス 基本概念について 企業の行動や市場構造を決定する要因 完全競争市場、余剰と経済厚生			【予習】 シラバスを読み、あらかじめ講義内容を把握する。 【復習】 授業の内容を確認する。		60	
第2回	基本概念について（つづき）			【予習】 授業ノートを読んでおく。 【復習】 授業の内容を確認する。		60	
第3回	基本概念について（つづき）			【予習】 授業ノートを読んでおく。 【復習】 授業の内容を確認する。		60	
第4回	基礎的分析方法の練習			【予習】 授業ノートを読んでおく。 【復習】 授業の内容を確認する。		60	
第5回	独占企業について 独占の生じる環境 独占企業の行動 独占の経済的結果 独占企業のさまざまな価格設定 価格差別の厚生分析 反独占政策			【予習】 授業ノートを読んでおく。 【復習】 授業の内容を確認する。		60	
第6回	独占企業について（つづき）			【予習】 授業ノートを読んでおく。 【復習】 授業の内容を確認する。		60	
第7回	独占企業について（つづき）			【予習】 授業ノートを読んでおく。 【復習】 授業の内容を確認する。		60	
第8回	垂直的取引制限 垂直的関係と垂直的制限 二重限界性 日本における垂直的制限			【予習】 授業ノートを読んでおく。 【復習】 授業の内容を確認する。		60	
第9回	垂直的取引制限（つづき）			【予習】 授業ノートを読んでおく。 【復習】 授業の内容を確認する。		60	
第10回	垂直的取引制限（つづき）			【予習】 授業ノートを読んでおく。 【復習】 授業の内容を確認する。		60	
第11回	寡占市場の数量競争と価格競争 寡占市場の特徴 寡占企業の数量競争：クールノー・モデル 2段階の数量競争：シュタッケルベルグ・モデル 価格競争			【予習】 授業ノートを読んでおく。 【復習】 授業の内容を確認する。		60	
第12回	寡占市場の数量競争と価格競争（つづき）			【予習】 授業ノートを読んでおく。 【復習】 授業の内容を確認する。		60	
第13回	寡占市場の数量競争と価格競争（つづき）			【予習】 授業ノートを読んでおく。 【復習】 授業の内容を確認する。		60	
第14回	まとめ プレテスト			【予習】 今までのクイズ・プレテスト・授業ノートを理解する。 【復習】 できなかったところをクイズ・プレテスト・授		120	

		業ノートで確認する。	
<p>〔授業の方法〕 授業は講義を中心に進める。履修学生の理解度・到達度を確保するために、授業中にクイズを行う。クイズを正解し答え合わせを行った学生は成績に加点される。(初回ガイダンスで説明) 授業ノートなど必要な資料は担当教員が作成し、配布する。</p>			
<p>〔成績評価の方法〕 授業内クイズ 30%、学期末試験 70%を基本としつつ、授業への積極的参加をプラスに評価する。</p>			
<p>〔成績評価の基準〕 成蹊大学の成績評価基準(学則第 38 条、39 条)に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.38, 39. 上記、到達目標の達成度に基づいて評価する。</p>			
<p>〔必要な予備知識/先修科目/関連科目〕 ミクロ経済学の基礎</p>			
<p>〔テキスト〕 授業ノートはファイルで配布します。</p>			
<p>〔参考書〕 『産業組織の経済学』、長岡貞夫・平尾由紀子、日本評論社、2800 円、4-535-55110-3 Industrial Organization, Oz Shy, The MIT Press、0-262-69179-5</p>			
<p>〔質問・相談方法等(オフィス・アワー)〕 ポータルサイトで周知する。</p>			
<p>〔特記事項〕</p>			

科目名	経営学特殊講義B（働く人々への心理学的支援の理論と実践）						
教員名	向江 亮						
科目No.	122576090	単位数	2	配当年次	2年生	開講時期	2025 後期
<p>〔テーマ・概要〕</p> <p>本科目では、企業をはじめとした組織で働く人々の様々な心理学的な現象や問題について、その理論や支援方法について解説する。基礎的な用語や理論、技法等の解説のみならず、現実場面において、働く人々で直面しうる様々な心理学的な現象や問題がどのような形で生じ、また、支援が行われているのかについて、企業勤務及び心理学的支援の実務経験を踏まえて講義を行う。</p> <p>授業で扱う具体的な内容は、「授業の計画・内容」に記載の通りである。</p>							
<p>〔到達目標〕</p> <p>DP1【専門分野の知識・技能】の修得を実現するため、以下を到達目標とする。</p> <p>①企業をはじめとした組織で働く人々の心理や行動に関する知識や理論についてを修得する。</p> <p>②現実場面において、働く人々が直面する様々な問題やその支援方法について、心理学的枠組みから考え、説明できる。</p>							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修の目安（分）	
第1回	ガイダンス ・授業内容と進め方、予習・復習の仕方を説明する イントロダクション ・組織・職場における様々な対人関係について全体像を理解する			【予習】シラバスを読み、あらかじめ授業内容をイメージしておく。 【復習】授業内容を見直し、理解できていない部分がないか確認する。不明点がある場合、次回授業時に質問できるように整理しておく。		60	
第2回	個人のキャリア発達 ・就職以前・就職以降のキャリア発達について理解する ・キャリア発達に影響する対人関係について理解する			【復習】授業内容を見直し、理解できていない部分がないか確認する。不明点がある場合、次回授業時に質問できるように整理しておく。		90	
第3回	キャリア発達に対する支援 ・キャリア発達における心理学的問題を理解する ・キャリア発達への支援方法について理解する			【予習】これまでにどのようなキャリア教育を受けたことがあるか、それが自身にとってどのような意味があったかについて考えてくる。 【復習】授業内容を見直し、理解できていない部分がないか確認する。不明点がある場合、次回授業時に質問できるように整理しておく。		90	
第4回	ワーク・モチベーション及びその向上の支援1 ・モチベーション研究の展開について理解する ・モチベーションに関する内容理論的アプローチについて理解する			【予習】自分にとってのやる気の源泉について考えてくる。 【復習】授業内容を見直し、理解できていない部分がないか確認する。不明点がある場合、次回授業時に質問できるように整理しておく。		90	
第5回	ワーク・モチベーション及びその向上の支援2 ・モチベーションに関する過程理論的アプローチについて理解する ・モチベーションの類似概念について理解する			【復習】授業内容を見直し、理解できていない部分がないか確認する。不明点がある場合、次回授業時に質問できるように整理しておく。		90	
第6回	働きがいとウェルビーイング ・働く人々のニーズや働くことに対する意識について理解する ・働くこととウェルビーイングの関係について理解する			【予習】自分にとっての働きがいの源泉について考えてくる。 【復習】授業内容を見直し、理解できていない部分がないか確認する。不明点がある場合、次回授業時に質問できるように整理しておく。		90	
第7回	リーダーシップと組織 ・リーダーシップの様々な理論について理解する ・組織文化・組織風土について理解する			【予習】自分にとって理想のリーダー像について考えてくる。 【復習】授業内容を見直し、理解できていない部分がないか確認する。不明点がある場合、次回授業時に質問できるように整理しておく。		90	
第8回	フィードバック ・適切なフィードバックの方法について理解する ・具体的なフィードバックの進め方について理解する			【予習】有用なフィードバックとはどのようなものかについて考えてくる。 【復習】授業内容を見直し、理解できていない部分がないか確認する。不明点がある場合、次回授業時に質問できるように整理しておく。		90	
第9回	職場のストレス ・職場のストレスモデルについて理解する ・ストレスと対人関係の関わりについて理解する			【予習】自分が職場で働いている場面をイメージし、どのようなストレスがありそうか考えてくる。 【復習】授業内容を見直し、理解できていない部分がないか確認する。不明点がある場合、次回授業時に質問できるように整理しておく。		90	
第10回	ストレスマネジメント ・ストレスコーピングについて理解する			【予習】自分が普段行っているストレス解消法について考えてくる。 【復習】授業内容を見直し、理解できていない部分がないか確認する。不明点がある場合、次回授業時に質問できるように整理しておく。		90	
第11回	ソーシャルサポート ・ソーシャルサポートとは何か理解する ・ソーシャルサポートの有効性について理解する			【復習】授業内容を見直し、理解できていない部分がないか確認する。不明点がある場合、次回授業時に質問できるように整理しておく。		90	
第12回	職場における心理学的問題 ・職場における心理学的問題について理解する			【復習】授業内容を見直し、理解できていない部分がないか確認する。不明点がある場合、次回授業時に質問できるように整理しておく。		90	

第13回	心理学的問題に対する支援 ・働く人の支援方法について理解する	【復習】授業内容を見直し、理解できていない部分がないか確認する。不明点がある場合、次回授業時に質問できるように整理しておく。	90
第14回	対人関係の円滑化に向けた支援技法 ・アサーショントレーニングについて理解する ・アンガーマネジメントについて理解する	【復習】授業内容を見直し、理解できていない部分がないか確認する。	90
<p>〔授業の方法〕 講義形式で実施し、PowerPoint スライドを使用しながらすすめる。また、必要に応じて適宜資料等を配布する。 数回の小テストまたはレポート提出を実施する。</p>			
<p>〔成績評価の方法〕 学期末試験の成績(60%)及び授業への参加状況・小レポートなどの課題提出状況による平常点(40%)を合わせて評価する。</p>			
<p>〔成績評価の基準〕 成蹊大学の成績評価基準(学則第38条、39条)に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.38 and No.39. ①専門用語に関する基礎的な知識及び理論を修得しているか ②働く人々の心理学的な現象や問題とそのメカニズムを理解し、心理学的視点から説明できるか</p>			
<p>〔必要な予備知識/先修科目/関連科目〕 特に予備知識は必要ないが、心理学に関連する科目を受講していることが望ましい。</p>			
<p>〔テキスト〕 特になし</p>			
<p>〔参考書〕 特になし</p>			
<p>〔質問・相談方法等(オフィス・アワー)〕 ポータルサイトの『オフィスアワー』で周知します。また、授業終了後に教室で受け付けます。</p>			
<p>〔特記事項〕</p>			

科目名	経営学特殊講義B (ICT産業概論)						
教員名	上田 祥二						
科目No.	122576110	単位数	2	配当年次	2年生	開講時期	2025 後期
<p>〔テーマ・概要〕</p> <p>ICT産業は成長産業であり、GAF Aをはじめとしたハイテク産業が世界経済を牽引している。日本においても成長産業であるため、求人数も多く、就職や転職において人気のある業界である。ICT産業の業界はSNSやパソコンのOS、ブラウザで利用するアプリケーションなど身近なソフトウェア企業から、システムの受託開発を行うITサービス業など幅広い。</p> <p>授業では、「情報システムとはなにか」といったような基礎的な内容から、システム開発をするための作業イメージ、ICT産業の構造や歴史、日本のICT産業の課題など、ICT産業で活躍するために必要となる知識を幅広く得られることを目的としている。</p>							
<p>〔到達目標〕</p> <p>漠然としているICT産業に関する知識を具体化し、体系立てて理解でき、各自のICT産業に対する問題意識を具体化できることを到達目標とする。ディプロマ・ポリシーと到達目標の関係性は次のとおりである。</p> <p>DP1【専門分野の知識・技能】を実現するために、以下を到達目標とする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ICT産業の様々な業種を把握でき、業種ごとの仕事内容やビジネスモデルなどを理解できる。 <p>DP2【教養の習得】</p> <ul style="list-style-type: none"> 情報システムの具体的な例や、情報システムを構成する要素、開発するための作業などについて理解できる。 							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修(予習・復習等)		準備学修の目安(分)	
第1回	イントロダクション シラバスの内容を中心に、授業の概要や評価基準について説明する。また、ICT産業の主役である「情報システム」の具体的な例について説明する。			【予習】 事前にシラバスに目を通しておく。		60	
第2回	情報システムとその特徴 情報システムの形態やその構成要素、構成要素毎の内容について説明する。また、クラウドやAIなど情報システムに関するキーワードについて説明する。			【予習】 前回授業の際に、調べておくべきキーワードについて提示する。 【復習】 前回授業の資料を確認する。		60	
第3回	ICT産業とそのビジネスモデルの特徴(その1) ICT産業の中で、Eコマース業、ネットサービス・アプリ業の特徴、ビジネスモデルなどについて説明する。			【予習】 前回授業の際に、調べておくべきキーワードについて提示する。 【復習】 前回授業の資料を確認する。		60	
第4回	ICT産業とそのビジネスモデルの特徴(その2) ICT産業の中で、クラウド業、ITサービス業の特徴、ビジネスモデルなどについて説明する。			【予習】 前回授業の際に、調べておくべきキーワードについて提示する。 【復習】 前回授業の資料を確認する。		60	
第5回	ICT産業とそのビジネスモデルの特徴(その3) ICT産業の中で、ソフトウェア業、コンサルティング業の特徴、ビジネスモデルなどについて説明する。			【予習】 前回授業の際に、調べておくべきキーワードについて提示する。 【復習】 前回授業の資料を確認する。		60	
第6回	システム調達・開発の特徴(その1) 情報システムを企業に導入する際の流れと、その中でも特に調達するシステムの具体的な内容を検討する要件定義について説明する。			【予習】 前回授業の際に、調べておくべきキーワードについて提示する。 【復習】 前回授業の資料を確認する。		60	
第7回	システム調達・開発の特徴(その2) 情報システム調達・開発の中で、主にITサービス業が実施するシステム開発の工程とその概要について説明する。また、情報システム調達におけるITサービス業、ソフトウェア業、コンサルティング業の役割について説明する。			【予習】 前回授業の際に、調べておくべきキーワードについて提示する。 【復習】 前回授業の資料を確認する。		60	
第8回	ITサービス業の特徴とキャリア 日本におけるITサービス業の特徴、その業務として営業やシステムエンジニアの業務イメージやキャリアについて説明する。			【予習】 前回授業の際に、調べておくべきキーワードについて提示する。 【復習】 前回授業の資料を確認する。		60	
第9回	情報通信技術の発展 コンピュータの登場やネットワーク技術の発展、インターネットの登場など、情報通信技術の発展の歴史と主要な出来事について説明する。			【予習】 前回授業の際に、調べておくべきキーワードについて提示する。 【復習】 前回授業の資料を確認する。		60	
第10回	情報通信産業の発展と特徴 情報通信技術の発展の中で、情報通信に関する産業構造の変化や新たに登場してきた業種などに説明する。			【予習】 前回授業の際に、調べておくべきキーワードについて提示する。 【復習】 前回授業の資料を確認する。		60	
第11回	日系企業と外資系企業の特徴 ICT産業の中で日本企業と外資系企業の特徴や差異などについて説明する。			【予習】 前回授業の際に、調べておくべきキーワードについて提示する。 【復習】 前回授業の資料を確認する。		60	

第12回	DXとその特徴 デジタルトランスフォーメーションが登場してきた背景やその定義、主要な論点として、デジタルトランスフォーメーションの中で重要となる顧客中心とした考え方を具体化するデザイン思考やカスタマージャーニーについてなどについて説明する。	【予習】 前回授業の際に、調べておくべきキーワードについて提示する。 【復習】 前回授業の資料を確認する。	60
第13回	企業の情報システム部門 情報システム部門の特徴、企業の各部門に対する情報システム部門が求められる役割について説明する。	【予習】 前回授業の際に、調べておくべきキーワードについて提示する。 【復習】 前回授業の資料を確認する。	60
第14回	まとめ これまでの内容を振り返り、日本のICT産業の課題について論じ、日本のICT産業の発展に向けた論点を取り上げる。	【予習】 前回授業の際に、調べておくべきキーワードについて提示する。 【復習】 前回授業の資料を確認する。	60
<p>〔授業の方法〕 スライドを利用した講義形式とする。 前回の講義の振り返りをして、講義を行い、次回の授業の概要について説明、質疑対応などを行う。時折、授業内の課題レポートなどを実施する。</p>			
<p>〔成績評価の方法〕 平常点（授業への参加状況や受講状況等）30%、授業内で提出する課題成果（2回を想定）20%、学期末試験：50%を目安に、総合的に評価する。</p>			
<p>〔成績評価の基準〕 成蹊大学の成績評価基準（学則第38条、39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.</p>			
<p>〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕 必要な予備知識は特になし。</p>			
<p>〔テキスト〕 特になし。</p>			
<p>〔参考書〕 特になし。</p>			
<p>〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕 ポータルサイトで周知します。 また、授業終了後に教室で受け付けます。</p>			
<p>〔特記事項〕 授業の進行状況によって、前述「回数」ごとのテーマや内容が前後する可能性があります。</p>			

科目名		経営学特殊講義B (租税法)					
教員名		伊藤 公哉					
科目No.	122576300	単位数	2	配当年次	2年生	開講時期	2025 後期
<p>〔テーマ・概要〕</p> <p>租税法は、私たちの生活に密着した身近な学問です。企業経営においても、租税法の知識は不可欠といえるでしょう。この授業では、法人税法を中心とした租税法の概論を学修します。具体的には、租税法全体に共通する基本的な考え方と、法人税や消費税等を中心に国税の概要を理解することを目標とします（この授業では、どちらかという企業会計の知識を前提とする企業周りの税目を多く扱います。なお、所得税法については、別の授業（租税法の基礎／基盤特殊講義（租税法基礎））の方で詳しく扱います）。</p>							
<p>〔到達目標〕</p> <p>【経営学部総合経営学科】</p> <p>DP1（専門分野の知識・技能）を実現するため、次の点を到達目標とする。</p> <p>① 租税法の基本原則の理解を通じたリーガルマインドの醸成を目標とする。より具体的には、租税法の諸原則（とくに租税法主義）について説明できるとともに、実社会での事例に適用できるようになること。</p> <p>② 法人税等を中心に国税の基礎知識を修得し、正しく説明できるようになること。</p>							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修の目安（分）	
第1回	① ガイダンスと履修上の留意事項（試験や評価など） ② イントロダクション（租税の意義と種類）			【準備】 シラバスを読み、内容を把握する。 【復習】 今回学んだ租税法のテクニカルターム（キーワード）について説明できるようにする。 システム（CoursePower）上で実施する復習クイズに解答し到達度を確認する。		60	
第2回	租税法の基本原則（租税法主義と租税公平主義）			【準備】 システム（CoursePower）で受けた復習クイズの結果を確認し、間違えたところをフォローする。 【復習】 今回学んだ租税法のテクニカルターム（キーワード）について説明できるようにする。 システム（CoursePower）上で実施する復習クイズに解答し到達度を確認する。		60	
第3回	租税法の法源、租税法の解釈と適用			【準備】 システム（CoursePower）で受けた復習クイズの結果を確認し、間違えたところをフォローする。 【復習】 今回学んだ租税法のテクニカルターム（キーワード）について説明できるようにする。 システム（CoursePower）上で実施する復習クイズに解答し到達度を確認する。		60	
第4回	所得税の概要（所得税総説、所得の意義）			【準備】 システム（CoursePower）で受けた復習クイズの結果を確認し、間違えたところをフォローする。 【復習】 今回学んだ租税法のテクニカルターム（キーワード）について説明できるようにする。 システム（CoursePower）上で実施する復習クイズに解答し到達度を確認する。		60	
第5回	法人税（法人税総説、法人税の課税要件）			【準備】 システム（CoursePower）で受けた復習クイズの結果を確認し、間違えたところをフォローする。 【復習】 今回学んだ租税法のテクニカルターム（キーワード）について説明できるようにする。 システム（CoursePower）上で実施する復習クイズに解答し到達度を確認する。		60	
第6回	法人税（事業年度と決算、益金の額、損金の額、資本等取引）			【準備】 システム（CoursePower）で受けた復習クイズの結果を確認し、間違えたところをフォローする。 【復習】 今回学んだ租税法のテクニカルターム（キーワード）について説明できるようにする。 システム（CoursePower）上で実施する復習クイズに解答し到達度を確認する。		60	
第7回	法人税（公正処理基準、年度帰属、受取配当等）			【準備】 システム（CoursePower）で受けた復習クイズの結果を確認し、間違えたところをフォローする。 【復習】 今回学んだ租税法のテクニカルターム（キーワード）について説明できるようにする。 システム（CoursePower）上で実施する復習クイズに解答し到達度を確認する。		60	
第8回	法人税（売上原価、寄附金、交際費等）			【準備】 システム（CoursePower）で受けた復習クイズの結果を確認し、間違えたところをフォローする。 【復習】 今回学んだ租税法のテクニカルターム（キーワード）について説明できるようにする。 システム（CoursePower）上で実施する復習クイズに解答し到達度を確認する。		60	
第9回	法人税（給与、減価償却） 法人税（同族会社、税額控除、申告手続等）			【準備】 システム（CoursePower）で受けた復習クイズの結果を確認し、間違えたところをフォローする。 【復習】 今回学んだ租税法のテクニカルターム（キーワード）について説明できるようにする。 システム（CoursePower）上で実施する復習クイズに解答し到達度を確認する。		60	
第10回	相続税			【準備】 システム（CoursePower）で受けた復習クイズの結果を確認し、間違えたところをフォローする。 【復習】 今回学んだ租税法のテクニカルターム（キーワー		60	

		ド)について説明できるようにする。 システム (CoursePower) 上で実施する復習クイズに解答し到達度を確認する。	
第11回	相続税、贈与税	【準備】システム (CoursePower) で受けた復習クイズの結果を確認し、間違えたところをフォローする。 【復習】今回学んだ租税法のテクニカルターム (キーワード) について説明できるようにする。 システム (CoursePower) 上で実施する復習クイズに解答し到達度を確認する。	60
第12回	消費税 (消費税総説)	【準備】システム (CoursePower) で受けた復習クイズの結果を確認し、間違えたところをフォローする。 【復習】今回学んだ租税法のテクニカルターム (キーワード) について説明できるようにする。 システム (CoursePower) 上で実施する復習クイズに解答し到達度を確認する。	60
第13回	消費税 (仕入税額控除)	【準備】システム (CoursePower) で受けた復習クイズの結果を確認し、間違えたところをフォローする。 【復習】今回学んだ租税法のテクニカルターム (キーワード) について説明できるようにする。 システム (CoursePower) 上で実施する復習クイズに解答し到達度を確認する。	60
第14回	時事トピックス等	【準備】システム (CoursePower) で受けた復習クイズの結果を確認し、間違えたところをフォローする。 【復習】今回学んだ租税法のテクニカルターム (キーワード) について説明できるようにする。 システム (CoursePower) 上で実施する復習クイズに解答する。	60
<p>〔授業の方法〕 基本的に PowerPoint 等を用いた講義形式ですが、適宜、指名をするなどしてなるべく楽しい雰囲気です。授業ができればと考えています。 各回で扱う範囲については、受講者の理解を確認しながら弾力的に講義を進めていくこととし、一部変更する場合があります。そこで、常に CoursePower で連絡事項を確認してください。</p>			
<p>〔成績評価の方法〕 授業後のシステム (CoursePower) 上での復習クイズ (40%)、期末試験 (60%) により、授業の到達目標を達成しているかどうかを総合的に評価します。 期末試験は対面で実施します。試験範囲は第1回から第13回までの内容です (披見不可)。 なお、迷惑行為 (授業と関係のないことで騒ぐなど他の受講者の学修の妨げとなる行為) を行う者については、予告の上で大幅に減点する場合があります。 ※ この授業では、4年生を特別扱いする (4年生だから甘く評価するとか単位を出す) ということは一</p>			
<p>〔成績評価の基準〕 成蹊大学の成績評価基準 (学則第 38 条、39 条) に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 38, 39. 次の点に着目し、その達成度により評価する。 ① 租税法の基本原則の理解を通じたリーガルマインドの醸成を目標とする。より具体的には、租税法の諸原則 (とくに租税法主義) について説明できるとともに、実社会での事例に適用できるようになること。 ② 法人税や消費税等の国税の基礎知識を修得し、説明できるようになること。</p>			
<p>〔必要な予備知識/先修科目/関連科目〕 法人税や消費税の理解にあたっては、企業会計 (財務会計) の知識が必要になります。</p>			
<p>〔テキスト〕 税法は毎年改正されますので、第1回目のガイダンス時に詳しく説明します。 また、CoursePower で資料 (レジュメ及び参考資料等) を配布します。 ※第1回目の資料は紙でも配布をしますが、第2回目以降の配布資料は、CoursePower 上でデータでのみ配布をしますので、ノート PC やタブレット等のデバイスを授業に持参するか、または紙ベースで学習したい人は事前に各自でプリントをして持参してください。</p>			
<p>〔参考書〕 予習及び復習の参考書としては、金子宏『租税法 [第 24 版]』 (弘文堂、2021 年)。 租税法における所得概念については、伊藤公哉『アメリカ連邦税法 [第 9 版]』 (中央経済社、2024 年) の第 I 章 (租税と所得概念) が詳しい。 重要な法令はレジュメでも紹介しますが、以下で紹介するウェブサイトも有用です。 ・ e-Gov 法令検索 (税法を含む法令の検索が可能) https://elaws.e-gov.go.jp/ ・ 裁判所 (裁判例の検索が可能) http://www.courts.go.jp/app/hanrei_jp/search1 ・ 国税庁 (法令解釈通達の検索が可能) https://www.nta.go.jp/shiraberu/zeiho-kaishaku/tsutatsu/menu.htm また、租税判例は、TKC ローライブラリー (情報図書館の法律データベース) も充実しています。</p>			
<p>〔質問・相談方法等 (オフィス・アワー)〕 ポータルサイトで周知します。また、授業終了後に教室で受け付けます。</p>			
<p>〔特記事項〕</p>			

科目名		経営学特殊講義B（非営利法人の財務開示）					
教員名		生方 裕一					
科目No.	122576900	単位数	2	配当年次	2年生	開講時期	2025 後期
<p>〔テーマ・概要〕</p> <p>非営利法人は利益の追求を主な目的とはしない組織体であり、プライベート・セクターとパブリック・セクターに区分されています。前者は、社会福祉、環境保全など近年注目される分野での活動が飛躍的に広がり、近年、その活動に対する社会的関心が急速に高まっています。と同時に、情報公開要求や会計制度の見直しなど、従来の制度に対する改革のうねりが強まっています。他方、後者のセクターは、主に地方自治体や独立行政法人を指しています。</p> <p>この授業では、主に前者のプライベート・セクターを取り上げ、その事業の運営について、また運営の基本となる会計や財務開示の問題に光を当てていきます。</p>							
<p>〔到達目標〕</p> <p>DP1-1（専門分野の知識・技能）を実現するため、次の3点を到達目標とする。</p> <p>①非営利法人の存在意義について理解できる。 ②非営利法人の事業について、営利法人との違いを説明できる。 ③非営利法人の会計や財務開示について、営利法人との違いを説明できる。</p>							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修の目安（分）	
第1回	非営利会計の前提 ・授業の内容、進め方、成績評価方法などを確認する。 ・企業会計との違いから、非営利会計の特徴を理解する			【予習】これまでの履修で使用したテキストや資料などを振り返り、営利法人（株式会社など）の事業や会計について復習する。		60	
第2回	政府会計の基礎概念と今後の方向性 ・わが国において非営利組織体とされる団体のうち、特にパブリック・セクターに属する団体（国・地方公共団体など）で用いられる会計の概要を理解する			【復習】今回のキーワードについて自分の言葉で説明できるようにする。		60	
第3回	国・地方公共団体の会計 ・第2回の内容を踏まえて、より詳細な内容を扱う			【復習】今回のキーワードについて自分の言葉で説明できるようにする。		60	
第4回	独立行政法人／特殊法人等の会計 ・国の出資の下で設立される独立行政法人、および特殊法人で整備される会計について理解する			【復習】今回のキーワードについて自分の言葉で説明できるようにする。		60	
第5回	国立大学法人の会計 ・国の出資の下で設立される国立大学法人で用いられる会計について理解する			【復習】今回のキーワードについて自分の言葉で説明できるようにする。		60	
第6回	地方公益企業／地方独立行政法人の会計 ・地方公共団体の出資の下で設立される地方公益企業、および地方独立行政法人で整備される会計について理解する			【復習】今回のキーワードについて自分の言葉で説明できるようにする。		60	
第7回	地方公社の会計 ・地方公共団体の出資の下で設立される地方公社で整備される会計について理解する			【復習】今回のキーワードについて自分の言葉で説明できるようにする。		60	
第8回	非営利会計の基礎概念と今後の方向性 ・わが国において非営利組織体とされる団体のうち、特にプライベート・セクターに属する団体で用いられる会計の概要を理解する			【復習】今回のキーワードについて自分の言葉で説明できるようにする。		60	
第9回	公益法人の会計 ・公益法人で整備される会計について理解する			【復習】今回のキーワードについて自分の言葉で説明できるようにする。		60	
第10回	医療法人の会計 ・医療法人で整備される会計について理解する			【復習】今回のキーワードについて自分の言葉で説明できるようにする。		60	
第11回	学校法人の会計 ・学校法人で整備される会計について理解する			【復習】今回のキーワードについて自分の言葉で説明できるようにする。		60	
第12回	社会福祉法人の会計 ・社会福祉法人で整備される会計について理解する			【復習】今回のキーワードについて自分の言葉で説明できるようにする。		60	
第13回	その他の非営利組織の会計 ・第12回までで扱わなかった非営利組織の会計について理解する			【復習】今回のキーワードについて自分の言葉で説明できるようにする。		60	
第14回	まとめと今後の課題 ・パブリック・セクターとプライベート・セクターを併せ、わが国の非営利組織の会計の現状と課題を整理し、今後の方向性を見出す			【復習】これまでの授業内容を振り返り、レポートを作成する。		60	
<p>〔授業の方法〕</p> <p>授業の進め方は第1回の授業において詳しく説明しますので、必ず出席してください。なお、上で示された準備学習の時間はあくまで目安のため、各自の理解度に応じて取り組んでください。また、受講生の理解度に応じて、授業計画・内容を変更する可能性があります。</p>							
〔成績評価の方法〕							

中間レポート（40%）、学期末レポート（60%）によって総合評価します。また、履修者それぞれの興味に応じたレポートの提出を求めることがあります。

〔成績評価の基準〕

成蹊大学の成績評価基準（学則第38条、39条）に準拠する。次の点に着目し、その達成度により評価します。

- ①非営利法人の存在意義について理解できる。
- ②非営利法人の事業について、営利法人との違いを説明できる。
- ③非営利法人の会計や財務開示について、営利法人との違いを説明できる。

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕

企業経営や企業会計の基本的な知識を修得していることを前提として授業を進めます。

経営や会計のエントリーレベルをクリアした人で、さらに企業とは異なる非営利法人の事業や財務開示の現状をリアルにつかみたい、と考える人に受講をお勧めします。

〔テキスト〕

- ・『非営利会計論 15講（ライブラリ会計学 15講 10）』白山真一，新世社，978-4883843800

〔参考書〕

- ・『非営利用語辞典』非営利法人研究会，全国公益法人協会，978-4915668814
- ・『非営利組織体の会計』杉山学・鈴木豊，中央経済グループパブリッシング，978-4502193101
- ・『政府と非営利組織の会計』大塚宗春・黒川行治，中央経済社，978-4502452505
- ・『公会計テキスト』黒木淳，中央経済社，978-4502295218

ほか、適宜授業中に紹介します。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕

ポータルサイトで周知します。

〔特記事項〕

ICT活用

科目名	統計学						
教員名	田中 研太郎						
科目No.	122714000	単位数	2	配当年次	2年生	開講時期	2025 前期
<p>〔テーマ・概要〕</p> <p>近年の情報技術の発達により、大量のデータを高速に収集・処理することが可能になっている。そのようなデータを有効活用するためには、統計解析によって意味のある情報を取り出し、新たな知見を得ることが重要である。本講義では、統計解析に必要な基礎知識として、記述統計から一歩進んだ推測統計の考え方を習得することを目標とする。なお、授業の第1～4回などにおいては統計学の基本を復習するために記述統計に関する授業を行う。</p>							
<p>〔到達目標〕</p> <p>DP2(教養の修得)を実現するため、以下を到達目標とする。</p> <p>1) 確率分布を用いた推測統計の考え方を理解する。 2) 種々の検定などが適切に利用できるようになる。</p>							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修(予習・復習等)		準備学修の目安(分)	
第1回	ガイダンス (統計学とは何か?)			【復習】統計学とはどのようなものなのかについて把握する。		60分	
第2回	記述統計の基礎 (身近なデータの種類にはどのようなものがあるのか?)			【予習・復習】記述統計の基礎について予習・復習する。		60分	
第3回	1 変量データに対する記述統計 (1 変量データを視覚化する方法にはどのようなものがあるか? 平均や分散とは何か?)			【予習・復習】1 変量データに対する記述統計について予習・復習する。		60分	
第4回	2 変量データに対する記述統計 (2 変量データを視覚化する方法にはどのようなものがあるか? 相関係数とは何か?)			【予習・復習】2 変量データに対する記述統計について予習・復習する。		60分	
第5回	確率モデル ～記述統計から推測統計へ～ (推測統計における確率分布とはどのようなものなのか?)			【復習】推測統計における確率分布の考え方について復習する。		60分	
第6回	2項分布の考え方と使い方 (2項分布を用いた確率の計算について)			【復習】2項分布について復習する。		60分	
第7回	確率分布における期待値と分散 i) 確率分布における期待値と分散の定義 ii) 2項分布における期待値と分散の求め方			【復習】確率分布における期待値と分散について復習する。		60分	
第8回	中間試験(または中間課題)			【予習】中間試験(中間課題)に備える。		60分	
第9回	前半のまとめと後半の導入 i) 中間試験の解説 ii) 大数の法則と中心極限定理			【復習】中間試験(中間課題)で分からなかった部分について復習する。また、大数の法則と中心極限定理について、なんとなくでも理解するように努める。		60分	
第10回	正規分布の考え方と使い方 i) 正規分布を用いた確率の求め方 ii) 正規分布の平均と分散			【復習】正規分布について復習する。		60分	
第11回	統計的仮説検定について i) 確率分布についての復習 ii) 統計的仮説検定についての導入			【復習】これまで出てきた確率分布とその性質について復習する。		60分	
第12回	統計的仮説検定について i) 統計的仮説検定の考え方 ii) 平均値についての検定(正規分布の利用)			【復習】平均値についての検定の考え方について復習する。		60分	
第13回	統計的仮説検定について i) 統計的仮説検定の考え方(再) ii) 平均値についての検定(t-分布の利用)			【復習】平均値についての検定の考え方について復習する。		60分	
第14回	分割表の解析 i) 独立性の検定(カイ2乗分布の利用) ii) 層別の重要性			【復習】分割表における独立性の検定の考え方について復習する。また、層別の重要性について理解する。		60分	
<p>〔授業の方法〕</p> <p>講義による授業を行う。 また、PCを使用して、統計における計算や課題に取り組んでもらったりする。 授業の理解を測るため、小テストなどを課す可能性がある。</p>							
<p>〔成績評価の方法〕</p> <p>配点は、学期末試験 50-70%、平常点(授業の参加状況や宿題・レポート)30-50%を目安とする。</p>							
〔成績評価の基準〕							

経営

25/2/12 20時1分

※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

成蹊大学の成績評価基準（学則第38条、39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.
次の点に着目し、その達成度により評価する。

- i) 現象を確率を用いてモデル化できる。
- ii) 基本的な推測統計の手法（推定と検定）について理解している。

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕

記述統計についての基本的な知識があることが望ましいが、授業の第1～4回などにおいて記述統計の基本についての復習を兼ねた授業を行う。

〔テキスト〕

特になし。授業資料を配布する。

〔参考書〕

適宜紹介する。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕

ポータルサイトで周知する。

〔特記事項〕

科目名	情報コミュニケーション技術						
教員名	吉見 憲二						
科目No.	122715000	単位数	2	配当年次	2年生	開講時期	2025 後期
<p>〔テーマ・概要〕</p> <p>内閣府では、「サイバー空間（仮想空間）とフィジカル空間（現実空間）を高度に融合させたシステムにより、経済発展と社会的課題の解決を両立する、人間中心の社会（Society）」を意味する「Society 5.0」という政策キーワードを提唱し、新しい価値を産業や社会にもたらすことを目指している。しかしながら、「Society 5.0」が包含する領域は広いと、その全体像を把握することは容易ではない。本授業では、個々の事例からその背景にある情報コミュニケーション技術を学習することで、「Society 5.0」という概念を実感を持って理解できるようになることを目的とする。各回の授業では、特定の情報サービスを取り上げ、どのような情報コミュニケーション技術が用いられているか検討していく。全体の講義を通して、現代のコミュニケーションに用いられる多様な技術について理解を深めることを目指す。</p> <p>なお、授業の進捗や受講生からの要望によって、内容を一部変更する場合がある。</p>							
<p>〔到達目標〕</p> <p>DP1【専門分野の知識・技能】、DP2【教養の修得】、DP3【課題の発見と解決】を実現するため、以下の3点を到達目標とする。</p> <p>(1)さまざまな情報サービスに用いられている情報コミュニケーション技術を説明できる。</p> <p>(2)情報コミュニケーション技術が各種産業のどのような領域で活用されているか説明できる。</p> <p>(3)「Society 5.0」という概念を、具体例を交えて自分なりの言葉で説明できる。</p>							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修の目安（分）	
第1回	<p>イントロダクション</p> <ul style="list-style-type: none"> シラパスの内容を中心に、授業の概要や評価基準について説明する。 情報コミュニケーション技術について学ぶ意義を理解する。 			<p>【予習】事前にシラパスをよく読み、質問等があれば用意しておく。</p> <p>【復習】講義内容を踏まえた課題に取り組む。</p>		60	
第2回	<p>インターネット広告</p> <ul style="list-style-type: none"> インターネット広告の概要について理解する。 インターネット広告に用いられている情報コミュニケーション技術について理解する。 			<p>【予習】インターネット広告の具体例について調べておく。</p> <p>【復習】講義内容を踏まえた課題に取り組む。</p>		60	
第3回	<p>モバイル通信</p> <ul style="list-style-type: none"> モバイル通信サービスの概要について理解する。 モバイル通信サービスに用いられている情報コミュニケーション技術について理解する。 			<p>【予習】モバイル通信サービスの具体例について調べておく。</p> <p>【復習】講義内容を踏まえた課題に取り組む。</p>		60	
第4回	<p>自動車</p> <ul style="list-style-type: none"> 近年の自動車の変化について理解する。 近年の自動車に用いられている情報コミュニケーション技術について理解する。 			<p>【予習】近年の自動車の変化について調べておく。</p> <p>【復習】講義内容を踏まえた課題に取り組む。</p>		60	
第5回	<p>情報家電</p> <ul style="list-style-type: none"> 情報家電の概要について理解する。 情報家電に用いられている情報コミュニケーション技術について理解する。 			<p>【予習】情報家電の具体例について調べておく。</p> <p>【復習】講義内容を踏まえた課題に取り組む。</p>		60	
第6回	<p>決済</p> <ul style="list-style-type: none"> 決済サービスの概要について理解する。 決済サービスに用いられている情報コミュニケーション技術について理解する。 			<p>【予習】決済サービスの具体例について調べておく。</p> <p>【復習】講義内容を踏まえた課題に取り組む。</p>		60	
第7回	<p>クラウドサービス（1）</p> <ul style="list-style-type: none"> クラウドサービスの概要について理解する。 クラウドサービスに用いられている情報コミュニケーション技術について理解する。 			<p>【予習】クラウドサービスの具体例について調べておく。</p> <p>【復習】講義内容を踏まえた課題に取り組む。</p>		60	
第8回	<p>クラウドサービス（2）</p> <ul style="list-style-type: none"> クラウドサービスの概要について理解する。 クラウドサービスに用いられている情報コミュニケーション技術について理解する。 			<p>【予習】クラウドサービスの具体例について調べておく。</p> <p>【復習】講義内容を踏まえた課題に取り組む。</p>		60	
第9回	<p>中間まとめ</p> <ul style="list-style-type: none"> これまでの実施内容について振り返る。 レポート課題に関する説明を行う。 			<p>【予習】これまでの実施内容で理解が不十分な点を確認しておく。</p> <p>【復習】講義内容を踏まえた課題に取り組む。</p>		60	
第10回	<p>教育</p> <ul style="list-style-type: none"> 教育サービスの概要について理解する。 教育サービスに用いられている情報コミュニケーション技術について理解する。 			<p>【予習】近年の教育サービスの具体例について調べておく。</p> <p>【復習】講義内容を踏まえた課題に取り組む。</p>		60	
第11回	<p>シェアリング・エコノミー</p> <ul style="list-style-type: none"> シェアリング・エコノミーの概要について理解する。 シェアリング・エコノミーに用いられている情報コミュニケーション技術について理解する。 			<p>【予習】シェアリング・エコノミーの具体例について調べておく。</p> <p>【復習】講義内容を踏まえた課題に取り組む。</p>		60	
第12回	<p>その他情報コミュニケーション技術</p> <ul style="list-style-type: none"> 受講生からの要望等を踏まえて、新しい情報コミュニケーション技術に関連した内容を取り上げる。 			<p>【予習】これまでの授業内容以外の情報コミュニケーション技術の活用事例について調べておく。</p> <p>【復習】講義内容を踏まえた課題に取り組む。</p>		60	
第13回	<p>レポート課題のフィードバック</p> <ul style="list-style-type: none"> 実施したレポート課題について評価ポイントを理解する。 レポート執筆の基本事項について再度確認し、理解する。 			<p>【予習】自身の提出したレポートの内容について再確認しておく。</p> <p>【復習】講義内容を踏まえた課題に取り組む。</p>		60	

<p>第14回</p>	<p>まとめ ・全体の内容を振り返り、情報コミュニケーション技術が各種産業のどのような領域で活用されているか議論する。 ・シラバスの内容を再度確認し、授業の概要や評価基準について説明する。</p>	<p>【予習】 全体の内容を振り返り、情報コミュニケーション技術が各種産業のどのような領域で活用されているか考える。 【復習】 講義内容を踏まえた課題に取り組む。期末試験に向けて準備する。</p>	<p>60</p>
<p>〔授業の方法〕 授業は講義形式で進める。授業の構成として、①ディスカッション準備（10分）、②前回内容の振り返り（10分）、③ディスカッション（10分×2回）、④講義（50分）、⑤質疑応答（10分）、⑥課題（授業後）を基本とする。詳細は次の通りである。 ①冒頭に【予習】と関連したディスカッションテーマを提示し、10分間各自で考える時間を与える。 ②課題の内容に関して次回授業の前半で振り返りを行い、優れた回答は全体に共有する。 ③授業時間中に、冒頭に提示したテーマに関して受講者にマイクを回し、ディスカッションを行う。受講人数に応じて実施形態については検討する。 ④講義は配布した資料を中心に展開する。なお、講義中にも受講者にマイクを回し、意見や回答を求めることがある。 ⑤ICTを活用した双方向型の授業として、スマートフォンでQRコードを読み取り、授業時間内に質問をできるようにする。質問については原則授業内で回答する。 ⑥e-ラーニングを活用した自主学习支援として、各回の授業内容に関連した課題を【予習】【復習】扱いで実施する。 レポート課題の内容、評価基準については、授業内で説明する。また、受講者の希望等を踏まえて、授業期間内に2回ほど少人数でのグループワークを実施する可能性がある。 講義形式となるため欠席等の連絡は不要であるが、原則としてフォームから出席状況の確認を行い、既定の出席数に不足する場合には自動的に不合格となる（ただし、受講状況に応じて出席確認の方法を変更する可能性がある）。なお、出席や課題に関する不正には厳正に対処する。</p>			
<p>〔成績評価の方法〕 各回の課題（14回：40%）、レポート課題（20%）、期末試験（40%）による総合評価を基本としつつ、各評価項目での優れた回答や講義中の発言に関して適宜加点する。</p>			
<p>〔成績評価の基準〕 成蹊大学の成績評価基準（学則第38条、39条）に準拠する。 次の点に着目し、その達成度により評価する。 (1)さまざまな情報サービスに用いられている情報コミュニケーション技術を説明できるか。 (2)情報コミュニケーション技術が各種産業のどのような領域で活用されているか説明できるか。 (3)「Society 5.0」という概念を、具体例を交えて自分なりの言葉で説明できるか。</p>			
<p>〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕 ・必要な予備知識は特になし。 ・関連科目として、「情報戦略」「情報産業」「経営情報<1><2>」「経営学特殊講義B（ICT産業概論）」が挙げられる。特に、情報産業や情報技術に興味がある人は積極的に受講してほしい。各科目の特色等については質問があれば対応する。</p>			
<p>〔テキスト〕 資料は毎回の授業で配布する。</p>			
<p>〔参考書〕 『IoT時代の競争分析フレームワーク』、早稲田大学ビジネススクール根来研究室（著）・根来龍之・浜屋敏（編著）、中央経済社、2,750円、978-4502180514、購入の必要なし 『ネットビジネスケースブック』、荻原猛・田中洋、同文館出版、3,080円、978-4495390051、購入の必要なし その他、参考文献については授業内で適宜提示する。</p>			
<p>〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕 ポータルサイトの『オフィスアワー』で周知する。 授業終了後に教室で受け付ける。</p>			
<p>〔特記事項〕 ・アクティブ・ラーニング ・ICT活用</p>			

科目名		社会理解実践講義（資本市場の役割と証券投資：野村証券提供講座）					
教員名		時岡 規夫					
科目No.	122731400	単位数	2	配当年次	2年生	開講時期	2025 後期
<p>〔テーマ・概要〕</p> <p>本講義は、実務経験豊富な野村証券株式会社の講師による提供講座として開講される。</p> <p>直接金融とは何か、資本市場に求められる役割とは何かなどのテーマに関する証券投資の解説を行う。また、リーマン危機以降、激変する日本の資本市場の全容、投資とリスク・リターンのお考え、株式投資・債券投資の手法など、各講師の実務経験に基づいて、金融資本市場の様々な側面について解説する。</p> <p>本講座では、実践的な知識の習得も追加的な目標とする。具体的には、少子高齢化の進展を背景にして、老後の生計に対する不安が高まる中、ライフプランと資産形成や年金制度に関する解説を行ったうえで、加入者自らが資産運用の意思決定を行う確定拠出（DC）型年金制度におけるポートフォリオ作成やマネープラン作成の実践的実習を行う。</p>							
<p>〔到達目標〕</p> <p>DP1【専門分野の知識・技能】、DP2【教養の修得】を実現するため、以下を到達目標とする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・証券投資を中心に、金融資本市場の実務とファイナンス理論を統合的に理解し、将来のビジネスパーソンとしての素養を身に付ける ・ライフサイクルにおける資産形成の重要性や年金制度の概要を理解する ・近い将来、老後の生活資金を確保するためにDC制度のポートフォリオ設計やマネープランを構築する場合を想定した実践的知識を習得する 							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修の目安（分）	
第1回	<ul style="list-style-type: none"> ・イントロダクション ・コーディネーター担当教員から、講義の全体像を説明する。 ・ガイダンス・経済情報の捉え方 外部講師から、講義の内容・予定について説明した後で、資本市場において用いられる経済情報・指標について解説する。 			<p>【予習・復習】</p> <p>講義用資料を参照して、講座の全体像を確認すること。</p> <p>（以下、各回において）</p> <p>課題①・②の内容を確認したうえで、少しずつ時間をかけて取り組むこと。</p>		60	
第2回	<ul style="list-style-type: none"> ・グローバル化する世界と資本市場の果たす役割 赤字主体と黒字主体の資金過不足を調整する場としての金融資本市場の役割とその全体像を解説する。 			<p>【予習・復習】</p> <p>講義用資料を参照して、講義内容を確認すること。</p>		60	
第3回	<ul style="list-style-type: none"> ・金融資本市場の役割とその変化 前回にひきつづき、金融資本市場の役割を解説するとともに、リーマン危機以降の変化について解説する。 			<p>【予習・復習】</p> <p>講義用資料を参照して、講義内容を確認すること。</p>		60	
第4回	<ul style="list-style-type: none"> ・債券市場の役割と投資のお考え方 国債や社債などの債券の発行を通じた資金調達仕組みと債券市場での投資のお考え方を解説する。 			<p>【予習・復習】</p> <p>講義用資料を参照して、講義内容を確認すること。</p>		60	
第5回	<ul style="list-style-type: none"> ・株式市場の役割と投資のお考え方 株式の発行を通じた資金調達仕組みと株式市場での投資のお考え方を解説する。 			<p>【予習・復習】</p> <p>講義用資料を参照して、講義内容を確認すること。</p>		60	
第6回	<ul style="list-style-type: none"> ・投資信託の役割とその仕組み 投資信託の仕組みと投資戦略ごとの特徴について解説する。 			<p>【予習・復習】</p> <p>講義用資料を参照して、講義内容を確認すること。</p>		60	
第7回	<ul style="list-style-type: none"> ・外国為替相場とその変動要因 外国為替の仕組み、為替レートの役割、為替レートの決定要因について解説する。 			<p>【予習・復習】</p> <p>講義用資料を参照して、講義内容を確認すること。</p>		60	
第8回	<ul style="list-style-type: none"> ・リスク・リターンとポートフォリオ分析 証券の期待リターンとリスクの意味、ポートフォリオの分散投資効果について解説する。 			<p>【予習・復習】</p> <p>講義用資料を参照して、講義内容を確認すること。</p>		60	
第9回	<ul style="list-style-type: none"> ・つみたて投資の特長と活用方法 つみたて投資をはじめとした資産運用戦略（投資戦略）についてシミュレーションをまじえて解説する。 			<p>【予習・復習】</p> <p>講義用資料を参照して、講義内容を確認すること。</p>		60	
第10回	<ul style="list-style-type: none"> ・ライフプランと資産形成 社会人になってから、退職して、老後の生活を送るという一連の「ライフサイクル」の中で、結婚・子育て、マイホームの取得、退職後の生活費など、様々な場面で資金ニーズが発生する。これらのライフプランの概要とそれを支えるための資産形成のお考え方について解説する。 			<p>【予習・復習】</p> <p>講義用資料を参照して、講義内容を確認すること。</p>		60	
第11回	<ul style="list-style-type: none"> ・公的年金制度について 日本の公的年金制度は、自営業者等、民間サラリーマンや公務員、専業主婦等の立場によって仕組みが異なるなど、複雑な側面がある。このような公的年金制度の仕組みについて解説する。 			<p>【予習・復習】</p> <p>講義用資料を参照して、講義内容を確認すること。</p>		60	
第12回	<ul style="list-style-type: none"> ・確定拠出年金について 確定拠出年金（DC）制度は、加入者自身が資産運用の方針を決定する仕組みであり、運用結果に応じて年金額が決定される。この制度の仕組みについて解説する。 			<p>【予習・復習】</p> <p>講義用資料を参照して、講義内容を確認すること。</p>		60	
第13回	<ul style="list-style-type: none"> ・ポートフォリオの作成 実際にDC制度の加入者として運用方針を決定することを想定した実践的なトレーニングを行う。 			<p>【予習・復習】</p> <p>講義用資料を参照して、講義内容を確認すること。</p> <p>課題③に取り組むこと。</p>		60	
第14回	<ul style="list-style-type: none"> ・マネープランの作成 人的資本のお考え方に基づいて、自分のライフサイクルにおける収支を資産と負債に見立てたうえで、総合的なマネープラ 			<p>【予習・復習】</p> <p>講義用資料を参照して、講義内容を確認すること。</p> <p>課題④に取り組むこと。</p>		60	

	ン作成の実践的なトレーニングを行う。		
<p>〔授業の方法〕 証券ビジネスの最前線に従事する実務家を講師に迎えて、講義を行う。DC ポートフォリオとマネープラン作成に関する実践的な演習も行う。なお、第 1 回目で、コーディネーター担当教員から講義の全体像を改めて説明する。 なお、上記「授業の計画と準備学修」の記載内容は 2024 年度のものであり、2025 年度、授業回ごとの講義内容等が一部変更される場合がある（2025 年度の授業回ごとの講義内容等はあらためて掲示等で周知する）。</p>			
<p>〔成績評価の方法〕 成績は、平常点（4つの課題）で評価する。 ・課題①：講義内容と関連する2、3回程度の小テスト（10点） ・課題②：講義内容と関連するニュースの解説（30点） ・課題③：DC ポートフォリオ関連（30点） ・課題④：マネープランの作成（30点） ※上記記載内容は 2024 年度のものであり、2025 年度、一部変更される場合がある。第 1 回目で説明がある。</p>			
<p>〔成績評価の基準〕 成蹊大学の成績評価基準（学則第 38 条、39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.38, 39. 次の到達目標に注目して、その到達度に応じて評価する。 ・金融資本市場や年金制度の概要を的確に理解し、日常的に関連するニュースを理解し説明できる ・DC 制度のポートフォリオ設計やマネープランを構築する場合の実践的スキルを活用できる</p>			
<p>〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕 特になし</p>			
<p>〔テキスト〕 特になし 授業時に資料を配布する。</p>			
<p>〔参考書〕 『入門証券論（第3版）』榊原茂樹・城下賢吾・姜喜永・福田司文・岡村秀夫著、有斐閣、有斐閣コンパクト ISBN: 978-4-641-16410-9 本体 2,400 円＋税 第 1 回目で説明する。</p>			
<p>〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕 ポータルサイトで周知します。 また、授業終了後に教室で受け付けます。</p>			
<p>〔特記事項〕</p>			

科目名		社会理解実践講義（パーソナルファイナンス論）					
教員名		亀谷 さおり					
科目No.	122731500	単位数	2	配当年次	2年生	開講時期	2025 前期
<p>〔テーマ・概要〕</p> <p>人生には様々な場面でお金が必要となり、今後、結婚・育児・住宅取得・老後といった場面においては大きな支出が伴ってきます。本講義では、パーソナルファイナンスについて学習することで、人生における支出について個人が責任と計画性を持って行い、また貯蓄や運用、リスクマネジメントを意識的に行う必要があることを学びます。</p> <p>本授業は、ファイナンシャル・プランナー(CFP®認定者)として講演等の実績が豊富な講師が実務での経験を活かし、具体的な事例を交えながら実務家の視点も積極的に取り入れた授業を実施します。</p> <p>本講座はFP技能検定の受験対策講座ではありませんが、ファイナンシャル・プランナー資格に興味のある方の受講も歓迎します。</p>							
<p>〔到達目標〕</p> <p>DP1（専門分野の知識・技能）、DP2（教養の修得）、DP5（多様な人々との協働）を実現するため、次の3点を到達目標とする。</p> <p>①個人の生活や家計に視点を置きながら金融知識の向上を図ることができる。</p> <p>②自分自身の夢や目標を実現させるために必要なファイナンシャル・プランニングの基本的知識について積極的に学修することができる。</p> <p>③ファイナンシャル・プランナーの意義・役割について説明することができる。</p>							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修の目安（分）	
第1回	ガイダンス ・ファイナンシャル・プランニングを学ぶ意味			【予習】「ファイナンシャル・プランニング」の意味を調べておく。 【復習】授業で紹介した内容を整理し、教科書・副教材を確認しながら理解を深める。		60	
第2回	ライフプランニング ・収入と支出 ・様々な職業選択 ・給与明細の見方			【予習】講義に先立ち教科書、副教材の該当する部分に目を通し、わからない用語等は事前に確認しておく。 【復習】授業で紹介した内容を整理し、教科書・副教材を確認しながら理解を深める。		60	
第3回	社会保障制度① ・社会保障の4つの柱 ・社会保険の5分野 ・年金制度（学生納付特例含む）			【予習】講義に先立ち教科書、副教材の該当する部分に目を通し、わからない用語等は事前に確認しておく。 【復習】授業で紹介した内容を整理し、教科書・副教材を確認しながら理解を深める。		60	
第4回	社会保障制度② ・健康保険 ・雇用保険 ・介護保険			【予習】講義に先立ち教科書、副教材の該当する部分に目を通し、わからない用語等は事前に確認しておく。 【復習】授業で紹介した内容を整理し、教科書・副教材を確認しながら理解を深める。		60	
第5回	税金制度の基礎知識① ・わが国の税金制度 ・税金の種類 ・所得税の基礎知識 ・住民税 ・源泉徴収票の見方			【予習】講義に先立ち教科書、副教材の該当する部分に目を通し、わからない用語等は事前に確認しておく。 【復習】授業で紹介した内容を整理し、教科書・副教材を確認しながら理解を深める。		60	
第6回	税金制度の基礎知識② ・税金との付き合い方（アルバイトと税金、iDeCo・NISAによる税額控除）			【予習】講義に先立ち教科書、副教材の該当する部分に目を通し、わからない用語等は事前に確認しておく。 【復習】授業で紹介した内容を整理し、教科書・副教材を確認しながら理解を深める。		60	
第7回	リスクと保険 ・個人を取り巻くリスク ・民間保険商品（生命保険・損害保険等）の概要			【予習】講義に先立ち教科書、副教材の該当する部分に目を通し、わからない用語等は事前に確認しておく。 【復習】授業で紹介した内容を整理し、教科書・副教材を確認しながら理解を深める。		60	
第8回	ライフプランニングとファイナンシャル・プランニング ・人生の3大資金（教育・住宅・老後） ・各種ローン（住宅ローン・消費者ローン・奨学金等）			【予習】講義に先立ち教科書、副教材の該当する部分に目を通し、わからない用語等は事前に確認しておく。 【復習】授業で紹介した内容を整理し、教科書・副教材を確認しながら理解を深める。		60	
第9回	ライフプランニングの手法① ・ライフプランとキャッシュフロー表			【予習】講義に先立ち教科書、副教材の該当する部分に目を通し、わからない用語等は事前に確認しておく。 【復習】授業で紹介した内容を整理し、教科書・副教材を確認しながら理解を深める。		60	
第10回	金融経済の基礎知識① ・金融経済の仕組み ・日本経済の動向と家計への影響（時事ニュース） ・貯蓄 ・金利（単利と複利）			【予習】講義に先立ち教科書、副教材の該当する部分に目を通し、わからない用語等は事前に確認しておく。 【復習】授業で紹介した内容を整理し、教科書・副教材を確認しながら理解を深める。		60	
第11回	金融経済の基礎知識② ・外貨預金、債券、株式、投資信託 ・リスクとリターン ・長期分散積立投資（NISA、iDeCo含む）			【予習】講義に先立ち教科書、副教材の該当する部分に目を通し、わからない用語等は事前に確認しておく。 【復習】授業で紹介した内容を整理し、教科書・副教材を確認しながら理解を深める。		60	
第12回	不動産・相続の基礎知識 ・不動産の法律、登記、規則、税金、物件情報の見方 ・相続の考え方、遺言、相続税と贈与税			【予習】講義に先立ち教科書、副教材の該当する部分に目を通し、わからない用語等は事前に確認しておく。 【復習】授業で紹介した内容を整理し、教科書・副教材を確認しながら理解を深める。		60	
第13回	消費生活と契約 ・消費者保護の法律 ・契約締結とクーリングオフ制度			【予習】講義に先立ち教科書、副教材の該当する部分に目を通し、わからない用語等は事前に確認しておく。 【復習】授業で紹介した内容を整理し、教科書・副教材を		60	

	・悪質商法	確認しながら理解を深める。	
第14回	ライフプランニングの手法②・お金について相談する ・キャッシュフロー表の見直し方、自身のキャッシュフロー表の作り方 ・ファイナンシャル・プランナーの役割・相談事例	【予習】講義に先立ち教科書、副教材の該当する部分に目を通し、わからない用語等は事前に確認しておく。 【復習】授業で紹介した内容を整理し、教科書・副教材を確認しながら理解を深める。	60
〔授業の方法〕 講義を中心に、数回の小テスト、レポート提出を実施します。配付資料などを基に、講義内容を詳説します。 また、ディスカッションやワークを適宜実施します。			
〔成績評価の方法〕 学期末試験 30%、平常点（授業への参加状況や小テストの成績）40%、課題 30%による総合評価とします。			
〔成績評価の基準〕 成蹊大学の成績評価基準（学則第38条、39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39. 以下の到達目標の達成度に基づいて評価します。 ①個人の生活や家計に視点をおきながら金融知識の向上を図る能力が修得できているか。 ②ファイナンシャル・プランニングの基本的技能が修得できているか。 ③ファイナンシャル・プランナーの意義・役割を理解できているか。			
〔必要な予備知識/先修科目/関連科目〕 特になし。			
〔テキスト〕 『ファイナンシャル・プランニング入門—for Students—（第6版）』、日本ファイナンシャル・プランナーズ協会、ISBN978-4-911044-06-3			
〔参考書〕 『学生生活マネー&キャリアお役立ちハンドブック!』、日本ファイナンシャル・プランナーズ協会 購入の必要なし（講義内で配付予定） 「マネビタ」 https://www.shiruporuto.jp/public/document/container/e-learning/ 金融経済教育に関わる官庁と日本FP協会をはじめとする団体が連携して作成した金融リテラシーを学べるeラーニング講座です。本授業の予習復習に最適な内容ですので受講（無料）をお勧めします。 「くらしに役立つマネークイズ」 https://moneyquiz.jafp.or.jp/?utm_source=seikeisyllabus&utm_id=2024University 日本FP協会が提供している無料のクイズサイトです。金融経済に関する学習にも使用できます。			
〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕 ポータルサイトで周知します。 また、授業終了後に教室で受け付けます。			
〔特記事項〕 アクティブ・ラーニング			

科目名		学際特殊講義（多文化社会を生きる）					
教員名		鈴木 恵美子					
科目No.	122741400	単位数	2	配当年次	1年生	開講時期	2025 前期
<p>〔テーマ・概要〕</p> <p>この科目では、スペイン語が話される国々、特にスペインとメキシコを例にとり、両国における多文化社会の在り方を様々な観点から概観します。両国を比較し、さらには日本の状況とも照らし合わせながら、日本でも身近な問題になりつつある複数の文化との共存の問題を考えてみたいと思います。学生の皆さんも各自のテーマを設定し、自分なりの視点で問題を掘り下げ、分析してみましょう。普段触れている身近な外国文化とはまた異なる新たな世界が広がり、文化・社会の様相、価値観の多様性に気が付くことができるでしょう。</p>							
<p>〔到達目標〕</p> <p>DP2（教養の修得）を実現するため、次の点を到達目標とする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・外国の文化や社会などの様相、人々の価値観、日本との共通点・相違点について客観的に考察し、異文化理解や多文化共生につながる教養を身に付ける。 ・必要な資料を収集・整理し、自分なりの視点で分析してレポートなどにまとめることができる。 							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修の目安（分）	
第1回	イントロダクション：スペイン語圏概観 ＜活動＞スペイン語圏の国々をネットで調べてみよう			トピックについて基本的な知識を得ておくこと。学んだ事柄については、内容を整理しておき、不明な箇所は自分で調べて明確にしておくこと。		60分	
第2回	スペインとメキシコ：各国基本情報。学生のテーマ検討 ＜活動＞調査対象とする国と暫定テーマを検討しよう			トピックについて基本的な知識を得ておくこと。学んだ事柄については、内容を整理しておき、不明な箇所は自分で調べて明確にしておくこと。		60分	
第3回	スペインとメキシコの言語：各国のスペイン語、地域固有の言語、先住民の言語 ＜活動＞好きな国の言語状況を調べて、スペイン、メキシコと比較しよう			トピックについて基本的な知識を得ておくこと。学んだ事柄については、内容を整理しておき、不明な箇所は自分で調べて明確にしておくこと。		60分	
第4回	スペインとメキシコの文化：共通の文化、独自の文化（祝祭、食文化、音楽など） ＜活動＞身近な文化と比較してどのような印象を持ったか意見交換しよう			トピックについて基本的な知識を得ておくこと。学んだ事柄については、内容を整理しておき、不明な箇所は自分で調べて明確にしておくこと。		60分	
第5回	スペインとメキシコの国民性：共通点と相違点（生活習慣、年間行事、家族など） ＜活動＞自分の価値観、行動パターン、生活習慣と比較して違いや共通点を探ろう			トピックについて基本的な知識を得ておくこと。学んだ事柄については、内容を整理しておき、不明な箇所は自分で調べて明確にしておくこと。		60分	
第6回	スペインとメキシコの外交：日本との関係 ＜活動＞外国に渡った日本人や、来日した日系人の歴史や社会を知ろう			トピックについて基本的な知識を得ておくこと。学んだ事柄については、内容を整理しておき、不明な箇所は自分で調べて明確にしておくこと。		60分	
第7回	スペインとメキシコの観光：文化の多様性と観光資源 ＜活動＞スペイン、メキシコに旅行した時のプランを考えよう			トピックについて基本的な知識を得ておくこと。学んだ事柄については、内容を整理しておき、不明な箇所は自分で調べて明確にしておくこと。		60分	
第8回	スペインとメキシコの現代事情：教育、社会問題、ポップカルチャーなど ＜活動＞若者の立場から、違いや共通点を分析しよう			トピックについて基本的な知識を得ておくこと。学んだ事柄については、内容を整理しておき、不明な箇所は自分で調べて明確にしておくこと。		60分	
第9回	ここまでのまとめと最終レポートのテーマ検討			トピックについて基本的な知識を得ておくこと。学んだ事柄については、内容を整理しておき、不明な箇所は自分で調べて明確にしておくこと。		60分	
第10回	映像を通してスペイン語圏の文化的多様性を知る(1)+講義の補足 ＜活動＞映像鑑賞ミニレポートを作成			トピックについて基本的な知識を得ておくこと。学んだ事柄については、内容を整理しておき、不明な箇所は自分で調べて明確にしておくこと。		60分	
第11回	映像を通してスペイン語圏の文化的多様性を知る(2)+講義の補足 ＜活動＞映像鑑賞ミニレポートを作成			トピックについて基本的な知識を得ておくこと。学んだ事柄については、内容を整理しておき、不明な箇所は自分で調べて明確にしておくこと。		60分	
第12回	映画を通してスペイン語圏の文化的多様性を知る(3)+講義の補足 ＜活動＞映像鑑賞ミニレポートを作成			トピックについて基本的な知識を得ておくこと。学んだ事柄については、内容を整理しておき、不明な箇所は自分で調べて明確にしておくこと。		60分	
第13回	映像を通してスペイン語圏の文化的多様性を知る(4)+講義の補足 ＜活動＞映像鑑賞ミニレポートを作成			トピックについて基本的な知識を得ておくこと。学んだ事柄については、内容を整理しておき、不明な箇所は自分で調べて明確にしておくこと。		60分	
第14回	授業の振り返りとまとめ 最終レポートの完成と提出			トピックについて基本的な知識を得ておくこと。学んだ事柄については、内容を整理しておき、不明な箇所は自分で調べて明確にしておくこと。		120分	
<p>〔授業の方法〕</p> <p>上記の計画に基づき、講義+学生の活動を中心に授業を進めます。受講生の関心にも配慮しながら、必要に応じて視聴覚資料などを使って理解を深めます。授業中の活動やレポート作成では、次の到達目標がどの程度達成できたかを評価の基準とします。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・外国の文化や社会などの様相、人々の価値観、日本との共通点・相違点について客観的に考察できている。 ・必要な資料を適切に収集・整理し、自分なりの視点で分析できている。 							
〔成績評価の方法〕							

授業中の活動 25%、ミニレポート 25%、最終レポート 50%により総合的に評価します。

〔成績評価の基準〕

成蹊大学の成績評価基準（学則第 38 条、39 条）に準拠する。

さらに、次の到達目標がどの程度達成できたかを評価の基準とします。

- ・外国の文化や社会などの様相、人々の価値観、日本との共通点・相違点について客観的に考察し、異文化理解や多文化共生につながる教養を身に付ける。
- ・必要な資料を収集・整理し、自分なりの視点で分析してレポートなどにまとめることができる。

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕

関連科目：各種スペイン語関連科目（コア科目、発展科目）

〔テキスト〕

特にテキストは使用しません。

〔参考書〕

授業中に適宜紹介します。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕

ポータルサイトで周知します。

〔特記事項〕

科目名		学際特殊講義（統計モデルと最適化）					
教員名		田中 研太郎					
科目No.	122741500	単位数	2	配当年次	1年生	開講時期	2025 後期
<p>〔テーマ・概要〕</p> <p>本講義では、まず、回帰分析などの統計モデルや線形計画法を中心とした最適化手法について学ぶ。理論的な背景を講義で学んだ後、ソフトウェアや Web アプリなどを利用した演習を行うことで、実際の問題に活かせるスキルを身に付けることを目標にする。また、近年注目されている最適輸送などのトピックにも触れ、統計モデルと最適化手法の統合的な理解を深める。</p>							
<p>〔到達目標〕</p> <p>DP2(教養の修得)を実現するため、以下を到達目標とする。</p> <p>1) 回帰分析などを通じて統計モデルへの理解を深める。</p> <p>2) 最適化の手法を適切に利用できるようになる。</p>							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修の目安（分）	
第1回	ガイダンス： ・講義の目的と到達目標 ・ソフトウェアのインストール方法			【復習】ソフトウェアのインストールを行っておく。		60分	
第2回	回帰分析： ・単回帰分析の仕組み ・ソフトウェアを利用した単回帰分析の演習			【復習】単回帰分析の仕組みを理解する。		60分	
第3回	回帰分析： ・回帰分析における仮定とその検証方法 ・単回帰分析から重回帰分析へ			【復習】単回帰分析の計算に慣れる。		60分	
第4回	回帰分析： ・ソフトウェアを利用した重回帰分析の演習 ・過学習とモデル選択			【復習】重回帰分析の流れと計算に慣れる。		60分	
第5回	回帰分析： ・回帰分析のまとめ ・課題			【復習】回帰分析についてまとめ、課題に取り組む。		60分	
第6回	線形計画法： ・線形計画法とは ・例題をいくつか			【復習】線形計画法とはどのようなものなのかを理解する。		60分	
第7回	線形計画法： ・線形計画法の解法(単体法など)について ・ソフトウェアを利用した線形計画法の計算			【復習】線形計画法の解法について大まかに理解する。		60分	
第8回	線形計画法： ・線形計画法のまとめ ・課題			【復習】線形計画法についてまとめ、課題に取り組む。		60分	
第9回	最適輸送： ・最適輸送問題とは ・例題をいくつか			【復習】最適輸送問題を大まかに理解する。		60分	
第10回	最適輸送： ・ソフトウェアを利用した最適輸送問題の計算 ・最適輸送のまとめ			【復習】最適輸送問題についてまとめ、課題に取り組む。		60分	
第11回	統計モデルと最適化： ・確率について(同時確率、条件付確率、周辺確率などについて) ・統計モデルとパラメーターについて			【復習】確率と統計モデルの関係について復習する。		60分	
第12回	統計モデルと最適化： ・統計モデルのパラメーターの推定について ・ソフトウェアを利用したパラメーターの推定			【復習】統計モデルのパラメーターの推定について復習する。		60分	
第13回	統計モデルと最適化： ・ベイズ統計について ・ソフトウェアを利用したベイズ統計の計算			【復習】ベイズ統計について復習する。		60分	
第14回	まとめ： ・これまでの授業内容についてのまとめ			【復習】これまでの授業内容についてまとめ、課題に取り組む。		60分	
<p>〔授業の方法〕</p> <p>講義による授業を行う。 PCを使用して演習を行ったり課題に取り組んでもらったりする。 授業の理解を測るため、小テストなどを実施する場合もある。</p>							
<p>〔成績評価の方法〕</p> <p>配点は、学期末試験 50-70%、平常点(授業の参加状況や宿題・レポート)30-50%を目安とする。</p>							
〔成績評価の基準〕							

経営

25/2/12 20時1分

※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

成蹊大学の成績評価基準（学則第 38 条、39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.
次の点に着目し、その達成度により評価する。

- i) 統計モデルの基本的な考え方を理解している。
- ii) 問題に応じた適切な手法を選択し応用できる。

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕

平均や分散や相関係数などの統計に関する基本的な知識を予め持つておくと、授業の理解がより深まると思われる。

〔テキスト〕

特になし。授業資料を配布する。

〔参考書〕

適宜紹介する。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕

ポータルサイトで周知する。

〔特記事項〕

科目名		学際特殊講義（ソーシャルメディアとファン文化）					
教員名		バラニャク平田 ズザンナ					
科目No.	122741600	単位数	2	配当年次	1年生	開講時期	2025 前期
<p>〔テーマ・概要〕</p> <p>ソーシャルメディアなどのデジタル技術の発展はファン文化にどのような影響を与えたのか。日本のファン文化はマスメディアとどのような関係を持つのか。本授業では、ファン文化に焦点を当て、デジタルメディアが日本文化の生産、消費と表象をどのように形成してきたのかを考察し、メディア、アイデンティティとファン文化の相互関係を探求する。「推し活」など、近年、メディアによって頻繁に取り上げられる3つの事例を取り組み、現代日本のファン文化を動かす社会文化的な文脈をより包括的に理解を深める。</p> <p>※授業の内容やスケジュールは変更することがある。</p>							
<p>〔到達目標〕</p> <p>DP2【教養の修得】、DP3【課題の発見と解決】とDP4【表現力、発信力】を達成するために、以下の目標を設定する。</p> <p>①日本のメディアとファン文化の関係性について、基礎的な特徴、概念や用語をつかまえ、説明できること。</p> <p>②日本のメディアとファン文化の動向を、より包括的な文化的、経済的、政治的な文脈の中で批判的に分析することを身につける。</p> <p>③理論的概念を批判的に取り組み、プレゼンテーションなどの課題を通して授業内容で得た知識を応用する。</p>							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修の目安（分）	
第1回	オリエンテーション			シラバスを読み、あらかじめ授業内容を把握する。		60分	
第2回	メディアと日本文化の歴史			授業内容を復習し、理解を深める。		60分	
第3回	ファン文化とメディア①基礎的概念			授業内容を復習し、理解を深める。		60分	
第4回	ファン文化とメディア②：マスメディアとの関係			授業内容を復習し、理解を深める。		60分	
第5回	ファン文化とメディア③：広告			授業内容を復習し、理解を深める。		60分	
第6回	ファン文化とメディア④：メディアミックス			授業内容を復習し、理解を深める。		60分	
第7回	ファン文化のケーススタディ①：オタク文化			授業内容を復習し、理解を深める。		60分	
第8回	ファン文化のケーススタディ②：宝塚ファン			授業内容を復習し、理解を深める。		60分	
第9回	ファン文化のケーススタディ③：二次創作			授業内容を復習し、理解を深める。		60分	
第10回	ファン活動とソーシャルメディア①：アイドルと感情経済 (affective economies)			授業内容を復習し、理解を深める。		60分	
第11回	ファン活動とソーシャルメディア②：推し活			授業内容を復習し、理解を深める。		60分	
第12回	ファン活動とソーシャルメディア③：コンテンツツーリズム			授業内容を復習し、理解を深める。		60分	
第13回	プロジェクト・プレゼンテーション①			プロジェクト発表を準備する。		120分	
第14回	プロジェクト・プレゼンテーション②とまとめ			プロジェクト発表を準備する。第1～13回の授業内容を復習し、理解を深める。		120分	
<p>〔授業の方法〕</p> <p>授業は主に講義形式で行い、パワーポイントを用いるが、質疑応答やディスカッションも取り入れる予定である。この授業では、①リアクションペーパー（≠出席）と②プロジェクト・プレゼンテーションを課す。</p> <p>①リアクションペーパーでは、授業内容を踏まえた上で自分の感想・考えと質問・コメントを求める。</p> <p>②プロジェクト・プレゼンテーションでは、学生が個別でプレゼンテーションを行い、授業内容の正確な理解度と映像資料の批判的思考を評価する。</p>							
〔成績評価の方法〕							

下記の2点により総合的に評価する。

- ①平常点：リアクションペーパー（50%）
- ②プロジェクト発表（50%）

〔成績評価の基準〕
 成蹊大学の成績評価基準（学則第38条、39条）に準拠する。
 上記、到達目標の達成度に基づいて評価する。

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
 特になし

〔テキスト〕
 特になし

〔参考書〕
 授業中に随時指示する。
 ※購入の必要なし

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕
 初回の授業で指示する。

〔特記事項〕
 プロジェクト型授業
 ICT教育科目
 アクティブ・ラーニング